

KOMAZAWA

2001(平成13)年度

講義内容

法学部

 駒澤大學

講 義 内 容

目 次

法律学科フレックス A・第1部法律学科・政治学科

1. 専 門 教 育 科 目		
(1) 法 律 学 科	9	
(2) 政 治 学 科	77	
2. 他 学 部 履 修 科 目	129	
3. 随 意 科 目	169	
4. 「日本語」・「日本事情」科目	175	
5. 教職課程・資格講座科目	199	

法律学科フレックス B・第2部法律学科

1. 専 門 教 育 科 目		353
2. 他 学 部 履 修 科 目		399
3. 教職課程・資格講座科目		421

法律学科 フレックスA 第1部	政治学科
	他学部履修科目
法律学科フレックスA・第1部法律学科・政治学科	専門教育科目
	随 意 科 目
	日 本 語 科 目
	日 本 事 情 科 目
	教職課程・資格講座
法律学科フレックスB・第2部法律学科	専門教育科目
	他学部履修科目
	教職課程・資格講座

法律学科フレックスA

**第 1 部 法 律 学 科
政 治 学 科**

1. 専門教育科目

(1) 法律学科フレックスA・第1部法律学科

授業時間表の区分「B」の科目を履修する場合は、
フレックスBの頁を参照してください。(→P.353)

1. 専門教育科目

(1) 法律学科

法	学	概	論	〈北野かほる〉	9				
法	学	概	論	〈高橋洋城〉	10				
憲			法	〈斉藤寿〉	11				
民	法	総	則	〈林幸司〉	12				
刑	法	総	論	〈山口邦夫〉	13				
刑	法	総	論	〈松村格〉	14				
会		社	法	〈山田泰彦〉	15				
会		社	法	〈荒木正孝〉	16				
物		権	法	〈鶴井俊吉〉	17				
債	権	総	論	〈河野弘矩〉	18				
有	価	証	券	法	〈島原宏明〉	19			
刑	法	各	論	〈山口邦夫〉	20				
行	政	法	総	論	〈金子昇平〉	21			
国		際	法	〈王志安〉	22				
裁		判	法	〈前期：間瀬清史〉	23				
				〈後期：小木曾綾〉					
担	保	物	権	法	〈鶴井俊吉〉	23			
相		続	法	〈竹中智香〉	24				
商	法	総	則	・	商行為法	24			
保	險	・	海	商	法	25			
民	事	訴	訟	法	〈間瀬清史〉	26			
労		働	法	〈藤本茂〉	27				
国		際	私	法	〈笠原俊宏〉	28			
行	政	法	各	論	〈斉藤寿〉	29			
国		際	紛	争	解	決	法	〈王志安〉	30
社	会	保	障	法	〈清正寛〉	31			
刑	事	訴	訟	法	〈前期：橋本裕蔵〉	32			
				〈後期：小木曾綾〉					
比	較	憲	法	〈斉藤寿〉	33				
親	族	法	法	〈竹中智香〉	34				
法	社	会	学	〈岡崙修〉	35				
日	本	法	制	史	〈茂野隆晴〉	36			
西	洋	法	制	史	〈北野かほる〉	37			
刑	事	政	策	〈斎藤静敬〉	38				
法	思	想	史	〈高橋洋城〉	39				
政	治	学	原	論	〈大塚桂〉	40			
マス・コミュニケーション	論			〈相田敏彦〉	41				
政	治	史		〈楠精一郎〉	42				
経	済	原	論	〈浅野克巳〉	43				
行	政	学		〈岡田彰〉	44				
法	律	時	事	英	語	〈牧野和夫〉	44		
現	代	法	の	ト	レ	ン	ド	〈高橋洋城・青野博之・荒木正孝	
								竹中智香・林幸司・藤本茂〉	45
基	礎	憲	法	演	習	〈中野辰久〉			46

基礎民法演習	〈早坂 亨〉	47
基礎刑法演習	〈木村 美隆〉	48
債權各論	〈青野 博之〉	49
英米	法〈北野 かほる〉	50
仏	法〈上井 長久〉	51
独	法〈山口 邦夫〉	52
登	法〈田沼 浩〉	52
税	法〈岸田 貞夫〉	53
地方自治	法〈富井 幸雄〉	53
環境	法〈松村 弓彦〉	54
法哲	学〈高橋 洋城〉	55
経済	法〈岡田 外司博〉	56
航空・宇宙	法〈関口 雅夫〉	57
消費者	法〈河野 弘矩〉	58
証券取引	法〈春田 博〉	59
金融	法〈川田 悦男〉	60
民事執行・保全	法〈梅 善夫〉	61
倒産処理	法〈奥野 善彦〉	62
知的財産権	法〈盛岡 一夫〉	62
国際取引	法〈横山 真規雄〉	63
財政	学〈里中 恆志〉	64
経済政策	策〈森岡 仁〉	65
社会政策	策〈浜村 彰〉	65
国際関係論	論〈首藤 素子〉	66
外交史	史〈首藤 素子〉	67
政治思想史	史〈小林 正敏〉	67
外書講読 (英書)	〈青野 博之〉	68
外書講読 (英書)	〈岡田 外司博〉	68
外書講読 (英書)	〈前期：金子昇平〉	69
	〈後期：小木曾綾〉	
外書講読 (独書)	〈松村 格〉	69
外書講読 (仏書)	〈中野 裕二〉	70
外書講読 (中国書)	〈江林 英基〉	70
外書講読 (スペイン書)	〈佐藤 玖美子〉	71
応用憲法演習	〈休 講〉	
応用民法演習	〈休 講〉	
応用刑法演習	〈休 講〉	
演習 I・II	〈間 渕清史〉	71

科目名	担当者名	配当学科	単位
法学概論	きたの北野かほる	法 A 1 必	4

講義のねらい

これから法学を学んで行くための基本的観点と感覚を養うため、「法」と社会と人間との関わりについての一般的考察、「法」の社会的機能の要点、を概観し、「法学」の全般的機能を考察した上で、「法学」を学ぶことの意味を改めて考える。また、今後の学習の指針として、現代日本の法学の諸分野とその大まかな特徴を解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 社会と法
 - 第1章 一般的考察
 - 第1節 人間と法
 - 第2節 規範と権力
 - 第3節 正義
 - 第2章 集団生活と規範
 - 第1節 社会集団
 - 第2節 規範
 - 第3節 法的思考
- 第2部 近代日本の法
 - 第1章 近代日本の系譜
 - 第1節 日本の法的近代化
 - 第2章 近代日本の法
 - 第1節 近代日本法の特徴
 - 第2節 日本近代法の分類
 - 第3節 現代日本法の動向

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく制限する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
法 学 概 論	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	法 A 1 必	4

講義のねらい

本講義は、法学部の専門科目を学ぶための準備段階として、

- ・高校まで諸君がやってきた各科目の学習法とは違う、法学の学び方にふれてもらう。
- ・法学や、法に関する思考の基本的な特質を理解してもらう。
- ・そのために必要な最低限の基礎知識、基本概念を身につけてもらう。
- ・主要法領域それぞれの役割、特質を概観し、自分自身の今後の学問的関心を形成してもらう。
- ・我々と法の関わり方を問う、様々な現代的問題についての認識、関心を形成してもらう。

といったところを講義の目的として考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

高度に専門的な議論、各法領域に特有の細かな問題については、それぞれの専門科目に委ねなくてはならないが、できるだけ具体的な問題・事例にもふれながら、これから法を学びはじめる諸君の水先案内をつとめたいと思う。

講義スケジュールについては、さしあたり次のようなものを予定している（順不同）。

- ・法と法律・権利に対する基本的視座：法的思考を形成する基本的な諸概念の考察
- ・現代日本法にまでいたる法発展史（西欧近代法の形成をふくむ）の概観
- ・近現代法の基礎的原理の概観。とりわけ現行憲法の諸原理と諸規定の概括的把握
- ・公法と私法、民事法と刑事法、実体法と手続法等々、各法分野の特質と差異の概観
- ・現代社会固有の問題に対する法的視角からの検討 etc.

ただしこれはあくまで現時点での予定であり、詳細は講義開始時にあらためて伝えることとするが、さらに聴講者の反応に応じて、臨機応変に変更していくことも想定されるのであらかじめ了承されたい。また講義時間内に小レポート等を課することがあるかもしれない。

成績評価の方法

成績評価は記述式試験によって行なう（前後期2回実施予定）。上記の小レポート等を実施した場合には当然これも評価対象とする。

教 科 書

西村健一郎他『判例法学』（有斐閣）。教科書の内容を順次説明するという形式をとるわけではない。ただし、講義で言及できない部分を教科書の記述に委ねることがあり、そうした場合は口頭、板書で触れなかったことがらでも試験の範囲となりうると考えて欲しい。

参 考 書 等

『法学入門2000』別冊法学セミナー（日本評論社）
その他の参考文献、資料は講義の中でそのつと指示する。

そ の 他

毎回使用するわけではないが、六法を持参のこと。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
憲 法	さいとう ひまし 齊 藤 寿	法 A 1 必	4

講義のねらい

「憲法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、憲法原理の究明を、興味深く行います。特にこの講義は、理論とともに生きた事例と判例を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 憲法概念-権力と国家と憲法-について
- 第2回 近代憲法と現代憲法の基本原理について
- 第3回 明治憲法の成立と特質について
- 第4回 日本国憲法の成立と制定法理について
- 第5回 日本国憲法の動向について
- 第6回 日本国憲法の体系と基本原理について
- 第7回 天皇の地位と権能について
- 第8回 国民の基本的な人権について
- 第9回 平等権規定の態様と原理について
- 第10回 精神的自由権規定の態様と原理について
- 第11回 経済的自由権規定の態様と原理について
- 第12回 人身的自由権規定の態様と原理について
- 第13回 人身保護権規定の態様と原理について
- 第14回 救済権規定の態様と原理について
- 第15回 参政権規定の態様と原理について
- 第16回 社会権規定の態様と原理について
- 第17回 新しい人権について
- 第18回 国民の義務について
- 第19回 平和主義と日本国憲法について
- 第20回 統治機構と権力分立制について
- 第21回 国会の地位と構成と権能について
- 第22回 内閣の組織と権能と責任について
- 第23回 裁判所の地位と構成と権能について
- 第24回 憲法訴訟原理と違憲審査制について
- 第25回 財政の原則と予算と決算について
- 第26回 住民自治と団体自治の原理について
- 第27回 憲法保障の意義と方法について
- 第28回 国法の諸形式について
- 第29回 試験

履修上の留意点

※履修への対応 (Attitude of Your Lessons)

- ① Preparation (予習)
 - ② Marginal Note (余白ノート) の作成
 - ③ Review (復習)
- については、毎回指導します。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から講義の際、選択・指示します。

参 考 書 等

シラバス参照。

科目名	担当者名	配当学科	単位
民法総則	はやし 林 こうじ 幸 司	法 A 1 必	4

講義のねらい

- 1：民法総則の分野について、受講生に「基礎的な理解」が身につくよう目指すこと
- 2：「具体的な事例を通して理解を深める方法」を習得することによって、受講生の民法に対する興味を触発すること

講義の内容・授業スケジュール

民法とは「私たち個人間の生活関係、特に財産（契約や所有物など）と家族（親子・夫婦など）に関する権利・義務関係を規律する法律」のことで、ここで扱われる問題は、諸君が日常生活で無意識のうちに触れているものばかりである。

民法典は大きく分けると、①総則、②物権（担保物権も含む）、③債権（債権総論と債権各論）、④親族、⑤相続の五つの部分に分けられるが、本講義では、①総則の分野を扱う。この①総則は「民法全体（特に②③）に共通する原則や事項を扱う分野」であり、その内容は、次のように権利を中心に構成されている。

- 一、基本原則（信義誠実、権利濫用の禁止）
- 二、権利の主体（権利を取得できるのは誰か）
 - 1：自然人（生きて生まれた者）
 - (1)権利能力（権利主体になれる地位）出生による権利能力の発生と胎児の例外など
 - (2)制限能力者（未成年者・成年被後見人・被保佐人・被補助人）
 - 2：法人（法によって認められた権利の帰属点）公益法人の設立・管理・解散など
 - 3：住所・失踪・同時死亡の推定
- 三、権利の客体（どのようなものが権利の対象となるか）

物とは何か、動産と不動産の区別、主物と従物の関係など
- 四、権利の変動（どのような場合に権利は発生し、移転し、消滅するか）
 - 1：法律行為（契約など意思表示を構成要素とする行為）
 - (1)総則 法律行為一般に共通する事項（公序良俗違反や法律行為の解釈など）
 - (2)意思表示（権利義務の変動を望む意思を相手に表示する行為）
 - ・意思の欠缺（表示に対心する意思の欠缺）①心裡留保、②虚偽表示、③錯誤
 - ・瑕疵ある意思表示（不法に動機づけられた欠陥のある意思表示）①詐欺、②強迫
 - (3)代理（他人〔代理人〕が行った法律行為で本人が権利を取得する制度）
 - ・本人、代理人、相手方の三面関係
 - ・無権代理（代理人と称する者が行った行為につき代理権がなかった場合）
 - ①表見代理、②本人による無権代理行為の追認、③無権代理人の責任、など
 - (4)法律行為の無効・取消
 - (5)法律行為の条件・期限
 - 2：期間
 - 3：時効（時間の経過によって権利の変動を認める制度）
 - (1)総則 時効一般に共通する事項（援用の必要性、中断、停止など）
 - (2)取得時効（時間の経過によって権利の取得（発生）を認める制度）
 - (3)消滅時効（時間の経過によって権利の消滅を認める制度）

本講義もほぼこの順序で解説して行くが、一の基本原則（信義誠実・権利濫用）と二の法人については、時効の後にまわすことにする（その理由は開講時に説明する）。そのかわりに、最初の数回は、民法入門をかねて、i)民法とはどのような法律か、ii)民法の全体像の把握、iii)近代市民法の三原則（私的自治の原則、所有権絶対の原則、過失責任の原則）をとりあげて解説する。

履修上の留意点

私語の厳禁 ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっと静かになるというのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色が見られなかったり、何か悪いことをしたのか（または「なぜ私だけが」と言わんばかりににらみ返してくるという者もいる。この手の者にはその場で退場を通告するという強い態度で望むので覚悟してもらいたい。

成績評価の方法

期末試験の評価が中心となるが、講義前に配布した用紙に質問や意見などを書いてもらい、講義後に回収する。これらにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多いので、若干のプラス評価を行うつもりである。

教科書

永田・松本・松岡著『民法入門・総則〔第2版〕エッセンシャル民法1』（有斐閣）2,000円
※気にいった教科書がほかにある場合はそれでもよいが、講義で読み上げたり引用する場合はこの教科書を使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
刑法総論	やまぐちくに お 夫 山口邦夫	法 A 1 必	4

講義のねらい

一年次の専門科目として、高校時代の学習あるいは予備校時代の勉強方法から、一日も早くぬけ出し、大学における真の学問を学ぶ姿勢になってもらうことを主眼に講義をする。大学生の自覚をもって、講義や読書を通じて、みづから積極的に研究する態度を身につけるように諸君も努力してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

一年間を次の4期に分けて講義をする。Ⅰ期(4・5月)、Ⅱ期(6・7月)、Ⅲ期(9・10月)、Ⅳ期(11・12月)、1月の1回は、質問日とする。

Ⅰ期。学問とは何か。特に学問の限界について考える。それから、法律学とは何か。法律学の体系における刑法学の位置づけへと進む。

Ⅱ期。刑法における刑罰と犯罪概念を中心に、法治国家の原則として罪刑を法定しておくことの意味を検討する。

Ⅲ期。ドイツの構成要件論を手がかりに、犯罪論の構築の仕方について、数種のパターンを考えて講義をする。その際、違法と責任との区別を峻別する立場から解説をする。

Ⅳ期。犯罪の既遂・未遂について、昔の学派の対立を考慮しながら、未遂処罰の根拠、さらに過失犯に実行行為があるか否かを考えながら、故意犯と過失犯との区別について検討する。最後に二人以上の犯罪者が加わる共犯の問題について論究し、刑法学の概説を終る。

履修上の留意点

年間を通じて、原則として出席はとらない。ただし、上記の各期ごとのまとめとして、小テストを時間内に行う予定である。

質問時間は、研究室2719号に掲示してある。毎週2～3時間は、毎年確保しているので、この時間内は、自由に質問が可能である。

成績評価の方法

上記の小テストが実行できれば、その結果を、年一回の期末試験の成績と一緒に評価し、単位を認定する。

教科書

教科書は、原則として使用せずに講義をすすめ、参考書はその度に紹介するので、積極的に読書してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 法 総 論	まつ 村 格 松 村 格	法 A 1 必	4

講義のねらい

刑法（刑罰法規）は、歴史的には支配者が市民を抑圧する最強の手段として長い間悪用されてきたし、近年に入ってからでもファシストたちから悪用された。今日、刑法は、市民の自由と権利を保障する機能をもつものとして把握されなければならない。そのためにも、刑罰権の発動と処罰の範囲をできる限り制限する理論操作が必要である。法益保護と人権保障の両方を考えながら刑法理論を構築しなければならない。授業では、刑法総論を中心に講義していくが、もちろん、刑法各論とのかかわりを無視することなく具体的な事例を参考にしながら刑法総論を学ぶことによって、刑法学の全体像を理解できるようにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

- 第1回（刑法システムとその余のシステムとの関係および刑法システムと隣接領域システムとの関係）
- 第2回（刑法および刑法学システムとその部分システムとの関係ならびに刑法総論とその部分システム）
- 第3回（刑法の意義と機能および犯罪の意義）
- 第4回（刑罰論と罪数論＝刑罰の本質と機能および目的／罪数論の意義）
- 第5回～6回（刑法の原理・原則論＝罪刑法定主義／責任主義／謙抑主義）
- 第7回～9回（行為と構成要件の理論＝行為論／犯罪の主体と客体／故意と錯誤の理論／不作為犯論／因果関係論）
- 第10回以降（違法性の理論＝違法性の本質と実質／正当防衛と緊急避難／自救行為／正当業務行為とくに治療行為／臓器移植／安楽死・尊厳死）

後 期

- 第1回～3回（責任論＝責任の本質／責任能力／故意と違法性の意識／期待可能性）
- 第4回～5回（未遂論＝未遂の意義と処罰根拠／実行の着手／中止未遂／不能未遂）
- 第6回～9回（共犯論＝共犯の意義と形態／処罰根拠／正犯と共犯の区別と関係／共同正犯／共犯と身分／共犯の諸問題）
- 第10回～最終回（補足）

履修上の留意点

刑法学は、きわめて体系的な学問なので、継続的に出席して講義を受けないと理解できなくなる。できる限り具体的な事例を利用して説明するが、それでも観念的思考が入りこむので、考える力を必要とする。教科書以外のことをたくさん話すので、講義をよく聴き、必ずノートをとることが大切である。ただし、黒板に書くことは最小限度必要な事項だけであるから、それを筆記するだけでは意味がない。六法全書・教科書・ノートを毎回持参することが必要条件である。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の定期試験とその他の小テストの成績を総合して判断する。

教 科 書

松村格『刑法学への誘い』（八千代出版）
松村・神田・都築・野崎『刑法総論』（ミネルヴァ書房）

参 考 書 等

別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ総論（第4版）』（有斐閣）
齊藤誠二編『演習ノート刑法総論』（法学書院）
『刑法基本講座（全6巻）』のうち1～4巻（法学書院）

そ の 他

授業の方法は、すべて講義方式で行なう。必要に応じてプリントを配布することがある。その場合には、そのプリントに沿って講義をする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 社 法	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	法 A 2 必	4

講義のねらい

会社——特に、株式会社は、現在の経済活動にとって不可欠の組織である。この講義では、株式会社の組織・運営に関する法規制、株式会社法を中心にその制度の体系および構造を概観する。会社法といっても、学生諸君にすれば、会社という場に身を置いていないこともあって、それは別世界のことであり、あまり身近に感じられない遠い世界でもあるかのようである。しかし、私たちの生活は、高度な経済社会の営みの上に展開しているのであり、それは、企業活動の単位としての株式会社によって支えられているといっても過言ではない。私たちは、会社に就職することで直接的な関係を持つ場合のみならず、この社会で生活していること自体、すでに会社と間接的に結ばれているといえよう。このような会社という存在に、法の側面から、この講義では接近する。

さて、株式会社とは、出資単位を均一の細分化した株式にして、社会に潜在している資本を効率よく集めるために、考案されたものである。したがって、立法制定者は、相当大きな資本を擁する複雑な構造をもった組織として、典型的な株式会社の姿を法典の上に描いて見せたが、現実には、個人企業や組合に等しいような株式会社が多い。このような株式会社にとって株式会社法は、身の丈に合わないだぶついた服となっており、法と現実との遊離といった問題が生じている(そもそも、こうした小さな企業がなぜ株式会社という法形態選択をするのだろうか。講義ではこの点にも触れる)。他方、株式を証券市場に上場しているような会社は、その資本金も株主の数も多く、中にはそれ自体が一個の社会的権力にも比肩できるような巨大会社もめずらしくないが、これら会社にとって株式会社法は、むしろスモール・サイズの服となっている。株式会社法は、この両極において、困難な問題に直面しているといえよう。講義では、株式会社法の基本的な制度内容に十分配慮しながら、株式会社法制度の根幹にかかわる困難な問題が、株式会社法の個々の制度・規制について、どのように問題となっているかについても触れてみたい。同時に、現実の紛争において問題になってくる株式会社法の具体的な制度をめぐる判例および学説の錯綜する解釈上の論点についても、ポイントを押さえて、講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は、会社法の中でも、最も重要な株式会社法を中心とする。そこでまず、①会社法総論として、会社の経済的機能、法的意義、法的特色を押さえた後、株式会社の特質を位置付ける。次いで、②株式制度として、株式の意義、種類、株主平等の原則、株式譲渡自由の原則とその例外、株券、株主名簿、名義書換、株式金融、単位株制度・端株を順次、取り上げる。③会社の運営を観る。具体的には、機関総論、株主総会、取締役・取締役会、監査役を講義する。このようにして、株式会社の基本的内容を観た後、④株式会社の設立に入る。設立手続の内容、定款の作成、変態設立事項、出資の履行、設立登記とその効果とその具体的内容となる。余裕があれば、⑤資金調達にも入りたい。⑥株式制度の途中で、夏季休暇に入るものと予定している。

履修上の留意点

講義での私語は厳禁する。六法全書は、必ず持参すること。講義では、必ず条文を参照する必要がある。六法がないと、そこで理解がスムーズに行かなくなる。なお、平成12年に改正があったので、できれば平成13年度以降の六法を持参して下さい。

成績評価の方法

成績評価は、期末試験での評価による。出席は、取らない。これまでの私の経験から言えば、不可を取る学生の数は、およそ、出席していない学生の数にはほぼ相当すると感じている。大体、履修登録者数の半分前後が、出席しているが、この位の数が、単位を取得しているからである。

教科書

荒木正孝『現代企業法第2版』(成文堂)

参考書等

長浜洋一『株式会社法』(有斐閣) 3,914円、『会社法判例百選』(第6版)(有斐閣) 1,900円

その他

株式会社法を勉強するにあたっては、各種制度の目的を十分に理解することが大事である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
会社法	あらきまさたか 荒木正孝	法 A 2 必	4

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、多くの人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を探り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原則を理解してもらうつもりである。

具体的には、①会社法総論として、会社の経済的機能、法的概念、権利能力などについて解説し、②会社の設立の中では、株主有限責任の原則、資本に関する原則、発起人の意義・地位、定款の作成、会社の実体形成手続、設立関与者の責任、設立無効、設立登記などを説明し、③株式制度では、株式の概念、株式の種類、額面株式と無額面株式、株式の併合・分割・消却、株式譲渡の自由と制限、名義書換、株式の担保化などに触れる。④会社の管理・運営については、機関の意義・特色・分化、株主総会、取締役、取締役会、代表取締役、監査役について各種の問題点を検討する。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。商法は、民法を一般法とする特別法であるから、会社法に限らず、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層理解しやすい。ただ、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価します。

教科書

荒木正孝著『現代企業法（第3版）』（成文堂）

参考書等

鴻・落合・岩原・江頭編『会社判例百選』（第6版）（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第3版』（成文堂）

科目名	担当者名	配当学科	単位
物 権 法	つる 鶴 井 俊 吉 しゅん きち	法 A 2 選 必	4

法律学科
法 A 2 選 必

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうち総則、占有権、所有権、地上権、永小作権、地役権を対象とする。所有権を中核とする物権法は、今日の社会構造の法的土台をなしており、憲法上の私有財産制度の骨組を定めたものである。その意味で、物権法は民法の中で最も基礎的な重要な部分であるといえる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の主な内容は、不動産売買をめぐるトラブルがどのように解決されているのかなど、物権変動を中心に、不動産利用権、物権の支配の秩序維持についての制度を解説する。
講義では、物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例を入れ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

物権法は、解釈学上においても体系的理解が困難な分野であるといわれている。それは立法の沿革に基づいている。現行民法がドイツ民法を継受してできあがっているにもかかわらず、物権法の主要な部分については、フランス民法の影響を強く受けているからである。それゆえに講義に出席しないとなかなか興味が持てないし、理解しづらい分野であるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教科書

遠藤・川井他編『民法(2)物権』（有斐閣双書）を予定している。

参考書等

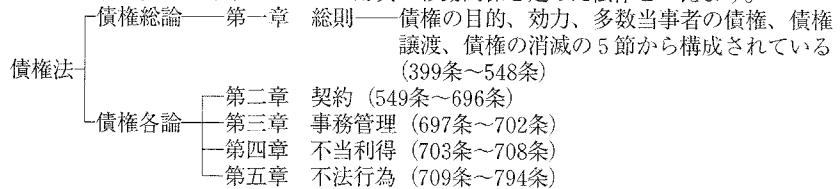
講義の最初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
債権総論	河野弘矩	法A2選必	4

乙A
法律学科
第1年

講義のねらい

債権法とは、形式的には民法第三編債権の規定の総体（399条～724条）をいい、実質的には債権関係を規律する法規の全体を意味している。債権法は、物権法と共に市民生活のうち財産関係を規律する法規であり、主として財貨の移動関係を定めた法律といえよう。



講学上、債権法第一章総則を債権総論といい、第二章以降を債権各論と呼んでいる。

本講義は、上記の第一章の債権総則を対象とする。債権総則は、実質上契約から生ずる債権を念頭にいた規定と解される場合が多いことから、講義のなかでは契約の例示を多く登場させ、極力具体的事例を以て抽象的理論を説明するようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行は、債権法の規定の順序に従い、以下の通り行う。

- (1)債権の意義及びその性質
- (2)債権の目的
- (3)債権の種類（特定債権、種類債権、金銭債権、利息債権、選択債権、任意債権）
- (4)債権の効力（自然債務、強制履行、債務不履行、第三者による債権侵害、責任財産の保全、他）
- (5)多数当事者の債権関係（連帯債務、保証債務）
- (6)債権関係の移転（債権譲渡、債務の引受、契約上の地位の譲渡）
- (7)債権の消滅（弁済、代物弁済、供託、相殺、更改、免除、混同）

履修上の留意点

必ず続けて受講すること。

講義には、六法全書を必ず持参すること。

講義についての質問は、毎回講義終了後質問を受けることは当然であるが、その他前期と後期の授業最終日に質問を受ける時間を設ける予定です。

成績評価の方法

期末試験により評価する。出席点を加味するか否かは今後検討したい。

教科書・参考書等

教科書は、河野弘矩「債権法講義」八千代出版（価格未定）を使用予定。参考書については、授業のなかで紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
有価証券法	しま ばら ひろ あき 島 原 宏 明	法 A 2 選必	4

講義のねらい

現代の経済社会における企業間の取引では、手形や小切手等の有価証券が数多く使用されている。中でも手形と小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制の多くは商法上の他の有価証券にも及んでいる。したがってその体系の理解は有価証券全般を理解する上で不可欠なものである。また、手形や小切手は金銭債権と結びついた証券であるため、これに関する法体系は債権法の一部として把握され、民法の債権総論と密接な関係にある。

講義の内容・
授業スケジュール

手形法は第一編が替手形と第二編が約束手形の二編から成り立っており、為替手形についての規定の多くを約束手形に準用するという構成になっている。ただし、わが国においては為替手形がほとんど用いられていないという現実があり、また為替手形に比べて約束手形の方が仕組みが単純であるため、条文の順序とは一致しないが講義では約束手形を中心に説明を行い、適宜が為替手形、および為替手形と基本的な仕組みを同じくする小切手についての説明を付け加えていくという形をとる。

なお、企業活動に関わったことのない学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいいため、なるべく具体的な判例を示して解説をしていくつもりである。

成績評価の方法

成績評価は期末試験による。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
刑法各論	やまぐちくに 山 口 邦 夫	法A2選必	4

講義のねらい

1年次の必修科目、刑法総論の単位を取得済みの者を前提に授業を進める。できれば、単位未
取得者は履修を遠慮していただきたい。3年次の履修でも遅くはないはずである。

講義の内容・
授業スケジュール

1年間を次の4期に分けて講義をする。
I期(4・5月)、II期(6・7月)、III期(9・10月)、IV期(11・12月)、1月の1回は、質問
日とする。
I期 犯罪の分類について。犯罪の分類は何のためにするのか、何を基準にして分類するのか、
などいろいろな犯罪についての一般論を検討する。犯罪の分類は、犯罪学や刑事政策にとっては
有用であっても、解釈学にとってはそれほど有用とも思われない。分類することよりも、各犯罪
類型を厳格に解釈することの方が重要であることを指摘する。
II期 通説ともいえる3分類の意義についてふれたあと、いわゆる個人法益に対する罪につい
て検討する。
III期 いわゆる社会法益に対する罪について。
IV期 いわゆる国家法益に対する罪について。
II期、III期、IV期と順次検討する予定であるが、場合によっては、II期の対象を中心に一年間
が終り、II・III期の対象は、そのつど関連する個所で、加味してやることになるかもしれない。

履修上の留意点

履修者が50名以内であれば、年間を通じて出席をとりたい。出席カードをもとに、毎回数名の
人との質疑や問答を中心とした、コロキウム方式で授業を進める。

成績評価の方法

履修者が50名を越えた場合は、各期ごとに小テストを行う予定である。そして4回のテストと
期末試験の結果を総合して単位を認定する。少人数の時は、平常の履修態度や宿題を中心に、平
常点で評価し期末試験を省略して単位を認定する。

教科書

林 幹人『刑法各論』(東京大学出版会)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 総 論	かね こ しょう へい 金 子 昇 平	法 A 2 選 必	4

講義のねらい

現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が統出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、今後、立法化される、情報公開法、プライバシー保護法、環境アセスメント法等を挙げることが出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

そこで講義においては、行政法総論での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に掲示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 行政と法の関係
 - ①法による行政の原理 ②行政法の意義と範囲 ③行政法の法形式 ④行政上の法律関係
- 2) 行政主体と私人
 - ①行政主体と行政客体 ②国の行政組織 ③地方公共団体の行政組織 ④行政機関・公務員
 - ⑤行政情報と法
- 3) 行政手段法
 - ①行政立法 ②自治法 ③行政計画 ④行政行為 ⑤行政契約 ⑥行政指導 ⑦行政調査
 - ⑧行政強制 ⑨行政罰
- 4) 行政手続の法
- 5) 行政救済法
 - ①国家賠償法 ②行政上の苦情処理 ③オンブズマン ④行政上の不服申立 ⑤行政訴訟

履修上の留意点

行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。

教 科 書

阿部泰隆『行政の法システム』（有斐閣）

参 考 書 等

塩野宏他編『行政判例百選』（第三版）（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 法	おう し あん 王 志 安	法 A 2 選 必	4

講義のねらい

国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家及び国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論及び外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論及び実行、国際地域、国際海域及び宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式及び効力に関する法規則、外交関係及び領事関係における特権及び免除などを取り上げる。

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意思をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）1997年 2,700円

参 考 書 等

市販されている国際条約集

そ の 他

授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、板書する。尚、教場の可能性もあるが、power point を利用した講義を行ないたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
裁判法	前期：間 潤 清 史 後期：小 木 曾 綾	法 A 2 選 必	4

講義のねらい

昔から、日本の各大学の法学部で開講されている専門科目のうち最も難解で且つ面白味に欠けるとされ、学生諸君から忌み嫌われてきたのは訴訟法である。訴訟法は、ある程度実体法の知識がないとその理解が困難であることや、科目の性質上技術性が強いこと、さらには裁判制度ないし司法制度一般に対する理解を欠いたまま、いきなり高度な訴訟法理論を教授される建前になっていたことなどに照らして考えれば、そのような反応にも無理からぬところがあったといえる。とはいえ、そのような状況を放置しておくことが望ましくないことは言わずもがなである。そこで、この講義では、初学者にアレルギー反応をおこさせないように配慮しつつ、受講者を訴訟法の世界へといざなうことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

裁判所制度、法律家、民事裁判手続（以上前期）及び刑事裁判手続（後期）を中心に講義を行う予定である。

履修上の留意点

講義には、気楽に参加して下さい。

成績評価の方法

主として、前期および後期の試験の結果に依拠して行う予定であるが、授業参加度等も考慮の対象となる余地はある。

教科書

市川正人、酒巻 匡、山本和彦 著『現代の裁判』（有斐閣アルマ）1998年

科目名	担当者名	配当学科	単位
担保物権法	つる 井 しゆん きち 鶴 井 俊 吉	法 A 3・4 選 必	4

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等が対象となる。担保物権制度は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法領域で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、著しく変動している。

講義の内容・授業スケジュール

私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定する。このように小は個人の資金調達のため、あるいは大は、企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権法のもつ経済的意義は極めて重要である。

しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較的なじめない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。

そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

学期の初めには、担保物権法の主要な部分についての概略の説明を予定している。それによって担保制度の全体像がおおよそ把握できるであろう。それゆえ、最初から講義に出席しないと理解できなく、なかなか興味が持たなくなるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

成績評価の方法

出席と試験の結果によって判定する。

教科書

遠藤・川井他編『民法(3)担保物権』（有斐閣双書）を予定している。

参考書等

講義の最初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
相続法	たけなかちか 竹中智香	法A3・4選必	4

- 講義のねらい**

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。
- 講義の内容・授業スケジュール**

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。
- 履修上の留意点**

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。
- 成績評価の方法**

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。
- 教科書**

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4増補版〕』(有斐閣双書) 1,600円
- 参考書等**

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円
六法

科目名	担当者名	配当学科	単位
商法総則・商行為法	せきぐちまさお 関口雅夫	法A3・4選必	4

- 講義のねらい**

専門科目としての商法学は、商法全体についての概観的な知識、商法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、商法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする学問である。この講義は、商法学の内、商法総論、商法総則および商行為法を中心に行う。
- 講義の内容・授業スケジュール**

商法総論においては、商法の意義、商法の特色、商法の体系、商法の適用の四つのテーマを論考する。次に、商法総論においては、営業の主体、営業行為、営業の人的組織、営業の物的組織、営業の譲渡、商業登記の六つのテーマを論ずる。そして商行為法においては、商行為の概念、商行為法の総則、商事売買、交互計算、匿名組合、仲立営業、運送取扱営業、運送営業、寄託の十の主要な問題を考察する。一年間で25回の講義を予定する。
- 履修上の留意点**

ここに選ばれた20のテーマは、商法の特定分野に関するものではあるけれども、これから商法を体系的に学んで行こうとする諸君にとって、欠かすことの出来ないと思われる問題を取りあつかっている。もっとも、この講義は、全ての学生のニーズを満すものではない。この講義が特に必要であると考えられる学生は、将来自営業を志したいと考えている学生、会社員になりたいと考えている学生、および司法試験を受験したいと考えている学生である。この意味で、学生諸君は、自分で自分の将来計画を明確にし、受講すべきか否かを決定することが肝要である。
- 成績評価の方法**

平常点と期末試験を重視する。
- 教科書**

関口雅夫編著『現代商法I〔総則・商行為〕』(八千代出版) 2,800円を使用する。六法全書は、毎回持参すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
保険・海商法	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	法A3・4選必	4

講義のねらい

私たちの生活は、いろいろな危険に満ちている。私たちは、それにあまり気が付かず生活してたりするが、時には、不幸な事故に巻き込まれたり、あるいは逆に事故を引き起こしたりもする。こうした不幸への危険性は、この社会に生き、活動しているすべての人々（すなわち法主体、当然、会社も人である）に程度の差こそあれ、無縁ではない。危険が現実のものとなったとき、そこに通常、損害が発生する。この損害は、どのように処理すれば良いのだろうか。事故を引き起こした者がいるのであれば、この者が損害を負担すべきである。しかし、この者に資力がなかったならば、被害者の受けた損害は回復されずに酷いことになる。さらに、加害者も存在していないような場合には、どうすれば良いのだろうか。こうしたことへの不安は、人が生き活動して行く上での不安であり、今に始まったことではない。人類は、古くから、このための種々の方策を考えてきたが、複雑・高度化した現代社会は、かつてないほどの、不安と危険のジャングルとなっているのである。保険は、そのための方策の中で、最も高度に洗練された仕組みである。私の講義では、保険という仕組みが法的にどのように制度化されているかを見る。

ところで、保険は、他面において賭博に似ている（どちらも偶然の出来事により、多額の金銭を取得できるではないか）。そして、海の危険に満ち満ちた海上企業活動は、かつては、冒険企業の典型であった。保険が考案され発展したのは、中世地中海世界が育んだ海上企業活動においてであったということは、保険と海商との賭博的な共通の色彩の賜といえるのかもしれない（やがて保険制度は、海から陸にも上がり、今日見られるような隆盛を迎える）。当時の海上企業は、現在の海上企業とはかなり異なっていたし、（法的制度としての株式会社に先駆していたのであるが、株式会社の登場は後年のことである）、その企業活動も海賊が立派な企業活動として認知されていたことから明らかなように、現在と大部隔っている面があった。しかし、近代国家が形成される前から活発に行なわれていたイタリアの海港都市等に端を発する海事慣習は、その後一定の地域的広がりを得ながら、ヨーロッパのその他の港にもそれぞれの海事慣習の形成を促がし、それらがようやく確立する国家の法典に、取捨選択されつつ、結実し、その過程において、民商事法の源流の一つを形成したのである。

さて、そこで海商法である。海商法は、船舶を手段とする海上企業活動に関する法である。当然のことながら、船舶の活動する舞台ともいべき海は、世界へとつながっている。経済活動が、狭い一国の地域的空間にのみ終止するのであれば格別、現在のように、世界的基模での市場が形成され、経済活動も世界的広がりを持つにいたると、原料やその加工品である商品の流通は、血管を流れる血液のように確保されなければならない。船舶による海上運送は、いわば、血液の中の血晶板のようなもの——または、血液そのものである。船舶を利用して遂行される海上運送は、その国々の経済体制を支えるものであり、世界経済に重要な貢献を果すものである。私の講義では、この海上企業活動を、商法の視点から捉え、そこに働らく基本的な法原則を見ることにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、保険法を中心にする。①保険制度と保険法、②保険契約の当事者・関係者、③保険契約の成立と終了、④保険契約の内容と効果、⑤損害保険契約の意義・内容、⑥損害保険に特有の効果、⑦保険担保、⑧火災保険と地震保険、⑨責任保険と自動車保険、を中心項目とする。

後期は、海商法を取り上げる。①海商法の意義と発展、②海上企業の物的組織、③海上企業の主体、④海上企業の責任と制限、⑤海上物品運送契約の意義と種類、⑥海上物品運送契約の履行（海上物品運送人の義務と権利）、⑦海上物品運送人の責任、⑧船荷証券の意義および種類と発行、⑨船荷証券の効力、⑩海上売買、を中心とする。

保険法および海商法も1項目につき1時間ないし2時間を予定する。

履修上の留意点

講義には、六法を持参して下さい。

成績評価の方法

出席は、毎時限、取ります。これは、期末試験での成績評価の際に考慮します。

教科書

山野嘉郎・山田泰彦編著『現代保険・海商法30講』（中央経済社）3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
民事訴訟法	間 渕 清 史 ま ぶち きよ し	法A3・4選必	4

講義のねらい

この講義では、民法など民事実体法についての一応の学習を終えた人を対象として、民事訴訟手続の概説を行います。ここに民事訴訟手続とは、私人間の権利義務ないし法律関係の存否を巡って生じた紛争の解決を目指し、そのための基準を提示する手続のことをいいます。「民訴」転じて「眠素」ないし「眠訴」とならないように、基本的な概念及び手続の仕組みについて、できるだけ具体的且つ平易に解説したいと考えています。時間的余裕があれば、和解、調停及び仲裁などの訴訟以外の民事紛争解決手続についてもある程度詳しく講ずる予定です。受講者に民事訴訟手続の全体像を何となくわかったという気分になってもらうのがこの講義の目標です。

講義の内容・
授業スケジュール

①民事紛争の解決制度、②民事訴訟制度の現代的課題、③訴え、④裁判所、⑤当事者、⑥第三者による訴訟追行、⑦本案と訴訟要件、⑧当事者と裁判所の役割、⑨口頭弁論の諸原則、⑩口頭弁論の準備、⑪証明と証拠、⑫証明責任、⑬当事者の行為による訴訟の終了、⑭終局判決とその効力、⑮複数請求、⑯共同訴訟、⑰訴訟参加、⑱当事者の変動、⑲上訴・再審、⑳簡略な手続

履修上の留意点

予習復習をするのが最も望ましいことであるとは言うまでもありませんが、予習又は復習のいずれかだけでもすることをお奨めします。

成績評価の方法

主として学年末試験の結果に依拠して行います。問題作成にあたっては、講義に積極的に参加した人が有利になるよう配慮したいと考えています。

教科書

上原敏夫・池田辰夫・山本和彦 著『民事訴訟法（第2版補訂）』（有斐閣Sシリーズ）2000年

科目名	担当者名	配当学科	単位
労働法	ふじもと しげる 藤本 茂	法A3・4選必	4

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌しています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に組合は大きな役割を担っていますし、事実その役割を果たしています。その法的枠組みを概観します。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正（裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、労働条件の明示義務など）がありました。また男女雇用機会均等法、労働者派遣法、職業安定法などの改正も、なされました。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中にあっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

労働法は、皆さんが、将来どのようなところに職を得ようとも、もっとも身近な法であります。会社もまた、労働法に関する十分な知識なしには円滑な人事管理が行い得ないことは、常識です。労働法は、皆さんが労働生活の節目節目で選択を迫られるとき、自ら考え自らを処していく上で、知っておくべき必要な知識であり、知っているかいないかは、よりよい選択をする上で、とても重要であると思います。

講義の内容・
授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。

ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件の決定－労働契約、就業規則、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、出席等を加味することはありませんが、学年末試験がメインです。追・再試験は実施します。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際私法	かさ 原 とし 俊 ひろ 宏	法A3・4選必	4

講義のねらい

渉外的要素を有する私法問題の解決を目的とするのが国際私法である。それは、狭義において、準拠法の選定を主たる役割とする。その意味において、国際私法は、民法や商法のように私法問題の判断基準となる法律とは、規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範などと呼ばれることがある。講義においては、国際私法のこのような特質を明らかにしつつ、実質法における理念の変化が国際私法にとっても無縁でないことを実証的に論じたいと考えている。時として難解な科目であるといわれることがあるが、最近の身近な問題を具体例として取り上げるなどして、できる限りわかりやすいものとなるよう工夫したい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容およびスケジュールについては、ほぼ次のように予定している。

1. 国際私法総論（4月、5月）
2. 国際家族法（6月、7月、9月、10月）
3. 国際財産法（11月、12月）
4. 国際民事訴訟法（1月）

履修上の留意点

基礎となる他の科目、就中、家族法について、基礎知識を有することが好ましく、民法についても併せて学習することを期待する。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の筆記試験によって行なう予定である。

教科書

笠原俊宏著『国際家族法（補訂版）』（高文堂出版社）を使用する。

参考書等

いずれかの六法を常に携帯することを望む。

その他

授業は普段講義によって進行するが、時折、事例を設定して、皆で一緒に考えることも予定している。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
行政法各論	さいとう 藤 寿 ひまし	法A3・4選必	4

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用収用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。

—私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) —との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際紛争解決法	おう 王 し 志 あん 安	法A3・4選必	4

講義のねらい

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界及び適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能及び事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決及び世界貿易機構（WTO）の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査及び調停といった制度の展開及び適用、国連における紛争処理の制度的展開及び現状、そして WTO の紛争処理制度の発展、手続き及び制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判及び国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立及びその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。聴講ノートをしつかりと取ってもらいたい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストや出席状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）1997年 2,700円

参考書等

市販されている国際条約集及び国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

その他

授業は power point を使って講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることもある。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会 保 障 法	せい しょう 寛 清 正 寛	法 A 3・4選必	4

講義のねらい

社会保障法は、人々が生活をする中で傷病や失業あるいは老齢などの生活に危険をもたらす事態（＝これを「事故」という）が生じたときに、一定の給付を行うことにより生活危険の緩和・解消を図り、人々の生活保障を行うことを目的とする法領域である。社会保障法は、法理念的にみると、憲法25条の生存権を具体化する法領域であるといえ、労働法などとともに社会法の一領域を構成する。生存権の具体化を担うという意味では、社会保障法にとり生活保障のための様々な法システムの中で人々の権利（＝社会保障の権利）がどのように確立されているかが重要となる。一方、生存権の具体化は、生活保障を行うための様々な制度をとおして行われるので、社会保障法にとって生活保障を行うための制度設計、また、制度を安定的に運用するための法システムの構築も重要である。

このような特色をもつ社会保障法は、民法や刑法のような統一法典からなる法律ではなく、生活保障を行うための数多くの立法（＝社会保障立法）から構成されることになる。

この授業では、社会保障法の法的特質、すなわち市場原理をベースとする市民法に対する社会法としての特質や体系など社会保障法の基礎理論についての理解を深めた上で、医療保障、所得保障、介護保障に関する制度を中心に、その特質と内容について、できるだけ法的観点からの理解を深めるための講義を行う予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

以下のような内容についての講義を行う予定である。(1)は社会保障法の総論についての講義であり、(2)以下は各論である。各論については、講義の進行の関係で一部省略することもありうる。

- (1)社会保障法の基礎的考え方 ― 社会保障法概念と特質など
- (2)医療保障 ― 医療給付の法的性格と医療受給権、医療保険の仕組みと保険関係、医療給付の内容など
- (3)所得保障 ― 年金給付の法的性格と年金受給権、年金保険の仕組みと保険関係、年金給付の内容など
- (4)労災保険 ― 労災保険給付の法的性格と労基法、業務上外の認定、給付内容など
- (5)介護保障 ― 介護給付の特質と性格、介護給付の仕組みと内容など

成績評価の方法

試験により評価する。試験は筆記試験とし、後期にのみ行う予定である。
なお、出欠席の確認は原則として行わない。

教科書・
参考書等

教科書として、清正寛＝良長彌太郎編著『論点・社会保障法（第二版）』（中央経済社）を用いる。参考書については適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 事 訴 訟 法	前期：橋本裕蔵 後期：小木曾綾	法A3・4選必	4

講義のねらい

刑事手続の基本について理解することが目的である。
 犯罪の予防、摘発と、国家機関の権限の適正な行使によって個人の自由や市民社会の安全は維持されている。外国法にも目を向けながら、前期は捜査について、個人の自由を保障しつついかに効果的な法執行を実現するかを考え、後期は公判の諸原則を学びながら、最も厳しい制裁である刑罰を科すための手続的な公正さ・手続的正義について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 任意捜査と強制捜査
2. 逮捕
3. 搜索・押収
4. 検証・鑑定
5. 明文の定めのない捜査方法とその規律
6. 身柄拘束下の取調べ
7. 被疑者の弁護権
8. 職務質問、所持品検査
9. 訴追裁量
10. 公判構造
11. 起訴の方式と訴因
12. 証拠開示
13. 排除法則
14. 自白調書の証拠能力
15. 伝聞法則
16. 無罪推定
17. 裁判とその効果
18. 上訴

履修上の留意点

社会に生起する事件や法律問題に常に関心をもってほしい。六法は必携である。(但し、判例付きのものは不可。)

成績評価の方法

出席率(毎時限出席確認をする)、及び毎時限の授業報告レポート(ノートの要約)の提出率並びに年度末の筆記試験の結果を総合評価する。

教 科 書

渥美東洋著『刑事訴訟法』(新版)(有斐閣)

参 考 書 等

渥美東洋著『刑事訴訟法基本判例解説』第3版(三嶺書房)
 渥美東洋著『レッスン刑事訴訟法』上・中・下(中央大学出版部)
 渥美東洋著『複雑社会で法をどう活かすか』(立花書房)
 渥美東洋著『罪と罰を考える』(有斐閣)
 渥美東洋著『刑事訴訟法における自由と正義』(有斐閣)

科目名	担当者名	配当学科	単位
比較憲法	さい とう ひさし 斉 藤 寿	法A 1・2選	4
		法B 1・2選	

講義のねらい

人権保障制度、国会制度、内閣制度、司法制度、自治制度、財政制度など、各国の憲法制度について興味深い講義を続けながら、楽しく研究します。また、西欧主要諸国の憲法にとどまらず、アジア・アフリカ諸国や中南米諸国の憲法にもふれ、その特色を楽しく研究します。これらの講義は、1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 イギリス憲法は、どのように歩んできたか。
- 第2回 アメリカ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第3回 フランス憲法は、どのように歩んできたか。
- 第4回 ドイツ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第5回 東ヨーロッパ憲法は、どのように歩んできたか。
- 第6回 中国憲法は、どのように歩んできたか。
- 第7回 発展途上国憲法（アジア・アフリカ・中南米諸国憲法）はどのように歩んできたか。
- 第8回 世界各国の憲法は、どのような類型化が可能か。また、その特質は何か。
- 第9回 君主国憲法（イギリス・ベルギー・デンマーク憲法）の憲法上の特質は何か。
- 第10回 共和国憲法（アメリカ・フランス・ドイツ・イタリア・スイス憲法）の憲法上の特質は何か。
- 第11回 ロシア・中国憲法の憲法上の特質は何か。
- 第12回 発展途上国憲法の憲法上の特質は何か。
- 第13回 これまで（第1回～第12回）の review。
- 第14回 世界各国憲法の人権保障制度は、どのようになっているか。また、その科学的な比較研究の方法について。
- 第15回 世界各国憲法の平等権保障について。
- 第16回 世界各国憲法の自由権保障について。
- 第17回 世界各国憲法の人身保護権保障について。
- 第18回 世界各国憲法の救済権保障について。
- 第19回 世界各国憲法の参政権保障について。
- 第20回 世界各国憲法の社会権保障について。
- 第21回 世界各国憲法の統治制度は、どのようになっているか。また、その科学的な比較研究の方法について。
- 第22回 世界各国憲法の国会制度について。
- 第23回 世界各国憲法の議院内閣制度について。
- 第24回 世界各国憲法の大統領制度について。
- 第25回 世界各国憲法の司法制度について。
- 第26回 世界各国憲法の自治制度について。
- 第27回 現代世界諸国の憲法上、人権保障制度と統治制度は、どのように運用されているか。また、今後は、どのように運用されるべきか。
- 第28回 これまで（第14回～第27回）の review。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「比較憲法」を楽しく研究してみませんか。— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をいだって、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age!（目覚めよ、新時代の若者たちよ!）— との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送ります。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
親族法	たけなか 竹中 ちか香	法A1・2選	4
		12以降入学生/法B1・2選	

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4増補版〕』(有斐閣双書) 1,600円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円
六法

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 社 会 学	おか 岡 ぞき 寄 おさむ 修	法A1・2選	4
		法B1・2選	

講義のねらい

憲法、民法、刑法などいわゆる基本六法においては、法の文言がどのような意味を有するかを見極める作業を通じ、法がいかなるものか、それをどのように適用すべきかを探究することが研究の中心となる。それに対し、基礎法学の一分野をなす法社会学は、解釈法学とは別に、経験科学としての法律学をめざし、近代科学の興隆を背景に誕生した経緯もあり、法はさまざまな社会の中でどのような機能を果たすのか、また法の解釈という作業そのものがどのような営みであるのかといった問題を含め、研究領域は多方面に及んでいる。本講義では、こうした法社会学がどのような経緯で誕生するに到ったのか、そして、法解釈という作業がどのような性格の営みであるのか、さらに、日本とアメリカとでは法律をめぐる諸問題についてどのような意識の違いが見られるか、という点に焦点を当てて講義する予定である。

法律学
1部

講義の内容・
授業スケジュール

- I. 経験科学としての法社会学
ヨーロッパ啓蒙主義思想と経験科学の成長
19世紀における法典化の動きと法律学
法解釈学と法社会学
メイン、エールリッヒ：法社会学の誕生
- II. 日本とアメリカとの比較社会論
労働観の日米比較
パターナリズムと個人主義
契約と責任
自由競争と秩序
- III. 法解釈のプロセス：司法過程論
ジョン・デューイ『法学の方法』
オリバー・ウェンデル・ホームズ『コモン・ロー』
ジェローム・フランクの司法過程論

履修上の留意点

履修者は、実定法解釈について若干知識のある方がよい。

成績評価の方法

評価は学年末の論述試験による予定。

教 科 書

六本佳平『法社会学入門』チュートリアル18講（有斐閣）1991

参 考 書 等

講義の中で随時紹介する。

そ の 他

必要に応じて補助プリント配布。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本法制史	しげのたかはる 茂野隆晴	法A1・2選	4
		12以降入学生/法B1・2選	

講義のねらい

どんな学問にも史学がある。法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史である。日本法制史は、「日本国民の法律生活の歴史的考察」である。それ故、法制史は過去の制定法規を羅列し、その解釈にのみ留まるものではなく、その法の発生した社会的背景をさぐらなくてはならないのである。

講義では、そうした観点に立ち、国初から近代までの5期に分ち、主な法制を中心に取り上げ、各期の法の特性をできるだけ平易に講述していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 日本法制史とその時代区分
- 2 国生みの神話ほか
- 3 『魏志』倭人伝ほか
- 4 冠位十二階と憲法十七条
- 5 律令の刑罰体系と司法制度
- 6 律令の「戸令」
- 7 三世一身法と墾田永年私財法
- 8 御成敗式目
- 9 甲州法度之次第（信玄家法）
- 10 武家諸法度
- 11 五人組帳
- 12 公事方御定書
- 13 田畑永代売買禁止令と分地制限令
- 14 慶安の御触書
- 15 泰公年季の規制
- 16 商家の財産相続
- 17 荻生徂徠の『政談』
- 18 大名貸と御用金
- 19 相对済し令・本公事と金公事・棄捐令
- 20 出奔・欠落・勘当・旧離のことなど
- 21 去状（三下り半）
- 22 大津事件
- 23 登極令ほか
- 24 明治民法総則・親族・相続

履修上の留意点

めいめいには少しだけの私語かも知れないが大きな教室では騒音と化す。そうしたなかでは細やかな授業は不可能です。特に留意してもらいたい点である。

成績評価の方法

学年末の試験に平常点として出席点を加味して行なう。

教科書

大久保治男・茂野隆晴〔編著〕『日本法制史史料60選』（芦書房）本体2,300円

参考書等

大久保治男・茂野隆晴〔共著〕『日本法制史』（高文堂出版社）2,980円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西洋法制史	きたの 北野かほる	法A1・2選	4
		12以降入学生/法B1・2選	

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
刑事政策	齋藤静敬 <small>さいとうよしやす</small>	法A1・2選 12以降入学生/法B1・2選	4

講義のねらい

人間は、なぜ罪を犯すのであろうか。どうすれば、この世の中から犯罪を防止することができるのであろうか？ たしかに、犯罪のない社会を実現させることは非常に困難なことである。しかしながら、実現不可能であるとして、何の努力もせずには、何の解決策にもならない。少しでもよいから犯罪のない社会の実現にむけて、われわれは努力すべきである。刑事政策を学ぶということは、まさにこの犯罪のない社会の実現にむけて貢献することにある。

講義の内容・授業スケジュール

刑事政策は犯罪を防遏するための合理的、合目的な手段、方法を探究するものである。そこで、

- 1 犯罪現象の類型的考察（例えば、少年犯罪、女性犯罪、性犯罪、暴力団犯罪、公務員犯罪、公害犯罪、精神障害者の犯罪、薬物乱用犯罪、交通犯罪、外国人犯罪）。
- 2 犯罪者の処遇（例えば、受刑者の法的地位、刑務作業、拘禁の形態、仮釈放）。
- 3 犯罪者に対する制裁（例えば、死刑、自由刑、財産刑、保安処分）。
- 4 犯罪の司法的処理（例えば、起訴猶予、執行猶予）……などについて概説する。

履修上の留意点

1. 講義には、毎回かかさず出席して欲しい。
2. 毎日、新聞の犯罪記事に目を通しておく。

成績評価の方法

筆記試験

教科書

齋藤静敬『刑事政策の諸問題』（創成社）2,800円＋税

その他

講義方式

科目名	担当者名	配当学科	単 位
法 思 想 史	たか 高 はし 橋 ひろ 洋 き 城	法A1・2選	4
		12以降入学生/法B1・2選	

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・
授業スケジュール

ここでは大まかなアウトラインしか述べることはできないが、重点をおくトピックおよび思想家として、以下を予定している。

(前期) ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想（プラトン、アリストテレス）、キリスト教思想（アウグスティヌス）、中世自然法論（トマス・アクィナス）

(後期) 前近代から近代への世界像の転換、近代法の基礎理論とも言える自然権論や社会契約思想（ホブズ、ロック、ルソー）、これを批判的に受け継ぐ啓蒙期の法思想（カント）、ドイツ観念論の法思想（ヘーゲル）

履修上の留意点

基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、断片的な紹介ではなく、影響関係や重要な概念枠組の変遷などを重視し、明らかにできればと思う。また狭い意味での法学理論史の枠にとらわれず、各々の法思想を、その時代の人間観やコスモロジーの中に位置づけて検討し、そうした作業を通じて最終的には、近代という時代が獲得したものと忘却してしまったものについて考えてみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19～20世紀以降の法思想ないし法学理論の諸潮流については、法哲学講義の一環として取り扱うつもりである。

成績評価の方法

定期的記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とする。その他に任意提出課題として、講義で紹介する思想家の著作を読んでレポートを提出してもらえば、一定範囲内で評価に加える。

教 科 書

ここでは、三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院）4,854円を挙げておくが、講義の補完、通常の学習には自分にあった概説書を選んでもらってもかまわない。詳細については講義のはじめに紹介する。

そ の 他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
政治学原論	おお つか かつら 大 塚 桂	法A1・2選	4
		12以降入学生/法B1・2選	

講義のねらい

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならずひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容・
授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、ならびに方法

B 政治の原理的究明

① 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

② 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

③ イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（シティズンシップ）

C 政治の実体論的究明

① 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

② 機能論的究明

～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は

中間試験：50%

学年末試験：50%

以上の割合によるものとします。

なお、追・再試験も実施します。

教科書

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参考書等

上記教科書の巻末にある参考文献を参照のこと。

その他

学習にあたっては、大塚編「補章オリエンテーション政治学」『政治学へのいざない』（成文堂）を参考にしてください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マス・コミュニケーション論	あい だ とし ひこ 相 田 敏 彦	法A1・2選	4
		法B1・2選	

講義のねらい

マス・コミュニケーションの機能、影響について、広い視野から検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 報道と真実
この問題はいろいろな次元で考えられるが、ここでは記号論を援用して、原理的に掘り下げて検討する。
 - A. イコン記号について、
文字の意味とちがいが、写真の意味（何を表しているか）は習わずしてわかると大抵の人は思うが、果してそうか。映像（テレビなど）についても同じような問題がある。
 - B. 写真による世論誘導——ケース・スタディ
新聞の写真によって、読者は気づかぬうちに、真実ならざる「真実」を植えつけられ得ることを具体例によって確認する。
2. 意識培養分析
〈客観的現実〉は〈シンボリック現実〉を媒介として、どのような〈主観的現実〉として人びとの心に植えつけられるか。
3. 批判的理論
メディアの主流研究に対する批判を、コミュニケーション概念を含めて検討する。
4. ヤコブソンのコミュニケーション・モデル
コミュニケーションとは単純に記号による一つの意味の受け渡しだろうか。通常、あまり意識されずに、いくつかの次元で意味の読みとりがなされている。ヤコブソンのモデルは、この問題を系統だてて考えるのに役立つ。

履修上の留意点

マスコミについて授業をさきながら、自ら積極的に考える姿勢を強く望みたい。そのため、授業中にこちらから質問を発し、挙手または指名によって回答を求めることがある。

成績評価の方法

前期：レポート
後期：試験

参 考 書 等

リップマン『世論』主として上巻（岩波書店）
田崎馬郎・児島和人（編著）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）
カラン・グレヴィッチ（編著）『マスメディアと社会』（勁草書房）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
政治史	楠 <small>くすのき</small> 精一郎 <small>せい いちろう</small>	法A1・2選	4
		法B1・2選	

講義のねらい

近代日本の政治権力に関する歴史的な分析。幕末から昭和戦前期まで、人物を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 幕藩体制の動揺と崩壊
2. 明治国家の形成
3. 政府批判と宥和策
4. 明治憲法と初期議会
5. 日清戦争と日露戦争
6. 政党政治の発展
7. 対華21カ条とシベリア出兵
8. ワシントン体制の成立と崩壊
9. 軍部の台頭
10. 満州事変と連盟脱退
11. 日中戦争と総動員
12. 日米戦争と戦時議会

履修上の留意点

履修にあたっては、とくに日本史の知識を必要としないが、歴史に関心を持つ学生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績は筆記試験によって行なう。

教科書

富田信男・楠精一郎他『日本政治の変遷』（北樹出版）2,600円

参考書等

猪木正道『軍国日本の興亡』（中公新書）760円。その他随時授業のなかで指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済原論	あさの 浅野 かつみ 克巳	法A1・2選	4
		12以降入学生/法B1・2選	

講義のねらい

現実の経済の動きを念頭におきながら、現代経済学の基礎理論を以下の順序で解説する。なお、公務員試験（その他の国家試験等）の受験対策にもなるよう必要に応じ問題練習を行うので、下記の問題集も用意してください。

講義の内容・
授業スケジュール

- I マクロ経済学
 1. 経済循環と国民所得の諸概念
 2. 所得はどのようにして決まるのか
 3. 45度線モデルとI-Sバランス
 4. IS-LM分析と財政金融政策
 5. 経済の変動と成長
 6. 賃金・物価・インフレーション
 7. 国際マクロ経済学
- II ミクロ経済学
 1. 市場と価格メカニズム
 2. 消費者行動の理論
 3. 企業行動の理論
 4. 不完全市場とは何か
 5. 市場の失敗
 6. 不完全情報の経済学
 7. リスクと不確実性
 8. 市場と企業組織の関係
- III 公共政策

履修上の留意点

経済学を勉強するうえで不可欠なことは、現実の経済問題にできるかぎり関心をもつことだ。これらはさまざまなメディアをとおしあふれるほど提供されている。特に『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおしてもらいたい。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけ持参してもらいたい。また必要な記事・データはスクラップ・ブックなどに整理しておく、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つだろう。

また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的なコースで用いる数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要があれば授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習するにかぎる。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒沢大学情報センター」に常備されている。それらを利用しシミュレーションしてみることも、おもしろく経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席しノートをしっかり取り、予習復習を実行すれば「100点取るのも夢じゃない！」

なお授業中は、私語厳禁、勝手に席を立たないこと、ケータイなどもってのほか、以上厳守。守れない者は、直ちに退席してもらう！

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス・改訂版』（成蹊堂）

参考書等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）
八木『基礎からステップ経済学』（実務教育出版）

その他

ここをクリック [経済学部浅野ゼミ HP](#) の『過去問コーナー』には、授業に必要な資料・参考文献、あるいは練習問題と解答などを掲載しておくので、各自でダウンロードして参考にしたい。また、質問その他どんなことでも書き込みOK！ 大いに利用してください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 学	おか 岡 だ 田 あ き ら 彰	法A1・2選	4
		12以降入学生/法B1・2選	

講義のねらい

行政学は政治学の中でも新しい分野である。わが国では明治時代にドイツの官房学の紹介として始まった。そして戦後はさらにアメリカ行政学の影響も受けることになる。

行政学と関連する学問は①行政法学（公法）②経営学（組織論）③財政学④政治学が主なものであるが、国によって関連領域への関心も異なる。日本では行政法学の影響が強いが、アメリカではむしろ経営学との関連などに関心が置かれており、それぞれの歴史を反映したものとなっている。行政学は地味なもので、それだけ学生諸君には取りつきにくいように思われるかもしれないが、いずれ社会で活躍すれば、必ず出会う問題でもある。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 行政学の対象と方法
- 2 行政学説史
- 3 アメリカ行政学
- 4 官僚制
- 5 官僚制の逆機能
- 6 政策の形成、評価
- 7 行政統制と行政責任
- 8 内閣制度
- 9 公務員制度
- 10 行政改革

履修上の留意点

遅刻や私語は遠慮して下さい。

教 科 書

森田朗『現代の行政』（放送大学）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 律 時 事 英 語	まさ 牧 の 野 か ず お 夫	法A1・2選	4
		法B1・2選	

講義のねらい

国際取引やビジネスの場で実際に使用されている法律英語のキーワードを分かり易く解説することにより「法律英語」の実際を学習することをねらいとしています。社会に出てからも直ちに役立つように、実践的、実務的な内容で、具体例を挙げつつ講義を進めます。

講義の内容・
授業スケジュール

下記の順序で進める予定です。

- ① 英米法の考え方
- ② 英文契約の基礎
- ③ 国際ビジネスにおける法律英語キーワード
- ④ インターネット上の取引におけるキーワード

履修上の留意点

講義を中心に進めますので、出来る限り講義へ出席することを要望します。

成績評価の方法

学年末筆記試験1回（論文式。但し、教科書など何でも持込み可とする）

教 科 書

牧野和夫著『法律英語ハンドブック（上）及び（下）』（プロスパー企画）各1,800円、1,500円（税別）

参 考 書 等

河村實治他著『国際法務グローバル・スタンダード17ヶ条』（プロスパー企画）4,300円（税別）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代法のトレンド	高橋 洋城・青野 博之 荒木 正孝・竹中 智香 林 幸司・藤本 茂	法A1・2選	4
		法B1・2選	

講義のねらい

現代社会は大きな変貌を遂げつつあると言われますが、法の領域においてもそれは例外ではありません。本講義では、専門科目の講義では十分に触れることのできない現代的問題について、担当者がそれぞれの専門領域から取り上げ、様々な角度から検討していこうとするものです。なお本年度は、主として私法領域における問題を扱います。

通常形態の講義と異なる点多々あると思われるので、第1回目の講義で履修上の一般的な注意事項の説明と、各講義担当者による講義内容の概要説明を行ないますので、必ず出席し、聞きのがさないようにしてください。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の順序に従って講義を進めます。各講義は、それぞれ3～4回を予定しています。

1 現代法の展望 高橋洋城

現代法というとき、そこには近代市民法の原理との対比が含意されているが、本講義でもまず近代法原理について概観した上で、現代的法領域に現われている新しい原理や従来の原理の修正などについて俯瞰的に、また歴史的に位置づけ、以降の講義への導入の役割を努めたい。特に近代法がイメージしている人間像への批判、問いなおしについて焦点をあててみたい。

2 現代社会と企業法 荒木正孝

大企業はすべて株式会社の形態をとり、生産、消費、雇用の各方面において国民経済に大きな影響を与えており、誰ひとりとして企業の経済活動と無関係に生活することはできない。この講義では、社会的に大きな影響力を持つ株式会社に関する法律問題のうち、総会屋に対する利益供与事件、取締役と執行役員、取締役の報酬とストック・オプションおよび会社法改正の動向など最近話題になっている重要な問題の中からいくつかを選んで解説する予定である。

3 現代社会と契約法 林 幸司

「個人は契約を締結するかしないかの自由を有し、締結する際にはその契約内容を自由に形成することができる」というのが、「契約自由の原則」の中身であり、これが民法の基本原則と一般に理解されている。しかし本当にそうであろうか。日常生活において、我々は、実質上否応なく契約を締結せざるをえない場面、相手方の提示した契約内容をそのまま受け入れざるをえない場面に出くわすことがあまりに多い。さらに、知らない間に契約を締結してしまっているというようなことすらある。本講では現代社会において「契約の自由」が実質上機能しなくなってきていることによって生じるトラブルが、どのように処理されており、今後どう解決していくべきか、という問題を扱う。

4 現代社会と家族法 竹中智香

現代の家族や婚姻などをめぐる問題の中から、法律学の初心者でも興味が持てそうな今日的话题を取り上げて解説・検討しようと考えている。具体的な内容としては、以下を予定している。

- (1)有責配偶者の離婚請求について。
- (2)不貞行為の相手方への慰謝料請求について。
- (3)成年後見について。

5 現代社会と消費者法 青野博之

消費者法のトレンドについて講義を行なう。具体的なテーマとしては、2001年から施行される消費者契約法、1999年になって初めてその法律に基づき責任を肯定した判決が登場した製造物責任法を予定している。ようやく消費者にとって役に立つ（立ちそうな）法律がそろってきた。現代において、これらの法律がどのような意味を持つか、学生とともに考えてみたい。

6 日本の産業社会と労働法 藤本 茂

労働関係をめぐる分野は今、大きな変貌を遂げようとしている。たとえば、「日本型雇用慣行」といわれる長期安定雇用、年功制賃金体系は、派遣労働、高度専門職の短期契約者や成果主義賃金（年俸制）の導入によって変容しつつある。わが国産業社会は、さまざまな労働形態や新たな雇用制度を模索しているところである。こうしたトレンドに対応する労働法制の改正に焦点をあてて講義を行なう。具体的な内容は以下のとおり。

- (1)労基法改正。ここでは短期労働契約に関する法規制の過去と現在について。
- (2)労働者派遣法改正。労働力市場に流動性を持たせる労働形態に関して。
- (3)男女雇用平等法改正。職場における男女平等の問題を考える。

成績評価の方法

各担当教員（6名）が、それぞれの講義時間の中で、小テストやレポートなどによって評価を行ない、それらの総合点で全体的な評価・単位認定を行ないます。詳細については、担当者ごとに異なりますので注意してください。

教科書・参考書等

講義全体を通じた教科書は特に指定しませんが、参考図書等については、各回の担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
基礎憲法演習	なかの かつ ひさ 中 野 辰 久	法A1・2選 法B1・2選	4

講義のねらい

本演習の特徴は、弁護士が担当すること、司法試験等の国家試験を念頭にしていることの二点にあります。その特徴を踏まえ、本演習は以下の諸点を目的に行いたいと思います。

- ① 受講生に身近と思われる具体的事例を素材として取り上げ、憲法等の法律が実社会でどのような役割を担っているかを明らかにするとともに、憲法の基本原理を重点的に検討する。
- ② ①を通して、司法試験等の国家試験に必要と考えられる憲法の基本原理・基本的知識の習得を目指し、リーガルマインドの養成をはかる。

講義の内容・授業スケジュール

主に基本的人権に関する事例を取り上げ、それに関連する形で統治機構論・憲法訴訟論を加味していく予定です。検討テーマの一例をあげると下記のとおりです。

- ① 死刑の合憲性
- ② 氏名権
- ③ 外国人の人権－選挙権、指紋押捺の問題
- ④ 平和主義・戦争の放棄－自衛隊の合憲性
- ⑤ プライバシー権－タレントの権利
- ⑥ 法の下での平等－尊属殺重罰規定違憲判決、議員定数不均衡問題
- ⑦ 表現の自由－報道の自由
- ⑧ 職業選択の自由－プロ野球のドラフト制度
- ⑨ 生存権
- ⑩ 教育を受ける権利－校則の問題
- ⑪ 信仰の自由・政教分離－靖国神社の問題

等

履修上の留意点

演習（ゼミ）形式ですから、できるかぎり出席することが望ましいと考えます。また、司法試験等の国家試験を念頭に置くと、復習は必ずしてほしいと思います。

成績評価の方法

演習（ゼミ）形式ですから、出席とレポートで評価する予定です。しかし、登録人数が多い場合には試験に変更します。

教科書

芦部信喜著『憲法新版補正版』（岩波書店）
芦部信喜・高橋和之・長谷部恭男編『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第四版〕』（有斐閣）

参考書等

演習の都度、レジュメを配付する予定です。

その他

司法試験等の国家試験への対処、弁護士の仕事等についても適宜お話していきたいと思ひます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
基礎民法演習	はやさか 早坂 亨	法A 1・2選	4
		法B 1・2選	

講義のねらい

本講義は、受講生が初学者であることを前提に、事例をもとに、実務的観点から民法の基礎、考え方を学ぶ。また、実務法曹になる前提として司法試験等を意識し、これらが何を要求しているかについて考える。

講義の内容・
授業スケジュール

民法では、現実には起りうる私人間の紛争を規律するという側面を有するため、法的安定性ととも、具体的事案について結論の具体的妥当性が要求される。従って、事例は、実際の判例を取り上げるが、その他、実務法曹になる前提としての司法試験の問題等も取り上げ、実務法曹としてどのような基本的知識が必要とされるかについても講義、検討する。

履修上の留意点

本講義では、判例、司法試験の過去の問題を素材とするが、本科目の受講生は、民法の初学者を前提としていることから、これらの検討にあたっては、その点を充分配慮し、基本的事項から検討するので、予習よりも復習に重点をおいて受講して欲しい。
また、講義にあたっては、積極的に発言して欲しい。

成績評価の方法

知識の習得度には重点を置かない。むしろ民法の考え方をどれだけ理解したかという点から評価する。

教科書

特段指定はしない。

参考書等

講義において適宜指示する。

その他

本講義はゼミ形式とする。
実務法曹として必要な知識の取得を目的とすることから、司法試験についても当然念頭においた講義となる。司法試験合格の為には、相当程度の勉強が必要だが、ただがむしゃらに勉強さえすれば良いというものではない。司法試験はあくまで法律実務家になる為の試験であるから、実務法曹として何が望まれているのかを理解し、その方向性に向かって勉強することが必要とされる。従って、判例、司法試験の問題の検討を通じて、実務法曹として、どのような能力が求められるのか、また司法試験では何が要求されているのか、そのためにはどのような勉強をしていけば良いのか、論文の考え方、特に勉強の方向性についての講義・討論を行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
基礎刑法演習	木村美隆	法A1・2選	4
		法B1・2選	

講義のねらい

刑法の基礎知識、思考方法の習得を目的とすることは当然であるが、司法試験をはじめとする各種国家試験の合格を旨とする学生諸君の存在を意識して、その対策への導入路となることをも心がけたい。

講義の内容・授業スケジュール

刑法は、犯罪の一般的成立要件を中心に分析、検討する刑法総論と、殺人罪、窃盗罪など個別の犯罪の成立要件を分析、検討する刑法各論に分けて講ぜられるのが一般である。この演習では、前期から後期中までをかけ、刑法総論のテーマを取り上げ、その余の時間で刑法各論の重要論点にふれる予定としている。

刑法は、古くから学説上の争いが顕著で、ときに学界を二分するような議論もなされてきたが、この演習では特定の学説上の立場に把われることなく、常に多様な考え方、視点のあることにふれていきたい。

また、司法試験等各種国家試験の対策も念頭に置き、そのために必要な学習方法にも言及する予定である。

さらに、弁護士としての実務経験も適宜織り込み、法律が現実に応用される世界への興味を引き出せたら幸いと考えている。

履修上の留意点

テレビ・新聞等で多くの犯罪が取り上げられることもあって、刑法は親しみやすい科目であるかもしれない。しかし、ひとたび教科書を開いてみれば、極めて論理性の高い体系のあることに気づかされ、学習の容易でないことを知るはずである。中途半端な学習態度で臨んでもらいたくない。

成績評価の方法

出席と、試験の結果により評価する。

教科書・参考書等

特定の教科書は使用しないが、学習上何らかの体系書に拠ることが望ましい。参考となる文献は開講時に指示する。

その他

講義形式が中心となるが、学生の発表能力を養うため、試験とは別に答案を書き添削を加える、いわゆる答案練習の機会を持ってみたいと考えている。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
債 権 各 論	あおのひろゆきの 青野博之	法 A 2 選	4
		12以降入学生/法B2選	

講義のねらい

債権各論とは、民法典のうち、第3編「債権」の第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」及び第5章「不法行為」をいう。

たとえば、Aが自己所有の土地をBに売却する契約をBとの間で締結した場合には、Aは、Bに対して代金を払うように請求することができる。つまり、代金債権が発生する。また、Cの家にDの運転する車がおつかって、家が壊れた場合には、Cは、Dに対して賠償金を払うように請求することができる。つまり、損害賠償債権が発生する。このように、債権は、契約、不法行為など、さまざまな理由によって発生する。このような債権発生原因について考察するのが、債権各論である。具体的には、たとえば不法行為では、どんな場合に損害の賠償を求めることができるか、どのような損害の賠償をもとめることができるかが問題となる。

なお、債権の発生原因のうち、債権各論で学ぶのは、契約、事務管理、不当利得及び不法行為だけであるが、これらが債権発生原因の主要なものである。

講義の内容・
授業スケジュール

契約の成立（申込、承諾）
 契約の効力（同時履行の抗弁権、危険負担）
 契約の解除
 所有権移転型の契約（贈与、売買、交換）
 貸借型の契約（消費貸借、使用貸借、質貸借）
 労務提供型の契約（雇傭、請負、委任、寄託）
 その他の契約
 事務管理
 不当利得
 不法行為の要件
 不法行為の効果
 特殊な不法行為

履修上の留意点

できるだけ債権総論も受講してほしい。債権各論を理解するために重要な科目だからである。質問は大歓迎である。講義の中では、私からも質問するので、答えてほしい。双方向型の講義を目指している。

成績評価の方法

質問した回数及び私からの質問に対する解答の回数を重視する。解答が正しいかどうかではなく、考えて解答することに意味がある。安心して答えてほしい。

受講者がそれほど多くなければ、質問と応答による平常点だけで成績を評価する。しかし、平常点で成績を評価することができないほど受講生が多ければ、年度末の試験を行う。試験を行う際には、いっさいの持ち込みを不可とする。

教 科 書

大島俊之ほか著『プリメール民法4・債権各論』（法律文化社）2,700円 2000年
 教科書は上記のものを使うが、自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 米 法	きたの 北 野 かほる	法 A 2 選 法 B 2 選	4

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を外観し、その主要な理由をなすと考えられる、法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏法	うえい ながひさ久	法A2選 12以降入学生/法B2選	4

講義のねらい

本講義は、フランス法のうち、とくにフランス私法の根幹をなす諸問題を対象として、フランス私法の基底を理解することを目的とする。近現代の私法の基本的問題ばかりでなく、古代フランク時代と封建制度下の中世の法とにわけられる古法の時代、および自由と平等を旗印とした大革命に始まる革命期の法すなわち中間法の時代の私法をも本講義の課題としているのはそのためである。フランスの近現代法は、19世紀初頭に統一的な成文法により樹立され発展したが、それまでの法を基礎として統一・整備されたものである。フランスの近現代の私法を深く理解するためには、古法、中間法をも学ぶ必要がある。本講義は、そのようなフランスでいわゆるフランス私法の序論と歴史と称する領域を原典資料（法文、判例、学説、一般論述等）により理解しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は、まず、近現代のフランス公・私法の基礎であるフランス人権宣言と19世紀におけるその開化を学び、次いでフランスの革命期および近現代の私法の基本的問題を検討し、後に、その基本的問題さらには近現代の私法の個別的問題と出来るだけ関係づけながら古法における私法の歴史を考察する。講義の内容は、具体的には以下の通りであるが、その各項目について原典資料を解説しながら講義を進める。なお、フランスの革命期から今日までの政治、行政、裁判制度についても、適宜折り込み説明する。

- I. 革命期および近現代の私法の基本的問題……（前期）
 - 1. 人権宣言と自由の確立
 - ①人権宣言の着想の背景・精神・性質・効力・趨勢 ②人権宣言の内容——基本的人権、各種自由権、法の下での平等、法律の支配、政治組織の原理（国民主権、権力分立） ③公的自由と私的自由
 - 2. 法典編纂とその後の私法の変遷
 - ①法典化の意義・目的 ②ナポレオンの5法典と王令・中間法 ③法典編纂の経緯と問題点 ④近現代における私法の変遷
 - 3. 判例の効力
 - ①判決の構造と判例 ②判例観の変遷（古法、中間法） ③判決の既判力、判例の拘束力と創造力 ④法律の解釈と法学の法律学化（注釈学派、科学学派）
- II. 私法の歴史……（後期）
 - 1. フランク王国の法
 - ①法源（法の属人性） ②社会経済制度——人の身分、土地（個人、共同）所有形態、形式主義的契約、教会と家族財産（相続、贈与、遺贈）、フランクの家族共同体とローマの個人的家族制度 ③訴訟制度
 - 2. 高期中世（制限王政期）の法
 - ①法源（法の属地性、ローマ法の再生、教会法の編纂、慣習法） ②社会経済制度——階級制、封建的土地所有（分割所有権）と自由地、形式主義的契約と合意主義的契約、家族制度（教会婚、自由処分と家族遺留分、夫婦財産共有制） ③都市の社会経済制度——ブルジュア身分大市・市の組織と取引、同業組合の組織と規約
 - 3. 絶対君主制（旧体制）の法
 - ①法源（慣習法の編纂、ローマ法の第二の再生、王令） ②社会経済制度——階級制の変遷、封建的土地所有制度の変遷

履修上の留意点

フランス法とフランス語に興味があれば、楽しく受講してもらえます。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の定期試験で行う。

教科書

拙著プリント版 *Introduction au droit privé* 及び *Histoire du droit privé*（最初の講義の時に配付する予定）

参考書等

ジャン・アンベール著三井哲夫＝菅野一彦訳『フランス法制史』（白水社文庫クセジュ）
山口俊夫『概説フランス法 上』（東大出版会）

科目名	担当者名	配当学科	単位
独 法	やまぐちくに お 夫 山 口 邦 夫	法 A 2 選 12以降入学生/法B2選	4

講義のねらい

外国法の一種類としてのドイツ法全般について一年間で講義をすることは不可能なので、日本が明治以降、政治上の理由から、先進国の外国法を多数継受してきたなかで、ドイツ法のはたした役割を中心に講義をする。したがって、ドイツ法の歴史も近世以降に限定し、特に19世紀以降の立法と日本が継受する際に最も強く影響を受けた点を中心としたい。明治期の仏法・英法の影響については、各自学習することが望ましい。

講義の内容・授業スケジュール

一年を次の4期に分けて講義をする。
 I期 4/5月、II期 6/7月、III期 9/10月、IV期 11/12月。
 I期 プロイセン憲法と明治憲法との関連、特に Kaiser と天皇との比較。次にドイツ民法第一草案と日本民法との関連。パンデクテンシステムの導入。行政法の分野について。
 II期 一般ドイツ商法典と日本の商法との関連。民商統一論。社会法、経済法など。
 III期 刑法及び手続法（特に民事訴訟法と刑事訴訟法）の分野において、ドイツ法が日本法に与えた影響について。
 IV期 ドイツの法思想家のうち、I期からIII期において対象とした分野で影響を与えた法学者の思想をドイツの原書を参考に解説する。

履修上の留意点

当然ドイツ語を履修した2年生以上の学生を念頭において講義をする。授業中にドイツ語の条文などが登場するので、他の外国語の履修者には不相当と考えるが、単位取得を目的としなければ聴講可能である。

成績評価の方法

毎年10人前後の小クラスなので、毎回出席をとり、平常点に、年2回のレポート提出によって単位の認定を行う。いわゆる学年末試験は行わない。

参考書等

Gerd Kleinheyer / Jan Schröder, Deutsche Juristen aus fünf Jahrhunderten. 2. Aufl. 1983. (初版の和訳あり) (IV期用参考書)

科目名	担当者名	配当学科	単位
登 記 法	たぬま ひろし 浩 田 沼 浩	法 A 2 選 法 B 2 選	4

講義のねらい

「不動産登記法」及び「商業登記法」の講義を行う。初めて不動産登記法・商業登記法を学ぶ者にも、以前勉強したことのある者にも、民法・商法の手続法としての不動産登記法・商業登記法が現在の取引社会においてどのような役割を担っているのか、不動産登記・商業登記制度の意義を通じて、両法のより深い理解を図ることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

不動産登記においては、不動産に関する取引全体の流れにおける不動産登記の役割を理解することを目指したい。商業登記法においては、会社法と関連させることによって会社の起業に役立つ程度の知識を最低限習得できるように努めたい。

履修上の留意点

民法典第二編物権（物権法）、商法典第二編会社（会社法）の受講者が履修することが望ましい。この講義を受講することが望ましい者は、将来、不動産・金融関係の会社に就職を希望する者、起業して自営業を目指す者、そして司法書士試験を受験したいと考えている者である。そこを留意して受講していただきたい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

法務省 民事局第四課編『商業登記法入門』（きんざい）3,619円
 遠藤浩・青山正明編『別冊法学セミナー 基本法コンメンタール [第四版補訂版] 不動産登記法』（日本評論社）3,500円（初学者は『基本法コンメンタール』を直ちに購入しなくても良い。）
 『六法全書』は、毎回持参すること。

参考書等

法務省民事局編『不動産登記実務 [五訂版]』（法曹会）4,000円（初学者は購入しなくても良い。）

科目名	担当者名	配当学科	単位
税 法	岸 田 貞 夫 <small>きし だ さだ お</small>	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

税法の体系を法的な見地から検討し、所得税法等の規定の解釈を中心として、税法の意義、役割、問題点等を研究する。

講義の内容・授業スケジュール

税法の意義、機能、体系、租税法関係の特色、租税の確定手続き、所得税法における納税義務者、課税所得の意義、所得の種類、収入及び必要経費の範囲等について順次、講義する。

履修上の留意点

予習の上、問題意識をもって授業に参加されたい。

成績評価の方法

前期及び後期の試験の結果により評価する。

教科書

岸田貞夫著『税法としての所得課税』（税務経理協会）2,900円

参考書等

金子宏著『租税法』（弘文堂）

その他

授業は講義方式で行う。なお、レジュメを配布する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地 方 自 治 法	富 井 幸 雄 <small>とみ い ゆき お</small>	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをきみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎回レジュメを配布し、それに沿って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』（学陽書房）、『地方自治判例百選（第2版）』（別冊ジュリスト）

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』（良書普及会）は便利。地方自治の制度的問題については、新藤宗幸『地方分権』（岩波書店）、同他『概説日本の地方自治』（東京大学出版会）は必読。

その他

講義では頻りに法律の条文に言及するので、六法（『地方自治小六法』（学陽書房）があるがポケット六法でよい。）は必携。その都度チェックすること。平成12年度には地方自治法の大幅な改正がなされたので、必ず平成13年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
環境法	まつ 松 村 弓 彦	法A 3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

環境問題を事実と法律論の両面から理解する。私法からのアプローチを中心とするが、現在我が国が当面している環境法上の重要課題については、公法・国際法の方野の問題を含めて勉強する。

講義の内容・授業スケジュール

教科書と判例（必要に応じて配布する）を中心とし、概ね以下の項目にわたる。

- (1) 環境法の背景・歴史・理念等
- (2) 環境保全法制
- (3) 環境責任
- (4) 費用負担
- (5) 特殊問題——我が国が当面する諸問題

履修上の留意点

事実を踏まえた法理論の理解を深めること。

成績評価の方法

論文式試験（年1回）および授業中の報告の評価による。

教科書

拙著『環境法』（成文堂）

参考書等

森島昭夫ほか編『公害・環境判例百選（別冊ジュリスト126号）』（有斐閣）2,300円

その他

授業の方法：テーマに応じて講義形式とゼミ形式を併用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
法 哲 学	たか 高 はし 橋 ひろ 洋 き 城	法A 3・4選	4
		法B 3・4選	

講義のねらい

- ・ 法哲学は、「法学」の基礎的一分野であると同時に、「哲学」でもある。法制度や法的思考をめぐる基礎理論や根本的諸問題を考察しながら、法と関わりつつ生きる人間という存在者をどのように把握していけばよいのかという視点を常に持って、一緒に考えてゆきたい。
- ・ 出来上がった知識の体系を伝えることが講義の目標ではない。極論すれば「わかっているつもりのこと」をわからなくする、一度根底から疑ってみる、ということが講義のねらいといってもよい。とはいえ、一人で内省しているだけでは自ずからその思考の広がりにも限界がある。法と人間・社会の関わりにおいて、どのような問題があり、どのような考え方が提起されているのか、さまざまな議論に触れることで、各自の思考の自由度を広げてもらい、参加者各人自分自身で考える。その手がかりを本講義でつかんでもらえるならば講義としては成功である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は、法と現代思想の動向とのかかわりを大きなテーマとして設定する予定である。これまでの自明の前提とされてきた人間像、社会像は今日大きな懐疑・批判にさらされており、法や法律学と言えども、それと無縁ではない。また逆に法律学的な問題とされてきた諸事象が、実は人間観、世界観の問題と密接に絡み合っているということもある。人文諸科学や社会科学のなかで展開されてきた様々な考え方が示唆するものに対して、法を学ぶものとしても、その問題提起を真剣に受け止めなければならない状況に至っている。こうした基本的関心から、法をめぐる議論を哲学・思想一般の領域での議論、論争史の文脈に位置づけながら考察していきたい。したがって、講義の中では、実定法の議論の参照はもちろんだが、他の人文・社会科学、とりわけ哲学、倫理学、社会学などの知見にしばしば言及することになる。狭い意味での法律学を超えた問題関心が求められる。

個別の項目としては、たとえば以下のようなものを考えているが、現段階ではあくまで予定であり、詳細は講義開講時に伝える。

- ・ 近代法原理への懐疑、批判と擁護
- ・ リベラリズム正義論とそれに対する批判
- ・ 解釈的存在としての人間と法的判断の問題
- ・ 法実証主義と自然法論
- ・ 生命倫理・環境倫理的問題状況からのインパクト

講義の進め方としては、できるだけ具体的な諸問題の紹介・検討から入り、その根底にある根源的な思考や原理を洗い出していく、という方式をとりたいと考えているが、ある程度は抽象度の高い議論にもチャレンジし、自分自身でそれを具体的・日常の問題と関連づけていく、という姿勢も参加者に求めることになるだろう。

成績評価の方法

前期終了後のレポート、後期終了後の定期試験、この二つを主たる評価対象とする。

教科書

田中成明『法理学講義』（有斐閣）2,900円を挙げておく。ただし、講義はこのテキストの叙述にとらわれず進めていくので、あくまで講義を補完する意味で推薦するものと考えてもらいたい。また法思想史の背景的知識を前提に話さなければならないことも多いので、できれば法思想史関係の概説書も手許に置き自学自習に役立ててほしい。

参考書等

その他の参考文献については、講義の進行過程でテーマに応じてそのつど紹介する。

その他

上で述べたとおり、法哲学という学においては知識の獲得・整理が目標ではないのだから、講義ならびに概説書だけでなく、こちらから指示する参考文献を含め、様々な著作、思考、問題に自ら直接あたり、自分なりの思索を行うつもりでのぞんでほしい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経 済 法	お だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	法A3・4選 12以降入学生/法B3・4選	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
航空・宇宙法	せき ぐち まさ お 関 口 雅 夫	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

専門科目としての航空・宇宙法学は、航空法と宇宙法の全体についての概観的な知識、航空法と宇宙法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、航空法と宇宙法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

航空法も宇宙法も新しい学問領域である。特に宇宙法は、航空法に比較しても極めて新しい学問領域である。学理的には、航空法も宇宙法も国内法としての航空法と宇宙法と、国際法としての航空法と宇宙法に分けられる。沿革的にみると、そこにはまず、一般的に国際法として成文化された航空法と宇宙法が生まれ、その内容が各国に浸透して国内法化される傾向がある。この意味で、航空法と宇宙法を体系的に学ぶためには、まずはじめに国際航空法と国際宇宙法の理解が不可欠になる。この講義の内容は、国際航空法と国際宇宙法を中心に進めて行く。

国際航空法は、国際航空公法と国際航空私法に大別出来る。国際航空公法の法源は、現在世界の170カ国が批准しているシカゴ条約（日本の正式名称は「国際民間航空条約」）やヨーロッパ連合（EU）の理事会指令のような地域協定および現在世界に2500ほど存在すると言われる例えば日米間航空協定のような二国間航空協定よりなっている。近年は、アメリカのノースウエスト航空やフェデラル・エクスプレス航空がアジア市場に進出し、そこでいわゆる「過大な遠権を行使すること」が、日米航空協定に違反するか否かというような具体的事例を通して、国際航空公法の基礎理論を理解してもらうことにする。国際航空私法は、三つのテーマを研究する。その第一は国際航空事故が生じて旅客に人身事故が生じた場合の国際航空運送人（航空会社）の責任問題について、中華航空機名古屋空港事故を例にとって論考する。第二のテーマは航空機事故が発生し、地上の第三者とその財産に損害を与える場合の解決策を考えてみることにする。第三のテーマは、航空機事故と保険制度の関係を検討することである。

国際宇宙法も、国際宇宙公法と国際宇宙私法に大別することができる。国際宇宙法の中核的法源は、別名基本的条約と称する宇宙条約である。本講義の第一のテーマは、この宇宙条約に定められた基本原理の内容を検討することに置く。次に、救助協定、登録条約、月条約を順次解説して行く。国際宇宙私法の中心には、「宇宙物体が引起した損害についての国際的責任に関する条約（責任条約）」が存在する。第二のテーマとして、この内容を解説する。第三のテーマは、現在そこには国際宇宙運送条約が存在していないが、何故存在していないのか、存在させるとしたらどのような責任原理が採用されるべきかを検討する。第四のテーマは、宇宙物体・宇宙機の事故と保険との関係をみることにする。

履修上の留意点

この講義は、新しいかつ特殊な学問分野の講義であり、全ての学生が履修すべき科目とは考えられない。この科目を履修すべき学生は、何らかの意味で、航空機に関する仕事につきたいと思う人、宇宙関係の仕事につきたいと思う人に適当なものである。

成績評価の方法

平常点と期末試験の結果により評価する。

教科書

関口雅夫著『国際航空運送人の責任制度』（成文堂）3,700円＋税 を使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
消費者法	こうののひろのり 河野弘矩	法A3・4選 12以降入学生/法B3・4選	4

講義のねらい

今日、消費者を取り巻く生活環境は、訪問販売・通信販売・割賦販売契約、保証契約、クレサラ契約・電子商取引・介護契約・弁護士や医師などの専門家との契約などの例に見られるように多様化・複雑化・専門化の一途をたどっている。本来、消費者と事業者との間のいわゆる消費者契約自体は、自由・公正・安全に締結されることが望まれるものである。しかし、「消費者と事業者との間の情報の質及び量並びに交渉力の格差」のあることは否定できず、結果として消費者側に不本意な自己責任を強いることになり適当ではなく、消費者の利益の擁護と消費者が自己責任に基づいて契約を締結できるための諸環境の整備が不可欠である。そのための法制度としては、民法を基本として、「消費者契約法」、更には各種の取引に対応した特別法（割賦販売法・訪問販売法・製造物責任法他）とが適用法令として制定されており、そのため消費者にとっては極めて複雑な法体系となっている。このうち「消費者契約法」は、2000年5月12日に公布、2001年4月1日から施行されており、「事業者の一定の行為により消費者が誤認し、又は困惑した場合について契約の申込み又はその承諾の意思表示を取り消すことができることとする」とともに、事業者の損害賠償の責任を免除する条項その他の消費者の利益を不当に害することとなる条項の全部又は一部を無効とする事により消費者の利益の擁護を図ることを目的として日常生活における消費者契約の基本法としての意味を持たせ、消費者が日常生活で締結する全ての消費者契約に対して例外のない適用を意図して制定されたものである（同法1条）。本講では、この自由で公正・安全な消費者契約が締結されるための環境整備を目的とした同法を中心として以下のスケジュールにしたがった講義を計画している。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 総論（消費者契約の特質、消費者問題の多様性）
- 2 諸外国の法制度
- 3 消費者契約法の概要
- 4 訪問販売法
- 5 割賦販売法
- 6 クレサラ契約と貸金業法・利息制限法
- 7 製造物責任法
- 8 紛争解決方法
 - (1) 小額訴訟、(2) 調停制度

履修上の留意点

消費者契約関連法規は、体系的であるとは言えないため、そのため可能な限り継続し受講することを心掛けて頂きたい。

成績評価の方法

期末試験の成績によって評価する予定である。出席点を加味するかどうかは未定。

教科書・
参考書等

未定。授業の始めに指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
証券取引法	はる た ひろし 春 田 博	法A3・4選 12以降入学生/法B3・4選	4

講義のねらい

証券取引法は会社の発行する株式・社債等の有価証券の発行・流通を規制の直接の対象とするが、その内容には、有価証券の定義、ディスクロージャーの規制、証券業と銀行業の業際問題、公開買付、5%ルール、インサイダー取引や相場操縦の規制等、数多くの現代的な問題が含まれており、また、実質的に会社法を補完する役割を担っていることもあって、今日その重要性を著しく増しつつある法分野である。加えて、平成10年の改正の結果、戦後一貫してきた規制の理念の多くが、その内容を大きく変ずることになった。本講義では、これら時事性のある問題にも可能なかぎり具体的に言及しながら、証券取引法による規制がどのような考え方や定義にもとづき、誰を名宛人とし何を目的に行なわれているかについて、わかり易く論じてゆくことにしたい。戦後に制定された若い法律であるため、母法であるアメリカ法の動向とも密接な関連を有しているが、こうした事情についても講義で伝えることができればと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

ほぼ法律の規定の順序に即して進める予定である。

履修上の留意点

履修者は会社法の履修を終え、あるいは自習している等、会社法に関する一応の理解を有していることが望ましい。また、出席に際しては必ず六法全書を持参すること。

成績評価の方法

学年末に実施される定期試験の結果によって行なう。

教科書

近藤光男・吉原和志・黒沼悦郎著『証券取引法入門（新訂版）』（商事法務研究会刊）4,000円

参考書等

必要に応じ教室においてその都度指示する。

その他

授業は講義形式で行なう予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
金 融 法	かわ 川 た 田 えつ お 悦 男	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

法律学科
法A・B1部

講義のねらい

わが国の金融界は、金融のグローバル化、自由化という大きな流れのなかで、不良債権問題などバブル後遺症からの早期脱却と、金融ビッグバンのもと21世紀への生き残りをかけた業務戦略の再構築を図るといふ、相反する重要な経営課題に直面している。

これを利用者の側からみると、現代社会は企業も個人も金融機関と極めて密接な関わりあいをもっており、経済社会はもろろん個人の生活に至るまで銀行取引なしには成り立たないといっても過言ではない。

本講義は、このような認識のもとで、われわれ一般市民として、また将来の企業人・金融人として必要な金融取引に関する法律知識と諸問題について、できるだけ実社会の生きものとして学ぶことを狙いとしており、実学の楽しさも学びとっていただきたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

金融法はまだ新しい科目分野であるが、その対象領域はかなり広く関係する法律も多い。本講義では、これらを主に具体的な取引法の観点から学ぶこととし、制定法の規定が現実にはどのように修正されて実際取引に適用されているのか、また、金融環境の変化がどのような新しい法律問題を生じさせているのかなど生きた学問として学習する。

講義内容は次を予定している。詳しくは初回講義の際に資料配布する。

- I 金融法の特質、わが国の金融制度、金融機関の業務内容
- II 預金取引、為替取引、電子マネー・e取引
- III 手形取引、手形交換と取引停止処分制度
- IV 貸出取引、消費者取引、担保、倒産、相続、差押

成績評価の方法

学年末試験を基本に評価する。

教 科 書

最初の講義のときに話します。

そ の 他

講義形式による。毎回のプリントとサブテキスト配布、一部ビデオ利用。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 事 執 行 ・ 保 全 法	とが 梅 よし 善 お 夫	法 A 3 ・ 4 選	4
		12以降入学生/法 B 3・4選	

講義のねらい

社会において重要な役割を果たしている民事執行法と民事保全法について講義します。
民事執行法は、権利の事実上の実現手続きです。民事保全法は、将来の権利実現を保全する手続きです。民事執行法、民事保全法の解釈と両法律の基本原則、重要判例についての理解を目的とします。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、以下のような順序と内容で行います。なお、より詳しい年間の予定表は第一回目の講義のときに配付します。

- ① 私法上の権利の実現方法
- ② 強制執行法の改正と民事執行法の成立
- ③ 仮差押え・仮処分法の改正と民事保全法の成立
- ④ 民事保全法
- ⑤ 民事執行法総則
- ⑥ 強制執行法総論
- ⑦ 強制執行法各論
- ⑧ 担保権の実行としての競売

履修上の留意点

民事訴訟法を履修しているか、併行して履修する人の履修を希望しています。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の筆記試験のみによって評価します。

教 科 書

内田武吉編著『民事執行・保全法要説（第2版）』（成文堂）1999年

参 考 書 等

竹下守夫・伊藤真編『民事執行法判例百選』（有斐閣）1994年
中野貞一郎『民事執行法（新訂四版）』（青林書院）2000年
その他参考書については、授業の際に必要なに応じてその都度紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倒産処理法	おくのよしひこ 奥野善彦	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

私が管財人として任務を遂行した更生会社日本リースの事件処理などを通じ、可能な限り実践的な視点から倒産処理法を学ぶこととする。

倒産処理手続は、通常、任意整理と法的整理に区分され、さらにその目的に従い、再建型と清算型に分けられる。

任意整理は、裁判所外で債務者と債権者間で私的に進められる整理手続で、再建型にも清算型にも利用され、法的整理手続の原型となっている。これに対し、法的整理手続は、再建型の類型に入るものとしては、会社更生、会社整理、並びに民事再生手続があり、清算型の類型に入るものとしては特別清算と破産がある。

この講義では、「倒産」に直面している人又は企業に対し、如何なる手続を選択することが債権者及び債務者にとって最も好ましいか、というようなことから始め、最高学府で倒産処理法を学んだ者として、当然身につけなければならない法的知識並びに法的技法を習得することにした。

履修上の留意点

真面目で誠実で、且つガッツのある学生に履修してもらいたい。

成績評価の方法

履修態度、レポート並びに試験（論文式）

教科書

追って指定

参考書等

奥野善彦著『会社再建』（小学館）定価1,600円

その他

前期－講義 後期－ゼミ

科目名	担当者名	配当学科	単位
知的財産権法	もりおかかずお 盛岡一夫	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

知的財産権法には、狭義の工業所有権法（特許法・実用新案法・意匠法・商標法）および著作権法等が含まれている。知的財産権法は知的所有権法または無体財産権法といわれることもある。

知的財産権法全般についての基礎理論を理解できるように、わかりやすく講義したいと考えている。学説・判例の対立している点については、これに関連する学説・判例を紹介し、問題点の所在をあきらかにしたい。

特許法においては、発明の定義、特許を受けるための要件、従業者が発明をした場合の法律関係、特許権の侵害に対する救済方法、実施契約等について、実用新案法においては、特許法との相違について、商標法については、商標登録要件および類似商標について詳しく解説する。著作権法および不正競争防止法についても講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前期：特許法・実用新案法
後期：意匠法・商標法・著作権法・不正競争防止法

成績評価の方法

後期に行なう平常試験および学年末試験によって評価する。

教科書

盛岡一夫『工業所有権法概説－知的財産権法の基礎知識〔第3版〕－』（法学書院）

参考書等

特許庁編『工業所有権法逐条解説』（発明協会） 中山信弘『工業所有権法上』（弘文堂）
鴻・紋谷・中山編『特許判例百選』（有斐閣） 齊藤・半田『著作権判例百選』（有斐閣）

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際取引法	よこ 横 やま 山 ま 真 き 規 お 雄	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

近年、日本企業の間でも、今後国際経営の発展・維持を図るには、如何にして効果的に法的リスク（危険性）発生を抑制出来るかが、決定的意味を持つとの認識が定着しつつある。

たとえどのように優れた経営ビジョン・技術開発能力を備えていようとも、経営に係わる法律問題に対し十分な配慮を怠れば、致命的になることを、これまでの経験からようやく認知するようになったからである。

即ち今後共、国際規模の経済活動を行っていくにあたっては、「国際社会に適用する」法律武装を十分図り、予めトラブルを未然に防ぐ「予防法学（病気が起こってから治療するのではなく予防に力点を置く姿勢）」の登場が求められてくるものと考え。そのためにも、「国際取引」に係わる様々な法律について、適確な知識を備えることが必要となる。

本講義では、このような視点から授業を行うことにする。定款上の企業活動が「国際性」を帯びた時、考えるべき様々な法律問題を検討することにしたい。

そこでまず「国際法務」活動に求められる重要法律規範について、簡単な復習を行う。民法・商法・憲法・経済法・知的所有権法・民事訴訟法・税法・行政法・国際法等の既に履修済み科目について、改めて「国際経営法務」上のリスク回避の観点から再考を行っていく。

その上で国際契約を支える「準拠法」の決定・外国法適用問題等を検討し、更に①取引相手を巡る社会的・法的信用調査、②取引内容の確定問題、③支払手段と運送方法を巡る確定問題、④契約書を巡る法戦略、⑤契約内容の実現と担保方法、⑥準拠法と約定条項との関係、⑦トラブル発生時の処理方法と裁判・調停・仲裁、と言った契約実施プロセス一連における具体的法律問題に検討を進めることにする。

もとより各企業の営業活動は多種に及び、業種に応じて「取引形態」には大きな違いがある。そこで一般性の高い問題を中心に講義を進め、適宜それぞれの業界での特徴的傾向について紹介することにする。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は広範囲に及ぶことになるため、ノート講義を中心に進めることになるが、下記テキストは随時参照するので、持参した上で必ず出席するようにしていただきたい。テキストに予習内容が記載されている場合には、前の授業までに指示するので、当日は各自予習を行って参加することを求める。

履修上の留意点

国際私法的発想が随所に求められるので、できれば「国際私法」を併せて履修されることが望ましい。

尚、授業進行上、極めて障害が多いことから、授業中の私語・飲食等は当然の事ながら、途中入室・途中退室も認めないので、予めその点を了解の上、誠実な気持ちをもって履修されることを御願います。

成績評価の方法

学年末試験における評価と出席点とを加味して決定する。

教科書

塩田親文・斎藤武『国際取引と法（第二版）』（有信堂）
必ず持参の上に授業に出ること。又、随時、六法も参照するので、持参していただきたい。

参考書等

その他参照すべき資料については、適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 政 学	さと 里 中 恆 志	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

法
学
部
法
学
科

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理の私経済とは異なる原理が作用する。公経済は租税徴収等による資金調達と、それをとおしての財政支出によらねば需要を充足できない経済領域である。したがって租税負担分配の方式、財政支出基準の考え方を問題にする。経済社会の変遷につれて負担の方式や支出基準についての考え方も変化する。そして公経済の比重が高まるにつれて、公経済と私経済の相互のかかわりもますます重要になる。

国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。国民はまた財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていないなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の分配、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方はまず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに公経済の私経済のかかわりについて総需要管理政策を講ずる。

講義の内容・
授業スケジュール

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 (第2週) 公共財と公共部門 (第3週) 財政の歴史概略 (第4週) 予算編成と主計局の査定 (第5週) 予算編成と政党政治 (第6週) 予算政府案と議会審議 (第7週) 予算の執行と競争入札 (第8週) 予算の政治過程 (第9週) 租税原則学説 (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 (第11週) 申告所得税と累進課税 (第12週) 法人税と徴税技術 (第13週) 国際化と移転価格税制 (第14週) 一般消費税と付加価値 (第15週) 地方税と地方歳出 (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 (第17週) 機関費と純粋公共財 (第18週) 公共事業費と費用=便益分析 (第19週) 公共事業費と公共財産の形成 (第20週) 社会保障関係費と所得再分配 (第21週) 補助金とスピルオーバー (第22週) 公債費と公債負担 (第23週) 総需要管理政策と国民所得の決定 (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 (第25週) 公債による財源調達と債券価格 (第26週) 大量国債の累積とその限界 (第27週) 財政金融政策と国際収支 (第28週) 財政投融资と政府貯蓄 (第29週) 試験と評価についての説明 (第30週) 試験

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

履修上の留意点

法学部には関連科目として経済学分野の「経済原論」及び「経済政策」の講義が設けられている。「財政学」は経済と政治の学際的な分野の科目であるから、こうした関連科目を履修することが望ましい。他学部履修の制度も活用が望まれる。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。自筆のノート持ち込み可。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版(東洋経済新報社)
野口悠紀雄 著『公共政策』モダン・エコノミックス12(岩波書店)2,000円
中谷巖 著『入門マクロ経済学』(日本評論社)3,300円

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済政策	もり森 おか岡 じん仁	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

経済学の実践部門としての経済政策が自由主義経済に成立した過程と、そこではたす役割を明らかにする。人口高齢化や少子化の経済的帰結にも言及し、最後に高齢化社会における経済政策と人口政策の関係を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

I. 現代経済と経済政策 II. 経済政策学的发展 III. 現代経済政策の課題 IV. 経済の成長政策 V. 経済の安定政策 VI. 産業組織政策 VII. 社会均衡化政策 VIII. 経済政策と人口政策

履修上の留意点

日常生活に生起する経済問題に日頃から関心を抱き、自分達の身の回りにある経済問題の解決手段として経済政策を考え、学ぶことが大切である。

成績評価の方法

学年末の定期試験、授業の出席状況

教科書

森岡他著『現代経済政策』（千倉書房）1975年

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会政策	はま浜 むら村 あきら彰	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義の内容・授業スケジュール

本年度の社会政策は、社会政策の総論として社会政策学の生成と発展に関する学説的分析を行い、それを前提として現代社会政策の主要課題を具体的に設定して順次講義を進めることにする。特に日本の雇用慣行や労使関係に関するこれまでの研究成果をくみ上げながら、最新の統計調査データを用いてわかりやすく講義することに努めたい。主要な項目は以下のとおりであり、労使関係にとどまらず、女性・家庭問題や高齢化と社会福祉政策などの様々な項目を取り上げて、現代社会政策の今日的課題を論ずることにする。

- 第1 社会政策総論－社会政策の目的と領域
- 第2 現代社会政策の主要課題
- 第3 日本の雇用慣行とその変容
- 第4 長期雇用慣行と最近の雇用管理政策
- 第5 年功賃金と業績・成果主義
- 第6 企業別組合と日本的労使関係
- 第7 労働市場と雇用政策
- 第8 労働政策と労働条件規制
- 第9 女性労働
- 第10 健康と医療政策
- 第11 家庭と教育政策
- 第12 高齢化と社会福祉政策

成績評価の方法

学年末の定期試験

教科書

講義開講時に指定する。

参考書等

授業中に配布するプリント。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際関係論	しゅうとうもとこ 首藤 素子	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

現代の国際関係の理論と現状の課題について、知識と理解を深めることを目的とする。とくにアジア太平洋地域の開発と民主化、安全保障の問題について具体的な知識を深めつつ、国際関係研究の理論について講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 次の各項目をほぼ2週の割合で進める予定。
1. 国際政治理論の展開（現実主義）
 2. 国際政治理論の展開（現実主義批判の多様なアプローチ）
 3. 冷戦後の国際政治理論
 4. 冷戦後の安全保障研究
 5. 冷戦後の紛争と国連システム
 6. 経済のグローバル化と国際機関の機能
 7. 開発理論の変遷
 8. 開発金融の国際化、民営化と開発体制の形成
 9. 人権保障の国際的制度化と人権 NGO の役割
 10. 地球環境問題と環境外交の進展
 11. グローバル化、国家、市民社会の関係と課題

成績評価の方法

定期試験により評価する。

教科書

毎週使用するという意味の教科書は指定しない。授業ではテーマ毎に資料を配付し、参考文献を紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 交 史	しゅとうもとこ 首 藤 素 子	法 A 3・4 選	4
		12以降入学生/法 B3・4選	

講義のねらい 西欧国家体系の成立後、主に19世紀末から20世紀後半までの西欧世界と東アジアで展開した外交の特徴とその変容について講義する。それぞれの時代で外交指導者がどのような対外認識をもって外交政策を形成したか、それは当時の政治環境にいかに関与を受けたかについて理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール 次の各項目を1～2週の割当で行う予定。

1. 西欧国家体系の形成と特徴
2. 19世紀末西欧諸国の外交様式と外交政策の特徴
3. 19世紀末東アジアの国際関係と外交
4. 日清・日露戦争における日本外交
5. 第1次世界大戦と講和会議
6. 1920年代の西欧諸国の外交政策
7. 幣原外交と田中外交
8. 1930年代の日米関係
9. 戦間期日本の経済的「南進」の過程
10. 日本の東南アジア軍政
11. 連合軍による日本占領政策と冷戦
12. サンフランシスコ講和会議と戦後賠償交渉
13. 1960年代の日本の外交政策
14. 1970年代以降の日本の多角的な外交政策
15. グローバル化とアジアの多国間外交の課題

成績評価の方法 学期末試験により評価する。

教科書 石井修『国際政治史としての二〇世紀』（有信堂）2000年 3,000円。

参考書等 池井優『日本外交史概説』（慶応通信）1992年 3,914円。その他参考文献は授業で随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 思 想 史	こばやし まさとし 小 林 正 敏	法 A 3・4 選	4
		12以降入学生/法 B3・4選	

講義のねらい 古代から現代に至る東洋的社会と西洋的社会の特質を比較し、なぜ「西洋」において多様な政治学説の発生を見るにいたったかという視点を重視する。また思想家の政治観の根底にある人間観、歴史観の持つ意味も併せて考察したい。

講義の内容・授業スケジュール プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。前期はほぼN. マキアベリあたりまで、後期はJ. ボーダン以後になると思われる。

成績評価の方法 学年末試験の成績を中心に評価する。

教科書 特定のテキストは用いない。

参考書等 参考書、原典等は、講義の必要に応じて紹介していきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読（英書）	あおのひろゆきの 青野博之	法A 3・4選	4
		法B 3・4選	

講義のねらい

英米法総論（たとえば、判例法、裁判所制度、法曹）または英米私法（たとえば、契約法、不法行為法）に関する、著書（の一部）または論文を、受講生とともに読み、後に具体的な判例を読む。これにより、英米法の考え方・知識を学び、日本法のそれと比較する能力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいにおいて述べた範囲から、受講生と相談して決める。

履修上の留意点

英語、英米法、比較法に関心のある学生は、ぜひ受講してほしい。予習をしたうえでの出席が不可欠である。

成績評価の方法

平常点で成績を評価する。具体的には、発表・質問・解答の回数・内容で決まるが、重要なものは、出席して発表することである。

教科書

プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読（英書）	おかだとしひろの 岡田外司博	法A 3・4選	4
		法B 3・4選	

講義のねらい

マイクロソフト社についてアメリカの反トラスト法違反を認めた、United States v. Microsoft Corp.その他の判例を読み、アメリカ反トラスト法の最近の動向を知ることが目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

出席者に順番にあてて和訳してもらい、説明が必要な箇所では補足する。

履修上の留意点

予定された範囲について、予め必ず下調べをし、ある程度和訳できるようにした上で授業に臨むことを期待する。

成績評価の方法

人数が少ない場合には平常点とするが、人数が多く、1人が当たる範囲がそれほどない場合には、レポートにより評価する。

教科書

教材となるアメリカの判決は、2回目の授業（総合情報センターにて行う）においてインターネットを使って各自入手する。

参考書等

村上政博『アメリカ独占禁止法』（弘文堂）

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読（英書）	前期：金子昇平	法A 3・4選	4
	後期：小木曾綾	法B 3・4選	

- 講義のねらい** 講義のねらいは、アメリカの憲法や法律、あるいは重要と思われる論文や判例を読むことによって、単なる法知識を得ることのみならず、その基本的な考え方をつかみとっていききたい。すなわち英語を読むだけでなく、考える講義をしていきたい。
そのためには、基礎的学習として法律英語を知ることであり、英単語やテクニカル・タームを豊富に身につけることである。
- 講義の内容・授業スケジュール** 前期は、主にアメリカ合衆国憲法等の基本的なものを選び講読する。憲法は、構成要素としての統治機構（立法権、行政権、司法権）や、基本的人権について、どの様に規定しているのか、それぞれの意義及び内容について検討してみる。
後期は、受講生の希望をとり入れながら、あらためて指示したい。
- 履修上の留意点** 英和辞典（和英辞典）は、持参すること。英単語の意味がわからないからこそ、辞典が必要である。受講生は、出来るだけ多く、辞典に当たることを身につけて欲しい。
- 成績評価の方法** 講義への出席状態と、発表の評価で成績評価を行う。
- 教科書** 開講時にプリントを配布する。
- 参考書等** 講義内容に応じて適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読（独書）	まつ村 格	法A 3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

- 講義のねらい** 外書講読の授業は、大学生活のなかで本格的な専門書に親しむことによって真の学問の妙味を味わうことにある。小中高の受験語学では経験できない学問のすばらしさを体験する時間である。この授業では、ドイツ語の原書を読むことによってその体験をする。受講生の語学力に合わせて読み合せていくので心配はない。
- 講義の内容・授業スケジュール** 教材には、刑法の基本をわかりやすく説明した文献を使用する。
- 履修上の留意点** 何よりも意欲と熱意と関心が肝要である。ドイツ語力を必要とするが、初めてドイツ語に接する学生でも2年間で飛躍的に上達して、大学院にドイツ語で受験して合格していった卒業生が過去数名いた。興味のある専門書を通して語学力をのばすこともできるのである。
- 成績評価の方法** 成績の評価は、毎週の努力度によって行うだけである。試験はしない。
- 教科書** 教材は、上記のテーマに関係するものをコピーして渡す。
- 参考書等** その都度指示する。
- その他** 授業は、順番に翻訳部分を分担し、問題点を議論していく。原書の読み方は、丁寧に指導するから心配ない。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読（仏書）	中野裕二 <small>なかの ゆうじ</small>	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

外書講読の目標は、①翻訳者の目を通さずに直接文献にあたることで、筆者の思想を直接理解する、②語学の授業として始めたフランス語をより発展させる、③フランス語で書かれた文献が読めるようになる、などいくつか考えられるだろう。したがって、こちらであらかじめ決めずに受講学生のフランス語のレベルや受講目的に応じて決定したい。

講義の内容・授業スケジュール

毎回、分担箇所を決め、日本語に翻訳しながら文献を読み進める。ただし、これも受講学生に応じて進み方は変わる。

履修上の留意点

大学院への進学を考えている学生は第2外国語試験対策として位置づけてもらってかまわない。また、フランス語は全くやったことがないが、やる気だけはあるといふ学生も歓迎する。

成績評価の方法

出席と平常点で評価する。

教科書

コピーを配布する。

参考書等

辞書は同一の物を使用したいので、旺文社の『ロワイヤル仏和辞典』を購入しておくこと。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読（中国書）	江林英基 <small>こう りん ひでもと</small>	法A3・4選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

現在の中国は経済の改革・開放政策をとっており、これを実現するため、1982年に四回目の新憲法を制定・施行し、その後三回にわたる改正を行った。その他の法律もこの憲法に基き、“雨後春筍”のようにつぎつぎ公布された。“一衣帯水”の隣国である中国を認識することが必要である以上、その法制から着手しなければならないのである。

講義の内容・授業スケジュール

この授業は中国憲法138条の条文に書かれている中国の内政と外交方針、国民の基本権利と義務、人民代表大会の権限、人民政府の組織などを主な内容とする。

履修上の留意点

授業の進度は一週間5ページ程度である。学生諸君に朗読させ、法律用語、条文の構造（文型）を説明しながら立法理由と現状を論評する。

成績評価の方法

出席率、学習態度、レポートなどを判断基準として総合的に評価する。

教科書

江英居著『中国憲法』（大学書林）3,500円

参考書等

『中華人民共和国法律滙編』（北京人民出版社）

その他

学生への要望：授業中私語禁止。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読 (スペイン書)	さ とう く み こ 佐 藤 玖 美 子	法 A 3・4 選	4
		12以降入学生/法B3・4選	

講義のねらい

ヨーロッパとは何か? 40以上の国がひしめき合っているヨーロッパは、またロシアやトルコのようにヨーロッパとアジアにまたがる国もある。今そのヨーロッパの中の15カ国が、平和と繁栄を目指して超国家的なヨーロッパ連合 (EU) として結束を固めている。こうした、ヨーロッパと呼ばれる大陸の歴史、地理、文化、民族などについて、スペインで青少年向けに書かれた書物をテキストとして、これまでに習得したスペイン語の知識を応用しながらやや上級の読み物に挑戦する。

講義の内容・授業スケジュール

ただテキストを訳すだけでなく、ヨーロッパに対する知識、理解を深めることを目指す。また、講読中で出会う文法上の問題点については、その都度説明を行う。

履修上の留意点

授業には必ず辞書を持参すること。

成績評価の方法

平常点 (授業中の受け答え) 及びレポート提出により、総合的に評価する。学期末試験は行わない。

教科書

コピーを配付する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
演 習 I	ま ぶち きよ し 間 渕 清 史	法 A 3 選	4
演 習 II		法 A 4 選	

講義のねらい

この演習は、参加者が民事訴訟法の講義で習得した基礎的知識の幅を広げ且つその理解度をより一層深めることを目的とします。民事訴訟理論の緻密さとダイナミックさを体得してもらいたいと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

民事訴訟法の重要テーマの中から毎回1～2を選んで、報告者による報告と参加者全員での討論を行うことを予定しています。

履修上の留意点

演習参加者には、毎回予習のうえ出席すること、及び主体的に演習に参加し、且つ積極的に発言することを希望します。

成績評価の方法

演習参加度 (出席態度、報告内容、発言の有無・内容等) に依拠して行います。

教科書

鈴木重勝・上田徹一郎/編『基本問題セミナー 民事訴訟法』(一粒社) 1998年

参考書等

『民事訴訟法の争点』(有斐閣) 1998年

1. 專門教育科目

(2) 政治学科

1. 専門教育科目

(2) 政治学科

政治学概論	〈浦田早苗〉	77
政治学概論	〈小林正敏〉	77
政治学概論	〈前田英昭〉	78
憲法	〈竹花光範〉	79
政治学原論	〈大塚桂〉	80
日本政治論	〈上條末夫〉	81
東南アジア政治論	〈首藤素子〉	82
中東政治論	〈中島勇〉	82
ヨーロッパ政治論(1)	〈中野裕二〉	83
ヨーロッパ政治論(2)	〈小林正敏〉	83
アメリカ政治論	〈休講〉	
中南米政治論	〈岸川毅〉	84
中国政治論	〈竹花光範〉	84
日本政治史	〈楠精一郎〉	85
行政法総論	〈塩入みほも〉	86
国際法	〈齋藤洋〉	87
政治制度論	〈前田英昭〉	88
行政学	〈岡田彰〉	89
外交史	〈首藤素子〉	90
国際政治学	〈南山淳〉	91
政治社会学	〈中野裕二〉	92
政治思想史	〈小林正敏〉	93
マス・コミュニケーション論	〈相田敏彦〉	93
現代政治理論	〈休講〉	
政治心理学	〈休講〉	
投票行動論	〈上條末夫〉	94
ヨーロッパ政治史	〈浦田早苗〉	95
環境政策	〈横田匡紀〉	96
行政法各論	〈塩入みほも〉	97
地方自治法	〈富井幸雄〉	98
国際関係論	〈首藤素子〉	99
比較政治学	〈三竹直哉〉	99
国家安全保障論	〈休講〉	
外交政策論	〈休講〉	
地方行政	〈休講〉	
国際行政学	〈福田耕治〉	100
国際組織論	〈山村恒雄〉	101
情報社会学	〈相田敏彦〉	102
議会関係法	〈休講〉	
立法過程論	〈前田英昭〉	103
政策決定論	〈早川純貴〉	104
政治過程論	〈休講〉	
現代国家論	〈大塚桂〉	105
社会学原理	〈渡辺源樹〉	106

比較社会論	〈三竹直哉〉	107
財政局学	〈里中直恆志〉	108
国際経済学	〈徳永俊明〉	109
経済原論	〈浅野克巳〉	110
日本法制史	〈茂野隆晴〉	111
西洋法制史	〈北野かほる〉	112
経済政策	〈森岡仁〉	113
社会政憲策	〈浜村彰〉	113
比較憲法	〈斉藤寿〉	114
刑法	〈松村格〉	115
民法 (総則・物権法)	〈大宮隆〉	116
英米法	〈北野かほる〉	117
会社社法	〈荒木正孝〉	118
労働働法	〈藤本茂〉	119
経済法	〈岡田外司博〉	120
時事英語	〈南山淳〉	120
外書講読 I・II (英書)	〈相田敏彦〉	121
外書講読 I・II (英書)	〈塩入みほも〉	121
外書講読 I・II (英書)	〈前田英昭〉	122
外書講読 I・II (英書)	〈三竹直哉〉	122
外書講読 I・II (独書)	〈早川純貴〉	123
外書講読 I・II (仏書)	〈中野裕二〉	123
外書講読 I・II (中国書)	〈江林英基〉	124
外書講読 I・II (スペイン書)	〈佐藤玖美子〉	124

科目名	担当者名	配当学科	単 位
政治学概論	うら た さ なえ 浦 田 早 苗	政治 1 必	4

講義のねらい

21世紀が幕を開け、世界は更なる高度産業化時代を迎えた。産業・技術の進歩はこれまでにない早さで社会の変質をもたらし、そのため国家や政党、制度や組織、国民や民族といった概念の再検討が迫られている。国内では政治改革、行政改革、税制改革が政治経済の緊急課題となり、政治のあり方自体にも変更が求められている。本講座は激動の現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎知識を概説し、併せて政治学の専門分野への導入をはかるものである。政治と政治学の基礎用語の解説、及び政治の理論、機構、過程を考察していくが、政治的視野の拡大のため適宜時事問題も取り上げる。

講義の内容・授業スケジュール

○現代日本の政治システムとその問題点 ○官僚と天下り ○日本社会の特異性 ○自由・権利・公共 ○政治参加と市民意識 ○第二次大戦後の国際政治の軌跡 ○西欧の政治制度

履修上の留意点

新聞、テレビ報道などで日本及び世界で今現在起きているニュースに常に目を向けること。

成績評価の方法

年5～6回行う小テスト-簡単な政治評論-は出席点代りとして学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した5問から2題出題する（ノートの持ちこみは不可）。

教科書・参考書等

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な考察を望む学生にはテーマに沿う参考書を推薦する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
政治学概論	こ ばやし まさ とし 小 林 正 敏	政治 1 必	4

講義のねらい

本講座は、1年次生の「政治学入門」のために設けられているものである。したがって、政治学がいかなる学問であるかを理解するとともに、専門的な政治の領域を学ぶ上で必要とされる基礎的知識を身につけることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講座は、基礎的、一般的であると同時に、選挙制度、政治思想、民主政治論、国際機構などにも論及し、今後、政治学原論等の専門科目を学ぶためのステップとして役立つようにしたい。講義に際しては、随時、カレントな問題をも取りあげて、理論と現実との融合をはかるように努めたい。

成績評価の方法

学年末試験の成績、出席状況などを中心に評価する。

教科書

小林正敏他著『政治学講義』（成文堂）

参考書等

開講後に必要に応じて指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 概 論	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	政 治 1 必	4

講義のねらい

政治学とは一体どのような学問でしょうか。この1年次の政治学の基礎としての「政治学概論」では、政治学のおもしろさがわかるように、具体的な例をあげつつ、政治学についてわかりやすく説明していきます。

政治学についてはいろいろな誤解や間違ったイメージがあります。誰でもが語る1億総評論家のような「床屋談義」としての政治学などは、それなりのわかりやすさと、おもしろさがありますが、本来の意味の政治学ではありません。この講義では、政治学を学問的に学ぶ際の入門として位置づけます。

講義の内容・授業スケジュール

この講義では以下の順序で行う予定であり、関連する時事問題を加える。

1 主権者としての国民、2 選挙制度の種類と問題、3 政治とテレビ、4 国会の役割、5 内閣総理大臣とその他の大臣、6 議院内閣制と大統領制、7 政党政治、8 官僚と政治、9 政治と金、10 政治改革、11 参議院問題、12 国会の歴史、13 外国の議会政治（イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ）、14 情報公開、15 規制緩和。その他、ビデオによる授業。

履修上の留意点

必ず出席して受講すること。

成績評価の方法

中間テスト、期末テストと平常点の総合点で成績を評価する。

参考書等

参考書は、講義の際に紹介するが、担当者の著書に以下のものがある。『国会と政治改革』『イギリスの上院改革』『政治腐敗防止法を考える』『エピソードで綴る国会の百年』『国会の立法活動』など。

科目名	担当者名	配当学科	単位
憲法	たけはなみつのり 竹花光範	政治1必	4

講義のねらい

本講義は、憲法とは何か、憲法はどうあらねばならないかといった視点からの考察を中心に、日本国憲法の存在性格を明らかにすることを目的としている。すなわち、日本国憲法が、どのようにして存在するにいたったのか（憲法の成立過程）、日本国憲法は、どのような憲法として存在しているのか（憲法の性格と特色）、日本国憲法の存在が、どのような結果を生ぜしめているのか（憲法の施行状況）といったことを明らかにしようというのである。

講義の内容・授業スケジュール

そのため、全体を二つに分け、前半は総論的講義、後半は各論的講義を行う。前半の総論的講義は、次のような章節から構成される。

第一章 憲法概念と歴史

(一) 憲法とは (二) 憲法の種類 (三) 憲法の歴史

第二章 日本国憲法成立の経緯と法理

(一) 日本国憲法成立の経緯 (二) 日本国憲法成立の法理

第三章 日本国憲法の特質

(一) 日本国憲法の基本原理 (二) 日本国憲法の特異性

各章節の内容は、それぞれの表題からはは明らかかなものと思われるが、第一章では、憲法とはどのような規範か、憲法にはどのような種類があるのか、成文の憲法はどのようにして生まれ、どのような発展をとげて今日にいたっているのかについて述べる。なお、我が国における憲法の歩みということで、明治憲法の成立過程、同憲法の内容、成立後の展開についても概説する。

第二章では、現行日本国憲法が、どのようなプロセスを経て成立するにいたったのか（アメリカの対日政策、極東委員会の動き、日本政府の対応、GHQ 民政局の役割、第九〇帝国議会での審議状況等）、日本国憲法の成立を法理上どのように説明したらよいか（明治憲法との関係、占領下の改憲をどう考えるか、八月革命説、改正憲法説、無効論の是非等）を論じる。

第三章では、憲法の分類上から認められる日本国憲法の特異性（例えば、民定憲法なのか、欽定憲法なのか、協約憲法なのか、はたまた占領憲法とよぶべき憲法なのかといった、憲法を成立せしめた主体をめぐる争いがある点等）を指摘し、そのような日本国憲法が、どのような基本原理に依って立っているのか（国民主権の原理、象徴天皇制の原理、平和主義の原理、基本的人権尊重主義の原理）を明らかにする。

一方、後半の各論的講義は、本来なら、日本国憲法の逐条（日本国憲法は世界でも有数の簡略な憲法であるが、それでも全体で、前文と本文十一章103カ条に及ぶ）解説ということであろう。しかし、限られた時間内では、それは、ほとんど不可能に近い。そこで、とりあえず、各章ごとに規定内容や問題点を整理し、一部に立法論的指摘（どこにどのような不都合があり、それをどのように改めたらよいかといった指摘）も加味しつつ、全体として、日本国憲法の性格と特色が理解できるような講義としたい。

もちろん、第九条をはじめ、解釈上の対立が大きい条項や多くの問題を抱えている条項については、判例の紹介をはじめ、比較憲法的な考察を行うなど、特別に時間を割きたいと考えている。

履修上の留意点

講義は教科書を用いて進めるが、時事的な憲法問題をとり上げ解説するなど立体的な講義を心がける予定であり、「教科書を読む」ような講義ではまったくないので、でき得る限り講義に出席することが望まれる。

成績評価の方法

成績評価は、論述型（「について述べよ」ないし「について論じよ」といったタイプの問題）のペーパーテストによって行う。評価に際しては、問いに答えているか（出題された問題に関係のないことを書いた場合は大幅な減点とする）、必要なことが書き込まれているか（簡にして要を得た内容であること、余計なことを多く書いても加点されない）、論理展開に説得力があるか（単なる箇条書きでは論述型の問題に対する解答とはいえない、全体として一つの小論文となっていること）、誤字、脱字がどの程度か（専門用語の誤まりは大幅な減点となる）などをチェックする。

教科書

竹花光範著『憲法学要論補訂版』（成文堂）3,300円

参考書等

必要に応じて、参考書の紹介、資料の配布等も考えている。

その他

いずれにしても、学生諸君が、憲法に関心を持ち、憲法問題を積極的に考えていくよすがとなるような講義を心がけるつもりである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	政 治 2 必	4

講義のねらい

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と説明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容・
授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、ならびに方法

B 政治の原理的究明

① 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

② 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

③ イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（シティズンシップ）

C 政治の実体論的究明

① 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

② 機能論的究明

～政党、压力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は、

中間試験：50%

学年末試験：50%

以上の割合によるものとします。

なお、追・再試験も実施します。

教 科 書

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参 考 書 等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

そ の 他

学習にあたっては、大塚編「補章オリエンテーション政治学」『政治学へのいざない』（成文堂）を参考にしてください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本政治論	かみ じょう すえ お 上 條 末 夫	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

政治の理論を学ぶためには、その実態を知ることが不可欠である。また、各国の政治事情を理解するためには、まず自国の政治事情を把握していなければならないことは理の当然である。

本講義においては、現代の日本の政治の実態を明らかにすることをねらいとする。そのため、まず大衆社会化が始まった大正時代中期から第1次世界大戦（太平洋戦争）終了までの政治の流れを概観する。次いで、戦後政治の特徴を時系列的に分析し、体系的に日本の民主政治の実態を把握する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 大衆社会の発生から政党政治の崩壊まで（4月～5月）
 - ① 大衆社会化と護憲運動
 - ② 普通選挙の実現
 - ③ 政党政治の問題点
 - ④ 軍部の台頭と戦争
 - ⑤ 政党の解消と翼賛体制
2. 新政治原理の移入と独立の回復（6月）
 - ① 占領の意味と戦前日本の否定
 - ② 憲法改正と国民主権
 - ③ アメリカナイズと講和問題
 - ④ 保守党優位と官僚政治の萌芽
3. 自民党の長期政権の基盤形成（7月）
 - ① 労働組合と社会主義政党
 - ② 政党の再編と「55年体制」
 - ③ 安保改定と革新勢力の挫折
4. 外交問題の処理と「戦後」の精算（9月）
 - ① 経済成長と都市化の影響
 - ② 日韓問題の処理
 - ③ 沖縄返還と佐藤内閣
5. 内政問題への傾斜と「田中支配」（10月）
 - ① 田中内閣の誕生と日中国交正常化
 - ② 金権政治と政治腐敗
 - ③ 与野党接近と連合政権構想
 - ④ 野党の多党化
6. 「飽食の時代」の政治意識（11月）
 - ① 「都市の保守化」と「農村の革新化」
 - ② 政治関心の低下と野党の無力化
 - ③ ガバナビリティの低下と政治不満
 - ④ 政治の「ゲーム化」と「数の論理」
7. 政治改革と政界再編成（12月～1月）
 - ① 政治改革と選挙制度の改正
 - ② 政界再編成と政党の曖昧化
 - ③ 連立政権の功罪
 - ④ 新選挙制度と行政改革

成績評価の方法

定期試験の成績およびレポートなどによって評価する。

教科書

特になし。

参考書等

その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
東南アジア政治論	しゅうとうもとこ 首藤素子	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

東南アジア諸国の国家建設の過程に伴う政治、経済の課題を理解すると共に、現在のASEAN 10か国体制にいたるまでのASEANの機能と制度の変容についての理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

次の各項目について1～2週分の割当で行う予定。

1. 東南アジア政治論の課題
2. ポスト植民地国家のナショナリズムの研究視角
3. 国際政治のなかの東南アジア
4. ASEANの地域協力、制度と機能
5. 冷戦後のグローバル化とASEANの地域主義
6. インドネシアの国家建設と国民統合の課題
7. スカルノ体制の政治と外交
8. スハルト体制の政治と外交
9. スハルト体制後の「改革」の現状と課題
10. マレーシアの国民統合の課題
11. マレーシアの経済政策
12. シンガポールの国家建設の課題と政策的特徴
13. タイの政治制度と経済政策
14. グローバル化と今後の東南アジアの政治、経済的課題

成績評価の方法

中間レポートおよび学期末試験により評価する。

教科書・参考書等

教科書は講義初回に指示する。参考文献や資料は授業で随時指示または配付する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中東政治論	なかしまいさむ 中島勇	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

中東の現代政治を中心に講義を行う。中東の政治状況を理解し、中東関係の報道をより広い視野で見られるようにする。また中東世界を知ること、日本、欧米に対する別の新しい視座を提供することも講義の目的。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、中東地域についての入門編的講座となる。中東は、地域概念として一つに扱われるが、個々の国や紛争の歴史的背景や政治状況は多種多様である。講義では、開講中に中東で発生するさまざまな事件について解説しつつ、個々の国や紛争の政治状況や歴史的背景について体系的にふれる。中東和平交渉、イラクに対する国連の経済制裁など中東での長期紛争、中東各国の独自の事情については個別にふれる。また中東は地域による違いが大きい。北アフリカ、東地中海、アラビア半島、トルコ、イラン、アフガンなどの地域別の歴史にふれる。ユダヤ教、キリスト教、イスラムなど宗教についても扱う。中東の事件は、国際的にも大きな影響を与えるため、中東と日本、欧米との関係も扱う。また文明史的に、中東と西洋は複雑な関係にあり、その複雑さが現在の中東と欧米の政治関係にも反映しているため、この側面にもふれる。

履修上の留意点

受講者は、海外ニュースを日常的に見ていることが望ましい。必要に応じてニュース報道も教材に使う。日本語資料が主体であるが、必要であれば英文資料も扱う。受講生がインターネットを使える状況であれば、中東関係のサイトを利用する。参考書は講義の中で紹介する。

成績評価の方法

成績評価は、レポートで行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ヨーロッパ政治論(1)	なかの ゆうじ 中野裕二	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

本講義では、西ヨーロッパの政治や社会の今の動きをできるだけ理論的に把握することを目標とする。対象となるのが「西ヨーロッパ」であるので、すべての国やすべての政治現象を網羅的に紹介することはできないので、取り扱う国やテーマを絞っていく。そこで、本年度はフランスを素材として、フランスの共和制は「共生」の理念であるとの理解に立って、共和制への異議申し立てと見なされるコルシカの民族主義、移民の自己確立、極右政党の台頭の実状、それが共和制にもたらす影響を明確にしていく。そして、「共生」のためにはどのような社会編成の理念に立つべきかについて考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. フランス共和制と共生の問題
2. コルシカとフランス共和制
補論 コルシカの紛争に見る「民族」
3. 「フランス人であること」の多様性
補論 90年代フランスにおける「もうひとつの民族問題」
4. 「新しい人権主義」の社会観と共和制
5. フランス共和制の理論的位置
6. 「新共和主義」と「ポスト共和主義」
補論 統合原理を模索するフランス
7. 「共和制モデル」とフランス共和制

成績評価の方法

学年末試験と小テスト・レポートを7：3の割合で総合的に評価する。ただし、学生の積極的参加（意見、質問）は別個に高く評価する。

教科書

中野裕二『フランス国家とマイノリティ』（国際書院）1996年 2718円
宮島喬編『現代ヨーロッパ社会論』（人文書院）1998年 2600円

参考書等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ヨーロッパ政治論(2)	こばやし まさとし 小林正敏	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

この講義は、ヨーロッパのなかでも東欧——つまり旧ソ連圏、旧ワルシャワ条約機構加盟諸国の政治、社会と国際関係を対象とするものである。この地域の政治の現状を主たるテーマとするが、歴史的経緯や対日関係をも視野に入れて講義を進めたい。

講義の内容・授業スケジュール

1989年以來の大変革によって、政治的概念としての「東欧」は変容した。各国は多様な道をたどっているが、今年度は混迷のなかにある「大国・ロシア」を中心に論述する予定である。

履修上の留意点

カレントな問題も少なくないので、東欧、ロシアなどに関する新聞、雑誌の報道、論評、解説等には注意して目を通すことを希望したい。

成績評価の方法

期末試験ばかりでなく、年間1～2回のレポート（書評などを含む）も参考にして成績の評価を行う。

教科書

特定のテキストは用いない。

参考書等

参考書、雑誌論文など、講義のなかで指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中南米政治論	まし かわ たけし 岸 川 毅	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

現代中南米の政治体制の基本的性格を比較政治学的視点から検討する。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、中南米地域の政治史を概観するなかで、その政治的伝統（軍の政治介入、個人独裁、寡頭支配、恩顧関係、中央集権、教会の影響など）が、様々な形の権威主義体制の形成をもたらす過程をみるとともに、20世紀に加わった要素（社会主義、ゲリラ闘争、テロリズム、麻薬など）が伝統的政治過程にいかなる形で組み込まれてきたかを解説する。後期は、1980年代に始まる民主化の流れに焦点を当てる。これらの国々が民主主義体制に「移行」し、またその「定着」を目指すなかで、どのような課題に直面しているかを、事例に則しつつ、実証的・比較論的に分析していく。

履修上の留意点

積極的参加・質問を期待する。

成績評価の方法

期末試験。

教科書

松下洋・乗浩子編『ラテンアメリカ：政治と社会』（新評論）1993年 3,296円

参考書等

講義のなかで紹介する。

その他

講義が中心となるが、できればビデオ教材なども使いたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国政治論	たけ はな みつ のり 竹 花 光 範	政治1・2・3・4選必	4

講義のねらい

当科目は、地域研究入門講座的な性格をもって設けられたものであり、中国政治の歴史と現状について、正しい理解を得ることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は、中国の政治制度と政治事情の変遷（辛亥革命以後、最近に至るまで）が中心になるが、とくに（新中国建国後は）、そうした変遷が、国家の最高法規であるはずの憲法の上に、どのように反映しているかについて詳述する予定である。もちろん、いわゆる「中国の特色をもった社会主義」、すなわち社会主義市場経済体制の特色、並びに問題点についても論及する。

履修上の留意点

時事的な問題を取り上げて解説するなど立体的な講義を心がけるので、できる限り講義には出席すること。

成績評価の方法

成績の評価は、論述型のペーパーテストによって行う。
前もって数題提示し、その中から出題することになるものと思う。

教科書

竹花光範著『中国憲法論序説』（成文堂）3,500円

参考書等

参考書（とくに、中国政治史、中国共産党史や現代化路線に関するもの）は、必要に応じて講義の中で紹介する。

その他

中国は「近くて遠い国」といわれる。地理的には、まさに隣国といってよく、歴史的にも深い関わりがありながら、お互いの理解は、必ずしも充分とはいえない。そのことが両国の間に不必要な軋轢を生んでいるといつてよいであろう。学生諸君が、正しい中国認識をもって、「あるべき日中関係」を考えるよすがとなるような講義を心がけるつもりである。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本政治史	くすのき せい いち ろう 楠 精 一 郎	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

近代日本の政治権力に関する歴史的な分析。幕末から昭和戦前期まで、人物を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 幕藩体制の動揺と崩壊
2. 明治国家の形成
3. 政治批判と宥和策
4. 明治憲法と初期議会
5. 日清戦争と日露戦争
6. 政党政治の発展
7. 対華21カ条とシベリア出兵
8. ワシントン体制の成立と崩壊
9. 軍部の台頭
10. 満州事変と連盟脱退
11. 日中戦争と総動員
12. 日米戦争と戦時議会

履修上の留意点

履修にあたっては、とくに日本史の知識を必要としないが、歴史に関心を持つ学生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績は筆記試験によって行なう。

教 科 書

富田信男・楠精一郎他『日本政治の変遷』（北樹出版）2,600円

参 考 書 等

猪木正道『軍国日本の興亡』（中公新書）760円。その他随時授業のなかで指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
行政法総論	しお 塩 入 み ほ も	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

行政法の基本的な仕組みと理論一般について講義を行ないます。行政法は、民法や刑法、憲法等の他の法分野とは異なって、学生レベルではあまり日常生活に直接関連がないと感じられがちですが、例えば交通取締・治安等に関わる警察権行使の適法／違法や国家賠償請求の可否など、実は知っておくと便利なことがたくさんあります。また、政治を学ぶ上では、やはり行政法の知識を備え、日本の統治構造(政治・行政の連携)を支えている法的実態(官僚主義的？民主主義的？)を知ることが重要でしょう。それを学ぶのが、当講義の狙いです。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては、まず最初に、総則－行政法学の基本原則、諸概念、諸制度等に関する基礎論－を説明し、次に、行政作用論－行政の行為形式（行政立法・行政行為・行政指導・行政契約・行政計画）とその法的性質（法的拘束力の有無など）、行政上の強制措置・制裁、行政調査などを学び、以上の知識を前提として、最後に、国民の権利救済に関する行政救済法－国家賠償法、行政不服審査法、行政事件訴訟法－の構造につき、講義していきます。

履修上の留意点

行政法を初めて学習する者でもその基礎知識を一年間で習得できるように、判例・通説を引用しながら、出来るだけ解かり易く且つ簡潔に説明していくつもりです。特に公務員試験を目指している学生のために、試験に出やすい問題点はその都度指摘していきます。

成績評価の方法

試験は学年末試験のみ。成績評価は、学年末試験の結果と平常点（不定期に確認する出欠）の総合判断により行ないます。

教科書

特定の教科書は使用しません。但し、オリジナルノートが作れるように毎回丁寧に板書します。

参考書等

最初の講義の際に紹介します。

その他

授業は通常の講義形式で行ないます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際法	さいとう ひろし 齋藤 洋	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

この講義は一年を通して国際法の基礎知識を習得することを目的とします。国際社会も人間が作り出した存在ですから、人間の持っている概念や思想に基づいて建設されています。社会は自分が生まれたときから死ぬまで永久に同じでありつづけることはなく、その時代に生きた人々の考えによって、大きく変わるものです。現代国際社会はどのような考えを土台としているのか、その上にどのようなルールが作り上げられているのか、といった点を中心に講義します。

講義の内容・
授業スケジュール

講義はテキストの目次に示されている順序で行います。特に前期は国際社会の大枠および国家に関する事項、後期は人的・地的管轄権や国際組織などが中心となります。

履修上の留意点

国際社会の出来事を日常生活の中で直接実感するのは難しいです。それゆえに履修者は、新聞の国際面を毎日読み、意識的かつ強引に自分自身で想像力を働かせて、講義内容と自分の知識をつなぎ合わせる努力をしてください。そうすると面白くなります。

成績評価の方法

成績は、年度末の定期試験で決定します。定期試験に持込が許されるのは、①指定されたテキスト、②授業中に配布したプリント、③自筆のノート（コピーは不可）だけです。

教科書

齋藤洋『国際法講義ノート・資料2001』（新有堂）予価1800円＋税

参考書等

特に指定しませんが、市販されているいずれかの国際法の教科書およびいずれかの条約集があれば好ましいです。

その他

授業は、講義方式で行います。可能な限り一話完結型にするつもりですが、2～3回かかってしまうこともあります。板書の代わりにテキストを用いますので、必ずテキストを持参してください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 制 度 論	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

講義では、政治制度のうち特に議会制度を中心に取り上げ、憲法上の議会制度に関する諸規定を前提にして、その背後にある議会運営の慣習とか原則や、それを動かすアクターを学び、その上で、多様に展開される議会政治の現実の生きた姿を理解することに力点を置く。

講義の内容・
授業スケジュール

前期には、イギリスの議会政治を学び、次いでそれをモデルにして生まれた各国の議会制度・政党政治を学び、それらを比較研究しながら、後期には、前期で得た知識をもとに、我が国の議会制度の特色と議会政治の実態を学び、併せて、今日、我が国において当面する議会政治の諸問題を取り上げ、それについての正しい見方を学び、改革の方途を考える。ビデオも利用する。
[取り上げるテーマ]

イギリス議会政治の発生・発展・現状、米・独・仏の議会政治の現状と特色、憲法と議会制度、政党政治、意思決定方法、選挙制度（小選挙区制、大選挙区制、比例代表制、多数代表・少数代表）、金権政治と政治倫理、二院制、代表民主主義と国民投票制、開かれた国会、政治資金、政党への公的助成、政権交代論、立法過程、国政調査と証人喚問、政治改革、国会と地方議会、政治腐敗、戦争と議会、その他（順不同）。

履修上の留意点

履修の仕方、単位取得方法については開講時に指示する。
できるだけ出席して、講義内容を正確に理解するとともに、周辺の時事問題にも耳を傾けて視野を広げることが望ましい。

成績評価の方法

中間試験レポート、期末筆記試験。

教 科 書

前田英昭『現代政治制度』（高文堂出版社）2,600円

参 考 書 等

ラスキ（前田英昭訳）『イギリスの議会政治』（日本評論社）
前田英昭『イギリス議会政治の研究』（溪林出版社）
同 『世界の議会・イギリス編』（ぎょうせい）
同 『国会と政治改革』（小学館文庫）
同 『エピソードで綴る国会の100年』（原書房）
同 『政治腐敗防止法を考える』（信山社）
バジヨット『イギリスの議会政治』（中央公論社『世界の名著』60）
堀江 湛『国会改革の政治学』（PHP 研究所）
藤本一美『世界の議会改革』（東信堂）
田口富久治、中谷義和『比較政治制度論』（法律文化社）
佐藤 功『比較政治制度』（東京大学出版会）
辻 清明監修『世界の議会』（全12巻）（ぎょうせい）
坪郷 実『統一ドイツのゆくえ』（岩波新書）
平島健司『ドイツ現代政治』（東京大学出版会）
奥島孝康、中村絃一『フランスの政治』（早稲田大学出版部）
桜井陽二『フランス政治体制論』（芦書房）
デュヴェルジュ（時本義昭訳）『フランス憲法史』（みすず書房）
阿部 斎『アメリカの政治』（弘文堂）
日本国際交流センター『アメリカの議会・日本の国会』（サイマル出版会）
前田英昭『国会の立法活動』（信山社）
中村睦男『議員立法の研究』（信山社）
比較立法過程研究会『議会における立法過程の比較法的研究』（勁草書房）
GHQ 正史（前田英昭訳）『国会の民主的改革』（日本図書センター）

科目名	担当者名	配当学科	単位
行政学	おかだ あきら 岡田 彰	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

行政学は政治学の中でも新しい分野である。わが国では明治時代にドイツの官房学の紹介として始まった。そして戦後はさらにアメリカ行政学の影響も受けることになる。

行政学と関連する学問は①行政法学（公法）②経営学（組織論）③財政学④政治学が主なものであるが、国によって関連領域への関心も異なる。日本では行政法学の影響が強いが、アメリカではむしろ経営学との関連などに関心が置かれており、それぞれの歴史を反映したものとなっている。行政学は地味なもので、それだけ学生諸君には取りつきにくいように思われるかもしれないが、いずれ社会で活躍すれば、出会う問題でもある。

 講義の内容・
授業スケジュール

- 1 行政学の対象と方法
- 2 行政学説史
- 3 アメリカ行政学
- 4 官僚制
- 5 官僚制の逆機能
- 6 政策の形成、評価
- 7 行政統制と行政責任
- 8 内閣制度
- 9 公務員制度
- 10 行政改革

履修上の留意点

遅刻や私語は遠慮して下さい。

教科書

森田朗『現代の行政』（放送大学）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 交 史	しゅ とう もと こ 首 藤 素 子	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

西欧国家体系の成立後、主に19世紀末から20世紀後半までの西欧世界と東アジアで展開した外交の特徴とその変容について講義する。それぞれの時代で外交指導者がどのような対外認識をもって外交政策を形成したか、それは当時の政治環境にいかに関与を受けたかについて理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

次の各項目を1～2週の割当てで行う予定。

1. 西欧国家体系の形成と特徴
2. 19世紀末西欧諸国の外交様式と外交政策の特徴
3. 19世紀末東アジアの国際関係と外交
4. 日清・日露戦争における日本外交
5. 第1次世界大戦と講和会議
6. 1920年代の西欧諸国の外交政策
7. 幣原外交と田中外交
8. 1930年代の日米関係
9. 戦間期日本の経済的「南進」の過程
10. 日本の東南アジア軍政
11. 連合軍による日本占領政策と冷戦
12. サンフランシスコ講和会議と戦後賠償交渉
13. 1960年代の日本の外交政策
14. 1970年代以降の日本の多角的外交
15. グローバル化とアジアの多国間外交の課題

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教 科 書

石井修『国際政治史としての二〇世紀』（有信堂）2000年 3,000円

参 考 書 等

池井優『日本外交史概説』（慶応通信）1992年 3,914円。その他参考文献は授業で随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 政 治 学	みなみ やま あつし 南 山 淳	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

近代ヨーロッパに成立した国民国家体系は「戦争」と「新たな世界秩序の構築」というサイクルを描きながら、地球全体を覆うまでにその規模を拡大してきた。他方、「グローバリゼーション」に象徴される国境を越えた様々な活動の増殖が、今日では国際政治構造そのものに大きな影響を与えるようになってきている。

このような（国家間関係およびトランスナショナルな行為主体間の関係の総体としての）国際政治現象を構造として理解することが本講義の目的である。構造的な理解とは、近代から現代にいたる国際政治の動態のなかで「持続」と「変容」の領域を各々確定していく作業に他ならない。具体的には、変動する国際政治構造の全体像を歴史と理論の両側面を連関させながら検証していきたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主権国家、国際的アナーキー、権力政治、安全保障、相互依存等、国際政治学の基礎概念の理解と主要理論の概説に重点をおき、後期は地域紛争、グローバル経済、地球環境、ジェンダー等、冷戦後の国際政治における具体的諸問題を取りあげる予定である。詳細については開講時に述べる。

履修上の留意点

政治学、近現代史および国際問題に関する基本的な知識を整理したうえで受講すること。

成績評価の方法

レポートおよび定期試験。

教 科 書

特定の教科書は使用しないが、講義理解のために下記の参考書を読んでおくことを必須とする。

参 考 書 等

PR.ピオティ・M.V.カピ 著 (D.J.ウェッセルズ・石坂菜穂子 訳)
『国際関係論 第二版－現実主義・多元主義・グローバリズム－』(彩流社) 1993年
小林誠・遠藤誠治 編『グローバル・ポリティクス』(有信堂) 2000年
石井修 著『国際政治史としての二〇世紀』(有信堂) 2000年

科目名	担当者名	配当学科	単 位
政治社会学	なかの 野 裕 二	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

本講義は政治学の発展段階で目指された「科学化」をキーワードとする。政治学の「科学化」にとって重要な理論家やその理論を検討することで、現代政治学の現状と課題を明確化する。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は次のような構成となる。

イントロダクション…政治社会学について

第1章 政治社会学の歴史

第1節 19世紀以前の政治社会学

1. アリストテレス
2. マキャベリ
3. モンテスキュー

第2節 19世紀以降の社会学

1. トクヴィル
2. マルクス
3. コント
4. デュルケーム
5. ヴェーバー

第3節 20世紀の政治社会学

1. 政治科学のルネサンス
2. 行動論の時代
3. 行動論の変容

第2章 政治システム

第1節 システムの一般理論

第2節 パーソンズ・モデル

1. 行為の一般理論
2. 社会システムと社会
3. 政治的下位システム
4. タルコット・パーソンズの貢献

第3節 イーストン・モデル

1. 環境の中の政治システム
2. インプット・アウトプット分析
3. デビット・イーストンの貢献

第3章 政治的諸機能

第1節 機能と機能主義

1. 機能概念
2. 機能主義と社会諸科学

第2節 機能主義と政治科学

1. 政治システムの諸能力
2. 変換機能
3. システムの維持・適応機能
4. 機能的分析の貢献

成績評価の方法

学年末試験と小テスト・レポートを7：3の割合で総合的に評価する。ただし、学生の積極的参加（質問、発言）は別個に高く評価する。

教科書

教科書は用いないが、参考文献は適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 思 想 史	こ ばやし まさ とし 小 林 正 敏	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

古代から現代に至る東洋的社会と西洋的社会の特質を比較し、なぜ「西洋」において多様な政治学説の発生を見るにいたったかという視点を重視する。また思想家の政治観の根底にある人間観、歴史観のもつ意味も併せて考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

プラトン・アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。前期はほぼN. マキアベリあたりまで、後期はJ. ボーダン以後になると思われる。

成績評価の方法

学年末試験の成績を中心に評価する。

教科書

特定のテキストは用いない。

参考書等

参考書、原典等は、講義の必要に応じて紹介していきたい。

政治学

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マス・コミュニケーション論	あい だ とし ひこ 相 田 敏 彦	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

マス・コミュニケーションの機能、影響について、広い視野から検討する。

講義の内容・授業スケジュール

- 報道と真実
この問題はいろいろな次元で考えられるが、ここでは記号論を援用して、原理的に掘り下げて検討する。
 - アイコン記号について
文字の意味とちがいが、写真の意味（何を表しているか）は習わずしてわかると大抵の人は思うが、果してそうか。映像（テレビなど）についても同じような問題がある。
 - 写真による世論誘導——ケース・スタディ
新聞の写真によって、読者は気づかぬうちに、真実ならざる「真実」を植えつけられ得ることを具体例によって確認する。
- 意識培養分析
〈客観的現実〉は〈シンボリック現実〉を媒介として、どのような〈主観的現実〉として人びとの心に植えつけられるか。
- 批判的理論
メディアの主流研究に対する批判を、コミュニケーション概念を含めて検討する。
- ヤコブソンのコミュニケーション・モデル
コミュニケーションとは単純に記号による一つの意味の受け渡しだろうか。通常、あまり意識されずに、いくつかの次元で意味の読みとりがなされている。ヤコブソンのモデルは、この問題を系統だてて考えるのに役立つ。

履修上の留意点

マスコミについて授業をききながら、自ら積極的に考える姿勢を強く望みたい。そのため、授業中にこちらから質問を發し、挙手または指名によって回答を求めることがある。

成績評価の方法

前期：レポート
後期：試験

参考書等

リップマン『世論』主として上巻（岩波書店）
田崎馬郎・児島和人（編著）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）
カラン・グレイヴィッチ（編著）『マスメディアと社会』（勁草書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
投 票 行 動 論	かみ じょう すえ お 上 條 末 夫	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

民主政治は参加政治といわれるが、その制度的政治参加の典型としての選挙は、決定的な重要性をもっている。そのため、現代の政治学においては最も重視されている研究課題である。その選挙を投票行動に焦点をおいて分析し、政治参加のあり方を検討するのが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 選挙制度（4月～5月）
 - ① 選挙制度の歴史
 - ② 選挙制度の理論
 - ③ 選挙制度の国際比較
 - ④ 選挙制度と政権形態
 - ⑤ 選挙制度と政党システム
2. 投票制度（6月）
 - ① 単記投票と連記投票
 - ② 1票制と2票制
 - ③ 住所要件と海外在住者
 - ④ 選挙区と投票価値
3. 投票意思の決定（7月）
 - ① 意思決定の時期と習慣的投票
 - ② 意思決定の類型
 - ③ 意思決定の基準
4. 政党志向と候補者志向（9月～10月）
 - ① 政党支持の類型
 - ② 投票政党の変更と交差投票
 - ③ 集票組織と個人重視
 - ④ 候補者イメージと投票基準
 - ⑤ 政策争点と政策投票
5. 選挙運動と投票の解釈（11月）
 - ① 選挙運動の効果
 - ② マス・メディアと投票行動
 - ③ 小選挙区と比例代表との関係
 - ④ 棄権の選挙におよぼす影響
6. 選挙結果の評価（12月～1月）
 - ① 権力構成と政権のあり方
 - ② 政治・政党・代表の評価
 - ③ 政治システムにおける選挙
 - ④ 国民の政治的責任

履修上の留意点

多少とも数学的素養と統計学の知識を必要とする。

成績評価の方法

定期試験と出席点によって評価する。

教 科 書

三宅一郎『投票行動』（東京大学出版会）1,957円

参 考 書 等

堀江・富田・上條編著『政治心理学』（北樹出版）2,300円

科目名	担当者名	配当学科	単位
ヨーロッパ政治史	浦田卓苗	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること、及び現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容・授業スケジュール

- 近代の始点—ルネサンス期と18世紀
- 英国革命とIRA
- ジャコバイトと英国王室
- 議院内閣制の成立変遷過程
- 英国における政治腐敗防止過程
- フランス革命と国家の概念
- フランス政治におけるジャコバン主義
- 「後発国型近代化」の問題点—ドイツの場合—
- 統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート—7～8×400字—は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
環 境 政 策	よこ 横 田 匡 紀	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

ダイオキシン、地球温暖化問題の登場など現代の環境問題はその課題が多様化、複雑化、グローバル化している。この講義では、そうした環境政策形成と執行がどのような仕組みやプロセスによって成立しているのかに着目する。講義では我が国を含む各国の環境政策についての国際比較を行うことにより、政策に関与するアクターは誰か、アクター間の関係はどのようになっているか、環境政策の構造や制度の共通点や相違点は何かを明らかにし、理解を深めることに主眼を置く。

講義の内容・授業スケジュール

講義では次の3点についてとりあげる。第一は、環境政策の変遷、成果と課題である。具体的には、公害問題から地球環境問題、貿易と環境など環境政策の対象となる問題と実際の対応について通時的に瞥見することで、対象が多様化、複雑化、グローバル化している様相を明らかにする。第二は、環境政策形成と執行における国内の制度的基盤である。具体的には、国際比較の観点から、行政、立法、司法の各々が環境政策の形成と執行において果たした役割や機能、各々の関係はどのようになっているのかをみていく。また行政に関しては、中央政府だけではなく、自治体の役割についてもとりあげる。第三は、企業、NGO についてである。具体的には、環境政策形成と執行における企業、NGO といった市場セクター、市民社会セクター組織の役割や機能について、行政、立法、司法とどのような関係にあるのか、各国間でどのような相違があるのかを念頭に置きつつとりあげる。以上の3点を講義するにあたっては、日本、アメリカなどの各国の環境政策の具体的事例をもとに、国際比較をする。また余裕があれば、国際機関などの国際レベルの政策についても言及する。

履修上の留意点

講義中は私語厳禁とする。

成績評価の方法

レポート、試験などにより総合的に評価する。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。

参 考 書 等

講義の中で指示する。

そ の 他

OHP の使用を予定している。

科目名	担当者名	配当学科	単位
行政法各論	しお いら 塩 入 み ほ も	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

日本の統治機構は、政治と行政の連携の上に成り立っているもので、とくに行政の組織構造、中央行政と地方行政の関係などは、政治を学ぶ上では欠かせない知識でしょう。それを法的側面から考察していくのが、行政組織法や地方自治法の学問です。当講義では、この行政組織法及び地方自治法をはじめとした、行政法の各分野ごとの構造及び理論を学んでいきます。とりわけ、抜本的行政改革により、本年一月から行政組織の新体制が発足されました。また、地方分権化も進められています。そこで、特に行政組織法及び地方自治法に関しては、従来の行政組織の改編、新制度（独立行政法人など）、地方分権といった、まさに現下の問題を中心として講義を行ないます。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては、国家行政組織法、地方自治法、公務員法、公物法、警察法の各分野を順に講義していきます。これらは、特に公務員試験の出題範囲を意識したものです。

履修上の留意点

原則的には、行政法総論を前年度において履修し、行政法の基礎知識を既に習得していること、或いは本年度総論を同時に履修することが、望まれます。但し、各論を学ぶ上で最低限必要とされる総論事項（行政法の基本原則など）については、最初の講義において、復習程度の簡単な一般的説明を行なうので、努力次第では総論の知識がなくとも習得可能です。

成績評価の方法

試験は学年末試験のみ。成績評価は、試験結果と平常点（不定期の確認する出欠）の総合判断によって行ないます。

教科書

特定の教科書は使用しません。但し、オリジナルノートを作れるように毎回丁寧に板書します。

参考書等

最初の講義の際に紹介します。

その他

授業は通常の講義形式で行ないます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地 方 自 治 法	とみ い ゆき お 富 井 幸 雄	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをかみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎回レジメを配布し、それに沿って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』（学陽書房）、『地方自治判例百選（第2版）』（別冊ジュリスト）

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』（良書普及会）は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』（岩波書店）、同他『概説日本の地方自治』（東京大学出版会）は必読。

その他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法（『地方自治小六法』（学陽書房）があるがポケット六法でよい。）は必携。その都度チェックすること。平成12年度に地方自治法の大幅な改正がなされたので、必ず平成13年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際関係論	しゅとう もとこ 首藤 素子	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

現代の国際関係の理論と現状の課題について、知識と理解を深めることを目的とする。とくにアジア太平洋地域の開発と民主化、安全保障の問題について具体的な知識を深めつつ、国際関係研究の理論について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

- 次の各項をほぼ2週の割合で進める予定。
1. 国際政治理論の展開（現実主義）
 2. 国際政治理論の展開（現実主義批判の多様なアプローチ）
 3. 冷戦後の国際政治理論
 4. 冷戦後の安全保障研究
 5. 冷戦後の紛争と国連システム
 6. 経済のグローバル化と国際機関の機能
 7. 開発理論の変遷
 8. 開発金融の国際化、民営化と開発体制の形成
 9. 人権保障の国際的制度化と人権 NGO の役割
 10. 地球環境問題と環境外交の進展
 11. グローバル化、国家、市民社会の関係と課題

成績評価の方法

定期試験により評価する。

教科書

毎週使用するという意味の教科書は指定しない。授業ではテーマ毎に資料を配付し、参考文献を紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
比較政治学	み たけ なお や 三 竹 直 哉	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

世界のいろいろな国で起きていることを手がかりに、さまざまな政治現象がどう説明されるかを、いっしょに考える授業です。

講義の内容・授業スケジュール

民主化、民族対立管理、移民政策という三つのテーマを柱にします。

履修上の留意点

専門科目の中でも専門性の高い授業として提供します。

成績評価の方法

期末試験は12月の授業期間中と、1月の定期試験期間中の二度です。授業中の発言や小テストでも得点できます。詳しいことは最初の授業で説明しますし、下記のホームページにも掲載しますので、履修登録される方は〈必ず〉参照してください。

教科書

高根正昭『創造の方法学』（講談社）640円

参考書等

授業中に指示します。

その他

最新の情報は、ゼミのホームページで確認できるようにします。法学部の公式ページからリンクをたどってきてください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 行 政 学	ふく だ こう じ 治 福 田 耕 治	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

近年、経済のグローバル化に伴い、国や地方行政の「国際化」への対応が要請されている。国際機関の行政は、これにどのようにかかわっているのでしょうか。国民国家の枠を超える行政現象に注目し、国際機構内部の行政管理、国際行政と国内行政の関係、国際公共政策の管理や国境を越える政府間関係をめぐる諸問題を扱う「国際行政学」という新しい学問分野が拓けてきた。国際機関の行政は、その加盟国の中央行政や地方行政とどのような関係を持ち、いかにして国際政策を形成し、実施していくのか。国際行政学は、このようなグローバルな視点、人類共通の利益（国際公益）の実現という観点に立って、国際社会に貢献することを目的とする実施的性格をもった新しい研究領域である。

講義の際に、年間講義計画とレジュメ、資料等を順次配布するのでファイルして学修に役立ててもらいたい。また OA 機器、視聴覚教材なども利用し、受講者数なども考慮して可能であればシミュレーション・ゲーミングやパネル・ディスカッションなどの方式も取り入れてみたい。学生諸君の積極的な参加を希望する。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 「国際行政学の対象と方法」
- 2 「国際行政の歴史と国際行政学の研究」(国際行政思想史・国際行政史・国際行政理論)
- 3 「国際機構の人事行政と国際公務員制度」(国際人事行政管理論)
- 4 「国際機構の財源調達と財務行政」(国際財務行政管理論)
- 5 「国際公共政策過程と政策科学」(国際公共政策過程論)
- 6 「国際官僚制と国家官僚制の連繋制度」(国際行政と国内行政の行政組織関係論)
- 7 「国際協力行政と国境を越える政府間関係」(国際協力行政・政府間関係論)
- 8 「国際行政統制、国際行政情報論、国際オンブズマン制度論」(国際行政統制論)
- 9 「国際機構の行財政改革と加盟国行財政」(国際行財政改革論)
- 10 「国際行政学の課題」

成績評価の方法

前期・後期の試験による。

参考書等

拙著『国際行政学』(近刊)
 拙著『現代行政と国際化－国際行政学への序説(第二版)』(成文堂)、『EC 行政構造と政策過程』(成文堂)、その他の参考文献は、講義のなかで適宜紹介し、資料等は必要に応じ、プリントして配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際組織論	やま 山 村 恒 雄	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

近年、国際社会が相互依存の度合いを強め国家間の緊密化を深めるにつれ、国際組織の果たす役割が急激に増大してきた。実際、国連、ユネスコ、WTO、EUなど、新聞紙上で国際組織の名前を目にしない日はないと言っても言い過ぎではない。授業では、国連をはじめとする国際組織の種類や活動の内容について学修し、国際組織がいかなる役割を果たしており、又、どのような役割を果たし得るかを考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

主として次の内容につき講義するが、詳しい授業のスケジュール表は、第1回目の授業の際に配布する。

- 1 イントロダクション
- 2 国際組織の内部組織
- 3 国際組織の対外関係
- 4 国際組織の活動分野
- 5 地域的な国際組織
- 6 国際組織と日本

履修上の留意点

この授業はさまざまな国際組織について「丸暗記」してもらうことを目的とするものではない。激動する国際社会において国際組織が果たす可能性と限界について各自が考えることができる基礎を提供するので、出席者のひとりひとりが、自分の意見を形成することを期待する。「考える」ことを厭わない人の受講を歓迎する。

成績評価の方法

レポートと学期末試験による。評価基準については、別途配布する。なお、レポート未提出者は、学期末試験の受験資格を失うので注意すること。

教科書

横田洋三編著『国際機構論』補訂版（国際書院）価格3,200円＋税

参考書等

授業中、随時指定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 社 会 論	あい だ とし ひこ 相 田 敏 彦	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

いまやすっかり日常語になっている「情報（化）社会」、「情報」の観念・概念に関する的確かつ批判的な把握をめざす。そのために、相互に密接に関連する「情報」、「記号」、「コミュニケーション」などの概念を掘り下げて検討する。また、さまざまな情報メディア（機器）による媒介的（mediated）関係性という、情報社会の基本的特性について論じる。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 情報論
通信理論における情報概念は、日常の用語法とはかなり異なる。そこでは情報は確率的な量として定義される。
2. 記号論
ことばや映像はいうまでもなく、世の中の森羅万象が記号たり得るとというのが、現代記号論の基本的視角の一つである。常識的な記号の考え方をくつがえすこの視角について述べ、記号論の基本的タームにも言及する。
3. コミュニケーション論
やはり 通常いだかれていたコミュニケーションの考え方を抜本的に検討・批判する。G. H. ミードの理論にもふれたい。
4. 媒介の関係性
情報社会の基本的特性は、さまざまな情報メディア（機器）によって媒介された（mediated）関係性・コミュニケーションである。媒介の関係性・コミュニケーションについて論じ、その歴史的展開をふりかえり、さらに、現代情報社会における新たなメディア機器が、通常のコミュニケーションについての観念自体の変容をうみだしていることも指摘する。

履修上の留意点

全体を通しての教科書は使わないので、毎回の出席と講義内容への精神集中が特に強く必要とされる授業である。

成績評価の方法

課題レポートと学年末試験の予定だが、受講者の人数により、最終的に決定したい。

教 科 書

一貫して使うものはない。

参 考 書 等

児島和人（編著）『講座社会学8. 社会情報』（東京大学出版会）
竹内郁郎他（編著）『メディア・コミュニケーション論』（北樹出版）
池上嘉彦『記号論への招待』（岩波書店）
その他、授業中に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
立 法 過 程 論	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

法律はどのような経過を経て、どのような人々の手によって、どのようにつくられるのかを勉強することによって、法律、政令、条例などの法令の起案の仕方や、社会生活において必要とされる規則のつくり方に習熟し、法令や規則の理解を容易にすることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

立法過程とは、立法を中心に議会でのさまざまな決定をめぐる繰り広げられる議会内外諸勢力の公式・非公式の相互作用の実質的な過程であり、狭義には、議会内部での法律制定に関する立法手続の諸過程をさす。今年度は、後者を主として対象とする。
[取り上げるテーマ] 立法過程とは、国会における審議過程。立法過程における政府の役割。立法過程における議員の役割。内閣提出法律案。議員提出法律案。内閣法制局と議院法制局。常任委員会制。法律の体裁と用語の解説。法律・政令・条例。政府委員。審議会。会期制。会議の公開。委任立法（行政立法）。法律と予算。法律の公布・施行。その他サッカーくじ法など個別法案。（順不同）

履修上の留意点

この講義は、公務員志望の学生、立法機関としての国会や地方議会に関心のある学生向きである。できるだけ出席して国会職員としての経験談も聞き、講義のテーマに関連した時事問題の解説にも注目すること。

成績評価の方法

平常点と期末試験（ノート持ち込み可）

教 科 書

前田英昭『国会の立法活動』（信山社）

参 考 書 等

小島和夫『法律のできるまで』（日本評論社）
浅野一郎『立法過程』（ぎょうせい）
前田英昭『国会の100年』（原書房）
岩井奉信『立法過程』（東大出版会）
林修三『法令用語の常識』（日本評論社）
中村睦男・前田英昭『立法過程の研究』（信山社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 策 決 定 論	はや かわ よし 貴 早 川 純 貴	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

自分が政策決定の責任者であったとして、ある危機的状況において決断を迫られた場合、どれだけの選択肢から何を選べばいいのだろうか。選ぶ基準（何を優先順位の1番に置くのか）は何か、決定された政策は果たしてどのような結果をもたらすであろうか。いったいどれだけの選択肢が実行可能性を持っているのか。今年の政策決定論はより実践的な思考を高めるべく、受講生とともにこうした問題を考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は国内政策と外交政策における主要な政策決定モデルの説明を行い、併せてケーススタディとして①キューバ危機におけるケネディ大統領の決断、②国鉄の分割・民営化政策における第二臨調の決定を取り上げる。

後期はゼミ形式で、学生自身が政策担当者となり、政策決定のシミュレーションを行う。予定しているテーマは以下の通り。

《前期》

- 1) アリソンの第1～第3モデル
*case study キューバ危機とケネディの決断（ビデオ鑑賞）
- 2) 増分主義モデルとプロセス・モデル
- 3) ゴミ缶モデルとキングダム・モデル
*case study 国鉄の分割民営化と第二臨調
- 4) 非常時モデル（福井モデル）と2レベルゲーム・モデル（パットナム・モデル）

《後期》

国内政策および外交政策に関する以下の5つの事例について、概要と事実経過を踏まえつつ、決定に参加したアクターとして、自分ならどのような選択をするかを考えてもらう。その際、その決定はどのような戦略・目的に基づき、いくつの実行可能な選択肢が存在したのか。また選好した政策の結果や、相手（政治家や官僚、利益団体、外国政府など）の反応をどう予測するか、などを議論してもらう。

- 1) GATT ウルグアイ・ラウンドにおけるコメの自由化交渉と日本
- 2) 日米繊維交渉における通産省と田中角栄
- 3) ニクソンショックと外交為替制度をめぐる日銀と大蔵省
- 4) 小選挙区・比例代表並立制導入における細川内閣と参議院社会党
- 5) 農協系住専救済をめぐる農水省と大蔵省

（注）テーマは変更もありうる

履修上の留意点

本講義は前期はかなり高度な理論とモデルの解説であり、政治学の専門用語を概論や原論でしっかり学び、毎回出席しなければ理解できない内容である。さらに後期は学生自ら調べ発表してもらうので、高い参加意欲が必要である。

成績評価の方法

前期は中間試験を実施する。後期は発表の意欲や内容など、平常点で評価する。

教科書・
参考書等

教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代国家論	おお つか かつら 大 塚 桂	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

福祉国家の見直しが叫ばれて久しい状況にあります。大国・日本丸はどこへすすもうとしているのでしょうか。ありうべき国家とは何か、が現代政治学にあつて重要課題とされています。本講義は、諸君がいままで履修してきた政治学、憲法学などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあつて、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論(史)的に整理することからはじめるのが、ベターでしょう。政治学の発達を顧みたとき、政治学=国家論であつたことがわかります。講義では、隣接科目(憲法・行政法・政治制度・政治思想史・政治史・行政学)の研究成果を積極的にとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。国家論は総合科学としての性格を有するからです。

講義の内容・授業スケジュール

A 国家論の課題ならびに研究方法

①序論 ②官立アカデミズムの形成

B 国家学説の史的展開

①古代国家学説 ②中世国家学説 ③近代国家学説 ④現代国家学説

C 法治国家の構成原理

①法治国家論 ②政治制度 ③官僚制 ④国家緊急権

D 行政国家の構成原理

①福祉国家論 ②ネオ・コーポラティズム ③シティズンシップ ④きたるべき国家像

成績評価の方法

受講生と相談の上で、以下のいずれかの方式によって単位を認定します。

A方式(レポートによる単位認定)

～年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。

B方式(試験による単位認定)

～ペーパーテスト(中間・期末)による評価です。

C方式(AとBの折衷)

※ なお、B方式のみ追・再試験を実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂)3,000円

参考書等

上記教科書にかかげてある〈関連文献〉を参照のこと

その他

私の研究室は、第2研究館8階(2835)にあります。電話は、3418-9377(直)です。質問など気軽に訪問してください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会学原理	わた なべ もと き 渡 辺 源 樹	政治2・3・4選	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会学的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回 社会学とは何か 社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為 なぜ“action”からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程 人間の行為は“inter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準 1、役割の取得－社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程”を中心に
- 第5回 2、役割の準拠－準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第6回 3、役割の葛藤／マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為 1、規範と同調－逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2、ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論 マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団 1、社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
- 第11回 2、集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件(AGIL図式)
- 第12回 3、地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第13回 4、集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM理論とリーダーシップ
- 第14回 5、集団の凝集性・モラール 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラール
- 第15回 集団・文化・パーソナリティ
- 第16回 組織論と官僚制 1、組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2、官僚制組織の基本原理解 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原理解 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3、官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／ゲールドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識 1、社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第20回 2、ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3、社会的性格 i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第22回 ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4、社会的態度(社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成 1、経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第25回 2、政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化 3、法と社会…法と法社会学／法の機能／規範 4、教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験とレポートによる。

教科書

開講時に提示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
比較社会論	三 竹 直 哉 <small>み たけ なお や</small>	政治2・3・4選	4

講義のねらい

さまざまなテーマについて、世界各地の政治や社会を比較して考えます。

講義の内容・
授業スケジュール

日本の政治学ではあまり扱われない話題を積極的にとりあげたいと思います。なるべく新しい話題をとりあげたいので、この原稿執筆時点で確定できませんが、例えば、女性の政治参加、少子化の問題、エイズの問題、死生観の政治（安楽死、妊娠中絶、死刑）などを考えています。

履修上の留意点

専門科目になっていますが、入門的な授業にするつもりです。ただ、外国のことなんか全く興味がないという人には、ちょっと難しいでしょう。

成績評価の方法

期末試験は12月の授業期間中と、定期試験期間中の二度行います。この授業は、この試験だけで採点します。詳しいことは最初の授業で説明しますし、下記のホームページにも掲載しますので、履修登録される方は〈必ず〉参照して下さい。

教科書・
参考書等

特にありませんが、地図や年表があるといいかもしれません。また、インターネットのサイトをたくさん紹介したいと思います。

そ の 他

最新の情報は、ゼミのホームページで確認できるようにします。法学部の公式ページからリンクをたどってきて下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 政 学	さと なか つね し 里 中 恆 志	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理の私経済とは異なる原理が作用する。公経済は租税徴収等による資金調達と、それをとおしての財政支出によらねば需要を充足できない経済領域である。したがって租税負担配分の方式、財政支出基準の考え方を問題にする。経済社会の変遷につれて負担の方式や支出基準についての考え方も変化する。そして公経済の比重が高まるにつれて、公経済と私経済の相互のかかわりもますます重要になる。

国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。国民はまた財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていないなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の配分、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方はまず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに公経済の私経済のかかわりについて総需要管理政策を講ずる。

講義の内容・授業スケジュール

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 (第2週) 公共財と公共部門 (第3週) 財政の歴史概略 (第4週) 予算編成と主計局の査定 (第5週) 予算編成と政党政治 (第6週) 予算政策案と議会審議 (第7週) 予算の執行と競争入札 (第8週) 予算の政治過程 (第9週) 租税原則学説 (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 (第11週) 申告所得税と累進課税 (第12週) 法人税と徴税技術 (第13週) 国際化と移転価格税制 (第14週) 一般消費税と付加価値 (第15週) 地方税と地方歳出 (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 (第17週) 機関費と純粹公共財 (第18週) 公共事業費と費用=便益分析 (第19週) 公共事業費と公共財産の形成 (第20週) 社会保障関係費と所得再分配 (第21週) 補助金とスピルオーバー (第22週) 公債費と公債負担 (第23週) 総需要管理政策と国民所得の決定 (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 (第25週) 公債による財源調達と債権価格 (第26週) 大量国債の累積とその限界 (第27週) 財政金融政策と国債収支 (第28週) 財政投融资と政府貯蓄 (第29週) 試験と評価についての説明 (第30週) 試験

授業の担当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

履修上の留意点

法学部には関連科目として経済学分野の「経済原論」及び「経済政策」の講義が設けられている。「財政学」は経済と政治の学際的な分野の科目であるから、こうした関連科目を履修することが望ましい。他学部履修の制度も活用が望まれる。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。白筆のノート持ち込み可。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版(東洋経済新報社)
野口悠紀雄 著『公共政策』モダン・エコノミックス12(岩波書店)2,000円
中谷巖 著『入門マクロ経済学』(日本評論社)3,300円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 済 学	とく ^{なが} 徳 永 ^{とし} 俊 明 ^{あき}	政治2・3・4選必	4

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけでもありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えになりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして、社会主義経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう1本の命綱としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・授業スケジュール

〈講義テーマ (予定)〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日 = 第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づけている主な柱を一つずつ検討します。

前期——世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期——今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
貿易・国際通貨制度・資本輸出——(「援助」と多国籍企業)・〈南北問題〉と新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート(3回予定)および学年末レポートで評価します。(追・再試験は行ないません。)

参 考 書 等

講義の中で適宜紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	あさの かつみ 浅野 克巳	政治2・3・4選	4

講義のねらい

現実の経済の動きを念頭におきながら、現代経済学の基礎理論を以下の順序で解説する。なお、公務員試験（その他の国家試験等）の受験対策にもなるよう必要に応じ問題練習を行うので、下記の問題集も用意してください。

講義の内容・
授業スケジュール

- I マクロ経済学
 1. 経済循環と国民所得の諸概念
 2. 所得はどのようにして決まるのか
 3. 45度線モデルとI-Sバランス
 4. IS-LM分析と財政金融政策
 5. 経済の変動と成長
 6. 賃金・物価・インフレーション
 7. 国際マクロ経済学
- II ミクロ経済学
 1. 市場と価格メカニズム
 2. 消費者行動の理論
 3. 企業行動の理論
 4. 不完全市場とは何か
 5. 市場の失敗
 6. 不完全情報の経済学
 7. リスクと不確実性
 8. 市場と企業組織の関係
- III 公共政策

履修上の留意点

経済学を勉強するうえで不可欠なことは、現実の経済問題にできるかぎり関心をもつことだ。これらはさまざまなメディアをとおしあふれるほど提供されている。特に『日本経済新聞』には毎日必ず目をとってもらいたい。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけ持参してもらいたい。また必要な記事・データはスクラップ・ブックなどに整理しておく、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つだろう。

また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的なコースで用いる数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要があれば授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習するにかぎる。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒沢大学情報センター」に常備されている。それらを利用しシミュレーションしてみることも、おもしろく経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席しノートをしっかり取り、予習復習を実行すれば「100点取るのも夢じゃない！」

なお授業中は、私語厳禁、勝手に席を立たないこと、ケータイなどもってのほか、以上厳守。守れない者は、直ちに退席してもらう！

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス・改訂版』（成蹊堂）

参 考 書 等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）
八木『基礎からステップ経済学』（実務教育出版）

そ の 他

ここをクリック 経済学部浅野ゼミ HP の『過去問コーナー』には、授業に必要な資料・参考文献、あるいは練習問題と解答などを掲載しておくので、各自でダウンロードして参考にしてみたい。また、質問その他どんなことでも書き込み OK！ 大いに利用してください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本法制史	しげのたかはる 茂野隆晴	政治2・3・4選	4

講義のねらい

どんな学問にも史学がある。法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史である。日本法制史は、「日本国民の法律生活の歴史的考察」である。それ故、法制史は過去の制定法規を羅列し、その解釈にのみ留まるものではなく、その法の発生した社会的背景をさぐらなくてはならないのである。

講義では、そうした観点に立ち、国初から近代までの5期に分ち、主な法制を中心に取り上げ、各期の法の特性をできるだけ平易に講述していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 日本法制史とその時代区分
- 2 国生みの神話ほか
- 3 『魏志』倭人伝ほか
- 4 冠位十二階と憲法十七条
- 5 律令の刑罰体系と司法制度
- 6 律令の「戸令」
- 7 三世一身法と墾田永年私財法
- 8 御成敗式目
- 9 甲州法度之次第（信玄家法）
- 10 武家諸法度
- 11 五人組帳
- 12 公事方御定書
- 13 田畑永代売買禁止令と分地制限令
- 14 慶安の御触書
- 15 奉公年季の規制
- 16 商家の財産相続
- 17 荻生徂徠の『政談』
- 18 大名貸と御用金
- 19 相對済し令・本公事と金公事・棄捐令
- 20 出奔・欠落・勘当・旧離のことなど
- 21 去状（三下り半）
- 22 大津事件
- 23 登極令ほか
- 24 明治民法総則・親族・相続

履修上の留意点

めいめいには少しだけの私語かも知れないが大きな教室では騒音と化す。そうしたなかでは細やかな授業は不可能です。特に留意してもらいたい点である。

成績評価の方法

学年末の試験に平常点として出席点を加味して行なう。

教科書

大久保治男・茂野隆晴〔編著〕『日本法制史史料60選』（芦書房）本体2,300円

参考書等

大久保治男・茂野隆晴〔共著〕『日本法制史』（高文堂出版社）2,980円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	きたの 北 野 か ほ る	政治2・3・4選	4

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会、政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 政 策	もり 森 おか 岡 じん 仁	政治2・3・4選	4

講義のねらい

・経済学の実践部門としての経済政策が自由主義経済に成立した過程と、そこではたす役割を明らかにする。人口高齢化や少子化の経済的帰結にも言及し、最後に高齢化社会における経済政策と人口政策の関係を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

I 現代経済と経済政策 II 経済政策学の発展 III 現代経済政策の課題
IV 経済の成長政策 V 経済の安定政策 VI 産業組織政策 VII 社会均衡化政策
VIII 経済政策と人口政策

履修上の留意点

日常生活に生起する経済問題に日頃から関心を抱き、自分達の身の回りにある経済問題の解決手段として経済政策を考え、学ぶことが大切である。

成績評価の方法

学年末の定期試験、授業の出席状況

教科書

森岡他著『現代経済政策』（千倉書房）1975年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 政 策	はま 浜 むら 村 あきら 彰	政治2・3・4選	4

講義の内容・授業スケジュール

本年度の社会政策は、社会政策の総論として社会政策学の生成と発展に関する学説的分析を行い、それを前提として現代社会政策の主要課題を具体的に設定して順次講義を進めることにする。特に日本の雇用慣行や労使関係に関するこれまでの研究成果をくみ上げながら、最新の統計調査データを用いてわかりやすく講義することに努めたい。主要な項目は以下のとおりであり、労使関係にとどまらず、女性・家庭問題や高齢化と社会福祉政策などの様々な項目を取り上げて、現代社会政策の今日的課題を論ずることにする。

- 第1 社会政策総論－社会政策の目的と領域
- 第2 現代社会政策の主要課題
- 第3 日本の雇用慣行とその変容
- 第4 長期雇用慣行と最近の雇用管理政策
- 第5 年功賃金と業績・成果主義
- 第6 企業別組合と日本の労使関係
- 第7 労働市場と雇用政策
- 第8 労働政策と労働条件規制
- 第9 女性労働
- 第10 健康と医療政策
- 第11 家庭と教育政策
- 第12 高齢化と社会福祉政策

成績評価の方法

学年末の定期試験

教科書

講義開講時に指定する。

参考書等

授業中に配布するプリント。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 憲 法	さいとう ひさし 齊 藤 寿	政治2・3・4選	4

講義のねらい

人権保障制度、国会制度、内閣制度、司法制度、自治制度、財政制度など、各国の憲法制度について興味深い講義を続けながら、楽しく研究します。また、西欧主要諸国の憲法にとどまらず、アジア・アフリカ諸国や中南米諸国の憲法にもふれ、その特色を楽しく研究します。これらの講義は、1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回 イギリス憲法は、どのように歩んできたか。
 第2回 アメリカ憲法は、どのように歩んできたか。
 第3回 フランス憲法は、どのように歩んできたか。
 第4回 ドイツ憲法は、どのように歩んできたか。
 第5回 東ヨーロッパ憲法は、どのように歩んできたか。
 第6回 中国憲法は、どのように歩んできたか。
 第7回 発展途上国憲法（アジア・アフリカ・中南米諸国憲法）は、どのように歩んできたか。
 第8回 世界各国の憲法は、どのような類型化が可能か。また、その特質は何か。
 第9回 君主国憲法（イギリス・ベルギー・デンマーク憲法）の憲法上の特質は何か。
 第10回 共和国憲法（アメリカ・フランス・ドイツ・イタリア・スイス憲法）の憲法上の特質は何か。
 第11回 ロシア・中国憲法の憲法上の特質は何か。
 第12回 発展途上国憲法の憲法上の特質は何か。
 第13回 これまで（第1回～第12回）の review。
 第14回 世界各国憲法の人権保障制度は、どのようになっているか。また、その科学的な比較研究の方法について。
 第15回 世界各国憲法の平等権保障について。
 第16回 世界各国憲法の自由権保障について。
 第17回 世界各国憲法の人身保護権保障について。
 第18回 世界各国憲法の救済権保障について。
 第19回 世界各国憲法の参政権保障について。
 第20回 世界各国憲法の社会権保障について。
 第21回 世界各国憲法の統治制度は、どのようになっているか。また、その科学的な比較研究の方法について。
 第22回 世界各国憲法の国会制度について。
 第23回 世界各国憲法の議院内閣制度について。
 第24回 世界各国憲法の大統領制度について。
 第25回 世界各国憲法の司法制度について。
 第26回 世界各国憲法の自治制度について。
 第27回 現代世界諸国の憲法上、人権保障制度と統治制度は、どのように運用されているか。また、今後は、どのように運用されるべきか。
 第28回 これまで（第14回～第27回）の review。
 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「比較憲法」を楽しく研究してみませんか。— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送ります。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 法	まつ 村 格 松 村 格	政治2・3・4選	4

講義のねらい

刑法（刑罰法規）は、歴史的には支配者が市民を抑圧する最強の手段として長い間悪用されてきたし、近年に入ってからファシストたちから悪用された。今日、刑法は、市民の自由と権利を保障する機能をもつものとして把握されなければならない。そのためにも、刑罰権の発動と処罰の範囲をできる限り制限する理論操作が必要である。法益保護と人権保障の両方を考えながら刑法理論を構築しなければならない。授業では、刑法総論を中心に講義していくが、もちろん、刑法各論とのかわりを無視することなく具体的な事例を参考にしながら刑法総論を学ぶことによって、刑法学の全体像を理解できるようにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前 期

- 第1回（刑法システムとその余のシステムとの関係および刑法システムと隣接領域システムとの関係）
- 第2回（刑法および刑法学システムとその部分システムとの関係）（刑法総論とその部分システム）
- 第3回（刑法の意義と機能および犯罪の意義）
- 第4回（刑罰論と罪数論＝刑罰の本質と機能および目的／罪数論の意義）
- 第5回～6回（刑法の原理・原則論＝罪刑法定主義／責任主義／謙抑主義）
- 第7回～9回（行為と構成要件の理論＝行為論／犯罪の主体と客体／故意と錯誤の理論／不作為犯論／因果関係論）
- 第10回以降（違法性の理論＝違法性の本質と実質／正当防衛と緊急避難／自救行為／正当業務行為とくに治療行為／臓器移植／安楽死・尊厳死）

後 期

- 第1回～3回（責任論＝責任の本質／責任能力／故意と違法性の意識／期待可能性）
- 第4回～5回（未遂論＝未遂の意義と処罰根拠／実行の着手／中止未遂／不能未遂）
- 第6回～9回（共犯論＝共犯の意義と形態／処罰根拠／正犯と共犯の区別と関係／共同正犯／共犯と身分／共犯の諸問題）
- 第10回～最終回（補足）

履修上の留意点

刑法学は、きわめて体系的な学問なので、継続的に出席して講義を受けないと理解できなくなる。できる限り具体的な事例を利用して説明するが、それでも観念的思考が入りこむので、考える力を必要とする。教科書以外のことをたくさん話すので、講義をよく聴き、必ずノートをとることが大切である。ただし、黒板に書くことは最小限度必要な事項だけであるから、それを筆記するだけでは意味がない。六法全書・教科書・ノートを毎回持参することが必要条件である。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の定期試験とその他の小テストなどの成績を総合して判断する。

教 科 書

松村格『刑法学への誘い』（八千代出版）
松村・神田・都築・野崎『刑法総論』（ミネルヴァ書房）

参 考 書 等

別冊ジュリスト『刑法判例百選I総論（第4版）』（有斐閣）
斉藤誠二編『演習ノート刑法総論』（法学書院）
『刑法基本講座（全6巻）』のうち1～4巻（法学書院）

そ の 他

授業の方法は、すべて講義方式で行なう。必要に応じてプリントを配布することがある。その場合には、そのプリントに沿って講義をする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民法（総則・物権法）	おお みや たかし 大 宮 隆	政治2・3・4選	4

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。よって講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んてくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教 科 書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）

参 考 書 等

講義の中で随時紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英 米 法	きたの 北 野 かほる	政治2・3・4選	4

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を概観し、その主要な理由をなすと考えられる、法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特徴
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 社 法	あら き まさ たか 荒 木 正 孝	政治2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、多くの人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を探り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原理を理解してもらおうつもりである。

具体的には、①会社総論として、会社の経済的機能、法的概念、権利能力などについて解説し、②会社の設立の中では、株主有限責任の原則、資本に関する原則、発起人の意義・地位、定款の作成、会社の実体形成手続、設立関与者の責任、設立無効、設立登記などを説明し、③株式制度では、株式の概念、株式の種類、額面株式と無額面株式、株式の併合・分割・消却、株式譲渡の自由と制限、名義書換、株式の担保化などに触れる。④会社の管理・運営については、機関の意義・特色・分化、株主総会、取締役、取締役会、代表取締役、監査役について問題点を検討する。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。商法は、民法を一般法とする特別法であるから、会社法に限らず、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層理解しやすい。ただ、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末に行われるペーパーテストの点数で評価します。

教 科 書

荒木正孝著『現代企業法（第3版）』（成文堂）

参 考 書 等

鴻・落合・岩原・江頭編『会社判例百選』（第6版）（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第3版』（成文堂）

科目名	担当者名	配当学科	単位
労働法	ふじもと しげる 藤本 茂	政治2・3・4選	4

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌しています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に組合は大きな役割を担っていますし、事実その役割を果たしています。その法的枠組みを概観します。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正（裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、労働条件の明示義務など）がありました。また男女雇用機会均等法、労働者派遣法、職業安定法などの改正も、なされました。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中であっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

労働法は、皆さんが、将来どのようなところに職を得ようとも、もっとも身近な法であります。会社もまた、労働法に関する十分な知識なしには円滑な人事管理が行い得ないことは、常識です。労働法は、皆さんが労働生活の節目節目で選択を迫られるとき、自ら考え自らを処していく上で、知っておくべき必要な知識であり、知っているかいないかは、よりよい選択をする上で、とても重要であると思います。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件の決定－労働契約、就業規則、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、出席等を加味することはありますが、学年末試験がメインです。追・再試験は、実施します。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済法	岡田外司博 <small>おがだ としひろ</small>	政治2・3・4選	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教科書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
時事英語	南山淳 <small>みなみ やま あつし</small>	政治2・3・4選	4

講義のねらい

本講義のねらいは、いわゆるマスコミ英語の“how to”を学ぶことではなく、国際問題を中心とするカレントなテーマを扱った英文を題材として、英文の新聞、雑誌、論文等を独力で読解する力を養成することにある。

英文リーディングの学習で、初学者が陥りがちな傾向は英文を「言葉」としてのみ捉えることに終始し、著者が文章を通じて何を主張したいかを全体として理解することを軽視してしまう点である。例えば英字新聞や英文雑誌の論説を読む場合、政治経済や国際問題に関する基礎知識や問題意識が欠如していれば、その正確な理解はおぼつかない。いわゆる「逐語訳」の弊害はそこにある。

本講義においては、リーディング能力を向上させる一つの方法として、できるだけ多くの文章を短期間に読み込むという方法をとる。そこで要求されるのは、細かい文法的知識というより、その英文が主張している事柄を全体としてどれだけ正確かつ迅速に理解できるかということである。

履修上の留意点

The Japan Times等の英字新聞を読解できるレベル（辞書を引きながらでかまわない）の学生を想定しているが、独力で英語文献を読みこなせるようになりたいという意欲がある者であれば、誰でも歓迎する。語学の授業なので予習復習が欠かせないということはいうまでもない。また新聞、雑誌、概説書等（日本語でかまわない）を通じて、政治経済や国際問題に関する知識を整理しておくことが必須となる。

成績評価の方法

出欠状況、レポート、試験等、総合的に評価する。

教科書

国際問題に関する文献を予定しているが、具体的には開講時に指示する。

参考書等

安西徹雄 著『翻訳英文法』（ハベル・プレス）
高木義人 著『TOEFL 対策必修単語集』（トフルゼミナール英語教育研究所）
真鍋輝明・岡田成文 著『ニュース英語のボキャブラリ』（The Japan Times）

その他

基本的には発表形式を予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外書講読Ⅰ（英書）	あい だ とし ひこ 相 田 敏 彦	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ（英書）		政治 4 選	

講義のねらい

英文で書かれたマスコミ、メディア、情報化に関する分析、理論に関する読解力を向上させること。

講義の内容・授業スケジュール

はじめ数回は、英字の新聞・雑誌などで腕ならし・イントロダクションとしたい。
ついで、多方面にわたるマスコミ理論、メディア分析のなかから、読みやすさ、理解しやすさに留意して教材を提示する。

教材は適宜コピーを配布する。

マスコミ、メディア、情報化自体はいかにも身近な対象だが、常識的理解を打ち破る、深く鋭い分析が少なくない。

マスコミ、メディア、情報化に関し、考え、分析することの楽しさが多少とも理解される場としたい。

履修上の留意点

英語が好き、あるいは比較的得意な人であればよく、「マス・コミュニケーション論」、「情報社会論」の授業をとっている、いないとは関係なく、内容を理解できるようにしたい。

成績評価の方法

平常点による。

試験、レポート等はない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外書講読Ⅰ（英書）	しお いり 塩 入 みほも	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ（英書）		政治 4 選	

講義のねらい

英書を講読します。基礎的な翻訳力を養うことを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

当講座は、翻訳力に特別優れていない者でも講読し易いように、あまり高度な内容の文献を用いるつもりはありません。内容については、履修者の要望を聞いた上で決定したいと思います。

履修上の留意点

履修者には、各々翻訳する文章を分担してもらい、担当箇所の記事を順次報告してもらいます。

成績評価の方法

成績は、平常点により評価します。

教 科 書

講読する文献は、授業の初回に履修者の希望を聞いた上で決定します。

そ の 他

授業は、基本的に履修者による輪読の形式によって行います。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読Ⅰ（英書）	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ（英書）		政治 4 選	

講義のねらい

英語の原書または論文による議会政治に関する文献を取り上げ、議会政治に関する多様な考え方を理解するとともに、英語による社会科学に関する本の読み方を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、英語による戦後日本の国会改革に関する論文、または英語によるイギリス議会に関する本を読み、それを素材にして、国会の仕組みを考え、国会の現状について自由な意見交換をする。最初のうちは、やさしい英語であっても、1回に数行しか読めないかもしれないが、慣れるにつれて読む速度は次第に速くなる。ゼミ形式で行うので、常時出席できて、かつ議会政治に関心を持つ学生、進学を目指す学生の参加を期待する。

使用する文献は事前にコピーして配付する。

成績評価の方法

平常点による。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読Ⅰ（英書）	み たけ なお や 三 竹 直 哉	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ（英書）		政治 4 選	

講義のねらい

せっかく勉強した英語を使って政治学をやってみたい人、最新の英語の政治学論文を読むことに挑戦してみたい人、英語で新聞やインターネットの情報を読んでみたい人、大学院の院試に備えたい人、等々、歓迎します。具体的なやり方、内容等は、参加者と相談して決めましょう。それぞれの参加者のニーズにあわせて、違う課題を用意してもいいかなと思っています。

成績評価の方法

授業時の平常点によります。

その他

詳しい情報は、三竹ゼミのホームページで確認して下さい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読Ⅰ（独書）	はやかわ よしき 早川 純 貴	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ（独書）		政治 4 選	

講義のねらい

今年度は、戦後ドイツの運命を大きく決定づけた政治家、コンラッド＝アデナウアーについての文献を講読する。彼とキリスト教民主同盟 CDU は、連合軍やソ連による占領とその後の復興の時代をどのように切り拓いていったのであろうか。さらには、西ドイツの奇跡の経済成長や、西ヨーロッパの安定と平和（特にフランスとの和解）はいかにしてもたらされたのであろうか。こうした問題を文献講読とともに考えてみたい。

履修上の留意点

受講生は高校・大学で最低2年以上ドイツ語を学び、ドイツ語の新聞・雑誌の文章を十分理解できる水準であること。

成績評価の方法

試験は行わず、平常点で評価する。

教科書・参考書等

授業開始時にテキストのコピーを配付する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読Ⅰ（仏書）	なかの ゆうじ 中野 裕 二	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ（仏書）		政治 4 選	

講義のねらい

外書講読の目標は、①翻訳者の目を通さずに直接文献にあたることで、筆者の思想を直接理解する、②語学の授業として始めたフランス語をより発展させる、③フランス語で書かれた文献が読めるようになる、などいくつか考えられるだろう。したがって、こちらであらかじめ決めずに受講学生のフランス語のレベルや受講目的に応じて決定したい。

講義の内容・授業スケジュール

毎回、分担箇所を決め、日本語に翻訳しながら文献を読み進める。ただし、これも受講学生に応じて進み方は変わる。

履修上の留意点

大学院への進学を考えている学生は第2外国語試験対策として位置づけてもらってかまわない。また、フランス語は全くやったことがないが、やる気だけはあるという学生も歓迎する。

成績評価の方法

出席と平常点で評価する。

教科書

コピーを使用する。

参考書等

辞書は同一の物を使用したいので、旺文社『ロワイヤル仏和辞典』を購入しておくこと。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読Ⅰ(中国書)	江 林 英 基	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ(中国書)		政治 4 選	

講義のねらい

現在の中国は経済の改革、開放政策をとっており、これを実現するため、1982年に四回目の新憲法を制定・施行し、その後三回にわたる改正を行った。その他の法律もこの憲法に基き、“雨後春筍”のようにつぎつぎ公布された。“一衣帯水”の隣国である中国を認識することが必要である以上、その法制から着手しなければならないのである。

講義の内容・授業スケジュール

この授業は中国憲法138条の条文に書かれている中国の内政と外交方針、国民の基本権利と義務、人民代表大会の権限、人民政府の組織などを主な内容とする。

履修上の留意点

授業の進度は一週間5ページ程度である。学生諸君に朗読させ、法律用語、条文の構造(文型)を説明しながら立法理由と現在状況を論評する。

成績評価の方法

出席率、学習態度、レポートなどを判断基準として総合的に評価する。

教科書

江英居著『中国憲法』(大学書林) 3,500円

参考書等

『中華人民共和国法律滙編』(北京人民出版社)

その他

学生への要望：授業中私語禁止。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読Ⅰ(スペイン書)	佐 藤 玖 美 子	政治 3 選	4
外書講読Ⅱ(スペイン書)		政治 4 選	

講義のねらい

ヨーロッパとは何か？ 40以上もの国がひしめき合っているヨーロッパは、またロシアやトルコのようにヨーロッパとアジアにまたがる国もある。今そのヨーロッパの中の15カ国が、平和と繁栄を目指して超国家的なヨーロッパ連合(EU)として結束を固めている。こうした、ヨーロッパと呼ばれる大陸の歴史、地理、文化、民族などについて、スペインで青少年向けに書かれた書物をテキストとして、これまでに習得したスペイン語の知識を応用しながらやや上級の読み物に挑戦する。

講義の内容・授業スケジュール

ただテキストを訳すだけでなく、ヨーロッパに対する知識、理解を深めることを目指す。また、講義中で出会う文法上の問題点については、その都度説明を行う。

履修上の留意点

授業には必ず辞書を持参すること。

成績評価の方法

平常点(授業中の受け答え)及びレポート提出により、総合的に評価する。学期末試験は行わない。

教科書

コピーを配付する。

2. 他学部履修科目

2. 他学部履修科目

産業・職業社会学	〈 休 講 〉	
社会福祉発達史	〈林 千代〉	129
国民所得論	〈吉野 紀〉	130
日本経済史	〈橋野 知子〉	131
中小企業論	〈和田 耕治〉	132
教育経済論	〈谷敷 正光〉	133
日本経済論	〈小林 正人〉	135
アジア経済論	〈鄭 章淵〉	136
中国経済論	〈 休 講 〉	
アメリカ経済論	〈瀬戸岡 紘〉	137
ロシア・東欧経済論	〈山縣 弘志〉	139
商業政策	〈岩下 弘〉	140
マーケティング	〈曾我 信孝〉	141
労務管理論	〈堀 龍二〉	142
財務会計論	〈小栗 崇資〉	143
会計監査論	〈飯岡 透〉	144
管理会計論	〈 休 講 〉	
原価計算論	〈加藤 利安〉	145
貿易論	〈古沢 紘造〉	146
銀行論	〈齊藤 正〉	147
親族法	〈竹中 智香〉	148
相続法	〈竹中 智香〉	148
ヨーロッパ政治論(1)	〈中野 裕二〉	149
国際政治学	〈南山 淳〉	150
ヨーロッパ政治史	〈浦田 早苗〉	150
議会関係法	〈 休 講 〉	
立法過程論	〈前田 英昭〉	151
比較政治学	〈三竹 直哉〉	152
現代国家論	〈大塚 桂〉	153
経営労務論	〈鹿嶋 秀晃〉	154
国際経営論	〈茂垣 広志〉	155
商業史	〈山田 勝〉	156
保険経営論	〈石名坂 邦昭〉	157
財務会計論	〈渡邊 恵一郎〉	158
経営分析論	〈片桐 伸夫〉	159
税務會計論	〈高木 克己〉	160
経営情報論	〈高井 徹雄〉	161
情報管理論	〈西村 和夫〉	162
経営統計	〈長 国強〉	163

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉発達史	はやし 林 千代	法 A ・ 政治	4

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

成績評価の方法

後期にレポートを提出してもらいそれによって行なう。

教科書

特にきめないが、今岡他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）をあげておきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国民所得論	よしの 吉野 紀	法A・政治・法B	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」 5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解すること、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」 4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」 8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」 4回
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ダウンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」 5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。再試験は実施。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミックス(上)』(第6版)(多賀出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 史	はし の とも こ 橋 野 知 子	法A・政治・法B	4

講義のねらい

本講義では、近代日本における経済社会の動きを国際的な経済環境のなかに位置づけながら考察していきます。特に近年の数量経済史や経済発展論の分野における研究蓄積を利用しながら、また西欧やアジアとの比較を念頭において講義する予定です。

学生諸君には、日本経済における現代的課題や戦後経済史の重要な問題が、この講義での考察する歴史的背景のなかで生まれてきたことを理解して欲しいと思っています。よって、単なる「丸暗記」を要請するものではありません。知ることこそが重要なのです。講義の中で、第二次大戦以前の日本経済における基本的事実を理解し、大まかな流れをつかみ、重要な問題を発見して下さい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 近代日本経済史へのアプローチ1－日本経済史に対するさまざまな見方
2. 近代日本経済史へのアプローチ2－幕末の経済と開港、明治維新、近代国家の形成と経済共通基盤の整備
3. 近代経済成長の始動－殖産興業と松方財政、在来部門の成長と再編成
4. 国際政治・経済秩序「パックス・ブリタニカ」のなかの日本経済
5. 工業化の進展1－近代工業の発展と貿易、技術移転とその担い手
6. 工業化の進展2－農業部門と非農業部門との関係
7. 日清・日露戦争と日本経済
8. 第一次世界大戦と日本経済1－世界秩序の変化と日本経済
9. 第一次世界大戦と日本経済2－動力革命、在来産業の近代化、重化学工業化の進展
10. 「慢性的不況」－金融再編成と産業合理化
11. 二重構造の発生と都市化に伴う社会の変化
12. 「パックス・ブリタニカ」の解体と日本経済－国際金本位制度の終焉
13. 1930年代の経済成長1－政策の転換、銀行制度
14. 1930年代の経済成長2－産業構造、産業組織の変化
15. 戦後経済史への展望－市場経済の変容、戦時統制経済、太平洋戦争

履修上の留意点

重要なトピックスについては参考文献に加えて統計資料、一次資料などを配布して説明します。配布された資料を通じて、図表を理解する力を養いましょう。日本経済史への理解を深めるためにも、講義中紹介された参考文献については、できる限り読むように心がけて下さい。

現在起こっているさまざまな問題には、必ず歴史的な背景があります。日常生活の中でニュースや新聞などに積極的に慣れ親しみ、そこで感じた「なぜ？どうして？」という疑問を大切にしてください。また、当時の社会や経済を実際に知る人の話を積極的に聞いてみて下さい。教科書では得られない新鮮な驚きや発見があるはずです。

成績評価の方法

夏休みのレポートと試験を総合して評価します。再試験を実施します。

教科書

開講時に指示します。

参考書等

講義の中でその都度紹介します。

その他

授業は講義形式ですが、ビデオの利用による説明も取り入れたいと思っています。昨年度は夏休みのレポートの準備として、講義中に「自分のふるさとの経済史」に関するアンケートを1回行いました。今年度も類似の内容のアンケートを行う予定です。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう じ 和 田 耕 治	法A・政治・法B	4

講義のねらい

平成8年度版「事業所統計」によると、わが国の第1次産業を除く約650万の事業所の内、中小企業所は98.9%を占めており、大企業所は0.7%に過ぎない。また、雇用者数についても、総雇用者、約5,435万人の内、中小企業所で雇用されているものは、80.4%、大企業所では19.6%となっている。このようにみていくと、中小企業はわが国経済において、大きな位置にあるといえる。本講義は、わが国経済で大きな地位を占めている中小企業の実態を踏まえつつ、今日までの中小企業研究の蓄積に基づいて、理論的水準を落とすことなく進めることとする。

講義の内容・
授業スケジュール

中小企業に関する実態や問題を理論的、歴史的に把握した上で、中小企業を構造的視点により考察する。また、近年、中小企業研究は非常に多面的な展開を示している現状を鑑み、最新の研究動向について、触れることとする。さらに、必要に応じて、視聴覚教材を用いることにより、受講者の問題意識を鮮明化させる。

成績評価の方法

期末試験とレポートによる評価とする。片方だけの提出は合格点にはならない。

教 科 書

三井逸友編著『現代中小企業の創業と革新（仮題）』（同友館） 近刊

参 考 書 等

中小企業庁編『平成13年度版中小企業白書』（大蔵省印刷局）

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育経済論	や 谷 敷 正 光 しき ただ みつ	法 A・政治	4

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一連の教育改革を行ってきた。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「アメリカ教育法」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の経済と教育の現状をまず明らかにする。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 先進国の経済発展と教育
 - 日本の産業化とリテラシー・識字率
 - 日本の経済成長と教育
 - アメリカの教育最前線（ビデオ）
 - レーガン大統領の経済と教育1 「危機に立つ国家」（一部ビデオ）
 - レーガン大統領の経済と教育2 「国家は応える」（一部ビデオ）
 - ブッシュ大統領の経済と教育1 「全米教育サミット」（一部ビデオ）
 - ブッシュ大統領の経済と教育2 「2000年のアメリカ」（一部ビデオ）
 - クリントン大統領の経済と教育「アメリカ教育法」（一部ビデオ）
 - サッチャー首相の経済と教育「教育改革法」（一部ビデオ）
 - メジャー首相の経済と教育「競争力白書」（一部ビデオ）
 - ブレア首相の経済と教育「知のネットワーク」（一部ビデオ）
- 戦前日本の経済発展と実業教育政策
 - 学制時代における経済と教育1 富国強兵・殖産興業（映画）
 - 学制時代における経済と教育2 学制公布と「行政管理学校」
 - 教育令時代における経済と教育1 工場払下と産業の勃興（一部ビデオ）
 - 教育令時代における経済と教育2 教育令公布と実業補習学校・徒弟学校
 - 学校令時代における経済と教育1 産業革命と産業の発展（一部ビデオ）
 - 学校令時代における経済と教育2 学校令公布と実業教育・「機業地学校」
 - 実業学校令時代における経済と教育1 資本主義の確立（一部ビデオ）
 - 実業学校令時代における経済と教育2 実業学校令公布と「委託教育」「企業内学校」
- 戦後日本の経済発展と産業教育政策
 - 復興期の経済発展と教育 産業教育振興法公布（一部ビデオ）
 - 高度成長第1期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - 高度成長第2期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - 高度成長第3期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - 高度成長終焉後の経済発展と教育

履修上の留意点

- 年間5～6回程度小テストを実施し、平常点とする。
- 現実的理解のためにビデオ・映画を使用する。
- 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しない。
- 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

- 授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。
- 再試験を実施する。

教科書

毎時間、講義の教材として年間40～50枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参考書等

参考文献は講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

土志田征一『レーガノミックス』(中公新書)
原田和明『ブッシュの米国経済』(日本経済新聞社)
大原進『クリントンの米国経済』(日本経済新聞社)
小林泰宏『アメリカで進む教育改革』(朝日新聞社)
森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』(岩波新書)
G・メイナード『サッチャーの経済革命』(日本経済新聞社)
舟場正富『ブレアのイギリス』(PHP新書)
ブライアン・サイモン『現代の教育改革・イギリスと日本』(エイデル)
A・グリーン、J・ハリスン『英国病』(新評論社)
梅西光速『日本資本主義発達史-産業資本の成立と発展-』(有斐閣)
猪木武徳『学校と工場』(読売新聞社)
三好信浩『日本の女性と産業教育-近代産業社会における女性の役割-』(東信堂)
天野郁夫『教育と近代化』(玉川大学出版部)
沼口博『学校教育と経済発展』(学文社)
その他は講義の中で紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本経済論	こばやし まさと 小林 正人	法A・政治・法B	4

講義のねらい

日本経済の（第二次世界大）戦後の歴史について総合的に講義する。とくに日本経済を支える産業の発展史について詳しく説明し、これに対する日本的経営システムの役割について検証する。さらに、今の平成不況のなかで浮き彫りになってきた日本の経済システムの課題について述べる。

日本経済は、高度経済成長をへたのち、幾度かの「危機」（とくに1970年代の石油ショックと、1980年代後半の円高）をのりこえてきた。しかし今日の平成不況の中で、日本の経済システムや経営システムの問題点も浮き彫りになった。これまでの発展の条件が、地球規模での技術発展と競争環境の中で、逆の条件に転化したのである。このような経済の発展や変化の意味をリアルにつかむには、産業や企業のレベルにまで立ち入り、技術発展や企業間競争の実態について調べ必要がある。講義ではここに力を注ぐ予定である。

講義の内容・授業スケジュール

- 戦後日本経済の展開過程
戦後改革
日本の高度経済成長：歴史とその原因
産業政策の役割
石油ショック、円高、バブル経済、平成不況
- 日本の産業構造
産業構造の理論と歴史
主要産業の歴史：鉄鋼、自動車、電機、半導体、工作機械
日本型経営システムの意義。欧米諸国との比較
- 日本の経済発展の総括と展望
平成不況の意義
情報通信革命（インターネット）
- 日本の産業問題
製品の安全性とPL法
環境問題と経済発展

履修上の留意点

配布した講義資料は保管をする。講義ではOHPなどをよく使うので、見やすい位置に着席すること。また、講義の節日に出席状況の調査をする。

成績評価の方法

学期末テストによる。試験は論述式である。再試験は実施する。

教科書

なし

参考書等

適時指定する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア ジ ア 経 済 論	ちよん 鄭 ちやん 章 よん 淵	法A・政治・法B	4

講義のねらい

この講義では、受講生諸君のアジア経済に対する理解を深めるために、アジア経済を歴史・理論・現状分析の3分野に大きく分け、できるだけその全体像に迫る予定である。基本的な視座としては、1960年代以降本格化したアジアの経済発展を20世紀後半期に新たに勃興した資本主義発展の事例と捉え、その特徴並びに発展と矛盾のメカニズムの解明に焦点を当てる。その際、従来のアジア経済論のように（典型的には、新古典派開発経済学）工業化の本格化した60年代以降の時期にのみ注目するのではなく、その「前史」をなす時期（特に、植民地期や戦後1950年代までの時期）も射程に入れて、通史的に経済発展過程を捉える。また、60年代以降の工業化過程において常に経済発展をリードしてきたアジア国家の役割を重視し、「開発独裁」概念を援用した分析を試みる。そして、あくまでもアジアに視座を置きつつも、現在に至る歴史過程において、その都度、アジア経済に決定的な影響を及ぼしてきた世界経済の動向にも注意を払いたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 〔前期〕
1. 経済発展の前史
 - (1) 植民地経済の概要
 - (2) 戦後経済発展の初期条件
 2. アジア NIEs の経済発展
 - (1) アジア NIEs の範疇と経済発展の特徴
 - ※ NIEs の用語説明、経済開発戦略の特徴、産業の特徴
 - (2) 開発独裁体制の成立
 - ※ 韓国の事例、その他の開発独裁
 - (3) 経済発展と民主化の弁証法
 3. ASEAN 諸国の経済発展
 - (1) タイ・マレーシア・インドネシアの経済発展過程
 - (2) ASEAN の歴史
 - (3) 日本企業の進出状況
- 〔後期〕
4. アジア社会主義諸国の開放政策
 - (1) 中国の開放政策
 - (2) その他……ベトナム、北朝鮮
 5. アジア経済発展論の系譜
 - (1) アジア NIEs 論
 - (2) 東アジア経済発展論
 6. アジアにおける地域経済協力
 - (1) APEC の発展過程
 - (2) ASEAN の自由化過程
 - (3) その他の中小規模経済圏
 7. アジア経済の現状
 - (1) アジア通貨危機の発生とその影響
 - (2) その他の諸問題…環境問題 etc.
 - (3) 日本とアジアとの関係の展望

成績評価の方法

前後期二回のペーパーテストと夏期レポートで総合的に評価する。試験の際に白筆のノートを参照にしてもらうので、講義中ノートをよくとってもらいたい。追・再試験を実施する。

教 科 書

特に定めないが、準テキストとして以下の文献を読んでもらいたい。
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』（有斐閣アルマ）2,000円（税抜き）

参 考 書 等

参考文献については、講義中に随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア メ リ カ 経 済 論	瀬 戸 岡 ^{せと おか} 紘 ^{ひろし}	法 A ・ 政 治 ・ 法 B	4

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の子備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の子備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥ふかく興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し、資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・ 授業スケジュール

年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマにはおおむね以下のような項目を予定していますが、すべてをとりあげることは時間の制約上むずかしいので、受講者の要望の強いものから優先的に講義していきます。

《導入の話題》

- ◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

- ◇アメリカの建国の理念と現代の経済
- ◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

- ◇アメリカの農業
- ◇アメリカの工業
- ◇アメリカの企業家とベンチャービジネス
- ◇アメリカの雇用と労働者
- ◇アメリカの商業とサービス
- ◇アメリカの交通・通信・情報
- ◇アメリカの金融
- ◇アメリカの教育と経済
- ◇アメリカの科学技術
- ◇アメリカの先端産業
- ◇アメリカ経済と環境問題
- ◇アメリカ社会とヴォランティア
- ◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

- ◇国際通貨ドルの地位と IMF
- ◇アメリカと貿易 (GATT と WTO)
- ◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義
- ◇アメリカの海外援助
- ◇アメリカの多国籍企業
- ◇多国籍企業とアメリカ経済

《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとEU
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

《むすびの話題》

- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

授業の方法

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話を始め、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりは、ふたたび今日の話題にもとづいて、その日の講義で学んだことが現実経済のなかでどのように機能しているのかを確認します。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっと立ちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。トピックスのコーナーは、この講義の大きな特色として位置づけています。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして楽しくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

年間をとおして随時、ほぼ授業2～3回につき1回の割合で受講者のみなさんに小論を書いてもらい、それをもって成績評価をします。それぞれ前回または前々回の講義の内容にかんすることを書いてもらうことになるので、おのずと授業には恒常的に出席していないとよい成績がとれないことになります。

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には退屈させない楽しい講義をするつもりですし、またそういう受講者がよい成績をおさめられるようにしているからです。この平常点重視のたてまえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しない方向です。また、この成績評価のたてまえから、再試験も実施いたしません。

教科書・参考書等

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳 青木書店 1994年）をおすすめします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロシア・東欧経済論	やまがたひろし 山 縣 弘 志	法A・政治・法B	4

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることはできないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達したか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに答えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもの——レーニン時代——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本——比較経済史——

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。取って代わりの講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。
再試験あり。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るの当然のことになるだろう。

科 目 名	担 当 者 名	配当学科	単 位
商 業 政 策	いわ した ひろし 岩 下 弘	法A・政治・法B	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 90年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
 - 4 21世紀へ向けた流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導=抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ-前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 流通政策の転換
 - 1 大店立地法
 - 2 中心市街地活性化法
- 六 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策-都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題-商店法
 - 2 フランス-ロワイエ法
 - 3 ドイツ-土地利用計画
 - 4 アメリカ-ゾーニング規制

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席により評価。再試験は実施しない。

教 科 書

指定しない

参 考 書 等

その都度指示する

科目名	担当者名	配当学科	単 位
マーケティング	曾 我 信 孝	法A・政治・法B	4

講義のねらい

大規模企業が展開するマーケティング政策の原理を理解してもらい、それらが消費者にどのような影響を与え、経済さらには文化に影響を与えているかも考えてもらうことを狙いにしている。

講義の内容・授業スケジュール

1. マーケティングの問題点
 - ・消費者の価値観とマーケティング支配
 - ・マーケティングと取奪関係
2. 製品政策
 - ・新製品開発が意味するもの（切れない電球は出来ないのか）
 - ・差別化政策、多様化政策、細分化政策（なぜブランドがあるのか）
 - ・ライフサイクルの短縮化（なぜ「モデルチェンジ」をするのか）
3. 価格政策
 - ・価格の概念（価格の内訳は何であろうか）
 - ・価格設定の方法（高級品ほど利益率が高いのはなぜか）
 - ・新製品の価格設定（価格操作による購買意欲の操作を知っていますか）
 - ・再販売価格維持（定価とオープン価格のちがいは何でしょう）
4. チャンネル政策
 - ・流通組織、流通経路（商品はメーカーから消費者までどのように流れていますか）
 - ・販売チャンネル（販売チャンネルを支配する理由は何でしょう）
 - ・チャンネルの支配形態（ディーラーって何ですか）
5. 販売促進政策
 - ・販売員管理（賃金の高低で販売員を管理できますか）
 - ・広告（貴方の潜在意識が広告にさらされているのを知っていますか）
 - ・サービス（現在存在していないようなサービスを思いつきますか）
6. 国際化戦略
 - ・現地化（なぜ日本企業は生産の現地化をする必要があったのか）
 - ・マーケティングの現地化（なぜ現地でマーケティングを展開する必要があったのか）

履修上の留意点

講義を通じて基礎理論を理解してもらうことはもちろんですが、毎時間2～4度は問題を提起します。学生諸君は、単に講義を聴くだけでなく、積極的に問題意識に取り組む姿勢を持っていただきたい。

成績評価の方法

1. 期末試験を最重視する。期末試験は年間の講義範囲から論述問題を提出する。評価の基準はその内容を十分理解でき、さらに現実の問題意識ができていのかどうかを判断する。したがって、参考文献等の抜き書き解答等には厳しい評価となる。
2. 中間期に夏休みの課題としてレポートを提出してもらい評価の参考にする。
3. 著しく授業を妨害したものは、評価対象からははずす可能性がある。
4. 再試験は実施する

教科書

指定なし

参考書等

1. 曾我信孝ほか3名著『現代マーケティングの基線』（同文館）3,000円
2. 曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）4,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 務 管 理 論	ほり 堀 りゅう 龍 二	法 A・政治・法 B	4

講義のねらい

最近急激な変化をみせているわが国の労務管理の基本的動向と特徴を把握することをねらいとしている。高度経済成長期に形成されたいわゆる「日本の経営」ないし「日本の労務管理」は年功賃金、終身雇用、企業別組合を柱としていた。1970年代以降、大企業は基本的にはこうした労務管理慣行ないし制度の利点と有効性を認識しながらも、他方で「画一的年功制からの脱皮」を目指して「能力主義管理」を推進して、その再編・強化を図った。こうして「日本の労務管理」は今まで「良好なパフォーマンス」を示してきた。ところが、近年における日本経済の低迷のなかで、中高年層を中心に正規従業員の大量リストラが断行されるとともに、雇用形態の多様化、年俸制の導入などにみられる賃金・処遇の成果主義化、職能資格制度の再編、採用方法の柔軟化、退職金・年金制度の改編等々、雇用と賃金・処遇に関する基本的な制度・慣行にかつてない変化が進行してきている。これらの変化は従来の「日本の労務管理」からの脱却であり、そこにみえるのは人事労務への市場原理の導入、内容的にはその流動化、個別化、成果主義化という傾向である。こうした傾向・特徴の内実を明らかにし、その背景にあるものと今後の展望を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

大略すれば、まず「日本の労務管理」の形成過程とその構造や機能についてまとめる。ついで能力主義管理に関して同様のまとめを行う。とくに、職務給、職能給・職能資格制度、人事考課といった賃金・処遇制度に焦点を当てる。これら日本の労務管理と能力主義管理の整理を踏まえて、現在進行中の労務管理の「地殻変動」の現状と特徴を把握するという段取りを考えている。なお、初回講義において具体的なガイダンスを行う予定であるが、おおよその予定は以下のとおりである。

- I. 労務管理論の体系と歴史
 1. 労務管理の目的、機能、対象
 2. 労務管理論の歴史
- II. 戦後日本の労務管理
 1. 電産型賃金体系
 2. 戦後初期の労使関係と労務管理
- III. 高度経済成長期の労務管理
 1. 日本の労務管理の形成と展開
 2. 労使関係の転換
 3. 能力主義管理と年功制
- IV. 現代の動向
 1. 雇用形態の多様化
 2. 賃金・処遇の成果主義化
 3. 職能資格制度とキャリア形成
 4. 成果主義と目標管理と人事考課
 5. 労働時間の弾力化
 6. 「新・日本の経営」と労使関係

成績評価の方法

原則としてレポートと定期試験で評価する。再試験は実施する。

教科書

未定。初回のガイダンス時に指示する予定。

参考書等

講義中に適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
財務会計論	小栗嵩資	法A・政治・法B	4

講義のねらい

企業の活動内容を外部の利害関係者や投資家に報告・開示することを目的とするのが財務会計である。外部報告会計とも言われ、報告内容による社会的な影響も大きいことから、財務会計については商法や証券取引法のような法律や規則によって社会的に規制されている。日本の財務会計を規制する企業会計制度は現在、会計ビッグバンと呼ばれる大きな変化のまっただなかにある。戦後、日本独自の発展をとげてきた企業会計制度もグローバルスタンダードの影響のもとに国際的に比較可能なものへと変わりつつある。制度変化による経済やビジネスへの影響は大きく、日本の財務会計がどのような発展をとげていくかが、現在、問われているところである。

講義の前半では、そうした制度変化を理解する上で必要な、経済社会と会計との関係や会計に関する規制の仕組みなどについて論じたのち、日本の企業会計制度の歴史と会計ビッグバンの概要について学習を進める。講義の後半では財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の基本的な構成や内容について論じ、さらに現代会計のテーマである連結会計、金融商品会計、年金会計などを取り上げ検討する予定である。

講義の内容・授業スケジュール

次のような構成で進めたい。

1. 財務会計とは何か
2. 経済社会と企業会計
3. 会計規制の仕組み
4. 日本の企業会計制度と会計ビッグバン
5. 財務諸表の仕組み
6. 貸借対照表の構造と内容
7. 損益計算書の構造と内容
8. キャッシュフロー計算書の構造と内容
9. 連結財務諸表の構造と内容
10. 金融商品会計
11. 退職給付会計
12. リース会計
13. 現代会計と会計の国際化

履修上の留意点

会計学は専門知識を積み上げていく学習スタイルが必要ですし、時々、副教材としてプリントを配布しますので、欠席しないこと。なお、再試験は行わないので、注意して下さい。

成績評価の方法

中間試験（またはレポート）および学年末試験により評価します。また、時々、小テストも実施し、成績評価に加算します。なお、再試験は行わないので、注意して下さい。

教科書

遠藤・小栗・新谷・徳前著『新世紀の企業会計論』（白桃書房）

参考書等

必要に応じて紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 監 査 論	飯 岡 透 <small>い い おが とおる</small>	法A・政治・法B	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表が、その企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・
授業スケジュール

この講義での授業内容とスケジュールは、次のとおりである。

〔前期〕

- 4月 会計監査の目的と種類
 - (1)会計監査の目的
 - (2)会計監査の種類
 - (3)監査基準の必要性とその構造
- 5月 わが国監査制度の展開
 - (1)第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2)第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開
- 監査人の要件と責任
 - (1)監査人の要件
 - (2)監査人の選任と解任
 - (3)監査人の職務権限と責任
- 6月 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1)監査要点の意義と種類
 - (2)通常実施すべき監査手続とその内容
- 7月 監査証拠の種類と内容
 - (1)監査証拠の意義と分類
 - (2)十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

- 9月 内部統制と監査リスク
 - (1)内部統制の構成要素
 - (2)内部統制の評価
 - (3)監査リスクと重要性
- 10月 監査計画と組織的監査
 - (1)監査契約と予備調査
 - (2)監査計画の目的とその設定
 - (3)組織的監査の重要性と審査機能の整備
 - (4)他の監査人の監査結果の利用
- 11月 監査調書の目的と種類
 - (1)監査調書の目的と作成要件
 - (2)監査調書の種類と保存
- 経営者確認書の意義と記載内容
 - (1)経営者確認書の意義と目的
 - (2)経営者確認書の記載内容
- 12月 監査報告書と監査概要書
 - (1)監査報告書の意義と機能
 - (2)監査報告書の種類
 - (3)短形式監査報告書の記載内容
 - (4)特記事項の記載内容
 - (5)監査概要書の目的と記載内容
- 1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、財務会計論及び簿記論の講義を履修し、財務諸表について十分理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。
なお、再試験は実施する。

教 科 書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社）
飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
原 価 計 算 論	かとうとし やす 加 藤 利 安	法 A ・ 政 治	4

講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状況の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状況の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとするれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に説明することをこころがける。

 講義の内容・
授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」、と関連させながら解明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。
再試験を実施しない。

教 科 書

最初の授業時に指示する。

参 考 書 等

授業時に適宜挙げる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
貿 易 論	ふる さわ こう ぞう 古 沢 紘 造	法 A・政治・法 B	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーションと貿易
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

再試験を実施する。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
銀行論	さいとう 藤 正 ^{ただし}	法A・政治・法B	4

講義のねらい

「フリー、フェア、グローバル」な金融市場の実現を掲げ、98年4月にスタートした「日本版金融ビッグバン」の展開のなかで日本の金融制度が大きく変わろうとしている。大手銀行の統合や合併、外資系金融機関の対日参入攻勢、異業種によるネットバンキングや決済専門銀行への参入、など、グローバル化とIT革命を背景とした激しい競争が「華々しく」繰り広げられている一方、バブル崩壊後の不況が長引き、不良債権処理が遅れるなかで、「銀行不倒神話」が崩壊し、金融システム不安が高まってきた。それは、特に地域金融機関において厳しく表れ、地域経済に深刻な影響を及ぼしている。

銀行を取り巻く状況はきわめて厳しいが、銀行は依然として「貨幣の供給および決済システム」を同時に担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の存在であることには変わりはない。それゆえ、いまこそ21世紀における「持続的成長」を保証する金融システム、銀行の健全なあり方が強く求められている。

本講義では、銀行の基礎理論に関連づけながら戦後の日本経済に果たしてきた銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき銀行の姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は戦後の日本経済に果たした銀行の役割を時期ごとに検証する。
 - ①まず、講義へのガイダンスとして、1990年代以降、銀行が直面して諸問題を概観し、新聞紙上等でよく見聞きする基本的用語と「銀行論」との関連づけを行なう。
 - ②「専門的金融機関制度」といわれる戦後日本の金融制度の特徴とそれぞれの専門機関（普通銀行、長期金融機関、中小企業専門金融機関、証券会社、保険会社など）の役割を理解する。
 - ③時期区分は、おおまかに高度成長期（1974年まで）、低成長・自由化期（1990年まで）、バブル崩壊以降（1990年代以降）とし、欧米の動向も参考にしながらそれぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されていたのかを紹介する。
- 2) 後期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ①銀行経営の不振とは対照的に消費者金融会社（貸金業）は史上最高の収益を達成している。銀行制度の成立以前からすでに存在していた「金貸し業者」や「高利貸し」と「銀行」の違いがどこにあるのかを考えながら、「銀行」の基本的機能および経済社会（メーカー、流通業、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - ②銀行が一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。しかし、銀行は受け入れた預金をそのまま貸し出すのではなく、「信用創造」という銀行のみに認められた方法で行い、その際「預金通貨」という「マネー」を供給する。このメカニズムを明らかにするとともに、インターネットバンキングや電子マネーなど、エレクトロニクス技術の発展にもとづいた「キャッシュレス社会」の意味について考える。
- 3) 現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが80年代後半以降の「バブル経済」と90年代以降の「バブル崩壊」、「グローバル化」である。戦後銀行制度の抜本的改革を目指すビッグバンを様々な角度から検討しながら望ましい銀行システムのあり方を考える。

履修上の留意点

成績は、前期試験（またはレポート）と後期試験による評価を基本とするが、出席状況、授業態度における積極性も十分に加味するので、講義に対する質問、疑問を大いに歓迎する。再試験を実施する。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。授業はレジメに沿って進める。

参考書

大橋・小西・齊藤・田村・平沢著『日本のビッグインダストリー 金融業』（大月書店）2001年
山田・野田編『現代日本の金融』（新日本出版社）1997年。
日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
親 族 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	政 治	4

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日の問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4増補版〕』(有斐閣双書) 1,600円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円
六法

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
相 続 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	政 治	4

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4増補版〕』(有斐閣双書) 1,600円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円
六法

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ヨーロッパ政治論(1)	なかのゆうじ 中野裕二	法 A ・ 法 B	4

講義のねらい

本講義では、西ヨーロッパの政治や社会の今の動きをできるだけ理論的に把握することを目標とする。対象となるのが「西ヨーロッパ」であるので、すべての国やすべての政治現象を網羅的に紹介することはできないので、取り扱う国やテーマを絞っていく。そこで、本年度はフランスを素材として、フランスの共和制は「共生」の理念であるとの理解に立って、共和制への異議申し立てと見なされるコルシカの民族主義、移民の自己確立、極右政党の台頭の実状、それが共和制にもたらす影響を明確にしていく。そして、「共生」のためにはどのような社会編成の理念に立つべきかについて考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. フランス共和制と共生の問題
2. コルシカとフランス共和制
補論 コルシカの紛争に見る「民族」
3. 「フランス人であること」の多様性
補論 90年代フランスにおける「もうひとつの民族問題」
4. 「新しい人権主義」の社会観と共和制
5. フランス共和制の理論的位置
6. 「新共和主義」と「ポスト共和主義」
補論 統合原理を模索するフランス
7. 「共和制モデル」とフランス共和制

成績評価の方法

学年末試験と小テスト・レポートを7：3の割合で総合的に評価する。ただし、学生の積極的参加（意見、質問）は別個に高く評価する。

教 科 書

中野裕二『フランス国家とマイノリティ』（国際書院）1996年 2,718円
宮島喬編『現代ヨーロッパ社会論』（人文書院）1998年 2,600円

参 考 書 等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際政治学	みなみ やま あつし 南 山 淳	法 A・法 B	4

講義のねらい

近代ヨーロッパに成立した国民国家体系は「戦争」と「新たな世界秩序の構築」というサイクルを描きながら、地球全体を覆うまでにその規模を拡大してきた。他方、「グローバリゼーション」に象徴される国境を越えた様々な活動の増殖が、今日では国際政治構造そのものに大きな影響を与えるようになってきている。

このような（国家間関係およびトランスナショナルな行為主体間の関係の総体としての）国際政治現象を構造として理解することが本講義の目的である。構造的な理解とは、近代から現代にいたる国際政治の動態のなかで「持続」と「変容」の領域を各々確定していく作業に他ならない。具体的には、変動する国際政治構造の全体像を歴史と理論の両側面を連関させながら検証していきたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主権国家、国際的アナキー、権力政治、安全保障、相互依存等、国際政治学の基礎概念の理解と主要理論の概説に重点をおき、後期は地域紛争、グローバル経済、地球環境、ジェンダー等、冷戦後の国際政治における具体的諸問題を取りあげる予定である。詳細については開講時に述べる。

履修上の留意点

政治学、近現代史および国際問題に関する基本的な知識を整理したうえで受講すること。

成績評価の方法

レポートおよび定期試験。

教科書

特定の教科書は使用しないが、講義理解のために下記の参考書を読んでおくことを必須とする。

参考書等

PRビオティ・M.V.カピ 著 (D.J.ウェッセルズ・石坂菜穂子 訳)
『国際関係論 第二版－現実主義・多元主義・グローバリズム－』(彩流社) 1993年。
小林誠・遠藤誠治 編『グローバル・ポリティクス』(有信堂) 2000年。
石井修 著『国際政治史としての二〇世紀』(有信堂) 2000年。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ヨーロッパ政治史	うら た き なえ 浦 田 早 苗	法 A・法 B	4

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること、及び現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容・授業スケジュール

○近代の始点ルネサンス期と18世紀 ○英国革命とIRA ○ジャコバイトと英国王室
○議院内閣制の成立変遷過程 ○英国における政治腐敗防止過程 ○フランス革命と国家の概念
○フランス政治におけるジャコバン主義 ○「後発国型近代化」の問題点——ドイツの場合——
○統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート——7～8×400字——は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
立 法 過 程 論	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	法 A ・ 法 B	4

講義のねらい

法律はどのような経過を経て、どのような人々の手によって、どのようにつくられるのかを勉強することによって、法律、政令、条例などの法令の起案の仕方や、社会生活において必要とされる規則のつくり方に習熟し、法令や規則の理解を容易にすることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

立法過程とは、立法を中心に議会でのさまざまな決定をめぐって繰り返される議会内外諸勢力の公式・非公式の相互作用の実質的な過程であり、狭義には、議会内部での法律制定に関する立法手続の諸過程をさす。今年度は、後者を主として対象とする。

[取り上げるテーマ] 立法過程とは。国会における審議過程。立法過程における政府の役割。立法過程における議員の役割。内閣提出法律案。議員提出法律案。内閣法制局と議院法制局。常任委員会制。法律の体裁と用語の解説。法律・政令・条例。政府委員。審議会。会期制。会議の公開。委任立法（行政立法）。法律と予算。法律の公布・施行。その他サッカーくじ法など個別法案。（順不同）

履修上の留意点

この講義は、公務員志望の学生、立法機関としての国会や地方議会に関心のある学生向きである。できるだけ出席して国会職員としての経験談も聞き、講義のテーマに関連した時事問題の解説にも注目すること。

成績評価の方法

平常点と期末試験（ノート持ち込み可）

教 科 書

前田英昭『国会の立法活動』（信山社）

参 考 書 等

小島和夫『法律のできるまで』（日本評論社）
浅野一郎『立法過程』（ぎょうせい）
前田英昭『国会の100年』（原書房）
岩井奉信『立法過程』（東大出版会）
林修三『法令用語の常識』（日本評論社）
中村睦男・前田英昭『立法過程の研究』（信山社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 政 治 学	み たけ なお や 三 竹 直 哉	法 A ・ 法 B	4

講義のねらい

世界のいろいろな国で起きていることを手がかりに、さまざまな政治現象がどう説明されるかを、いっしょに考える授業です。

講義の内容・
授業スケジュール

民主化、民族対立管理、移民政策という三つのテーマを柱にします。

履修上の留意点

専門科目の中でも専門性の高い授業として提供します。

成績評価の方法

期末試験は12月の授業期間中と、1月の定期試験期間中の二度です。授業中の発言や小テストでも得点できます。詳しいことは最初の授業で説明しますし、下記のホームページにも掲載しますので、履習登録される方は〈必ず〉参照してください。

教 科 書

高根正昭『創造の方法学』（講談社）640円

参 考 書 等

授業中に指示します。

そ の 他

最新の情報は、ゼミのホームページで確認できるようにします。法学部の公式ページからリンクをたどってきてください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代国家論	おお つか かつら 大 塚 桂	法 A ・ 法 B	4

講義のねらい

福祉国家の見直しが叫ばれて久しい状況にあります。大国・日本丸はどこへすすもうとしているのでしょうか。ありうべき国家とは何か、が現代政治学において重要課題とされています。本講義は、諸君がいままで履修してきた政治学、憲法学などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあたって、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論(史)的に整理することからはじめるのが、ベターでしょう。政治学の発達を顧みたと、政治学=国家論であったことがわかります。講義では、隣接科目(憲法・行政法・政治制度・政治思想史・政治史・行政学)の研究成果を積極的にとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。国家論は総合科学としての性格を有するからです。

講義の内容・授業スケジュール

A 国家論の課題ならびに研究方法

①序論 ②官立アカデミズムの形成

B 国家学説の史的展開

①古代国家学説 ②中世国家学説 ③近代国家学説 ④現代国家学説

C 法治国家の構成原理

①法治国家論 ②政治制度 ③官僚制 ④国家緊急権

D 行政国家の構成原理

①福祉国家論 ②ネオ・コーポラティズム ③シティズンシップ ④きたるべき国家像

成績評価の方法

受講生と相談の上で、以下のいずれかの方式によって単位を認定します。

A方式(レポートによる単位認定)

～年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。

B方式(試験による単位認定)

～ペーパーテスト(中間・期末)による評価です。

C方式(AとBの折衷)

※ なお、B方式のみ追・再試験を実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂) 3,000円

参考書等

上記教科書にかかげてある〈関連文献〉を参照のこと

その他

私の研究室は、第2研究館8階(2835)にあります。電話は、3418-9377(直)です。質問など気軽に訪問してください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 労 務 論	か しま ひで あき 鹿 嶋 秀 晃	法 A ・ 政 治	4

講義のねらい

この講義では、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。具体的には経営学と経営労務論、戦後日本経済と日本的経営論、終身雇用、年功序列賃金、企業別組合制度、福利厚生制度、異動と昇進、人材形成、労働時間問題、ホワイトカラーの労働問題、女性労働問題、新しい労働法制と労働問題などの小テーマを設けて講義していく。学生には経営労務論を受講することで企業と労働、社会について幅広い問題関心を持ってもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は1コマ1テーマの原則。各回の最初に「日本は本当に終身雇用なのか？」といったように問題点を掲げ、その解説をおこなう。また、最近の新聞記事から重要な経営労務問題をピックアップして紹介する。

履修上の留意点

詳細は最初の講義で説明をする。出席は取らないので、出席点はなし。①私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるのでしないこと。②携帯電話は消音すること。ひどいときには退室してもらい、減点の対象とする。

成績評価の方法

評価は学期末試験のみによる。①空欄補充問題・正誤問題・穴うめ問題（約60点分）②論述問題3問（約40点分）の予定。中間試験・出席点はなし。詳細はホームページでも公開。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

参考図書としては、津田真澄『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）、1993、(3,000円程度)、労務学説史をわかりやすく説明したものとして渡辺峻『企業組織の労働と管理』（中央経済社）、1995、(2,600円程度)、経営労務をより体系的に深く学習するのによい白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』（東洋経済新報社）1992、(3,500円程度)をあげておく。この他にも講義の中で適宜いろいろな文献を紹介していく。参考文献はホームページで紹介。

そ の 他

授業は講義の形式でおこなうが、図表やグラフ、ビデオを多用し、ただ聞いてノートを取るだけでなく「頭をつかう」ような形にする。ホームページでも授業に関する情報提供をしていく。
http://www.komazawa-u.ac.jp/Gakubu/Kashima_Seminar/index.html
 この科目は、再試験を実施しません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 営 論	茂 垣 広 志 <small>ちがき ひろし</small>	法 A ・ 政 治	4

講義のねらい

国際経営論とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点の諸活動をどのようにマネジメントするのか?」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存のドメスティックな経営理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業 (MNC) 特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論 (アプローチ)、データ、ケースを援用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の視点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化 (適応性) の要請とグローバルな統合化 (効率性) の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。その日系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点について理解を深められる授業内容と構成を予定している。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク (隣接領域との異同と関連性)
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討 (IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説、経営資源移動仮説等)
- III. 国際経営/企業多国籍化の発展段階モデル (ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、アンゾフ・モデル、EPRG モデル等)
- IV. 国際競争戦略 (国際戦略の基本パターンないしタイプ)
 1. 国際競争優位性 (規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性)
 2. 国際競争戦略の類型 (ポーター・モデル、ドズ=プラハラード・モデル、パートレット=ゴシャル・モデル等)
 3. 国際戦略提携
- V. 国際戦略と組織構造
 1. マクロ構造 (国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリクス構造)
 2. ミクロ構造および内部ネットワーク (トランスナショナル・モデル、ヘテラルキー・モデル)
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴 (経営伝統と現状)
 2. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴 (その必要性と問題点、進出地域別特徴)
 3. 異文化マネジメントと海外派遣社員の選抜、教育、給与問題
- VII. 国際マーケティング戦略 (海外市場参入、グローバル・マーケティング・ミクス、製品ポジショニングとグローバル市場細分化戦略等)

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。

成績評価の方法

成績は、期末試験の結果による。

教 科 書

茂垣広志『グローバル戦略経営』(学文社) 2,800円

参 考 書 等

茂垣広志・池田芳彦『国際経営論』(学文社) 2,800円

そ の 他

プロジェクターを用いて授業を進める。また、必要に応じて資料を配布する。
この科目は、再試験を実施しません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 史	やま だ まさる 山 田 勝	法 A ・ 政 治	4

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点 | (6) 継 続 性 |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流 通 量 |
| (3) 利 潤 | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品 | (9) 価 格 革 命 |
| (5) 市 場 | (10) 情報社会と商業 |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業の歴史と展開』（創成社）2,850円

そ の 他

この科目は、再試験を実施しません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 險 経 営 論	いし <small>な</small> <small>ざか</small> <small>くに</small> <small>あき</small> 石 名 坂 邦 昭	法 A ・ 政 治	4

講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」(リスク・マネジメント)研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

教 科 書

石名坂著『リスク・マネジメントの理論』(白桃書房) 3,500円

参 考 書 等

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメントと保険』(白桃書房)
石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房)

そ の 他

この科目は、再試験を実施しません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 務 会 計 論	わた なべ え いち ろう 渡 邊 恵 一 郎	法 A ・ 政 治	4

講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の経営成績と財政状態を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を負う経営者が、投資者、債権者その他企業に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業財務情報を提供することにある。この主たる提供手段が、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心とする課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規も取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の内容はおおむね下記の教科書により、この授業スケジュールは次のとおりである。

- ① 4～5月 財務会計の概念（財務会計の定義、課題、制度など）、財務会計の計算構造及び会計公準と会計原則（財務会計の前提、質的特徴及び一般原則など）
- ② 6～7月、9～10月 財務会計の測定論（収益、費用、資産、負債及び資本の各構成要素に関する会計処理の具体的展開など）
- ③ 11～1月 財務会計の伝達論（個別・中間・連結の各財務諸表の作成と表示、外貨換算、財務分析、国際会計基準の動向など）

履修上の留意点

毎時間の出席率と宿題提出（年1回）を重視する。

成績評価の方法

成績評価は、出席率、宿題提出及び定期試験点数の総合による。

教 科 書

染谷恭次郎著『現代財務会計』（中央経済社）

参 考 書 等

日本公認会計士協会編『監査小六法』（中央経済社）

そ の 他

(1)授業の方法は、講義による。(2)簿記学・会計学の単位を修得していること。この科目は、再試験を実施しません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営分析論	かた ぎり のぶ お 片 桐 伸 夫	法 A ・ 政治	4

講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
- 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、

といった内容です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析をとりあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、授業で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。

*レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」

：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

☆提出日（授業はじめに配付するシラバスに明記）以外は受け付けませんのでご注意ください。

*テスト範囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教科書

開講時、指示します。

参考書等

随時、紹介します。

その他

この科目は、再試験を実施しません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
税 務 会 計 論	たか き かつ み 高 木 克 己	法 A ・ 政治	4

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容の概要は次のおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会计学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

その他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。この科目は、再試験を実施しません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 情 報 論	たか い てつ お 高 井 徹 雄	法 A ・ 政 治	4

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステムの観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

I. 経営情報とシステムの観点（前期）

(1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法とシステムの的なものの見方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

(2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

(3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

II. 情報の利用技術（後期）

(1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化Ⅰ、Ⅲ、Ⅱ類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

(2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

(3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお受講人数が収容可能であれば、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータールームを利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教 科 書

開講時に指定する。

そ の 他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。
この科目は、再試験を実施しません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 理 論	にしむらかずお 西村和夫	法 A ・ 政治	4

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C. E. Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（シャノンという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえば DNA の情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・
授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説、情報とは、情報量への要求
5	3	対数の原理と性質、計算練習
6	4	情報量の定義、練習、情報量の利用
7	3	暗号系と用語、古典的な暗号
9	2	現代的な暗号、暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JIS コード、万国共通文字符号）、対数・情報量の中間試験
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度、言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30%）と定期試験（70%）との合計点によります。

教 科 書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、プロジェクタとプリントを使います。適当な教科書はありません。

参 考 書 等

そのつど紹介します。

そ の 他

〔関連科目〕 → 経営情報論
この科目は、再試験を実施しません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営統計	ちようこ 長 国 強	法 A ・ 政治	4

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データ的具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1 回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2 回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6 回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2 回
前期復習と中間試験：	(7月中旬)	2 回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4 回
経営指数：	物価指数、数量指数	2 回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小2乗法	3 回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2 回
後期復習と定期試験：	(翌年1月中旬)	2 回

履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により総合的に判断する。

教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)1992
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』(日本理工出版社)1992

その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。
この科目は、再試験を実施しません。

3. 随意科目

3. 随 意 科 目

英 語 (海外演習)	169
中 国 語 (海外演習)	
比 較 思 想 特 講 〈小 川 順 敬〉	170
比 較 思 想 特 講 〈末 木 恭 彦〉	170

科 目 名	配 当 学 科	単 位
英 語 (海 外 演 習)	全学科・短大 1 年 次 ~	2

講義のねらい

この科目は本学の海外協定校であるクインズランド大学(オーストラリア)、プリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)、エクセター大学(イギリス)、カリフォルニア大学アーバイン校(アメリカ)における短期留学セミナーでの4週間におよぶ現地での集中演習を中心としておこなわれる英語随意科目である。受講対象学生は全学部・短大の1年次生から卒業年次生までとする。

成績評価の方法

現地演習後に4大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位の認定がなされる。

そ の 他

受講希望者は、国際センターの短期留学英語セミナーに参加申込みをする。

科 目 名	配 当 学 科	単 位
中 国 語 (海 外 演 習)	全学科・短大 1 年 次 ~	2

講義のねらい

この科目は本学の海外協定校である華東師範大学(中国)における短期留学セミナーでの4週間におよぶ現地での集中演習を中心としておこなわれる中国語随意科目である。受講対象学生は全学部・短大の1年次生から卒業年次生までとする。

成績評価の方法

現地演習後に華東師範大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位の認定がなされる。

そ の 他

受講希望者は、国際センターの短期留学中国語セミナーに参加申込みをする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 思 想 特 講	お 小 川 としゆき 川 順 敬	法 A ・ 政 治 2 年 次 ~	4

講義のねらい

この講義では、仏教やキリスト教、また日本の民族宗教などに見られる生命観、人間観（人格概念）について考察したい。今日、脳死・臓器移植問題の中で、生命の意味が問い直されているが、そういった議論の理解を深めるためにも、宗教的生命観・身体観・人格概念などを整理しておきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は仏教・キリスト教の生命観に関する主要な議論のいくつかを概観しておきたい。その際、教義レベルの観念的な議論だけでなく、仏教文化圏やキリスト教文化圏の社会で実際に行なわれている様々な宗教儀礼などを取り上げ、これらを通して生命観の具体的諸相を比較しておきたい。後期は日本の民俗宗教に見られるアニミズム的生命観の今日的評価について、いくつかの議論を紹介、概観することとしたい。また、オセアニアを対象とした人間観、人格概念の民族学的研究を取り上げ、アニミズム的生命観および人格概念を検討することとしたい。

成績評価の方法

原則としてレポートで評価します。

教科書

教科書は用いません。

参考書等

講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。また、関連資料はその都度コピーで配布します。

随
意
科
目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 思 想 特 講	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	法 A ・ 政 治 2 年 次 ~	4

講義のねらい

比較思想（哲学）は、世界各地に成長した思想（哲学）を比較し、ある地域に特有の思想（哲学）はその地域に固有の囚われた視野の中にあることを明らかにし、普遍的な思想（哲学）の獲得を目指す学問である。果たして、普遍的な思想（哲学）が有り得るか、そこに疑問も残るが、我々が井の中の蛙とならない知恵としての意義は大きい。この点に意義を見出し、比較思想（哲学）という学問への基礎的理解を得ることを、本科目では目指す。

講義の内容・授業スケジュール

比較思想（哲学）という学問は、自分達の属する文化を相対化する。西欧では近代の自己反省として生まれたが、同じ頃東アジアの地でも、近代化と伝統のはざまに苦闘する思索者は、西欧の思想と東アジアの思想を比較しつつ、将来への展望を拓こうとしていた。その代表的な例である近代中国の人梁漱溟『東西文化とその哲学』を取り挙げ、講読する。

履修上の留意点

必ず予習をし、自分の疑問・意見が発表できる用意をして授業に臨むこと。

成績評価の方法

次の二つの材料を勘案して判定する。
1. 平常点（出席回数、授業参加の積極性）
2. 試験又はレポート（年一回以上）

教科書

長谷部茂訳『東西文化とその哲学』（農文協）

参考書等

授業中適宜指示する。

その他

出来る限り講師の一方的講義は避け、講師を含めた出席者による討議として進めたいと考えている。

4. 「日本語」・「日本事情」科目

4. 「日本語」・「日本事情」科目

(対象：外国人留学生・海外帰国子女)

《日本語科目》

日 本 語	I	〈佐野典子〉	175
日 本 語	I	〈多田羅哲子〉	175
日 本 語	II	〈佐野典子〉	176
日 本 語	II	〈多田羅哲子〉	176
日 本 語	III	〈多田羅哲子〉	177
日 本 語	III	〈湯村礼子〉	177
日 本 語	IV	〈石川守〉	178
日 本 語	IV	〈湯村礼子〉	178
日 本 語	V	〈石川守〉	179
日 本 語	V	〈多田羅哲子〉	179
日 本 語	VI	〈石川守〉	180
日 本 語	VI	〈多田羅哲子〉	180

《日本事情科目》

日本事情 I〔地理〕	〔前期〕	〈須山 聡〉	181
日本事情 II〔自然〕	〔前期〕	〈清水 善和〉	181
日本事情 III〔歴史〕	〔後期〕	〈宮本 由紀子〉	182
日本事情 IV〔思想〕	〔前期〕	〈赤羽 由規子〉	182
日本事情 V〔社会〕	〔後期〕	〈牛島 千尋〉	183
日本事情 VI〔政治・法律〕	〔後期〕	〈前田 英昭〉	183
日本事情 VII〔文学〕	〔後期〕	〈奥原 淳子〉	184
日本事情 VIII〔文化・芸術〕	〔後期〕	〈赤羽 由規子〉	184
日本事情 IX〔経済〕	〔前期〕	〈瀬戸岡 紘〉	185
日本事情 X〔経営〕	〔前期〕	〈鈴木 幸毅〉	186

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 I	佐野典子	全学科	2

講義のねらい	日本語の聴解能力の向上を目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	日本の映画、TVドラマ、ニュース、などの内容を把握する。
成績評価の方法	試験、提出物、授業態度、出席率等により、総合的に評価する。
教科書	特に教科書は使わない。聴解シートはその都度、配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 I	多田羅哲子	全学科	2

講義のねらい	常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。 漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。
講義の内容・授業スケジュール	○常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。 ○語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要なと思われる派生的意味や使い方も練習する。 ○助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。
成績評価の方法	平常点と期末試験の成績で評価する。
教科書	プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	ま 佐 の のり こ 佐 野 典 子	全 学 科	2

講義のねらい

日本語の読解能力の向上を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本の現代作家の小説、ノンフィクション、エッセイ等を輪読する。

成績評価の方法

試験、提出物、授業態度、出席率等により、総合的に評価する。

教 科 書

授業で使用する教材は担当者がそのコピーを用意する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全 学 科	2

講義のねらい

話すことを中心に日本語の運用能力を養う。

- 事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。
- 発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。
- あわせて書く練習もする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 発音アクセントの基礎練習、朗読練習等を行う。
- 読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。
- スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。
- ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。
- 話したことを文章にまとめる。
- テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。

履修上の留意点

積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

必要に応じてコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 Ⅲ	た た ら あ き こ 多 田 羅 哲 子	全 学 科	2

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
 - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教科書

ビデオを使用。プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 Ⅲ	ゆ む ら れ い こ 湯 村 礼 子	全 学 科	2

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになること目指す。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テスト etc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度 etc）を総合的に評価する。

教科書

授業中にプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	いし ^{かわ} 石 ^{まもる} 川 守	全 学 科	2

講義のねらい

日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めていきたい。

履修上の留意点

授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	ゆ ^{むら} 湯 ^{れい} 村 ^こ 礼 子	全 学 科	2

講義のねらい

書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。

履修上の留意点

講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

作文・レポートなど（5回程度）
授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）

教 科 書

授業中にプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 V	石川 守 <small>いし かわ まもる</small>	全学科	2

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特徴を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでほしい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教科書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

日
本
事
情
科
目
・
日
本
語

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 V	多田 羅 哲 子 <small>た た ら あき こ</small>	全学科	2

講義のねらい

- ・読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。
- ・現在マスコミ等でよく使われている表現、外来語等の語彙などを知る。

講義の内容・授業スケジュール

本・新聞・雑誌等の生教材を読んで、今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを確認する。
テーマについて話し合ったり書いたりする。

履修上の留意点

授業中の活動が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

プリントを配布、ビデオも使用。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 VI	いし かわ まもる 石 川 守	全 学 科	2

講義のねらい

「いろはがるた」にあらわれる古くから庶民に親しまれてきた日本のことわざを通し、日本人の考え、日本語の表現、文法などを学んでいく。

講義の内容・
授業スケジュール

「いろはがるた」を読みながら、その内容について討論し、また、自国のことわざについて考えていく。

履修上の留意点

できるだけ、発言すること。

成績評価の方法

平常点と試験

教 科 書

コピーを配布する。

参 考 書 等

随時、教室で指示する。

そ の 他

特になし。

日
本
事
情
語
科
目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 VI	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全 学 科	2

講義のねらい

読解能力を向上させる。
文章を読むことを通して、文法や適切な語彙の使い方を確かめ、表現力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

小説・エッセイなどを中心に読み、そこに出てくる表現、語彙の使い方、文法などを確かめ、正しくより適切に使えるよう練習する。

履修上の留意点

授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点と筆記試験

教 科 書

プリントを配布。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅰ 〔地理〕(前期)	須山 聡 <small>す やま さとし</small>	全 学 科	2

講義のねらい

日本のさまざまな地域についての知識を深め、日本の地域的な特徴について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

授業はゼミ形式で進める。受講者で日本の特定地域（都道府県あるいは都市）を分担し、それぞれの地域について毎回2～3人に発表してもらい、それをもとに議論する。

成績評価の方法

出席と発表内容、および議論への参加状況によって評価する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅱ 〔自然〕(前期)	清水 善和 <small>し みづ よし かず</small>	全 学 科	2

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。また、日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候、地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート（2、3回）と出席回数に基づいて評価する。

教科書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

そ の 他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 Ⅲ 〔 歴 史 〕 (後 期)	みやもと ゆきこ 宮 本 由 紀 子	全 学 科	2

講義のねらい

日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。

履修上の留意点

板書を中心とし、わかり安く楽しい講義をこころがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。

成績評価の方法

出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。

教 科 書

なし

参 考 書 等

なし

そ の 他

講義のみ

日
本
事
情
語
科
目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 Ⅳ 〔 思 想 〕 (前 期)	あかば ゆきこ 赤 羽 由 規 子	全 学 科	2

講義のねらい

日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。
民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

そ の 他

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情 V 〔社会〕(後期)	うし しま ち ひろ 牛 島 千 尋	全 学 科	2

講義のねらい

本講義は、新聞・雑誌記事、ビデオ、関連文献・資料を用いて、日本の社会・文化等に関する基礎的な知識の学習とともに、現代日本の社会の仕組み、および、その成り立ちを学習することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の概略は次の通りである。1. 都市と農村の変容 2. 労働と余暇 3. マスメディアと若者文化 4. 都市と環境問題 5. 家族の変化と少子化 6. 女性の社会的地位 7. 日本の教育と階層構造 8. ライフスタイルと生活意識

成績評価の方法

レポートと講義中の発言によって総合的に評価する。

教科書

特に指定しない。資料を配布する。

その他

ビデオなどのマルチメディア教材を利用した講義を行う。履修者の人数にもよるが、それぞれのテーマについて、毎回、質疑応答や議論を合わせて行いたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情 VI 〔政治・法律〕(後期)	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	全 学 科	2

講義のねらい

日本の政治状況を外国との比較において解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

日本の政治状況をとらえた新聞記事などを読み、学生の間で意見交換する方法で勉強し、主として次のテーマの理解につとめる。
日本の国会、選挙、官僚、政策、政治史、政治文化など。

成績評価の方法

出席回数と平常点による。

教科書

『国会と政治改革』(小学館文庫)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 VII 〔 文 学 〕 (後 期)	おく はら じゅん こ 奥 原 淳 子	全 学 科	2

講義のねらい

本講義は、日本語を母語としない留学生を対象に、問題発見能力の涵養と、日本文学・日本語に対する理解を深めることを目標とします。

講義の内容・
授業スケジュール

各自がテーマを選定し、調査研究して発表する、という方法で授業を進めます。その際、内容はもちろん、言語面での問題点も共に考えていきます。

テーマは、文学作品、作家、日本語の言語項目を対象とします。

第一回の授業には、予め関心のある作品や作家、言語項目を持って出席してください。

履修上の留意点

受身でなく積極的な姿勢で臨むこと。

成績評価の方法

出席・提出物・発表・授業態度

教科書・
参考書等

その都度指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 VIII 〔 文 化 ・ 芸 術 〕 (後 期)	あか ぼ ゆ き こ 赤 羽 由 規 子	全 学 科	2

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。

また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回日にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参 考 書 等

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅸ 〔経済〕(前期)	瀬戸岡 紘 <small>せと おが ひろし</small>	全 学 科	2

講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくいいねいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？ 日本的経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？ 就業人口にしめる農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？ そして農業生産高はどうか？ そして時には余談もします。たとえば、この国の本当の名前ってニホンなの？ ニッポンなの？ それともジャパンでもいいの？ など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話ることがねらいです。

講義の内容・授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

日本の工業地帯と工業
日本の農村と農業および日本の水産業
日本のサービス業および金融
明治維新以前の日本経済の歴史
明治維新以降の日本経済の歴史
第2次世界大戦以降の日本経済の展開
日本経済とアメリカ経済
日本経済とアジア経済
日本経済と政府の役割
日本の労働者・サラリーマンの生活
日本経済と社会や文化の変化
その他

成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト30%、宿題30%が目安です。なお、この成績評価のためまえから、再試験は実施いたしません。

教科書・参考書等

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介します。日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にすることそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらでも紹介します。

そ の 他

授業は、おおむね日本語です。しかし、希望があれば、その日の要点を英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 X 〔 経 営 〕 (前 期)	すず き ころも き 鈴 木 幸 毅	全 学 科	2

講義のねらい

環境問題を取り上げ、外国の状況と比較しながら日本の特徴をとらえる。

成績評価の方法

出席を重視し、時々短いレポートの提出を求める。

教科書・
参考書等

教科書、参考書は、授業のはじめに指定する。

5. 教職課程・資格講座科目

- I 教 職 課 程
- II 学校図書館司書教諭講座
- III 社会教育主事講座
- IV 博物館学講座
- V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職課程および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

5. 教職課程・資格講座科目

〔注意〕頁（ ）は、他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は、主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示しています。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する科目（必修）

教 職 入 門	〈大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤 司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉〉	199	
教 育 の 思 想	〈豊 田 千代子〉	199	
教 育 の 思 想	〈北 村 三 子〉	200	
教 育 の 思 想	〈伊 藤 茂 樹〉	200	
教 育 の 思 想	〈村 山 輝 吉〉	201	
教 育 の 思 想	〈坂 本 信 昭〉	202	
教 育 と 社 会	〈豊 田 千代子〉	203	
教 育 と 社 会	〈北 村 三 子〉	203	
教 育 と 社 会	〈伊 藤 茂 樹〉	204	
教 育 と 社 会	〈村 山 輝 吉〉	204	
教 育 と 社 会	〈坂 本 信 昭〉	205	
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈大 浜 幾久子〉	205	
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈川 田 三 夫〉	206	
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈上 淵 寿 〉	207	
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈角 野 善 司〉	208	
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈大 浜 幾久子〉	209	
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈川 田 三 夫〉	209	
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈上 淵 寿 〉	210	
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈角 野 善 司〉	211	
教 育 と メ デ ィ ア	〈小 倉 康 仁〉	212	
教 育 と メ デ ィ ア	〈石 橋 達 也〉	213	
教 育 と メ デ ィ ア	〈芝 崎 順 司〉	214	
道 徳 教 育 の 研 究	〈加 藤 幸 夫〉	215	
道 徳 教 育 の 研 究	〈小 川 一 郎〉	216	
道 徳 教 育 の 研 究	〈鶴 卷 武 〉	217	
特 別 活 動	〈加 藤 幸 夫〉	218	
特 別 活 動	〈小 川 一 郎〉	219	
特 別 活 動	〈鶴 卷 武 〉	220	
生 徒 指 導 論（進路指導を含む）	〈小宮山 要〉	221	
生 徒 指 導 論（進路指導を含む）	〈国 眼 眞 理 子〉	222	
生 徒 指 導 論（進路指導を含む）	〈佐 藤 尚 人〉	223	
生 徒 指 導 論（進路指導を含む）	〈遠 藤 司 〉	223	
生 徒 指 導 論（進路指導を含む）	〈川 原 誠 司 〉	224	
教 育 臨 床	〈小宮山 要〉	224	
教 育 臨 床	〈国 眼 眞 理 子〉	225	
教 育 臨 床	〈佐 藤 尚 人〉	226	
教 育 臨 床	〈遠 藤 司 〉	226	
教 育 臨 床	〈川 原 誠 司 〉	227	
総 合 演 習(1)	〔障害児と教育〕	〈遠 藤 司 〉	227
総 合 演 習(2)	〔障害児と福祉〕	〈遠 藤 司 〉	228

総合演習(3)	〔環境教育〕	〈北村和夫〉	228
総合演習(4)	〔近代社会と身体〕	〈北村和夫〉	229
総合演習(5)	〔対人関係とストレス〕	〈川原誠司〉	229
総合演習(6)	〔学校における対人関係〕	〈川原誠司〉	230
総合演習(7)	〔精神障害者と地域〕	〈野中弘敏〉	230
総合演習(8)	〔精神障害者とボランティア〕	〈野中弘敏〉	231
総合演習(9)	〔教育と法律〕	〈広沢明〉	231
総合演習(10)	〔子どもの人権〕	〈広沢明〉	232
総合演習(11)	〔生と死の教育〕	〈柳堀素雅子〉	232
総合演習(12)	〔生命倫理〕	〈柳堀素雅子〉	233
総合演習(13)	〔現代的学习課題とジェンダー〕	〈中澤智恵〉	233
総合演習(14)	〔学校教育におけるジェンダー〕	〈中澤智恵〉	234
総合演習(15)		〈休講〉	
総合演習(16)		〈休講〉	
総合演習(17)	〔現代家族の諸問題と教育〕	〈熊谷一乗〉	235
宗教科教育法	〈小山一乗〉	236	
国語科教育法	〈神谷道倫〉	237	
書道科教育法	〈那須隆吉〉	237	
英語科教育法	〈荒井良雄〉	238	
社会科教育法 I	〈生田清人〉	238	
地理歴史科教育法 I	〈生田清人〉	239	
社会科教育法 I	〈桜井明久〉	239	
地理歴史科教育法 I	〈桜井明久〉	240	
社会科教育法 I	〈藤木正国〉	240	
地理歴史科教育法 I	〈藤木正国〉	241	
社会科教育法 II	〈橋爪敏〉	241	
公民科教育法 I	〈橋爪敏〉	242	
社会科教育法 II	〈谷敷正光〉	243	
公民科教育法 I	〈谷敷正光〉	244	
社会科教育法 II	〈小川輝之〉	245	
公民科教育法 I	〈小川輝之〉	245	
商業科教育法	〈谷敷正光〉	246	
職業科教育法	〈前田幸一〉	247	
教育実習 I・II	〈豊田千代子〉	247	
教育実習 I・II	〈坂本信昭〉	248	
教育実習 I・II	〈村山輝吉〉	248	
教育実習 I・II	〈北村三子〉	249	
教育実習 I・II	〈伊藤茂樹〉	249	
(2) 教科又は教職に関する科目〔平成12年度以降入学生〕			
教職に関する科目(選択)〔平成11年度以前入学生〕			
教育関係法規	〈広沢明〉	250	
教育評価	〈大浜幾久子〉	250	
教育法規研究	〈休講〉		
教育哲学	〈北村三子〉	251	
教育情報学	〈小倉康仁〉	251	
教育臨床心理学	〈牟田隆郎〉	252	
教育社会学	〈熊谷一乗〉	253	
教育史	〈山本敏子〉	254	

教育調査	〈鈴木規夫〉	255
芸術教育	〈香川良成〉	255
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	〈熊谷一乗〉	256
青少年問題研究	〈讚岐真佐子〉	257
宗教教育	〈小山一乗〉	258
生涯学習概論Ⅰ	〈豊田千代子〉	(259)
生涯学習概論Ⅱ	〈豊田千代子〉	(259)
視聴覚教育	〈飯森彬彦〉	(259)
社会教育施設	〈村山輝吉〉	(259)
学校経営と学校図書館	〈山田節子〉	(259)
読書と豊かな人間性	〈山田節子〉	(259)
学校図書館メディアの構成	〈源昌久〉	(260)
学校図書館メディアの構成	〈篠田耀子〉	(260)
情報メディアの活用	〈源昌久〉	(260)
情報メディアの活用	〈篠田耀子〉	(260)
学習指導と学校図書館	〈山田節子〉	(260)

(3) 教科に関する科目

【社会・地理歴史・公民】

東洋思想史	〈末木恭彦〉	261
美術史概説	〈矢野陽子〉	261
民間信仰論	〈谷口貢〉	262
人文地理学概説	〈小池とみ子〉	262
自然地理学概説	〈高木正博〉	263
自然地理学概説	〈中村和郎〉	263
地誌学概説	〈川元豊和〉	264
地誌学概説	〈新井祥穂〉	265
地誌学概説	〈藤島範孝〉	265
日本仏教史	〈休講〉	
日本文化史Ⅰ	〈廣瀬良弘〉	266
日本文化史Ⅱ	〈休講〉	
歴史哲学	〈麻生建〉	266
日本史概説	〈出口宏幸〉	267
日本史概説	〈小松寿治〉	267
世界史概説	〈井村行子〉	268
世界史概説	〈渡辺惇〉	269
社会学原論	〈渡辺源樹〉	270
宗教人類学	〈佐藤憲昭〉	271
経済原論	〈畠中貴〉	272
経済原論	〈大石雄爾〉	273
経済原論	〈浅野克巳〉	274
経済原論	〈松井柳平〉	275
経済原論	〈橋本泰明〉	276
民法Ⅰ	〈大宮隆〉	277
政治学原論	〈大塚桂〉	278
日本宗教文化史	〈池上良正〉	279
民衆宗教成立史	〈津城寛文〉	279
宗教学概説	〈洗建〉	280
宗教学概説	〈池上良正〉	280

宗 教 学 概 説	〈津 城 寛 文〉	281
哲 学 概 説	〈久 保 陽 一〉	281
哲 学 概 説	〈末 木 恭 彦〉	282
倫 理 学 概 説	〈河 谷 淳〉	282
【職 業】			
産 業 概 説	〈前 田 幸 一〉	283
職 業 指 導	〈前 田 幸 一〉	283
商 業 実 習	〈前 田 幸 一〉	284
【商 業】			
職 業 指 導	〈前 田 幸 一〉	(284)
コ ン ピ ュ ー タ 基 礎	〔教職課程登録者用〕	〈鈴 木 健 司〉 (285)

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

学校経営と学校図書館	〈山 田 節 子〉	289
読書と豊かな人間性	〈山 田 節 子〉	289
学校図書館メディアの構成	〈源 昌 久〉	290
学校図書館メディアの構成	〈篠 田 耀 子〉	290
情報メディアの活用	〈源 昌 久〉	291
情報メディアの活用	〈篠 田 耀 子〉	291
学習指導と学校図書館	〈山 田 節 子〉	292

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育計画	〈村 山 輝 吉〉	295
生涯学習概論Ⅰ	〈豊 田 千代子〉	296
生涯学習概論Ⅱ	〈豊 田 千代子〉	297
社会教育実習	〈豊 田 千代子〉	298
社会教育実習	〈村 山 輝 吉〉	298

(2) 選択必修科目

社会教育行政	〈荒 井 隆〉	299
社会教育施設	〈村 山 輝 吉〉	299
成人学習論	〈荒 井 隆〉	300
ジェンダーと教育Ⅰ	〈中 澤 智 恵〉	300
ジェンダーと教育Ⅱ	〈中 澤 智 恵〉	301
職業教育Ⅰ	〈塩 川 正 人〉	301
職業教育Ⅱ	〈塩 川 正 人〉	302
社会体育Ⅰ	〈古 田 潤 子〉	302
社会体育Ⅱ	〈古 田 潤 子〉	303
教育の思想		(303)
教育と社会		(303)
発達と学習の心理学		(303)
教育とメディア		(303)
社会心理学	〈坪 井 健〉	304
視聴覚教育	〈飯 森 彬 彦〉	(304)
教育社会学	〈熊 谷 一 乗〉	(304)
教育史	〈山 本 敏 子〉	(305)
教育調査	〈鈴 木 規 夫〉	(305)
青少年文化	〈香 川 良 成〉	305
現代社会の諸問題と教育Ⅰ	〈熊 谷 一 乗〉	306
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	〈熊 谷 一 乗〉	307
青少年問題研究	〈讃 岐 真 佐 子〉	(307)
青少年指導演習	〈平 野 学〉	308
博物館学Ⅰ(概論)	〈太 田 喜 美 子〉	(309)
博物館学Ⅱ(資料論)	〈岸 上 興 一 郎〉	(309)
情報メディアの活用	〈源 昌 久〉	(309)
情報メディアの活用	〈篠 田 耀 子〉	(309)
読書と豊かな人間性	〈山 田 節 子〉	(309)

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

視聽覚教育〈飯森彬彦〉	313
考古発掘実習〈飯島武次・酒井清治〉	313
博物館学Ⅰ(概論)〈太田喜美子〉	314
博物館学Ⅱ(資料論)〈岸上興一郎〉	314
博物館学Ⅲ(経営論・情報論)〈岸上興一郎〉	315
博物館実習Ⅰ(館務)〈太田喜美子・飯島武次・酒井清治〉	315
博物館実習Ⅱ(収集)〈太田喜美子・國見徹・久保田昌希 小林和幸・酒井清治・佐々木真 瀧音能之・廣瀬良弘〉	316
博物館実習Ⅲ(見学)〈太田喜美子・酒井清治・松本信道〉	316
教育の思想	(317)
教育と社会	(317)
生涯学習概論Ⅰ〈豊田千代子〉	(317)
生涯学習概論Ⅱ〈豊田千代子〉	(317)

(2) 選択必修科目

インド仏教文化史〈休講〉	
中国仏教文化史〈永井政之〉	318
日本仏教文化史〈袴谷憲昭〉	318
禅美術	〈前期:松村哲文〉 〈後期:海老根聰郎〉 319
仏教美術	〈松田誠一郎〉 319
仏教民俗学	〈須藤寛人〉 320
日本民俗学	〈谷口貢〉 321
美術史概説	〈矢野陽子〉 321
現代美術	〈矢野陽子〉 322
地形学	〈小池一之〉 322
第四紀学	〈鈴木毅彦〉 323
考古学概説Ⅰ(日本)	〈酒井清治〉 323
考古学概説Ⅱ(外国)	〈飯島武次〉 324
日本文化史Ⅰ	〈廣瀬良弘〉 324
西洋文化史Ⅰ	〈休講〉
日本文化史Ⅱ	〈休講〉
西洋文化史Ⅱ	〈佐々木真〉 325
考古学特講Ⅰ	〈休講〉
考古学特講Ⅱ	〈田村晃一〉 325
考古学特講Ⅲ	〈酒井清治〉 326
考古学特講Ⅳ	〈矢野和之〉 327
西域美術史	〈松平美和子〉 328
宗教人類学	〈佐藤憲昭〉 328

V 社会福祉主事・社会福祉士基礎講座

(1) 必修科目

※社会福祉原論〈伊藤秀一〉	331
※社会福祉原論〈船水浩行〉	332

(2) 選択科目

※法学(福祉)〈小林弘人〉	333
社会福祉発達史〈林千代〉	334
リハビリテーション論〈生川善雄〉	334
※社会保障論〈船水浩行〉	335
家庭福祉論〈休講〉	
社会福祉計画論〈川廷宗之〉	336
国際社会福祉論〈山本真実〉	337
保健福祉論〈長尾譲治〉	338
※公的扶助論〈伊藤秀一〉	338
※障害者福祉論〈桐原宏行〉	339
※老人福祉論〈東條光雅〉	340
児童福祉論〈山本真実〉	341
女性福祉論〈林千代〉	342
医療福祉論〈春見静子〉	342
※地域福祉論〈豊田宗裕〉	343
※社会学(福祉)〈橋爪敏〉	344
※心理学(福祉)〈高橋良博〉	345

上記科目のうち、※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみを対象とする科目です。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する科目（必修）

科目名	担当者名	配当学科	単位
教職入門 (後期)	大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉	12以降入学生/教職1必	2

講義のねらい

高度消費社会の出現や、情報化社会の進展の中で、今日の日本の教育界は多くの困難な問題を抱えています。将来教師になろうとする人には、そうした問題に自ら取り組んでいく覚悟とそれを越えてゆける力量が必要となるでしょう。その力量の中には、知識ばかりでなく、関心の広さ、感受性、想像力、柔軟な発想、そして体力など、きわめて多様なものが含まれます。この講義では、教職課程の専任教員7名に加え、外部からも講師をお迎えして、さまざまな角度から教育を語っていきませんが、教師になるための勉強の第一歩として、教師という職業には関心を持つべき多くのことがあるということ、まずは実感してください。

講義の内容・授業スケジュール

今日の教育に関する諸問題をオムニバス形式で講じていきます（毎回テーマと講師が代わっていきます）。また11月12日(月)および11月15日(木)は、普通の講義ではなく、学部1年次生を対象とした教職課程・資格講座のガイダンスが予定されています。詳しいスケジュールは、初回の講義で配布される予定です。

成績評価の方法

レポートによる評価。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	豊田千代子	教職2必 (禅・仏教)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業では、「子どもの権利条約を思想として読む」ことをめざす。1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」は、ポーランドによって提案された。この背景の一つには、第一次世界大戦および第二次世界大戦下で多くのポーランドの子どもたちが戦争の犠牲になった（第二次大戦では、とくにユダヤ系ポーランド人の子どもたちの人権が守られなかった）という歴史的事実とそのことへの反省がある。

ユダヤ系ポーランド人の教育者であり医者であり、また作家でもあったヤヌシュ・コルチャック（本名ヘンリク・ゴルドシュミット、1878～1942）は、当時、孤児院の子どもたちのくらしや教育に携わっていたが、それらにみられる「コルチャック先生」の教育の思想、とりわけその核をなす子ども観は、子どもの権利条約の思想的基礎となっているとも言われている。

このようなコルチャック先生の教育の思想を土台にしつつ、わが国の教育をめぐる子どもたちの現状について考えたり、子どもの権利条約を読んでみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ・自分たちの受けてきた教育のふり返り
- ・教育をめぐる子どもたちの現状
- ・コルチャック先生の思想
- ・子どもの権利条約とコルチャック先生

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

樋渡直哉『子どもの権利条約とコルチャック先生』（ほるぷ出版）

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	きたむらみつこ 北村三子	教職2必 (国文・英米文・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日の日本の教育制度の理念や思想について深く理解するために、その源流となる西洋近代の教育思想を学んでいきます。あわせて、今日の教育をめぐる諸問題を乗り越えていけるような新たな教育思想のあり方を探っていきたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

- ①近代教育思想の特徴…18世紀の啓蒙思想、19世紀後半から20世紀にかけて発展をみる教育学や発達論など、近代社会・国家の成立と手を携えて近代学校制度を生み出したもののうち、代表的なものをいくつか取り上げて検討します。
- ②近代教育思想の再考…今日の不登校や学級崩壊などの現象は、近代学校システムが機能不全になりつつあることを暗示していますが、それはまた近代教育思想の行き詰まりを意味しています。そこで近代教育思想から何を受け取り、何を変革しなくてはならないのかを探るために、近代では周回的だった教育思想や実践を検討します。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

試験（あるいはそれに代わるレポート）

参考書等

教場で指示

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	いとうしげき 伊藤茂樹	教職2必 (地理・歴史・法A・政治)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・近代社会と教育
- ・学校という場

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育の思想 (前期)	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	教 職 2 必 (経 A)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は個々人の人格形成に深く関与する個人的事象であると同時に、社会のありようによって大きく影響され、また逆に、社会のあり方やその形成に直接間接作用を及ぼす歴史的・社会的事象でもある。従ってここでは、「教育の思想（前期）」と「教育と社会（後期）」の両科目を通じて、教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、各種の資料や下村湖人の著作等をも参考にしながら、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。両科目を通じて、人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた歴史的・社会的視座から考えられる能力を育てることをめざしているが、この「教育の思想」では、主として教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な理解を図ることに重点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表（口頭または作文）と、それを系統的・論理的に整理する作業
第2ステップ 第1ステップで整理された諸課題のうち、主として教育の理念や歴史、思想にかかわるものについて、資料や文献を参考にしながら考察を深める作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育の思想 (前期)	さかのぼりのあき 坂本信昭	教職2必 (商・経営)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

民主主義的教育思想はルソー、ペスタロッチ、フレーベル、エレン・ケイ、デューイなど多くの思想家によって生み出され、継承されて今日に至り、教育思想と実践の面で多様な展開を示した。

20世紀の教育思想を生み出し、継承することに貢献した思想家たちの教育思想・教育目的を概観することを手初めに、次のようなテーマを取り上げて進める。

- ・教育の理想と目的
- ・わが国の教育目的
- ・現代・社会の変化と教育目的
- ・その他

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』(昭和堂) 2,600円

参考書等

デューイ著『学校と社会』(岩波文庫) 410円

その他

- ・必要な資料を適宜配布する。
 - ・この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
- この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	豊田千代子	教職2必 (禅・仏教・国文)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育と社会とは、相互に緊密な関係にある。教育は社会のあり方に影響を受けるとともに、社会にも影響を及ぼしている。したがって、教育を考える場合、それを社会と切り離して考えることはできず、社会の中での教育・教育の中にみられる社会という視点からの検討が不可欠であろう。授業では、現代における教育の諸問題を総合的にとらえる力を形成するために、このような視点を養うことをめざしたい。

講義の内容・授業スケジュール

自分たちが受けてきた教育をふり返り、その中でみえてきた教育のさまざまな問題を、社会の歴史や構造等との関連で検討する。また、障害者、女性、在日外国人、義務教育未修了者などの教育に焦点を当て、それらの教育と社会との関係を考える。

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	北村三子	教職2必 (禅・仏教・国文・英文・地理・歴史)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育のあり方と社会のあり方との間には密接な関係がありますが、本講義では、とりわけ、近代社会と教育との関係を中心に考察してゆきます。今まで体験してきた学校教育をもう少し広い視野から捉えなおし、自分達がどのように社会的に形成されてきたのかを改めて考えてみたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

- ①近代学校システムの特質……近代学校システムの成立とその特徴について論じます。
- ②近代学校システムを越えて……不登校その他の具体的な問題を通して近代学校システムの矛盾について考察し、今後の教育のありかたを探ります。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

試験（またはそれに代わるレポート）

参考書等

教場で指示

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	伊藤 茂樹 <small>とう しげ き</small>	教職 2 必 <small>(地理・歴史・社会・福祉・心理) 経A・法A・政治・経営)</small>	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会において学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
 ・現代の教育問題
 ・教育改革の現在

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がけること。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	村山 輝吉 <small>むら やま てる よし</small>	教職 2 必 <small>(英米文・福祉・心理・経A・商)</small>	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は個々人の人格形成に深く関与する個人的事象であると同時に、社会のありようによって大きく影響され、また逆に、社会のあり方やその形成に直接間接作用を及ぼす歴史的・社会的事象でもある。従ってここでは、「教育の思想（前期）」と「教育と社会（後期）」を通じて、教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、各種資料や文献を参考に、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。両科目を通じて、人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた歴史的・社会的視座から考えられる能力を育てることをめざしているが、この「教育と社会」では、主として教育に関する社会的・制度的事項についての基礎的な理解を図ることに重点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表（口頭または作文）と、それを系統的・論理的に整理する作業
 第2ステップ 第1ステップで整理された諸問題のうち、主として教育に関する社会的、制度的事項について、資料や文献を参考にしながら考察を深める作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	さかもと のぶ あき 坂本 信 昭	教職2必 (商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

人間の社会に余暇をもつ少数の人々が生まれたときに学校は生まれた。いわば余暇とともに学校は生まれたのである。もし余暇がすべての人々のものとなると、それは、社会そのものが全体として学習と教育の場所、つまり学校になるときであるかも知れない。

講義で取り上げるテーマとしては、次のようなものを考えている。

- ・学校教育のあゆみ
- ・学校の社会的機能
- ・学校教育の現実と課題
- ・その他

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』(昭和堂) 2,600円

参考書等

デューイ著『学校と社会』(岩波文庫) 410円

その他

- ・必要な資料を適宜配布する。
- ・この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
- この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
発達と学習の心理学 (前期)	おおはま きくこ 大 浜 幾 久 子	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文) (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のような基本的な問題をめぐる諸研究を学んでいく。その際、基礎的な心理学実験の実習も試みたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 発達と学習は、どのように定義され、また両者の関係はどのように説明されるのか。
- 2) 知能の発達と情意の発達は、どのような関係にあるのか。
- 3) 障害をも含む発達および学習における個人差を、どのようにとりあげ得るのか。

成績評価の方法

レポート提出を中心とした平常点評価の予定である。

教科書

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	かわ だ みつ お 夫	教 職 2 必 (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1)子供の成長・発達の概要を理解する。
(2)教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①発達について、乳児期、②幼児期前期、③幼児期後期、④児童期前期、⑤児童期後期、⑥青年期前期、⑦青年期中期、⑧青年期後期、⑨人格の発達、⑩社会性の発達、⑪問題行動、⑫学習・教育心理学、⑬教育学・教育原理、⑭学校・教員をめぐる問題点、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点（100点満点）で所定の基準に従い評価される。

教 科 書

教科書は特に指定しない。

参 考 書 等

参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。
この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学（教育方法論を含む）」あるいは「青年心理学（教育方法論を含む）」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	うえ ぶち 上 淵	ひまし 寿	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、従来でいえば「教育心理学」と呼ばれていたものである。そのため、学校教育に関する問題や現象について理解し、そこにいかに心理学的知識をもって関わっていく必要があるのかを、理解することが重要である。

したがって、講師からの一方的な講義は問題に焦点をあてたり、この内容の理解の導入を容易にするのにとどめる。受講者の人数にもよるが、受講者同士でグループによるディスカッションや資料調査などを中心に行ってもらうこともある。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 オリエンテーション (全体の概説)
 - 2 教育心理学とは (学校心理学と教育心理学) グループ編成
 - 3 問題を抱える教師1 - 子どもがわからない - (教師の教育観、学級崩壊)
 - 4 問題をかかえる教師2 - 忙しさと向き合う - (教師のバーンアウトとその対策)
 - 5 問題を抱える子ども1 (意欲の減退、他人との関わり、ひきこもり)
 - 6 問題を抱える子ども2 (学習観や認知方略の指導等、学習相談)
 - 7 みとりとまなざし (評価、学力の問題)
 - 8 意思決定と判断のあやまり (教育活動の判断の偏り)
 - 9 発達に応じた関わりをするには?
- 以上のような内容について講義をする。

履修上の留意点

単に受け身で講義を聴くような態度では、単位取得は難しいだろう。

当然だが、講義中の私語はマナー違反である。いつまでも平気で私語をするような学生には、即座に退室してもらう。

授業には流れがあるので、履修登録だけして一月以上も経ってから教室に現れるようなことはないようにしてほしい。

成績評価の方法

学期末に提出するレポートによる。具体的な評定の仕方については、初回の講義で述べる。

教科書

無藤隆・市川伸一 (編著) 「学校教育の心理学」(学文社)

参考書等

講義中に指示する。

その他

講義形式で行うが、ビデオ・OHP等を使うこともある。また、グループによるディスカッションや、資料調べなどもする場合がある。

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回日の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	すみ 角 の 野 ぜん じ 善 司	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文) 地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育心理学は、教育場面に対して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てていきます。講義を通じて学び、考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと願っています。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の2つを中心テーマとして進めます。

- ①人間の生涯にわたる発達
- ②学習への動機づけ

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で教員免許や社会教育主事などの資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席して、主体的な態度で臨んでください。また、教養教育科目としても履修可能ですが、それらの学生にも同様のことを要求します。

成績評価の方法

出席・課題提出・学期末テスト・学期末レポートの4点から、評価する予定です。いずれか1つでも、合格水準に達していなければ、単位を与えません。

教 科 書

使用しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参 考 書 等

講義の進行に合わせ、適時紹介します。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回日の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	おお しま きく こ 大 浜 幾 久 子	12以降入学生/教職2必 (禅・仏教・国文・英米文) (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

はじめに、学生自身が学んできた小学校、中学校、高等学校における教育課程がどのように編成されていたのかを、当該の学習指導要領により考える。次に、新しい教育課程を学び、その背景にある基本的考え方について考察していく。とくに教科・科目等の具体的内容の削減や再編については、子どもの発達と学習の観点からの考察を深めたい。さらに、諸外国における学習課程の歴史や編成原理について、異文化間教育学的な観点から検討を試みる。その際、潜在的カリキュラムにも注目することとする。

成績評価の方法

レポート提出を中心とした平常点評価の予定である。

教科書

『(小学校・中学校・高等学校)学習指導要領』(文部省)

その他

前期、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。
この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	かわ だ みつ お 川 田 三 夫	12以降入学生/教職2必 (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1)教育課程を中心に学校の全般的な運営について理解する。
- (2)教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・授業スケジュール

- ①教育について、②学習・教育心理学、③教育学・教育原理、④発達心理学、⑤教育課程、⑥学習指導要領、⑦普通教育・職業教育、⑧障害児教育、⑨教育方法、⑩教育評価、⑪新しい動向(1)、⑫新しい動向(2)、⑬生徒・教師の諸問題、⑭教育・学校の諸問題、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点(100点満点)で所定の基準に従い評価される。

教科書

教科書は特に指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

その他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。
前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。
この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	うえ 上 淵 ひさし 寿	12以降入学生/教職2必 (地理・歴史・社会・福祉・心理) 経A・商・法A・政治・経営	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、教師が実際に学校の中でどのように学習者とかかわり、教え、教育内容を作り上げていくのか、といった点の理解に主眼をおく。

したがって、そのまなざしは、教師からのものを中心に成るが、逆に受講者は、自分もっているであろう、学習者としてのまなざしとのギャップ、そしてそれをいかに乗り越えていくのかについて、考えてもらいたい。講師からの一方的な講義は問題に焦点をあてたり、この内容の理解の導入を容易にするのにとどめる。受講者の人数にもよるが、受講者同士でグループによるディスカッションや資料調査などを中心に行ってもらうこともある。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 オリエンテーション (全体の概説)
 - 2 教師としてのまなざしをもつ (教師の見方、学習者の見方)
 - 3 教育をめぐる考え方の変化 (新しい学力観、生きる力、体験型学習、学力低下等)
 - 4 ふれあい、かかわり、つきはなし (ケアリング、教師学など)
 - 5 教室に入ってくるまで (子どもへのかかわり、支援、教育方法)
 - 6 教えないことと教えること (カリキュラムの構成原理)
 - 7 わかることとわからないこと (カリキュラムと経験主義、活動)
 - 8 なぜ学校教育があるのか (人格陶冶、形式的陶冶、実質陶冶…)
 - 9 教師として生きる (気質、熟達化、専門性、一人の人間として)
- 以上のような内容について講義をする。

履修上の留意点

単に受け身で講義を聴くような態度では、単位取得は難しいだろう。
当然だが、講義中の私語はマナー違反である。いつまでも平気で私語をするような学生には、即座に退室してもらう。
授業には流れがあるので、履修登録だけして一月以上も経ってから教室に現れるようなことはないようにしてほしい。

成績評価の方法

学期末に提出するレポートによる。具体的な評定の仕方については、初回の講義で述べる。

教科書

鹿毛雅治・奈須正裕 (編著)『学ぶこと・教えること－学校教育の心理学－』(金子書房)

参考書等

講義中に指示する。

その他

講義形式で行うが、ビデオ・OHP等を使うこともある。また、グループによるディスカッションや、資料調べなどもする場合がある。
前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。
この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	すみの 野 ぜん じ 角 野 善 司	12以降入学生/教職2必 (禅・仏教・国文・英米文) (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育心理学は、教育場面对して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特にカリキュラムと学習に焦点を当てていきます。講義を通じて学び、考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと願っています。

講義の内容・授業スケジュール

以下の3つを中心テーマとして進めます。
 ①カリキュラムとは
 ②生徒の学習、および学習に対する教授過程
 ③教育場面における評価の目的やあり方

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で教員免許や社会教育主事などの資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席して、主体的な態度で臨んでください。また、教養教育科目としても履修可能ですが、それらの学生にも同様のことを要求します。

成績評価の方法

出席・課題提出・学期末テスト・学期末レポートの4点から、評価する予定です。いずれか1つでも、合格水準に達していなければ、単位を与えません。

教科書

使用しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参考書等

講義の進行に合わせて、適時紹介します。

その他

前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。
 この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教育とメディア (前期)(後期)	お <small>くら</small> 倉 <small>やす</small> 康 <small>よし</small> 仁	教 職 2 必 (<small>祥・仏教・国文・英米文</small>) (<small>地理・歴史・社会・福祉・心理</small>)	2

※経B・法B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

ここ十年あまりの間に、コンピュータ関連技術のめざましい進歩と同時に、我々とコンピュータとの係わり合いの在り方が以前と比べて様変わりしてきている。かつてルーティンワークの省力化・効率化の手段として我々の社会に導入されたコンピュータは、今や個人の表現・創造活動や問題解決思考のツール(道具)として不可欠のものとなっている。しかもそれらの活動を行うための単なる道具の手段に止まるものではなく、我々がそれらの活動を通じてこの世界に参加していく(世界と相互作用する)際のメディア(媒介物・媒体)としての役割を果たしていると言える。とくに最近では、個人と個人の間を取り持ち人間のネットワークを支える「コミュニケーションのメディア、コラボレーション(協働作業)のメディアとしてのコンピュータ」という位置づけが重要視されるようになってきている。

このようなコンピュータの利用形態と社会的な位置づけの変化を背景として、教育分野におけるコンピュータ活用形態も大幅に変化してきている。そこでこの授業のねらいは、次の三つとする。

1. 「メディアとしてのコンピュータ」という切り口で、教育分野におけるコンピュータの活用方法について、教育学(教育方法論)の視点から理論的に考察する。
2. 問題解決思考のツール(メディア)としてコンピュータを利用してみる。
3. コミュニケーションやコラボレーションのメディアとしてコンピュータを利用してみる。

講義の内容・ 授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせる授業を進める。講義部分の授業内容は、上述のねらい1.としてあげた事柄が主体となる。実習部分の授業内容は、上述のねらい2.と3.としてあげたものが相当し、具体的には以下の事項を予定している。(なお実習授業の進行速度は、パソコン初心者でも付いて来られるように配慮するつもりである。)

- パソコンの基本操作
- 表計算ソフト EXCEL によるデータ整理・集計・分析、およびシミュレーション
- WWW ブラウザによるホームページ閲覧
- インターネット (WWW) 上での情報検索・収集
- インターネット上での電子メールによるやりとり

履修上の留意点

履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。

成績評価の方法

平常点(出席、学習態度、提出物など)と期末試験(ペーパーテスト)との総合点によって、成績評価を行なう。

教科書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

その他

授業内の操作実習には Windows パソコンを使用する。
また、この授業の履修希望者は、前期履修/後期履修を問わず、全員必ず4月の第1回授業に出席すること。(正当な理由なしに欠席した場合には、履修を認めないこともあります。)
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教育とメディア (前期) (後期)	いし ばし たつ や 石 橋 達 也	教 職 2 必 (傳・仏教・国文・英文・地理・歴史・社会) (福祉・心理・経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本授業では、情報化社会が著しく進展していく今日の状況での教育の在り方について学んでいきます。はじめに、教育／学習あるいは授業の捉え方や教育におけるメディアの利用の仕方について、教育心理学や教育方法論の観点から眺めます。それに続いて、インターネットなどを含めたコンピュータ活用教育について焦点を当て、その実践のために必要な操作や教師としての姿勢などについて学ぶとともに、コンピュータ利用上の注意点や問題点についても検討していきます。

講義の内容・
授業スケジュール

授業のスケジュールとしては、およそ以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。
1. 教育の情報化と教育方法、2. 授業と学習過程の理解、3. 学習者特性の理解、4. 授業モデルと授業設計、5. 教育メディアとメディアリテラシー、6. 教育へのコンピュータの導入、7. コンピュータと情報活用能力、8. インターネットの活用と協同学習、9. インターネット社会の参加態度など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚して、毎回まじめに出席することと授業に積極的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は、期末試験の得点を中心にして、授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教 科 書

教科書は、次のものを使用する予定です。今栄国晴編著『新版 教育の情報化と認知科学——教育の方法と技術の革新——』（福村出版）1988 定価：本体2,400円＋税

参 考 書 等

授業の中で必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していく予定です。

そ の 他

授業の中で、毎回コンピュータを使用する実習時間があります。初歩的なレベルから始めていきますので、初心者でも学ぶ意欲があれば、安心して学習していただけるはずですが、教室のパソコンの台数にあわせて、受講者数を制限する場合があります。前期の1回日の授業に出席して、担当者の指導に従ってください。また、学部(昼間)の後期に履修を希望する者も、前期の1回目の授業に出席することを原則とします。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教育とメディア (前期)(後期)	しば さき じきん 芝 崎 順 司	教 職 2 必 (種・仏教・国文・英米文・地理・歴史・社会) (福祉・心理・経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、マルチメディア・ネットワーク時代の学校教育・社会教育等教育活動の担い手として、さらには、生涯学習者として、必須と思われる各種のリテラシー（知識・技能・態度）を修得する目的や方法論について検討することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 メディアの歴史を概観し、現状、および将来の展望について検討する。
- 2 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。
- 3 マルチメディア・ネットワークに対応する各種のリテラシーについて、主として、欧米の先行的事例を紹介し、かつ、検討する。
- 4 マルチメディア・ネットワークワークリテラシープログラムを具体的に体験し、自己の情報リテラシーを高めるとともに、その目的や方法論について検討する。

履修上の留意点

コンピュータや各種の映像機器を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起にならざるをえない内容も多く含む。授業への積極的参加を期待する。

成績評価の方法

出席重視。評価は小レポートと最終レポートを総合的に評価しておくよう。

教 科 書

授業中に紹介する。

参 考 書 等

必要に応じて、授業中に紹介する。

そ の 他

コンピュータや各種の映像機器を活用した講義や実習を中心とする。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	か とう ゆき お 加 藤 幸 夫	教職 2・3 必 (地理・歴史・経 A・商)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史の変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 道徳および道徳教育の本質
- II 現代社会と道徳教育
- III 戦前・戦後における道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学習指導要領と道徳教育
- VI 道徳の時間における道徳教育
- VII 道徳教育の評価
- VIII 道徳教育の課題と展望

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を思い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

中野目直明・小川一郎編『新しい道徳教育』（酒井書店・育英堂）1,995円

参 考 書 等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	お 小 川 一 郎 お 小 川 一 郎	教 職 2 ・ 3 必 (国 文 ・ 英 米 文 ・ 法 ・ 政 治)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

道徳教育は、人格の完成を目指す教育の根幹をなすものである。道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行うものであるが、小・中学校には、その中核として「道徳の時間」が設置され、学級担任が担当することになっている。

この「道徳の時間」を指導することができることを目指して、授業案を作成したり、模擬授業など実施し、実践的指導力を身につけさせたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①道徳教育の目的と意義
- ②戦前の道徳教育の特色
- ③戦後の道徳教育の特色、道徳の時間の設置の意味
- ④学習指導要領と道徳教育
- ⑤道徳性と道徳的实践力
- ⑥道徳の時間の内容と方法
- ⑦学習指導案の作成
- ⑧模擬授業の実施
- ⑨道徳の授業展開の問題点
- ⑩道徳教育と教師の役割

履修上の留意点

単なる知識の習得でなく、実践的指導力をつけることを目指しているので、授業に出席して、指導力を身につけるようにする。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教 科 書

小川一郎・中野目直明編著『新しい道徳教育』（酒井書店）2,000円

参 考 書 等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』（清水書院）1,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	つるまき 鶴 巻 武	教 職 2 ・ 3 必 (神・仏教・社会・福祉・心理・経営)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日の学校教育では、一人ひとりの生徒が夢や目標をもち、自らの人生や社会を切り開くことのできる豊かでたくましい心を育てるための道徳教育の一層の充実発展が求められている。この時間では、教育課程の一領域として位置づけられている「道徳」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を行う。また、新学習指導要領に示された改善の趣旨に基づいて教師としての実践的な指導力を身につけるため道徳の時間の指導計画（道徳の学習指導案）について、実際に立案し、具体的な指導の方法などを研究する。

講義の内容・
授業スケジュール

①教育改革の動向と求められる心の教育 ②道徳教育の目標と道徳の時間の目標 ③道徳の時間の指導内容 ④生徒の道徳性をどうとらえるか ⑤規範なき時代の心の教育 ⑥心の底から納得できる道徳の時間の指導 ⑦力のある資料での道徳の時間の指導の実際 ⑧生命を尊重する心を育てる指導の在り方 ⑨社会のルールを守る心を育てる指導の在り方 ⑩道徳の時間の学習指導案の書き方 ⑪道徳の時間の資料分析の仕方 ⑫道徳の時間の学習指導案を実際を書く ⑬教師の指導技術をどう高めるか

履修上の留意点

文献に基づく道徳教育に関する研究だけでなく、道徳の具体的な指導の内容や方法について理解し、実際に指導できる能力を身につけて欲しい。

成績評価の方法

試験、出席状況、学習指導案の作成等を総合的に判断し、評価する。

教 科 書

文部省『中学校学習指導要領解説－道徳編－』（大蔵省印刷局）260円

参 考 書 等

七條正典編著『改訂 中学校学習指導要領の展開』（明治図書）1,480円

そ の 他

指導案の立案、毎時間の講義内容に則した小レポートを提出する等

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (後 期)	かとう ゆきお 加藤 幸夫	教職 2・3 必 (地理・歴史・経A・商)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

登校拒否やいじめ・非行など学校の内外を取り巻く諸問題が社会的問題となりつつある今日、児童・生徒の自主的・実践的態度を育成することを主なねらいとする特別活動が、現代の学校教育において果たすべき役割は誠に重要である。

教育現場において、これまで開発・展開されてきた特別活動の指導原理及びその方法について分析かつ考察し、特別活動の現代的意義と課題を明確にすることが本講の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

- | | |
|----------------|------------------|
| I 学校教育の構造と特別活動 | VI 児童会・生徒会活動の指導 |
| II 特別活動の歴史の変遷 | VII クラブ活動・部活動の指導 |
| III 特別活動の特質と内容 | VIII 学校行事の意義と課題 |
| IV 学級活動 | IX 特別活動の評価 |
| V ホームルーム活動 | X 特別活動の課題と展望 |

履修上の留意点

小・中・高校時代に受けた特別活動の内容を整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

中野日直明・小川一郎 編『現代の特別活動』（酒井書店・育英堂）

参 考 書 等

柴田義松 編『特別活動』（教職課程講座・第6巻）（ぎょうせい）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
特別活動 (後期)	小 川 一 郎 <small>お がわ いち ろう</small>	教職2・3必 (国文・英米文・法A・政治)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

特別活動が人間形成に果たす役割は大きい。特に、青少年の社会性の欠如が言われている現代では、望ましい集団活動を通じて人間形成を図る特別活動の重要性は増大している。

すべての教員が学級活動（ホームルーム活動）を中心に特別活動を指導することになるので、その実践的指導力をつけることがねらいとなる。

講義の内容・
授業スケジュール

①特別活動の意義・目的 ②特別活動の方法的特質 ③特別活動の歴史の変遷 ④特別活動の内容 ⑤特別活動の指導計画と実践 ⑥特別活動と新しい学力観 ⑦特別活動と総合的な学習の時間 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と道徳教育 ⑩特別活動と進路指導 ⑪特別活動と地域との連携 ⑫特別活動と人間形成

履修上の留意点

単なる知識の記憶でなく、実践的指導力を身につけることをねらいとしているので、出席して、意見・疑問等を出すことを希望する。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教科書

小川一郎・中野日直明編著『現代の特別活動』（酒井書店）2,000円

参考書等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』（清水書院）1,500円

その他

講義を主に、随時討議などを行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
特別活動 (後期)	つる 鶴 巻 武	教職2・3必 (簿記・教・社会・福祉・心理・経営)	2

※経B・法B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現在、教師には生徒の心身の健全な発達を図り、当面する課題に適切な指導や援助をする実践的な指導力が求められている。この時間で学ぶ「特別活動」は、集団活動を通じた教育活動により、集団や社会の一員としての自覚を深め、生徒の個性の伸張と調和のとれた豊かな人間性を育成するとともに、学級や学校生活の基盤の形成に重要な役割を果たしている。この「特別活動」の教育的意義や目標、内容及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。中でも、実践的な面を重視し特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導方法などについての具体的な研究を通して、教師としての実践的な指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

①生きる力の育成と特別活動の役割 ②生きる力の火種を培う指導 ③不登校生徒の現状から生徒指導の課題を考える ④特別活動の目標と基本的な性格 ⑤学級活動の特質と学級経営の関連 ⑥学級活動の指導(1)「適応」を中心に ⑦学級活動の指導(2)「ガイダンスの機能の充実」を中心に ⑧学級活動の指導(3)「生徒の活動と教師の指導性」 ⑨生徒会活動とボランティア活動 ⑩学校行事と開かれた学校・開かれた教育活動 ⑪特別活動と総合的な学習との関連 ⑫学級崩壊と教師の指導の在り方 ⑬生徒指導の充実と教育相談の進め方

履修上の留意点

特別活動の具体的な実践にかかわる指導内容、指導方法等についての理解を深め、教師としての識見を高め、実践的な指導力を身につけて欲しい。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領 解説－特別活動編－』（ぎょうせい）70円

参考書等

森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著『改訂中学校学習指導要領の展開－特別活動編－』（明治図書）1,680円

その他

毎時間の講義の内容に則した小レポートを提出する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前期)	こみやま 小宮山 要	教職2・3必 (簿記教職A・商法・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現在の学校現場には、「いじめ」「不登校」「校内暴力」「学級崩壊」等さまざまな問題が発生している。本講義ではこれらの問題を正しく理解し、適切に対応できる教師としての基礎的能力を身につけることを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

本講義では生徒のいじめ問題に焦点を当てながら、生徒指導の理論と方法を下記のような流れに従って具体的に学習する。

- 1 生徒指導の意義と課題
- 2 生徒指導の原理
- 3 生徒の問題行動の実態
- 4 行動理解のための基礎理論・心の法則
- 5 生徒の問題行動の発現メカニズムとその理解
- 6 生徒の問題行動への対応
- 7 学校・家庭・関係機関との連携

履修上の留意点

履修する学生は、教職志望者であることを念頭に置き、授業に積極的に参加することを希望する。

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席等をもとに総合的に判断する。

教 科 書

小宮山要著『間違いだらけのいじめ指導』(明治図書) 1,760円

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	こく がん まり こ 国 眼 眞 理 子	教職 2・3 必 <small>(国文・英米文・地理・歴史・社会・福祉・心理)</small>	2

※経 B・法 B・二宮の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

心理学をベースにして、生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで必要な基礎的な視点を学ぶとともに、思春期・青年期についての理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 「思春期」「青年期」とはいかなる時期か
- ② 青年期における心理的な課題
- ③ アイデンティティの視点から(形成・発達)
- ④ アイデンティティ形成と人間関係
- ⑤ 進路選択と職業的なアイデンティティ
- ⑥ アイデンティティをめぐる混乱
- ⑦ サポーターとしての教師の役割

履修上の留意点

教養教育科目として開設されている「発達と学習の心理学」「教育心理学」「心理学」のいずれかを履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

- ① 指定図書(授業時に提示)を読み、論題に添ってレポートを作成
- ② 「職業的アイデンティティ形成」に関するレポートを作成
- ③ 定期試験

レポート点(各30点、計60点)、定期試験(30点)、出席点(10点)合計100点で成績の認定を行う。但し、レポートの期限内提出と定期試験受験を成績認定の条件とし、いずれかのレポートが未提出ないし定期試験を受験しなかった者は、成績を認定しない

教 科 書

今年度は特に使用しない。授業中に配布する資料に沿って講義を進める

参 考 書 等

- ① 鏑幹八郎『アイデンティティの心理学』(講談社現代新書)1990
- ② 鏑幹八郎・山下格(編)『アイデンティティ』(日本評論社)1999

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得したものは履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	さ とう なお と 佐 藤 尚 人	教職 2・3 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

生徒指導や進路指導を行なうにあたり、生徒を正しく理解することは必須の条件である。本講義では、まず年齢に則して子どもの特性を見てゆく。その上で、各年齢各時期で注意しなければならない指導の内容や方法について考えてゆく。

講義の内容・
授業スケジュール

E.H.エリクソンの発達段階・課題の考え方を参考に、発達にともなう子どもの特性やその変化を理解する。その上で、各年齢各時期に起こりやすい問題行動の解決や進路選択での指導を考えてゆく。

履修上の留意点

第1時間めの授業で履修上の留意点(授業に参加する際の注意事項)を話すので、履修希望者は必ず出席すること。

成績評価の方法

評価は原則として期末試験の結果で行なう。ただし、日常の授業への積極的な参加態度(発言・質問・課題提出など)をプラスして評価する。

教 科 書

テキストは特に使用しない。

参 考 書 等

参考書等は逐次紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	教職 2・3 必 (国・英・文・理・算・社会・心理)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは、現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとしている人間として、生徒(他者)の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生徒指導観、あるいは進路指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 生徒指導、進路指導の理論、歴史とその目的の変遷
2. 「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題
3. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察
4. 教師-生徒関係の中での生徒指導、進路指導
5. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導、進路指導

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験、またはレポートを予定している。

教 科 書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	かわ 川 原 誠 司	教職2・3必 (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

生徒を指導するとはどういうことか、生徒指導を行っていく上で必要ことは何かを、主に教師の「心のありよう」という点を中心にして、心理学的に解明していくことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください。

成績評価の方法

成績評価の柱は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定します。詳細は最初の授業で説明します。

教 科 書

教科書は授業中に指示します。

そ の 他

授業の一部では、生徒指導に関する和文献や英文献をグループで発表してもらうこと、あるいは実技を行うことなども考えています。

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 臨 床 (後 期)	こ み やま かなめ 小 宮 山 要	12以降入学生/教職2・3必 (禅・仏教・経A・商) 法A・政治・経営	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育現場での「いじめ」「不登校」「校内暴力」「学級崩壊」をはじめ「無気力」「学習不振」等さまざまな問題を抱えている。本講義では、学校現場で何らかの援助を必要としている生徒たちに、どのように対処していくかという具体的な手法を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では幅広い臨床心理学の考え方を柔軟に取り入れて、臨床指導の基本的考え方と方法について下記のような流れに従って学習する。

- 1 心が病むとは何か
- 2 生徒の問題のとらえ方 (理解の基本的視座)
- 3 心理診断
- 4 学校カウンセリングの諸問題
- 5 指導の諸技法
- 6 事例研究法
- 7 父母面接の進め方

履修上の留意点

履修する学生は、教職志望者であることを念頭に置き、授業に積極的に参加することを希望する。

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席等をもとに総合的に判断する。

教 科 書

使用しない。授業時に資料を配付して講義を行う。

参 考 書 等

授業時に適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 (後 臨 床 期)	こく がん ま り こ 国 眼 真 理 子	12以降入学生/教職 2・3 必 (国文・英米文・地理) (歴史・社会・福祉・心理)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会における思春期・青年期についての理解を深め、心理学をベースにして、生徒理解についての基本的な視点を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 臨床的な視点とは何か
- ② 現代社会における「思春期」「青年期」
- ③ 思春期・青年期における臨床的な問題
- ④ 演習（「見る」「聴く」を中心にして）
- ⑤ 教師の役割（カウンセリング・マインドとは）
- ⑥ カウンセリングの基礎知識

履修上の留意点

教養教育科目として開設されている「発達と学習の心理学」「教育心理学」「心理学」のいずれかを履修済みであることが望ましい。
なお授業は、後半部分は演習を中心に行うので、積極的に参加してほしい。

成績評価の方法

- ① 指定図書（授業時に提示）を読み、論題に添ってレポートを作成
- ② 各演習後のレポート提出
- ③ 定期試験

レポート点（60点）、定期試験（30点）、出席点（10点）合計100点で成績を認定。但し、レポートの期限内提出と定期試験受験を成績認定の条件とし、いずれかのレポートが未提出ないし定期試験を受験しなかった者は、成績を認定しない。

教 科 書

今年度は特に使用しない。授業中に配布する資料に沿って講義を進める。

参 考 書 等

授業時に提示する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教 育 臨 床 (後 期)	さ とう なお と 佐 藤 尚 人	12以降入学生/教職2・3必 (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

不登校やいじめ、非行や無気力などのさまざまな子どもの問題行動を、具体的な事例を参照しながら検討する。あわせて生徒指導や進路指導を行なう際の注意点や教師としての対処方法も考える。

講義の内容・授業スケジュール

問題行動解決のための方法の1つとして、行動療法や心理療法、カウンセリングなどの考え方を紹介する。教師としてしなければならないこと、してはならないこと、教師として知っておくべきことなどを整理分類して考える。

履修上の留意点

第1時間めの授業で履修上の留意点（授業に参加する際の注意事項）を話すので、履修希望者は必ず出席すること。

成績評価の方法

評価は原則として期末試験の結果で行なう。ただし、日常の授業への積極的な参加態度（発言・質問・課題提出など）をプラスして評価する。

教科書

テキストは特に使用しない。

参考書等

参考書等は逐次紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教 育 臨 床 (後 期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	12以降入学生/教職2・3必 (国文・英米文・経A) (商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

心の教育が重視されている現在の教育現場において、生徒が自らの生き方を考え、自己を確立するために、一方的な指導ではなく、相互の対話を基に生徒との関係を作ろうとする教師の姿勢が求められている。特に、カウンセリングに代表されるような、臨床心理学的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業においては、臨床心理学的視点に学びながら、生徒が陥りやすい心の危機に対する対処法や援助法について、実践的に学ぶことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

1. 人が人と関係をもつことの意味
2. カウンセリングマインドとは
3. 教師としてカウンセリングマインドをもつことの意味
4. 教師-生徒関係の見直しと再生の過程
5. 人間の生涯における思春期・青年期の諸問題

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験、またはレポートを予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育 (後 期)	かわ 川 はら 原 せい 誠 し 司	12以降入学生/教職2・3必 (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校という場所で子どもや教師の中に起きていることについて、主に心理学的な面から注目して、教師の仕事を行うにあたっての視点の広がりや深まりを獲得することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください。

成績評価の方法

成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定します。詳細は最初の授業で説明します。

教科書

教科書は授業中に指示します。

その他

授業の一部では、和文献や英文献を読んでもらうこと（グループで発表してもらうこと）や自分自身のことについて考えてもらう機会も予定しています。
この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(1)[障害児と教育] (前 期)	えん 遠 どう 藤 つかさ 司	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解するという目的の上に、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力や態度を養う。この授業においては、あらゆる教育の根本に位置するという意味で、教育問題を考える上で非常に重要な問題であるところの障害児教育問題について、障害児教育の在り方について、実践を含めて現在の在り方まで総合的に学んでいく。最終的には、このテーマに即した授業プランを作成できるように学びを深めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定した案を参加者に作成してもらい発表してもらうことをもとに授業を進めていくことを考えている。具体的には、参加者の数や問題意識等を把握した上で決定する。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

授業への参加の仕方を総合的に判断して評価を行う。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(2)〔障害児と福祉〕 (後 期)	えん どう つかき 遠 藤 司	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解するという目的の上、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力や態度を養う。この授業においては、現代日本社会における様々な問題を根本的に考える意味において非常に重要な問題であるところの障害者福祉について、実践を含めて現在の在り方まで総合的に学んでいく。最終的には、このテーマに即した授業プランを作成できるように学びを深めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定した案を参加者に作成してもらい発表してもらったことをもとに授業を進めていくことを考えている。具体的には、参加者の数や問題意識等を把握した上で決定する。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

授業への参加の仕方を総合的に判断して評価を行う。

教 科 書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(3)〔環境教育〕 (前 期)	きた むら かず お 北 村 和 夫	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

環境問題がなぜ生じているのか、そしてなぜ解決できないでいるのかを検討することを通して、環境問題の解決のために環境教育が何をなしているのかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

環境教育の意義を理解した上で、具体的内容について考える。特に、人間、社会、環境といったことについて、常識的な見方の修正を迫るものを扱う。視野が広くなるという体験をすることを目標とする。

履修上の留意点

欠席しないこと

成績評価の方法

レポート

教 科 書

北村和夫『環境教育と学校の変革－ひとりの教師として何ができるか』(農山漁村文化協会) 2000年 2,900円(税込)

そ の 他

最初の何回かは講義をするが、その後は、可能ならばゼミ形式で進めたい。
この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習(4)(近代社会と身体) (後 期)	きたむらかずお夫 北 村 和 夫	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

近代社会において、身体がどのようなものと見なされ、扱われてきたかを考える。そのことを通して、私たちの身体観が特殊近代的なものであることを理解し、それにどのような問題があるかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

身体観についての研究成果を学ぶことと平行して、自分自身の身体観が、いつ、どのようにして形成されてきたのかを振り返る。そうする中で、身体観が意外に大きく自分の生き方を左右していることに気付くはずであるが、そこで、別の身体観を持っていたらどうだったろう、と考える。

履修上の留意点

欠席しないこと

成績評価の方法

レポート

教科書

最初に読むべき本の一覧表を配り、内容を解説する。その中から一冊を選び、きちんと読む。

その他

最初の何回かは講義をする。その後は、可能ならばゼミ形式にする。
この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習(5)(対人関係とストレス) (前 期)	かわはらせいし 川 原 誠 司	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「ストレス」という言葉が日常頻繁に用いられているが、そのメカニズムについて考えることは少ない。本演習ではストレスの心理学的プロセスの詳細について学習し、学校現場でのストレスの実情を理解することを目的とする。子どもの時期のストレスを中心に進めていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください

成績評価の方法

成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定します。詳細は最初の授業で説明します。

教科書

教科書は授業中に指示します。

その他

ストレスに関する文献をできるだけ毎週読んでもらい、それらに対してきちんと思考・批評してもらおうことを考えています。

この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習(6)(学校における対人関係) (後 期)	かわ 川 ばら 原 せい 誠 し 司	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	教師-生徒関係、子ども同士の関係、教師同士の関係など学校における対人関係について、心理学的な面から考えていくことを目的とする。とりわけ、対人関係における支え合い（ソーシャル・サポート）の面を中心に考えていきたい。
講義の内容・授業スケジュール	授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。
履修上の留意点	一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください
成績評価の方法	成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定します。詳細は最初の授業で説明します。
教科書	教科書は授業中に指示します。
その他	対人関係やソーシャル・サポートに関する文献をできるだけ毎週読んでもらい、それらに対してきちんと思考・批評してもらおうことを考えています。 この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習(7)(精神障害者と地域) (前 期)	の 野 なか ひろ とし 敏	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	いわゆる「精神障害」とそれへの援助的関与について、諸事例を手掛りに考えてみたい。 主に以下のようなテーマをとり上げ、輪講及び対話形式で授業を進めていく予定である。 ○「精神障害」を経験する者の体験の様相について。 ○「疾病」というよりは「障害」「ハンディキャップ」としての「精神障害」について。 ○「精神障害者」が地域で生きることをめぐって。
履修上の留意点	授業の中で交わされるであろう語りに、真摯に聴きいることを、基本的な参加態度としたい。 具体的な授業の進め方については、受講数及び受講者の問題意識なども考慮して決定したい。
成績評価の方法	発表を含めた出席状況及びレポートによる。
教科書	講義の中で紹介する。
参考書等	講義の中で随時紹介する。
その他	この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習⑧〔精神障害者とボランティア〕 (後 期)	野 中 弘 敏 <small>の なか ひろ とし</small>	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

総合演習⑦〔精神障害者と地域〕に掲げたテーマ及び講義形式をふまえて、授業を進めていく。
(総合演習⑦を参照のこと。)

成績評価の方法

発表を含めた出席状況及びレポートによる。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習⑨〔教育と法律〕 (前 期)	広 沢 明 <small>ひろ さわ あきら</small>	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本年度から新設された「総合演習」の一つとして、「教育と法律」について扱う。今年度は教育基本法の改正問題に焦点を合わせ、教育基本法の各条文の理解を深めようと思う。

講義の内容・
授業スケジュール

学生をテーマごとにグループ分けし、毎回担当者が報告し、全員で討論する。テーマについては、最初の授業で提示する。

履修上の留意点

演習形式で進めるので、授業への積極的参加が不可欠である。

成績評価の方法

出席状況、報告、レポートで評価する。

教 科 書

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

参 考 書 等

授業にて指示する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(10)[子どもの人権] (後 期)	ひろ さわ あきう 広 沢 明	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本年度から新設された「総合演習」の一つとして、「子どもの人権」について扱う。子どもの権利条約に焦点を合わせ、様々な子どもの人権問題の理解を深めようと思う。

講義の内容・
授業スケジュール

学生をテーマごとにグループ分けし、毎回担当者が報告し、全員で討論する。

履修上の留意点

演習形式で進めるので、授業への積極的参加が不可欠である。

成績評価の方法

出席状況、報告、レポートで評価する。

教 科 書

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

参 考 書 等

授業にて指示する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(11)[生と死の教育] (前 期)	やなぎ ほり す が こ 柳 堀 素 雅 子	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代医学の中心は「治癒(cure)」を目的にしたものであり、いかに病気を治すかに力点が置かれていた。しかし治癒不可能な病気はどうしたらいいかについては、なおざりにされがちであった。治らない病気に対しては延命中心主義でのぞんできた現代医療のあり方を問い直し、ケア(care)の概念を導入した「ターミナルケア」のあり方について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①現代の死の特徴
- ②現代の病院の状況
- ③末期医療の状況と問題点
- ④ホスピスとはどのようなところか
- ⑤がん告知について etc.

履修上の留意点

与えられたテーマについて報告者を決めて報告してもらい、ディスカッションをしていく予定なので、参加者全員に自分の意見を述べてもらいます。

成績評価の方法

平常点の比重が高くなります。

教 科 書

柏木哲夫『死を看取る医学』（NHK出版）870円

参 考 書 等

講義の中で、その都度お知らせします。

そ の 他

講義とゼミとディスカッションを織り交ぜていきます。
ビデオも使用します。
この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(12)〔生命倫理〕 (後期)	やなぎ 柳 ぼり 堀 す が こ 素 雅 子	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

20世紀後半は、医学技術が加速度的に開発された。その結果脳死と臓器移植、安楽死と尊厳死、生殖技術、ヒトゲノム解析、遺伝子治療や出生前診断、クローンの問題など、旧来の生や死の概念の変更を迫るような問題が出てきた。これら人間の生命をめぐる問題と人間の生命の価値を考えていくために「生命倫理」という新しい学問分野が生まれた。現代医療がもたらした問題点を探りながら、改めて人間の生命の尊厳と価値という問題について取り組んでいきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①生命倫理とは何か
- ②先端医療をめぐる個別的な問題点
- ③患者の人権
- ④先端医療と障害者差別の問題
- ⑤先端医療の問題点の克服に向けて

履修上の留意点

取り出された問題点について、個々人が自らの意見をきちんと述べられるようにすること。

成績評価の方法

平常点に比重が置かれます。

教科書

なし

参考書等

講義の中で、その都度お知らせします。

その他

ビデオ、OHPなどを使って講義をしますが、それぞれのテーマについてディスカッション、レポート報告などもしてもらいます。白らの意見を述べられるように準備してください。
この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(13)〔現代的学習課題とジェンダー〕 (前期)	なか ざわ ち え 中 澤 智 恵	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の生活経験をふまえて考察し、受講者同士の相互学習の中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は、①ジェンダーとは何か、②ジェンダーの形成、③学校教育とジェンダーなどを予定している。後半は、受講者各自のレポート発表にもとづいた討議を中心とする。

履修上の留意点

履修上、後期「学校教育におけるジェンダー」とあわせて受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席、授業中のディスカッションへの参加状況、およびレポート発表の内容にもとづいて行うので、受講者の授業への積極的な参加を求める。

参考書等

参考書は、石川洋子編『人間発達学』（宣協社、2000年）・木村涼子『学校教育とジェンダー』（勁草書房、1999年）ほか、適宜指示する。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習Ⅳ(学校教育におけるジェンダー) (後 期)	なか ざわ ち え 中 澤 智 恵	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の生活経験をふまえて考察し、受講者同士の相互学習の中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容としては、ジェンダーの観点からマス・メディアの問題について概説し、メディア・リテラシーに関するワークショップを行う。また、セクシュアリティをめぐる問題について取り上げる。後半では、前期の講義をふまえ、各自の問題意識をほりさげたレポート発表にもとづいて討議する。

履修上の留意点

履修上、前期「現代的学習課題とジェンダー」とあわせて受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席、授業中のディスカッションへの参加状況、およびレポート発表の内容にもとづいて行うので、受講者の授業への積極的な参加を求める。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習Ⅶ(現代家族の諸問題と教育) (前期)	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会の諸問題のなかでも、子どもの発達の基盤として重要な意味をもつ家族について、今日の諸問題を取り上げ、教育の観点から、その実態、背景、原因を解明し、有効な問題解決の方策をさぐることをねらいとしている。社会的に憂慮されている社会性の発達の遅れなど子どもの発達をめぐる問題、不登校・いじめ・校内暴力など学校における問題、その他の非行問題の背景には、近年、大きく変容しつつある現代家族の在り方をめぐる問題がある。この点を十分に理解し、どのように対応すればよいかを考えるとところに講義のポイントがある。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次の三つのセクションに分けて行われる。
第1セクション「家族集団と子どもの発達」-4月。
教育の場としての家族の意義。人間形成を方向づける家族の集団力学と文化。教育をめぐる定住家族と生殖家族。
第2セクション「産業の発展にともなう家族の変容と教育機能の衰退」-5月。
産業構造の変化と家族規模の縮小、核家族の一般化。役割構造の変化と学習・教育プロセスの変化。共同体としての家族の“崩れ”と教育機能の低下。
第3セクション「現代の家族をめぐる問題の諸相と人間形成」-6、7月
出生率の低下・少子化の教育問題。親子関係の変容。メディアの家庭支配と連帯の弛緩。共働きの一般化と保育問題。高齢化における家族の福祉機能と教育機能-その可能性と限界・家族間の格差。

履修上の留意点

家族問題への関心。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

授業の方法

講義に討論場面を加える。

教科書

プリント配布。

参考書等

授業中に紹介。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 科 教 育 法	こ やま がず のり 乗 小 山 一 乗	教 職 3 必 (禅・仏教)	4

講義のねらい

講義と模擬授業とで構成する。
 教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育職員免許法を概観する。
 特に、各教科と宗教科との関係、「宗教科教育」と「宗教教育」との異同点にも留意する。
 我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。
 その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。
 宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。適宜、童歌なども、導入し、幼稚園教育から高等学校教育までの接続も考察に含めたい。

講義の内容・授業スケジュール

『仏教概論——分かりやすい仏教——』をテキストにして、原則として模擬授業（50分）を課します。教材研究の実際、学習指導要領、学習指導案の基礎的・基本的事項を講義する。その上で、具体的に、学習指導案の様式と教育観との関係が思量でき、主体的に選択した様式に基づいて実際に学習指導案を作成してもらおう。
 模擬授業は、その様子をビデオに収録し、再生して、爾後の授業分析の鏡利用とし、自己分析に供する。

履修上の留意点

学年、他教科との関連を常に勘案すること。社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

模擬授業、レポート、出席点により総合的に評価する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとのおしえ方、評価の観点——』（宣協社）2,940円
 『仏教概論——分かりやすい仏教——』（曹洞宗宗務庁）800円
 小中高各『学習指導要領』各 230円 250円 370円

参考書等

井上順孝監修『宗教教育資料集』（すずき出版）3,900円
 『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版）1985年
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』（大法輪閣）1,600円
 『教育小六法』（学陽書房）2,200円
 その他適宜紹介する。

その他

講義を基調とするが、実際には、講義と模擬授業（演習）を折衷した形態となろう。定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。
 プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国語科教育法	かみ や みち のり 神 谷 道 倫	教職3必 (国 文)	4

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・
授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。

- ① 国語科教育の現況の確認
- ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探る。
- ③ 教育実践の準備

以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のもの提出と、実際の教材による模擬授業の形式(グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加)で行う。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

科目の性質上、出席は当然重視する。(なお、中学校・高等学校時代使用の国語の教科書・副読本があれば、手元に整理して必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。)

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加(出席)の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教科書

全国大学国語教育学会編 新中学校・高等学校『国語科教育研究』(学芸図書株式会社)
1,300円+消費税

参考書等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
書道科教育法	な す たか よし 那 須 隆 吉	教職3必 (国 文)	4

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教科書

高等学校芸術科書道指導資料 文部省編著『指導計画の作成と学習指導の工夫』(教育図書)
990円

参考書等

随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英語科教育法	あら い よし お 雄 荒 井 良 雄	教職3必 (英米文)	4

講義のねらい

英語科教育法の理論と実践を、教授法の実践面を重視しつつ、授業計画、授業の展開、評価などを中心に実習する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 主な英語教授法
2. 言語材料と指導
3. 「聞き方」の指導法
4. 「話し方」の指導法
5. 「読み方」の指導法
6. 「書き方」の指導法
7. 指導案のあり方
8. 指導形態の研究
9. 評価とテストの方法
10. 視聴覚器具の利用法

履修上の留意点

中学校や高等学校の教壇に立って教える立場になることを常に念頭において、英検準1級、TOEFL600点前後を取得していることが望ましい。中学生や高校生で2級はもとより準1級取得者もいることを忘れないように。

成績評価の方法

平常点を重視し、前期、後期、学年末試験の成績を総合して判定する。

教科書

土屋澄男、広野威志著『新英語科教育法入門』（研究社出版）2,500円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法 I (後 期)	い た きよ と 生 田 清 人	教職3必	2

講義のねらい

- (1) 中学校社会科がどのような教科であるか理解すること。
- (2) 授業を行うために必要な基礎的知識を習得すること。
- (3) 実際に授業を計画し展開できる技術を習得すること。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 「社会科」がどのように成立しどのようなあゆみをしてきたのかを、とくに教科書の記述の検証を通して考える。この検討をもとに年間授業計画を作成する。
- (2) 学習指導案、授業教材を作成するために、いろいろな教材を使った授業や授業形態の実践例を紹介し、この時期の生徒の発達段階にあった「社会科」の学習指導について考える。また、「社会科」を中心とした総合的学習についても考える。このまとめとして学習指導案と授業教材を作成する。
- (3) 「社会科」を構成する地理・歴史・公民各分野の内容とこの時期の生徒の学習活動の発達段階をもとに学習評価について考える。

成績評価の方法

年間授業計画・学習指導案・教材プリントなどをまとめたレポートの到達度評価と出席状況により評価する。なお詳細は最初の講義において述べる。試験は実施しない。

教科書

社会認識教育学会 編『改訂新版 中学校社会科教育』（学術図書出版社）1854円

科目名	担当者名	配当学科	単位
地理歴史科教育法Ⅰ (前期)	いた きよ と 生 田 清 人	教職 3 必	2

講義のねらい

- (1)地理、歴史それぞれの科目の学習目標を理解すること。
- (2)授業を行うために必要な基礎的知識を習得すること。
- (3)実際に授業を計画し展開できる技術を習得すること。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1)同じテーマ（例えば、アメリカ合衆国の西部開拓、イギリスの穀物法など）について、地理と歴史の扱い方の違いを検証し、それぞれの科目の学習目標を考える。
- (2)地理を例に、日本と諸外国（とくにイギリス）の地理教科書の比較から、授業の構成についてのいろいろな考え方を紹介し、授業の構成について各自が自分なりの考え・姿勢を持つことを目標とする。このまとめとして年間授業計画を作成する。
- (3)学習指導案、授業教材を作成するときに必要な知識と技術を習得するために、いろいろな教材を使った授業や授業形態の実践例を紹介し、これらの作成の方法や学習評価について考える。この検討をもとに学習指導案と授業教材を作成する。

成績評価の方法

年間授業計画・学習指導案・教材プリントなどをまとめたレポートの到達度評価と出席状況により評価する。なお詳細は最初の講義において述べる。試験は実施しない。

教科書

社会認識教育学会 編 『改訂新版 地理歴史科教育』（学術図書出版社）1751円

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅰ (後期)	さくら い あき ひさ 桜 井 明 久	教職 3 必	2

講義のねらい

中学校社会科の内容・教授法について、地理分野を例に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- おおよその内容は、以下の通りである。
- ④指導案の作成
 - ⑤模擬授業
 - ⑥授業の研究と方法
 - ⑦地理教師の仕事

履修上の留意点

授業計画上、前期の地理歴史科教育法Ⅰ（地理A、地理Bを中心課題とする）とセットとして授業計画を組むので注意すること。後期のみ受講するものは、後期の最初に模擬授業の準備のための宿題を課すので、講義の第1日目には必ず出席のこと。それが不可能な場合には、事前に桜井まで申し出ること。

中学校社会科のうち、地理的分野を中心題材とする。

個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による公欠以外の欠席については厳しく取り扱う。担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。又、実践を中心とするため、必要な情報は教科書から得てもらうことになるので、そのレポートも指定された時期に必ず提出すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、模擬授業の成果など 50点
レポート 30点 期末試験 20点

教科書

桜井明久（1999）『地理教育学入門』（古今書院）3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地理歴史科教育法 I (前 期)	さくら い あき ひさ 桜 井 明 久	教 職 3 必	2

講義のねらい

高等学校地理歴史科の教育目標・内容と教授法について、地理 A、地理 B を例に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。
①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫
④指導案の作成

履修上の留意点

授業計画上、後期の中学校社会科教育法 I (中学校地理的分野を中心課題とする) とセットとして、すなわち通年の授業として計画を組むつもりであるので注意すること。
各自マイクロティーチングを試みるなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による公欠以外の欠席については、厳重に注意すること。担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。なお、地理歴史科の科目・地理 A、B を中心題材とするので注意すること。
また、実践中心の授業を計画するため、伝えたい情報の多くは教科書を読んで掴んでいただくことになるが、指定された期日までに指定された内容のレポートを出すことになることにも十分に注意すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチングなど 50点
レポート 30点 期末試験 20点

教 科 書

桜井明久 (1999) 『地理教育学入門』 (古今書院) 3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法 I (後 期)	ふじ き まさ くに 藤 木 正 国	教 職 3 必	2

講義のねらい

中学校社会科(特に歴史的分野)の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①戦後日本教育制度の変遷
- ②社会科成立の事情と学習指導要領の変遷
- ③歴史的分野の目標と内容
- ④学習指導案の作成
- ⑤個別の模擬授業

履修上の留意点

受講する以上は、教員をまごし努力すること。安易な単位修得は考えない。出席状況と提出物とはとくに重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬように。

成績評価の方法

出席状況 (重視)、提出物、定期考査などを総合し評価する。

参 考 書 等

『中学校学習指導要領解説 - 社会編 - 』 (文部省・大阪書籍) と中学校社会科歴史分野の教科書を一冊用意すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地理歴史科教育法Ⅰ (前 期)	ふじ ま まさ くに 藤 木 正 国	教 職 3 必	2

講義のねらい

高等学校社会科(特に日本史)の教師として、自から授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①日本教育制度の変遷(古代～戦前)
- ②地理歴史科の目標
- ③日本史(A・B)の目標と内容
- ④学習指導案の作成
- ⑤グループ別の模擬授業

履修上の留意点

受講する以上は、教員を日ざし努力すること。安易な単位修得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫を忘れぬよう。

成績評価の方法

出席状況(重視)、提出物、定期考査などを総合し評価する。

教 科 書

『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』(文部省・実教出版)と高等学校日本史Bの教科書を一冊用意すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科教育法Ⅱ (後 期)	はし つめ さとし 橋 爪 敏	教 職 3 必	2

講義のねらい

この授業は、中学校社会科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、社会科教育法に関する文献購読(下記テキスト)を主としたい。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、社会科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教 科 書

社会認識教育学会編『社会科教育学ハンドブック』(明治図書)

参 考 書 等

適宜、授業中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
公 民 科 教 育 法 I (前 期)	はし づめ さとし 橋 爪 敏	教 職 3 必	2

講義のねらい

この授業は、高等学校公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献購読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、公民科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教 科 書

使用するが、未定。

参 考 書 等

適宜、授業中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科教育法Ⅱ (後期)	や 谷 敷 正 光 しき ただ みつ	教 職 3 必	2

講義のねらい

本講は中学校社会科で教育実習を行う学生や社会科教師を目指す学生に、「教育とは」「社会科教育とは何か」といった社会科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで社会科教師としての資質・力量形成を目標に行います。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立と意義
3. 中学校社会科学習指導要領の変遷
4. 中学校の教育課程と社会科
5. 中学校社会科の授業設計
6. 中学校社会科の指導法
7. 中学校社会科と思考力を育てる授業
8. 中学校社会科の教材開発と資料の活用
9. 中学校社会科学習指導案の意義と作成
10. ビデオによる社会科教師の授業研究
11. 中学校社会科の目標（平成元年度版・平成10年度版）
12. 中学校社会科の内容・取り扱い（平成元年度版・平成10年度版）
13. 社会科の評価
14. 社会科教育実習における「教師教育」
15. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導します。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施。

教科書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しない。

参考書等

- 講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。
- ①大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
 - ②無着成恭『山びこ学校』（角川文庫）
 - ③灰谷健次郎『兔の眼』（新潮文庫）
 - ④大森・谷敷『社会科教育研究』（梓出版）
 - ⑤槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
 - ⑥谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』（黎明書房）
 - ⑦谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）
 - ⑧浜上薫『発問づくりの技術』（明治図書）
 - ⑨鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』（明治図書）
 - ⑩中学校社会科（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）の教科書
 - ⑪文部省『中学校学習指導要領』、文部省『中学校指導書』（大阪書籍）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
公 民 科 教 育 法 I (前 期)	や 谷 し 敷 た だ み つ 敷 正 光	教 職 3 必	2

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原理から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで公民科教師としての資質・力量形成を行います。

講義の内容・授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立と意義
3. 高等学校社会科（公民科）学習指導要領の変遷
4. 高等学校の教育課程と公民科
5. 高等学校公民科の授業設計
6. 高等学校公民科の指導法
7. 高等学校公民科と思考力育成の学習過程
8. 高等学校公民科の教材開発と資料の活用
9. 高等学校公民科学習指導案の意義と作成
10. 4年生による模範授業（授業研究）
11. 模範授業を通じての高等学校公民科の授業実践研究
12. 高等学校公民科の目標（平成元年度版・平成11年度版）
13. 高等学校公民科の内容・取り扱い（平成元年度版・平成11年度版）
14. 教育評価
15. 公民科教師論
16. 公民科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施します。

教科書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しません。

参考書等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ①大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
- ②槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
- ③谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』（黎明書房）
- ④谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）
- ⑤福山憲市『資料提示の技術』（明治図書）
- ⑥大森・谷敷『社会科教育研究』（梓出版）
- ⑦高等学校社会科（現代社会、政治経済、倫理）の教科書
- ⑧文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（実教出版）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅱ (後期)	お <small>がわ</small> 川 <small>てる</small> 輝 <small>ゆき</small> 之	教職3必	2

講義のねらい

社会科教育の目的、社会科教育の歴史、社会科の各分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）の目標及び内容構成、授業計画、実践事例等について考える。新学習指導要領における社会科の改善点や社会科教育との関連性が深い中学校道徳についても検討する。

講義の内容・授業スケジュール

社会科教育の目標、内容構成、年間授業計画、実践事例を検討、その上で授業指導案（学習指導案）を作成し、模擬授業を実践する。模擬授業は指定された内容の中から教材を選択し、提出された授業指導案（学習指導案）に基づき、できるだけ全員が行うこととするが、受講生が多い場合には、班を編成して代表者が行う。授業終了後には自己評価を行い、受講生による合評会を開いて検討し、さらに評価問題を作成する。

履修上の留意点

社会科の指導に要請される広い視野を養うために、社会科の各分野（道徳も含めて）に関心を持つとともに、教材研究に努めることが期待される。

成績評価の方法

定期試験は実施せず、出席状況・レポート（50%）、授業指導案（学習指導案）・模擬授業・評価問題の作成（50%）などにより総合的に評価する。

教科書・参考書等

教科書は使用しないが、文部省発行の学習指導要領の解説書を使用する。具体的には開講時に指示する。また、授業時に適宜印刷物を配付する予定である。

そ の 他

受講生数にもよるが、講義、討論、発表など多様な授業展開に心がけ、実践力を養うよう工夫したい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
公民科教育法Ⅰ (前期)	お <small>がわ</small> 川 <small>てる</small> 輝 <small>ゆき</small> 之	教職3必	2

講義のねらい

公民科教育の目的、公民科教育の歴史、公民科の各科目（「現代社会」「倫理」「政治・経済」）の内容構成、授業計画、実践事例などについて考える。新学習指導要領における生命倫理や環境教育、福祉教育等の公民科教育における新しい課題についても検討する。

講義の内容・授業スケジュール

公民科教育の目標、内容構成、年間授業計画、実践事例等を検討、その上で授業指導案（学習指導案）を作成し、模擬授業を展開する。模擬授業は指定された内容の中から教材を選択し、提出された授業指導案（学習指導案）に基づき、できるだけ全員が行うこととするが、受講生が多い場合には班を編成し代表者が行うこともある。授業終了後には自己評価を行い、受講生による検討会を開き、さらに評価問題を作成する。

履修上の留意点

公民科の指導に要請される広い視野を養うために専門分野にとどまらず、広く公民科の内容領域に関心を持つとともに、教材研究に努めることが肝要である。

成績評価の方法

定期試験は行わず、出席状況・レポート（50%）、授業指導案（学習指導案）・模擬授業・評価問題作成（50%）などにより、総合的に評価する。

教科書・参考書等

教科書は使用しないが、文部省「高等学校学習指導要領解説・公民編」（実教出版）と、のちに指定する公民科の教科書を必ず購入すること。その他資料は授業時に印刷配付する。参考書等については随時授業時に紹介する。

そ の 他

講義、討論、発表等できるだけ多様な授業形態で実践力を養えるよう工夫する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 科 教 育 法	谷 敷 正 光 <small>やしき ただみつ</small>	教 職 3 必 (経 A・商・経営)	4

講義のねらい

「専門教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「専門学科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従って、この講義のねらいは、「専門教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 専門教育・商業教育の現状
2. 専門教育・商業教育の改革動向
3. 専門教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の授業設計
8. 商業科の指導法
9. 商業科の教材開発と資料の活用
10. 商業科学習指導案の作成(実践)
11. ビデオによる商業科教師の授業研究
12. 4年生による模範授業(授業研究)
13. 模擬授業を通じての商業科の授業実践研究
14. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
15. 商業科における評価
16. 商業科教育実習における「教師教育」
17. 商業科教師論
18. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価する。小テストは授業中に実施。
- ② 定期試験、追再試は実施は行いません。

教 科 書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参 考 書 等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ①大田 堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ②産経新聞社『学校ってなんだろう』(新潮社)
- ③灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
- ④斎藤喜博『授業入門』(国土社)
- ⑤毎日新聞社『教育改革 現場の試み』(毎日新聞社)
- ⑥岩下 修『指導案づくりの技術』(明治図書)
- ⑦新牧賢三郎『やる気を引き出す技術』(明治図書)
- ⑧高等学校商業科の教科書(『流通経済』『商業経済』など)
- ⑨文部省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(大日本図書)

科目名	担当者名	配当学科	単位
職業科教育法	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職3必 (経A・商)	4

講義のねらい

- 授業は以下の項目に沿って進めていきます。
- ①『中学校学習指導要領』(昭和52年版、平成元年版、平成10年版)の「技術・家庭」について、その新旧の比較検討をしていく。
 - ②「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
 - ③職業教育について考えていく。

履修上の留意点

自分や周りの家庭や職業について改めて考えてきてほしい。新聞の家庭欄や経済面などにも目を通しておいて下さい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。再試験はしません。

教科書

『中学校学習指導要領』(文部省、平成10年12月)、他については授業において指示します。

参考書等

中学校の『技術・家庭』の教科書など

その他

授業を受ける人は少数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	とよ た ら よ こ 豊 田 千代子	教職4必(特・仏教・社会・福祉・心理)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生教職4必(特・仏教・社会・福祉・心理)	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習を充実させるための準備を行なうことと、実習をとおしてみえてきた教育のさまざまな課題について、ともに考えることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導 — ・実習の心がまえ
・生徒指導について
・教科指導について
・指導案作成
・模擬授業
- 訪問指導 — ・研究授業訪問指導
- 事後指導 — ・授業実習の検討

成績評価の方法

実習ノート、実習校からの評価、授業での実習報告、レポート。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	さか ちの 坂 本 信 昭	教職4必(国文・歴史・法A・政治・経営)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必(国文・歴史・法A・政治・経営)	5

講義のねらい

教育実習での失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくすることよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導(教育)も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容(領域)等に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成(提出)、教育問題にかかわるビデオの視聴、デスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か—どうあるべきか—について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像等についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告(口頭報告)及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント(感想)、④年度末試験(または、課題レポート)によって、総合的に評価します。なお、①~④について重視する度合は、全て同グレードに考えている。

教科書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』(宣協社) 1,500円

参考書等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』(学文社) 1,000円
西村絢子他編『現代教育を考える』(昭和堂) 2,600円

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	教職4必(英米文)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必(英米文)	5

講義のねらい

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

年間を通じておおむね次の事項を取りあげる。

- 教育実習の意義と心がまえ
- 学習指導について
- 生徒指導について
- 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

成績評価の方法

実習校からの評価、口頭発表、レポート、出席等により総合的に評価する。

教科書

教科書・参考書等はそのつど指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習Ⅰ	きたむらみつこ 北村三子	教職4必(地理・経A・商)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必(地理・経A・商)	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに見えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

講義の内容・授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。教場を変更する場合がありますので注意すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

そ の 他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習Ⅰ	いとうしげき 伊藤茂樹	教職4必(歴史)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必(歴史)	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書・参考書等

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

そ の 他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

(2) 教科又は教職に関する科目〔平成12年度以降入学生〕
 教職に関する科目（選択）〔平成11年度以前入学生〕

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 関 係 法 規	ひろ さわ みくら 広 沢 明	教 職 2 選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 学校の種類
2. 教育の機会均等（民族・性・障害）
3. 義務教育
4. 教育の中立性（政治・宗教）
5. 教育行政
6. 懲戒

履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

教 科 書

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

参 考 書 等

授業中に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 評 価	おお はま きく こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2・3・4 選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究手法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。パソコンに関しては、まったくの初心者でも可。

成績評価の方法

平常点による。

参 考 書 等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育哲学	きたむらみつこ 北村三子	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日、近代社会の矛盾が様々な形で人間の生活を脅かしており、その中で、かつての人々が当然のこととしてあてにできた子育ての社会的、自然的基盤も揺るがされている。この混迷の時代に、私たちはどのようなありかたに向けて、またいかにして、次の世代を育み、支えてゆくことができるのだろうか。この授業では、生命とは何か、また、生命的な知とは何かを学ぶことを通して、そうしたことを考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

G・ペイトソン『精神の生態学(上・下)』(思索社)を検討する予定であるが、進め方等は、受講者と相談の上決定したい。

成績評価の方法

平常点

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育情報学	おくらやすよし 小倉康仁	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業のねらいは、次の三つである。

1. 我々の社会におけるコンピュータの役割・位置づけの歴史の変遷について概観し、コンピュータと我々の社会との係わり合いの在り方について考察する。
2. 教育分野でのコンピュータ利用方法・形態の変化について教育学の視点から理論的に考察し、コンピュータの教育的活用とは何かを探る。
3. 普遍性のあるソフトウェアの操作実習を通して、教育現場で必要とされる実際的なコンピュータ(パソコン)活用能力とセンスを育成する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせながら授業を進める。前期の授業内容としては、以下のものを予定している。
コンピュータの基礎知識(講義)、情報理論の基礎知識(講義)、パソコンの基本操作(実習)、コンピュータの社会的役割の変遷(講義)、ワープロソフトの基本操作(実習)、表計算ソフトの基本操作(実習)、インターネットの基礎知識(講義)、ネットサーフィンと検索エンジンおよびリンク集(実習)
後期の授業内容としては、以下のものを予定している。
教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理(講義)、コンピュータの教育的活用とは?(講義)、教育用ソフトウェアの選択・活用方法について(講義と実習)、コンピュータネットワーク(LAN、パソコン通信、インターネットなど)と教育(講義)、インターネット(WWW)上での情報収集の方法(実習)、HTMLによるホームページ作成方法(実習)、画像データの加工処理方法(実習)

履修上の留意点

パソコンに初めて触れるという初心者も歓迎する。履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。

成績評価の方法

平常点(出欠、学習態度)、小テスト(ペーパーテスト)、提出物(レポート、課題作品)の総合点によって成績評価を行う。

教科書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

その他

授業で使用するパソコンはMacintoshのみを用いる。
また、スキャナやデジタルカメラの操作実習も行う予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 臨 床 心 理 学	む た たか お 牟 田 隆 郎	教職2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育現場並びに教育をとりまく諸状況において生じている青少年の問題（教師、学校の問題も含む）の、臨床心理学的観点からの考察を施す。

講義の内容・
授業スケジュール

初めに、人間事象を見つめる基本的視点について講義する。次いで、リアルタイムに今現在教育並びにその周辺に生じている種々の出来事を、新聞・雑誌・書籍等の媒体をテキストとし、その「人間心理」的側面の解説を試みる。

履修上の留意点

知識伝達型の講義ではなく、種々生起している事柄を「何故そうなのか」と共に考え、そしてまたそれらが、実は自ら自身にも深く関わるものとして考察する態度をもつことを期待したい。

成績評価の方法

出席点を基本とする。

教 科 書

特定の教科書・参考書は使用しない。必要とあらばその都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 社 会 学	くまがいのり 熊 谷 一 乗	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は、親と子、教師と生徒などの関係を中心に実に多くの社会的文化的要因が作用しあうなかで行われている。講義では、教育が行われるためにさまざまな要因が作用しあう社会的関係を明らかにして、教育の本質に触れ、よりよい教育への方途をさぐることをねらいとしている。また今日の教育問題の社会的背景、その発生のメカニズムを明らかにすることもめざしている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次ぎの四つの章に分けて行われる。

第1章「教育問題と今日の社会」－4、5月。

社会の急激な変化にともなって発生している教育問題-特に教師と児童・生徒との関係における問題の実態。子供の意識・性質の変化。教育問題を発生される社会的要因。生活環、生態系の変化にともなう子供の生活と文化をめぐる問題。子供の発達をめぐる問題-「社会性不全症候群」の問題と教師の悩み。

第2章「人間の発達と集団」－6、7月。

人間を文化的共同存在として把握し、人間が社会的環境の刺激のもとで文化を学習して発達する過程の解明。社会化と教育。集団の性質・構造と教育。集団力学と教育の効果。家族と教育。家族の変容と教育問題。

第3章「教育の社会的条件」－9、10、11月。

教育をめぐる社会的関係。社会システムとしての教育。教育の政治的性質。政治体制と教育の在り方との関係。ナショナリズムの圧力と公教育。教育と経済との関係、特に教育の機会と経済的条件。経済成長と教育。

第4章「社会としての学校」－12、1月。

現代社会の特徴と学校の機能。学校と現代人の生涯。生涯学習と学校。学校選択の問題。学校批判と教育改革。学校をめぐる病理。

履修上の留意点

教育への問題意識。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

教 科 書

プリント配布

参 考 書 等

熊谷一乗『現代の教育社会学』（東信堂）
その他、教室で紹介。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 史	やまもととしこ 山 本 敏 子	教職2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日、近代の教育システムは様々な問題を孕み、子どもたちの日々の暮らしを生きにくいものになっています。私たちの身体に染み込んでいる学校の時間もその一つです。この授業では、近代学校の抱えている矛盾や困難を発生史に沿って検討していきますが、近代教育史の歴史時間を遙かに遡って、人類史、さらには自然史の視点から、人間形成や教育の営みを捉え直す試みも同時に行います。

講義の内容・授業スケジュール

前半は、下記教科書を共通文献に日本の近世から近代への教育史の大きな流れを捉えることに重点をおきます。後半は、時間論に焦点を絞って、学校の時間の成立、それとは異なる「もうひとつの時間」世界の再発見と回復ということをテーマに、例えば、次のような著作や論文を検討していく予定です。

福井憲彦著『時間と習俗の社会史』

阿部謹也著『ヨーロッパ・原点への旅』

内山節著『時間についての十二章』

星野道夫著『イニユニック〔生命〕』

松井友著・小田イト語り『火の神の懐にて』

履修上の留意点

歴史の授業ですが、現代の子どもや若者が置かれている社会状況、教育諸問題などにも関心をもって受講されることをのぞみます。

成績評価の方法

授業時間内の発表および期末レポート。

教 科 書

高橋敏著『近代史のなかの教育』（岩波書店）2,300円。随時、史・資料も配布します。

そ の 他

最初は講義や史料講読の時間を多く入れますが、徐々にゼミ形式へ移行させていただきます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 調 査	鈴 木 規 夫	教職2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。
講義の内容・ 授業スケジュール	具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。
履修上の留意点	調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。
成績評価の方法	成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。
教科書	講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。
参考書等	特に指定しない。
その他	授業は討論中心の形態をとる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
芸 術 教 育	香 川 良 成	11以前入学生/教職2・3・4選	4

講義のねらい	日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための劇活動）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。
講義の内容・ 授業スケジュール	以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評を併せながら授業を進めたい。
履修上の留意点	実習でやむをえない場合以外は、極力出席してもらいたい。
成績評価の方法	平常点（発表、レポート）と試験で成績評価を決めたい。
参考書等	富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）、富田博之著『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学』I総論（大月書店）
その他	現在行われている演劇教育（“劇あそび”その他）の模様や舞台をビデオで観たり、実際観劇するということも行いたい。またテーマを決めて討論するということも考えています。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代社会の諸問題と教育Ⅱ (後 期)	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	12以降入学生/教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代の社会は、急激な変化にともなって解決の難しい多くの問題を発生させている。これらの問題は、教育の在り方に直接的、間接的に重大な影響をおよぼしている。わが国の場合、社会的変化は、とりわけ、1960年代の経済成長政策以降、テンポを早め、激しさを増している。講義では、わが国の高度経済成長以降の社会的変化の過程で生じた重要な問題と教育との関係を明らかにして将来を展望し、問題解決の方途を探ることをねらいとしている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、下記の三つのセクションに分けて行われる。

第1セクション「高度経済成長にともなう社会の諸問題と教育」－9月。

経済成長のための教育と能力主義。都市化－過疎・過密の問題と教育。環境問題と教育。非行、心の問題と教育における能力主義の限界。社教審査中の問題提起。第三の教育改革。ナショナルリズムの高揚と教科書裁判。高度成長にともなう“光”と“陰”のなかの教育。

第2セクション「情報化にともなう問題と生涯学習」－10・11月。

コンピューターの普及・メディアの発達にともなう脱工業化－情報の大量流通・第三次産業の発展にともなう学習需要の増大、学習機会の普遍化。生涯教育論から生涯学習論へ。学習権の主張。生涯学習体系をめざす。

第3セクション「自由化をめぐる問題と教育」－11・12・1月。

自由化と個性重視の教育政策。変化の激しさと生きる力。“ゆとり教育”の問題。再びナショナルリズムと教育基本法改正問題。

履修上の留意点

現代の社会への問題意識。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

教 科 書

プリント配布。

参 考 書 等

授業中に紹介。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青少年問題研究	さぬき 真 佐 子	教職2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不適応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。

講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中での青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるが、その日の内容への質問や感想を毎回書いて提出してもらい、受講生同士のフィード・バックも考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験

教 科 書

必要な資料は適宜配布する

参 考 書 等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』
『日本人の深層分析』第9巻と10巻（有斐閣）
- ・季刊『仏教——特集癒し』No. 31（法藏館）2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』（楡出版）『子どもの宇宙』（岩波新書386）
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）1,200円
- ・小川捷之・村山正治編『学校の心理臨床』（心理臨床の実際2）（金子書店）4,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 教 育	こ 小 やま かず のり 山 一 乗	教職2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考(Legal mind)、そこに看取されるいわゆる宗教的思考(religious mind)、教育的思考(educational mind)の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しきは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえある。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と措定したい。その上で、tell(告げる)と teach(教える)との差異、〈religious education〉と〈education about religion〉との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬等を注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何〜何事、what~whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケア等を狙上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共存社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。本講義では無知解消の教育を考える。

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

レポート、出席点によって総合的に評価する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容 ― 宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点 ―』(宣協社) 2,940円

参考書等

指定図書→『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版) 1985年
井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版) 3,900円
杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』(日本評論社)
小中高各『学習指導要領』各230円 250円 370円
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円
参考図書→KYOUKO INOUE. 1991. MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION (THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS)

その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
生涯学習概論Ⅰ (前期)	豊田千代子	教職2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.296) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
生涯学習概論Ⅱ (後期)	豊田千代子	教職2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.297) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
視聴覚教育	飯森彬彦	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.313) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会教育施設	村山輝吉	11以前入学生/教職2・3・4選	4

(P.299) 参照

教職課程・資格講座

科目名	担当者名	配当学科	単位
学校経営と学校図書館 (前期)	山田節子	教職2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.289) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
読書と豊かな人間性 (後期)	山田節子	教職2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.289) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しやう</small> 昌 <small>きやう</small> 久	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.290) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	<small>しの</small> 篠 <small>だ</small> 田 <small>しやう</small> 耀 <small>こ</small> 子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.290) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しやう</small> 昌 <small>きやう</small> 久	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.291) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後期)	<small>しの</small> 篠 <small>だ</small> 田 <small>しやう</small> 耀 <small>こ</small> 子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.291) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)	<small>やま</small> 山 <small>だ</small> 田 <small>せつ</small> 節 <small>こ</small> 子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.292) 参照

(3) 教科に関する科目

【社会・地理歴史・公民】

科目名	担当者名	配当学科	単位
東洋思想史	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教職教科	4

講義のねらい

始めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう——これが本講義の目指すところである。

講義の内容・
授業スケジュール

今年度は、『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は、中国思想（儒教的教養）の概説書である。近代の眼差しが入る以前の儒教の基礎的教養を、この書を通じて確かめることができる。授業では、この書を購入する。購読を通じて、その背景にある中国の思想言説の伝統の一端に觸れてゆきたいと考えている。

履修上の留意点

最低書下し文が理解できる程度の漢文の基礎的教養が必要である。

成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。

1. 試験又はレポート（年1回以上）
2. 平素の受講態度（年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。）
3. 受講の積極性（質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。）

教科書

授業は講師が用意したプリントを用いる。

参考書等

適宜授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
美術史概説	や の よう こ 矢 野 陽 子	教職教科	4

講義のねらい

フランス絵画史。西欧の中心に位置するフランスは、交通の要衝であり、商業活動の経由地であり、巡礼の道も通っていた。国際的に開かれているという状況から、フランスは周囲の国々からさまざまな要素を受け入れながら固有の文化を生み出していった。この授業では、17世紀から19世紀にいたるフランス絵画の歴史をたどり、その特色を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

絶対王政が確立する17世紀から始め、18世紀末フランス革命を経て、新しい芸術運動が次々に起こった19世紀まで、時代を追って主要な流れを見ていく。前期は17・18世紀を、後期はフランス革命以後を扱う予定である。

履修上の留意点

前期のレポート提出と後期の筆記試験、出席等を合わせて評価する予定。

参考書等

高階秀爾著『フランス絵画史』（講談社学術文庫）

その他

授業ではスライドを使用する。

教職課程・資格講座

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 間 信 仰 論	たにぐち みつぎ 谷 口 貢	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定。

教科書

使用しない。

参考書等

桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、宮田登『日本人と宗教』（岩波書店）

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
人 文 地 理 学 概 説	こいけ とみこ 小 池 とみ子	教 職 教 科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

地理学における人文地理学分野をとり扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、人文地理学と地域論をとりあげる。
次に前期は主として民族・国家・人口の観点から、後期は経済発展と地域の変容の観点から、世界の諸地域が現在どのような問題をかかえているか、具体的に各地域をとりあげながら検討する。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教科書

特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参考書等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

その他

授業は講義形式で行う。ときどきビデオ、スライドなどを取り入れる予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
自然地理学概説	たかぎ まさひろ 高木正博	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を講ずる。
近年、河川環境や地下水汚染などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の特性について、地域事例をもとに説明する。

講義の内容・授業スケジュール

次の諸点について講ずる。
1) 水循環・水収支など水文学の基礎について
2) 河川や地下水の水量・水質などの特性と地域とのかかわりについて
3) 河川地形と水災害について
4) 身近な水源としての地下水・湧水の保全などについて
地域事例を紹介する際、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても概説する。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。地域を把握するために、地図帳や地形図を利用してほしい。

成績評価の方法

学年末定期試験と夏休みの課題の他、授業中に随時実施する課題など平常点も加味して行う。

教科書

授業時間にプリントを配布する。

参考書等

配布プリントをとおり随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
自然地理学概説	なかむら かずお 中村和郎	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本の自然は、世界のほかの地方と比べて、どんな特色をもつのだろうか。自然は人間にとって美しく、やさしい一面をもつと同時に、激しくて、一瞬にして多数の人命を奪う恐ろしさも持っている。人文地理学で扱う諸現象と違って、長い時間スケールで初めて理解できるものもある。日本各地の自然（地形、気候、植生、土壌、海など）を取り上げ、なぜそのような現象が起こるのか、世界のほかの地域と比べてどのように違うのかなどを学んでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 火山と地震
2. 川と平野
3. 海と海岸
4. 森と草原
5. 大気の流れ
6. 自然の変化
7. 人間が変えた自然
8. 自然災害

履修上の留意点

OHP などを使って講義をすることが多い。
講義を聴きっぱなしにするのではなく、参考書を読み、自ら進んで学んでほしい。
学校地図帳などを活用してほしい。

成績評価の方法

出席状況。前期のレポート、および年度末の試験によって評価する。

参考書等

貝塚爽平『富士山はなぜそこにあるのか』（丸善）1990
貝塚爽平ほか編『日本の自然』（全8巻）（岩波書店）
貝塚爽平ほか編『日本の自然 地域編』（全巻）（岩波書店）
小泉武栄『日本の山はなぜ美しい』（古今書院）1993
杉谷隆・平井幸弘・松本淳『風景のなかの自然地理』（古今書院）1993
中村和郎『雲と風をよむ』（岩波書店）1991

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	かわもととよかず 川元豊和	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

南及び東南アジアの地誌について講義する。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・
授業スケジュール

前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

白田雅之・佐藤宏・谷口晋吉編『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂）1993 2,800円
水島司編『アジア読本マレーシア』（河出書房新社）1993 2,000円

そ の 他

年に2～3回はスライドを使用した授業を予定している。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	あら 新 井 祥 穂	教職教科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義の内容・
授業スケジュール

わが国の農村・山村・離島部では、かつての基幹産業であった第一次産業が停滞する中で、そこに居住する人々は、就業先の確保を始めとして、生活の組み立て方にさまざまな課題を抱えている。このためこれら地域には、各種問題の解決をめざし、さまざまな公共投資がなされてきた。しかし、これら公共投資を許してきた社会経済状況も、90年代の不況以降は大きく変化しつつある。国の財源不足が切実になる中で、いったい農山村の何が、公共投資を用いて「解決すべき問題」であるかを、厳しく吟味すべき時期にきている。とはいえマスコミその他論調によって伝えられるこれら地域の情報は限られており、彼らの生活のあり様やその変化の具体的なイメージがわきにくいのも事実である。

本講義では、各種資料を用いて、日本の農山村がどのような経済社会であるのか、またそれがどういった方向に向かっているのかについて、具体的に正確な理解をめざす。

成績評価の方法

成績評価は試験で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	ふじ 藤 島 のり たか 範 孝	教職教科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

中国大陸について正確な地誌の情報が少く、ややもすると政治経済が先導し本来あるべき地理的知識が脱落し興味中心とした物語りで語られる事が多い。地理教育という観点からは、より基礎的識点を拡大すべきと思われる。回想と感想の見方を排し、今回の中国の地理的諸環境の分析を指標としている。

講義の内容・
授業スケジュール

前半と後半に区分すると、前半は大陸中国の自然環境と河川文明との関わりを中心として、基礎的総論を追求し、後半は生活の基盤たる大地と作目、少数民族の習慣的日常の背景を考える。

履修上の留意点

地図上で史的領域と影響圏の把握、各族の垂直分布に多重的生活を重ね立体的生活を把握する。

成績評価の方法

出席の度合い、課題別報告書、指定地域の地図、各種見解についての討論等併せて個人面接で総合判断するものとする。なお、地図板書の技術などについて対象とする。

教科書

現段階で適切なものがないので、板書と資料配布を中心とする。

参考書等

参考書は都度指示する。

その他

ノートの整理及使用方法、地誌としてのまとめを要求するので、常に提出できるようにしておく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 文 化 史 I	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを、明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていく。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
歴 史 哲 学	あ そう けん 麻 生 建	教 職 教 科	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は、純粹な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は、教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末試験

教 科 書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 史 概 説	で ぐち ひろ ゆき 出 口 宏 幸	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本の歴史を概説的に学ぶことにより、各時代の社会のあり方について考える。その際、できるだけ現代社会との対比をすることで、歴史上の問題をより身近な感覚で捉えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

古代～近・現代へと続く時代の流れには、いくつもの画期があり、社会的にも様々な変化を遂げてきた。そこで、日本の歴史を概説的に学び、その展開過程を考えることで、各社会を有機的に捉えたい。なかでも、近代社会の直前に位置し、幕藩体制が260年もの間続いた近世社会に注目し、その多様性と独自性などについて、時間が許す範囲で詳しく言及したい。

また、歴史を理解するには、政治・経済・文化、あるいは都市と農村など、様々な角度からのアプローチが可能であるが、できるだけその時代に生きた人々に焦点をあて、その生活をビビットに描くことに努めたい。

歴史上に起こった事件や、いろいろな問題の背景を探りながら、その時代を追体験する。そのことが年代や事件を記憶することから、一步踏み込んだ歴史学の世界への入り口になれば、と思う。

成績評価の方法

試験80% 平常点20%

教 科 書

特に指定しない。必要な資料はコピーを配布する。

参 考 書 等

適宜紹介する。

そ の 他

講義

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 史 概 説	こ まつ とし はる 小 松 寿 治	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会科教員として最低限の日本史に関する知識をつけてもらえればと思います。したがって高校時代に日本史の経験がなくても問題はありません。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は日本史全般を話すつもりですが、武士の時代が中心になります。板書を多くしますのでノートをとることを勧めます。

成績評価の方法

成績の評価は試験で行いますが、出席を重視しますので、より多く出席することを望みます。

教 科 書

教科書等は設定しませんが、参考図書については、必要に応じて話しますが、強制するものではありません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
世 界 史 概 説	井 村 行 子 <small>むら ゆき こ</small>	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

西洋史を中心に世界史を概説する。できるだけ情報量を制限して、考え方の筋道がつかみやすい授業を心がけたい。

講義の内容・授業スケジュール

第1講	世界史とは何か	第13講	南北戦争と農奴解放
第2講	古代オリエント	第14講	イタリアとドイツの統一
第3講	古代ヨーロッパ	第15講	19世紀後半のヨーロッパ
第4講	中世ヨーロッパ	第16講	帝国主義の世界分割
第5講	16世紀のヨーロッパ	第17講	20世紀初頭のヨーロッパ
第6講	17世紀のヨーロッパ	第18講	第1次世界大戦とロシア革命
第7講	18世紀のヨーロッパ	第19講	1920年代のヨーロッパ
第8講	産業革命とアメリカ独立革命	第20講	戦間期のアメリカとソ連
第9講	フランス革命	第22講	1930年代のヨーロッパ
第10講	ナポレオン独裁	第23講	第2次世界大戦
第11講	ウィーン体制	第24講	第2次世界大戦後のヨーロッパ
第12講	自由主義の発展		

成績評価の方法

前期と後期の筆記試験の成績による。

教科書

近藤和彦編『西洋世界の歴史』（山川出版社）1999 3,200円（必ずしも購入しなくてよい）

参考書等

開講時に世界史全般に関する文献目録を配布する。個々のテーマについてはその都度、必要性に応じて適宜紹介する。

その他

歴史映画のビデオ等によって歴史的なイメージの喚起に努めたいが、扱わなければならない事項は多く、時間は限られているので、現実にはなかなかむずかしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
世 界 史 概 説	わた なべ 渡 辺 倬	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

世界史概説は担当者の関係により、東洋史と西洋史の二つの部分に分けて行われます。受講者はこのいずれか1つをとればよい。

上記のうち、私は東洋史の部分を担当します。東洋史はアジア全体を対象とするもので、その領域は非常に広く、かつ多元的です。この授業は教職科目であり、また時間の関係から、以下に記すような順序で、広く浅く行うことになります。換言すれば“アジア歴史散歩”とでもいえましょう。

講義の内容・
授業スケジュール

(1) 世界史教育の歩み

学校教育における世界史という科目は戦後の教育の中で新しく成立したもので、はじめは東洋史と西洋史を束ねたようなものであったが、やがてヨーロッパ中心主義、大国（中国）中心主義が批判され、よりグローバルな世界史が求められるようになった。以上の経緯を文部省の世界史指導要領の変遷等を折り込んで説明したい。

(2) アジアの歴史世界は多元的でモザイクである。それゆえ、以下のような5つの世界に分けて、それぞれの世界の歴史の舞台となった自然環境、風土、そして歴史展開の特色などについて概観する。

- a. 東アジア世界；中国を中心とし、その周辺を含む地域。農耕生活。
- b. 中央(内陸)アジア；海への出口をもたない砂漠と草原の地域。遊牧とオアシス農耕の生活。
- c. 西アジア世界；オリエント及び地中海の一部を含む乾燥風土の地域。オアシス農耕と遊牧生活。
- d. 南アジア世界；インドを中心とした地域。農耕生活。
- e. 東南アジア世界；半島部と世界最大の多島海よりなる地域。海洋生活。

履修上の留意点

出席は必ずとります。

成績評価の方法

評価は定期試験、平常点に出席点を加味する。

そ の 他

またビデオを活用して、各地域の特色を視覚を通して把握することも行いたい。その際感想文を書いてもらいます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会学原論	わた なべ もと き 渡 辺 源 樹	教職教科	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会学的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 授業内容とそれに必要な準備
- 第1回 社会学とは何か
社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為
なぜ“action”からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程
人間の行為は“inter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
- 第5回 1. 役割の取得——社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程”を中心に
- 第6回 2. 役割の準拠——準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
3. 役割の葛藤——マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為
1. 規範と同調——逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2. ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論、マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1. 社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
2. 集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL 図式)
- 第12回 3. 集団の構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績の地位・帰属の地位
- 第13回 4. 集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第14回 5. 集団の凝集性・モラール 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラール
- 第15回 集団・文化・パーソナルティ
- 第16回 組織論と官僚性
1. 組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2. 官僚制組織の基本原則 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原則 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3. 官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／グールドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識
1. 社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第20回 2. ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3. 社会的性格
i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第22回 ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4. 社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成
1. 経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第25回 2. 政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化
3. 法と社会…法と法社会学／法の機能／規範
4. 教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法 定期試験（有り）、レポート（有り）

教科書 開講時に提示。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 人 類 学	佐 藤 憲 昭 <small>さとう けん しょう</small>	教 職 教 科	4

教職課程・資格講座

講義のねらい

文化人類学の視点と方法から諸民族の宗教文化を比較研究する学問が宗教人類学である。そしてその営為を通して「人間とは何か」という問題にひとつの解答を与えようとするものである。本年度は、人類に根源的・普遍的な宗教文化のひとつに数えられている憑霊文化を取り上げる。日常語で「私はツイテイル」という場合のツキとは神霊・精霊が憑いていることを本来は意味しているが、日常の会話ではツキの正体を不問にしている。神霊・精霊が憑いている現象は憑霊現象と呼ばれるが、その内容はすこぶる多岐にわたっている。本講では宗教人類学の学問的特色について概観した後に、日本及びアジアの諸地域で見られる憑霊文化を取り上げて、社会組織との関係を含むさまざまな角度から考察する。そして憑霊文化を通して人間理解の可能性を探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 文化人類学・宗教人類学・宗教民族学、2. 宗教人類学と宗教民俗学、3. フィールドワーク、4. 民俗宗教の特質、5. アニマ（霊）とマナ（力）、6. 憑きもの研究・憑霊研究・シャーマニズム研究、7. 憑霊現象と社会組織、8. 民俗仏教に見られる憑霊現象、9. 憑霊文化と王権、10. 憑霊文化から見た人間理解の可能性。

履修上の留意点

欠席をする場合（または欠席をした場合）には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法

講義内容を踏まえたりレポート試験の予定。

教科書

佐々木宏幹『聖と呪力の人類学』（講談社学術文庫）

参考書等

授業中に適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	はた なか たかし 晶 中 貴	教 職 教 科	4

講義のねらい

価格機構が果たす基本的な役割をよりよく理解するための理論（ミクロ経済学）について一通り講義する。価格機構がうまく機能しないのはどのような場合かという問題（市場の失敗）も扱う。

この講義の目標とするところは、以下の2点である。

- (i) 経済のありさまを自分なりに把握するための能力を磨く。
- (ii) 注意深く筋道だった思考ができるようになるための訓練を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に教科書に沿って行う。ただし、この講義で扱うのは、教科書の第3章（数学からの準備）から第9章（価格機構と経済の効率）までである。教科書に書かれている内容は、経済学の骨子である。上記の二つの目標を達成するためにはまず、教科書に書かれている内容を正確に理解し、ミクロ経済学の理論体系をしっかりと頭に入れることが肝要である。

数学は議論を単純化し論理の厳密性を実現する上で非常に有益な道具であり、ミクロ経済学の醍醐味を味わうためには、ぜひとも初歩的な数学をマスターする必要がある。したがって、初歩的な数学（集合・関数・微分）も併せて一から講義する。初歩的な数学のマスターは、経済学の勉強に役立つだけでなく、自分の頭で物考える力をつけてくれる。数学をこれまであまり勉強してこなかった人や苦手意識を持っている人は、これを機会にがんばって得意科目にしてほしい。

履修上の留意点

講義の内容は、大した苦勞もせずですいすいと理解できるような簡単なものではない。根気よく予習・復習を行い、分ろうと努力することが肝要である。「高く飛ばんと欲すれば深く学ばざるべからず」

成績評価の方法

基本的に二度の期末試験の総合評価

教 科 書

丸山徹著『新講 経済原論』（岩波書店）3000円

参 考 書 等

S. ラング著・松坂和夫他訳『解析入門 原書第3版』（岩波書店）3700円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	おお یش けう じ 大 石 雄 爾	教 職 教 科	4

講義のねらい

現在私たちが生活している社会は、資本主義社会とよばれています。それは利潤を追求する資本が生産や分配を規定する力となっているからです。現代社会はますます複雑化していますが、資本主義の一般的な経済法則やその仕組みを学ぶことは、この社会で生活していく私たちにとって不可欠のことといえるでしょう。経済理論 I A (および I B) では、現実の経済現象を分析することによってうち立てられた、科学的な方法を駆使したマルクスの経済学を講義することになります。

今の世界は封建制が崩壊することによって確立され、今でも変化発展しています。しかし、そのことは資本主義社会が調和的かつ平穏なたちで発展してきたものであることを意味するものではありません。たしかに、アメリカ・日本など先進資本主義国では人々の所得が多くなりましたが、それだけに南の貧しい発展途上国の人たちの所得格差は拡大しています。先進国どうしの間にも貿易摩擦などの形で対立が明るみに出ています。先進国内部をさらにみまると、財政赤字や高い失業率という実態があり、特に日本では労働者は長時間労働に悩まされています。

資本主義は経済成長をとげてきたのに、どうしてこれらの問題を解決ができないのか、という疑問が生じるのも当然のことといつてよいでしょう。環境問題も、実はよく見ると資本主義の発展がひきおこしてきたものであることが分かります。私たちは、21世紀に向けてこうした直面する問題について考え、その解決に向けて取り組むことを余儀なくされています。このように、少し考えてみると、さまざまな問題をひきおこす資本主義の一般法則をよく理解し把握しておくことが何よりも重要であることが分かります。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は、以上のようなところに焦点を当てながら、次のようなテーマにそって進めていく予定です。

1. 経済学とはどのような学問か
2. 商品の2要因と商品生産関係
3. 貨幣の諸機能
4. 貨幣の資本への転化
5. 資本の生産過程
6. 資金とは何か
7. 資本の蓄積
8. 資本の循環と回転
9. 社会的総資本の再生産
10. 剰余価値の利潤への転化
11. 平均利潤率と生産価格
12. 資本主義経済の長期的傾向

履修上の留意点

経済理論は1つのまとまりをもっていますので、毎回出席してノートをよく取る必要があります。この講義はまた、経済理論 I B と切っても切れない関係にありますので、次年度以降に経済理論 I B も必ず履修することを勧めます。

成績評価の方法

授業時間中に何回か小レポートを書いていただきます。後期に定期試験を実施し、成績の評価は、その定期試験と小レポートの点数を合計することによって行ないます。追・再試験を実施します。

教科書

金子ハルオ編著『資本主義の原理と歴史』(青木書店) 2,000円

参考書等

大石雄爾編著『労働価値論の挑戦』(大月書店) 3,400円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	あさの かつみ 浅野 克巳	教 職 教 科	4

講義のねらい

現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは「大きい」という意味をもち、「ミクロ」とは「小さい」という意味をもつ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。たとえば、景気の良し悪しは何によって決まるのか？物価の変化はどのような要因によるものか？現在、我が国の失業率は上昇傾向にあるといわれるが、その原因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えようとするもので、きわめて日常的で身近な分野であるといえる。しっかり勉強すれば、面白くてためになる「一粒で二度おいしい」基礎コースの1つだ。

なお、上にも述べたように「ミクロ理論」とはベアであるから、必ず両方の授業を履修することが現代経済学を体系的に理解するためには不可欠である。

講義の内容・授業スケジュール

年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくい部分をできるだけクローズアップし時間をかけて説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。

1. マクロ経済の仕組みと考え方
2. 国民経済計算と国民所得の諸概念
3. 国内総生産とは何か、それはどのようにして決まるのか
4. 独立収支の変化と国内総生産の関係
5. 消費と投資は何によって決まるのだろうか
6. 利子率とは何か
7. IS-LM モデルと財政金融政策の考え方
8. インフレとデフレ
9. 輸出と輸入
10. 経済成長の仕組み

履修上の留意点

現代経済学を勉強するうえで不可欠なことは、現実の経済問題にできるかぎり関心をもつことだ。これらはさまざまなメディアをとおしあふれるほど提供されている。特に『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおしてもらいたい。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけ持参してもらいたい。また必要な記事・データはスクラップ・ブックなどに整理しておく、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つだろう。

また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的なコースで用いる数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要があれば授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習にかさる。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒沢大学情報センター」に常備されている。それらを利用しシミュレーションしてみることも、おもしろく経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席しノートをしっかり取り、予習復習を実行すれば「100点取るのも夢じゃない！」なお授業中は、私語厳禁、勝手に席を立たないこと、ケータイなどもつてのほか、以上厳守。守れない者は、直ちに退席してもらう！

成績評価の方法

定期試験（再試験も実施する）による。問題は2種類出す。1つは論述形式で、もう1つは客観式（グラフを書いたり、簡単な計算問題など）を数題出題する予定。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1995年

参考書等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1998年、これは問題集だけど、できるかぎり練習問題を解くことも、理解を確実にする第一歩。自分で復習を兼ねて解いてみることをすすめる。この方法は公務員試験等の国家試験の受験対策としても大変有効だ。

その他

経済学部浅野ゼミ HP の『過去問コーナー』には、授業に必要な資料・参考文献、あるいは練習問題と解答などを掲載しておくので、各自でダウンロードして参考にしてもらいたい。また、質問その他どんなことでも書き込み OK！大いに利用してください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済原論	まつい 柳平 松井 柳平	教職教科	4

講義のねらい

世の中にはさまざまな経済的社会的問題が存在する（いままで経済的社会的な問題意識をもったことのない極楽な人には、新聞を毎日読む習慣を身につけることを勧める）。さまざまな経済的社会的問題に対して、どのように考え答えていったらよいのであろうか。

現実の経済はある程度単純化し、実際の経済のモデル（モデル）を構築し、それを対象に分析をおこなうことになる。もちろん、プラモデルのような物理的なモデルを作るのではないが、現実を単純化、抽象化することによって、本質を取り出そうというのである。経済モデルは数学を用いて記述される場合が多いが、経済学には、十分整理して議論しないと、とんだ理由づけをしかねない場合や、論点が未整理のため自ら混乱を招く例は少なくなく、このようなとき、数学的思考が役に立つのである。実際、数学における思考訓練は、無限の可能性の中から必要な論理をえぐり出すことにある。いわゆる抽象力である。それは単純化による論理の明確化と言ってもよいし、あるいは見通しをつける能力と言ってもよい。理論にとって、数学的思考による自己点検は忘れることはできない。だが、本講義では微分等の数学は一切使わない。小学校レベルの四則演算と中学校レベルの1次方程式程度の理解のみを前提する。

こうして現実を単純化、抽象化した経済モデルを用いて得られた結果は、分析の前提となっているさまざまな仮定に大きく依存している。得られた結論は、あくまでそこでの仮定、つまり採用したモデルに依存しており、仮定が変われば、結論も自ずと変わりうる。そのため、経済学（少なくともミクロ経済学とマクロ経済学）においては、導かれた結論だけを暗記したりしてもまったく意味はない。議論の前提となるさまざまな仮定や論理的な推論プロセスといっしょになってはじめて、結論が意味をもつのである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、ミクロ経済学の基礎理論を教場での実験等を通じて体験的に学習する。

ミクロとは微視的ということであり、ミクロ経済学は諸主体の行動の動機づけにまでさかのぼって、経済全体を理解しようとする。社会に存在する資源は稀少であり、すべての人の欲望を無制限に満たすことはできない。当然、稀少な資源の利用を、だれに、どれだけ、許すべきか、といった資源配分の問題が発生する。資源配分のメカニズムとしてはさまざまあるが、私たちが生活している市場経済における価格メカニズムが挙げられる。価格メカニズムは、その資源に対してもっとも高い価格を支払える人に優先的にその資源の利用を許すメカニズムである。本講義ではこの価格メカニズムという資源配分の機構に焦点を当てることになる。

こうした価格メカニズムのしくみを、教場での市場取引のシミュレーション等を通じて学んでいくことになる。

履修上の留意点

授業に出席する人には、授業前の予習が必須要件として求められる。授業に出席していれば偉いというものではない。授業後、熟考してもなお疑問点があれば積極的に質問してほしい。

成績評価の方法

期末試験によって評価するが、授業中の練習問題解答のプレゼンテーションや実験への参加などにも特別の評価を与える。（再試験実施）

教科書

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	はし 橋 ちと 本 ひろ 泰 あき 明	教 職 教 科	4

講義のねらい

経済学的ものの見方、考え方を修得することを目標とする。より具体的には、前期では、一国の経済規模や国民の所得の大きさ、物価、労働環境などの決まり方を理論的に把握し、後期では、消費者と生産者の経済的行動が市場を形成し、その結果、ものの価格の決定や経済の効率性がどのように作用されるのかを理解することを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：経済循環 国民総生産 国民所得 消費・貯蓄 国民所得の決定要因の分析 乗数理論
物価 為替変動と国民所得

後期：需要と供給 消費者の経済行動 無差別曲線 所得の制約 需要量の決定 生産者の経済行動 生産曲線 費用曲線 限界費用曲線 利潤最大化 供給量の決定 市場による価格決定 余剰概念 市場の効率性

履修上の留意点

さまざまな経済政策の背後にある理論的メカニズムを理解することが目標であるので、かなりの出席率を確保し、しかも授業中に脳細胞を働かせて思考を繰り返し、論理展開を十分理解することが大切である。しかしいったん考え方をマスターしてしまえば、かなりの応用が利く財産になり、試験のための丸暗記は不要になるであろう。

成績評価の方法

前期と後期の二回の筆記テストおよび授業中に課せられる小レポートによる。なお再試験は実施しない。

教 科 書

小野編著『現代経済学の基礎』（学文社） 3,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法 I	お お み や た か し 大 宮 隆	教 職 教 科	4

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んでくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教科書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）

参考書等

講義の中で随時紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
政治学原論	おお つか かつら 大 塚 桂	教職教科	4

※経B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第2研究館8階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

講義の目的

第一の目的は、将来教壇にたったときに役立つ基本的な知識の習得をめざすことです。

第二の目的は、社会科学の思考方法を会得することです。

第三の目的は、自己の意見を論理的にはっきりと述べられるようにすることです。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義のすすめ方

政治学の基本問題を、一回一テーマ主義でとりあげます。ワン・ウェイの講義をするのではなく、学生諸君との対話・討論形式をとりいれて授業をすすめていきます（場合によっては、学生諸君の報告や模擬授業も）。質問には、はずかしがらずに積極的にこたえて授業を盛り上げてください。

授業では、政治学のみならず隣接科目にまで話がおよんでいきます。履修者はあらかじめ高校時代の「政治経済」の教科書や参考書などに目をおしておくとういでしょう。

講義内容

講義でとりあげる問題は、以下のとおりです。

- | | |
|-----------------|----------|
| A 政治の思想 | C 日本の政治 |
| ～古代ギリシャ・ローマ政治思想 | ～明治国家の形成 |
| 中世政治思想 | 大正デモクラシー |
| 近代政治思想 | 軍部独裁 |
| 現代政治思想 | 戦後の政治 |
| B 政治の仕組み | D 国際政治 |
| ～議会 | ～国際連合 |
| 内 閣 | N G O |
| 地方自治 | 国際関係 |
| 官僚制 | |
| 政党 | |
| 選挙 | |
| 世論 | |

履修上の留意点

将来教職を希望する人間が、教室に足を運ばないのはもったいないのほかです。単位の認定にあたっては、出席を特に重視します。正当な理由があって欠席する場合（実習・研修など）には、必ず届けを提出してください。

成績評価の方法

出席：30% 中間試験：20% 学年末試験：30% レポート：20%

以上の割合で評価します。

なお、追・再試験も実施します。

教科書

大塚桂編『政治学へのいざない』（成文堂）2,500円

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

参考書等

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 宗 教 文 化 史	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本の宗教文化を考えるうえで、巫覡、ミコなどとよばれてきた巫者信仰の系譜は重要な意味をもつ。本講義では、この巫者信仰に焦点を合わせ、宗教史と実態調査研究の両面から得られた成果をもとに、その多様な形態と文化史的な意義を明らかにしてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず、柳田國男にはじまる巫者研究の歴史を概観したうえで、主として東北地方や沖縄地方の巫者信仰の具体的事例を考察する。ここでは、東北地方のイタコ、カミサマ、沖縄地方のユタ、ムヌシリなど、様々な名称で呼ばれてきた「野の宗教者」の世界に光を当てる。前期は東北地方、後期は沖縄地方が中心となる。

成績評価の方法

年度末に筆記試験。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

そ の 他

スライドを適宜使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 衆 宗 教 成 立 史	つ しろ ひろ ふみ 津 城 寛 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

深層文化論と宗教学の接点にたつて、民間信仰、民俗宗教、民衆宗教などの成立と基盤とを扱います。大伝統に対する小伝統、エリートに対する民衆、イデオロギーに対する非イデオロギー的な習慣習俗などに焦点を当てて、われわれの文化や社会や心の深層にある、民衆的な宗教性を浮き彫りにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

主要テーマは下記の4つであり、前期は深層文化論を軸に、後期は民衆宗教論を軸に、講義を進めます。

- 前期
- ① 深層文化論の整理
 - ② 深層文化と宗教研究
- 後期
- ③ 民俗主義的な深層文化
 - ④ 深層文化と集合的宗教

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に年度末のレポートで行います。

教 科 書

拙著『日本の深層文化序説——三つの深層と宗教』（玉川大学出版部）1995年を用います。

参 考 書 等

その都度紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	あらい 洗 けん 建	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

実証的研究としての宗教学の立場から、宗教を理解することがあらゆる人間の営み（諸文化、諸学問）を理解することと、いかに深くかかわっているかを明らかにする。

この教科は教職科目であるので、国家と宗教、憲法理念と宗教の問題を中心に考える。

講義の内容・授業スケジュール

宗教改革以降、信教の自由の確立に至るまでのキリスト教思想の変遷をたどって、その特質を理解し、日本における導入と変容、現代における諸問題を考える。

履修上の留意点

できるだけ出席し、事実を覚えることより、宗教学のものの見方を理解して貰いたい。したがって、原則として出席をとる。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教 科 書

特に指定しないが、水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）を持っていれば、参照すること。

参 考 書 等

随時、紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「宗教」という言葉を聞くと、特定の教祖によって開かれ、経典や教団を備えた組織的宗教や、そこで説かれてきた高度な宗教思想などを思い浮かべる人が多いと思う。しかし宗教には、共同体の生活慣習や年中行事に組み込まれた習俗や、祈祷・供養・祭礼・禁忌・呪詛などとよばれる実践や行為としての側面もある。

本講義では、こうした広がりやを考慮したうえで、とくに実践的な行為としての宗教について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、儀礼、タブー、イニシエーション、アニミズムなどのトピックを取り上げ、実践的宗教の多様な側面に光を当てる。

後期は、「死をめぐる宗教的観念と実践」というテーマで、仏教やキリスト教をはじめとする諸宗教が、人間の死や死者を実際にどのように扱ってきたか、という問題を考えてみたい。

成績評価の方法

年度末に筆記試験。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗 教 学 概 説	津 城 寛 文	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

集団の宗教から個人的宗教まで、また、原始宗教・古代宗教から現代の宗教現象まで、宗教としての共通点と、それぞれに固有の特性が明らかになるような講義にしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

前期は宗教と他界を軸に、後期は宗教と社会を軸に、講義を進めます。おおまかなスケジュールは次のとおりです。

前期

比較宗教学の前提、呪術と宗教、アニミズム・シャーマニズム、原始宗教・古代宗教、神秘主義、スピリチュアリズム

後期

公共宗教、市民宗教、宗教と国家、宗教と文化

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に年度末のレポートで行ないます。

教科書

用いません。

参考書等

その都度紹介します。

その他

数回ビデオを用います。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
哲 学 概 説	久 保 陽 一	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

ヘーゲルの名著『精神現象学』（1807年）の主要な箇所を解説しながら、哲学の諸問題を取り上げる。『精神現象学』は、個人的意識の形成の叙述であると同時に、人類の精神の歴史でもあり、また現代にも通ずる様々な思想内容の宝庫である。これを読解することを通して、「自己」や「世界」に関するものの考え方の基本を学んでほしい。

講義の内容・授業スケジュール

『精神現象学』の主要な箇所（例えば「感覚的確信」の弁証法、主人と奴隸の関係、「不幸な意識」、「快樂とさだめ」等約20箇所）を解説する。

履修上の留意点

よく出席し、ノートを取る。疑問点は遠慮なく質問すること。

成績評価の方法

出席やレポート等によって評価する。

教科書

いずれかの邦訳（ヘーゲル『精神現象学』）を手もとに置くのが望ましい。

参考書等

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』（有斐閣）
イボリット『ヘーゲル精神現象学の生成と構造』（岩波書店）
久保陽一『ヘーゲル論理学の基底』（創文社）

その他

時々、講義内容について簡単なレポートを書いてもらい、それについてコメントをつけて返すことにする。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
哲学概説	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。－哲学を学ぶ以前にこの様な問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい——そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学新理学の主要著作の中から『新原人』の学説を紹介する。

成績評価の方法

次のものを材料にして成績をつける。

1. 試験あるいはレポート
2. 平常の受講態度（年数回抜き打ちの理解調査を行う）
3. 受講をこえる積極的な学習（任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する）

教科書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新原人』（ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものをプリントして配布する。中文版については授業中に解説する）

参考書等

馮友蘭『哲学回憶録』（吾妻重二訳、『みすず』275号～284号）／柿村俊・吾妻重二訳『中国哲学史』（富山房）／佐藤慎二編『近代中国の思索者たち』（大修館書店）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
倫理学概説	かわ たに あつし 河 谷 淳	教職教科	4

講義のねらい

倫理学とは「人間の行為がかかわる限りでの善悪についての学」だと定義できよう。しかしながら、これはあくまで暫定的な定義にすぎず、その十全な意味は「人間」・「行為」・「よい」とは何かという点にかかっている。この問題を考えるにあたり、本講義は次のような二段構えの構成を採る。すなわち、一方では (a) 主に、古代ギリシア以来の西洋思想史における様々な倫理観を取り上げることでそうした倫理思想と現代との関係を考え、他方で (b) 現代倫理学の諸問題とそのアプローチの仕方を取り上げることで私たちに身近なことから「倫理的に考える」とはどういうことなのかを考えることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では概ね次のような内容を取り扱う。

- (a) 西洋倫理思想史：徳倫理学（古代ギリシア）、義務論（カント）、功利主義（ベンサム、ミル）
- (b) 現代倫理学の諸問題：メタ倫理学、生命倫理、環境倫理など

成績評価の方法

中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

講義においてその都度紹介する。

【職業】

科目名	担当者名	配当学科	単位
産業概説	まえだ ゆきかず 前田 幸一	教職教科	4

※経Bの12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

授業は'85(昭和60)年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・ 授業スケジュール

(総論) バブル経済と平成不況
 (各論) 非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、
 なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。
 (その他) 企業見学などを実施(去年は三菱自動車工業の工場見学を実施)

履修上の留意点

日経新聞などの経済・産業欄に日を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。再試験はしません。

教科書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』(日本経済新聞社) 1,500円

参考書等

授業の際に提示します。

その他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
職業指導	まえだ ゆきかず 前田 幸一	教職教科	4

※経B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本及び諸外国の職業教育の特徴を把握しながら、今後の職業指導を考えていく。

講義の内容・ 授業スケジュール

前期では日本の職業教育制度の歴史を、また後期ではアメリカ、ドイツ、イギリス、フランスなどの職業教育について授業をしていく予定です。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点及びレポート提出等で評価をしていく。

教科書

開講時に指示

参考書等

宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』(開隆堂)
 有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』(福村出版)
 寺田晃・佐藤伶監修『進路指導』(中央法規出版)
 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編『進路指導論』(福村出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 実 習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 教 科	4

※経 B の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

貿易における商品取引の基礎的な実務を習得するに目標をおいて授業を進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 輸出実務の概要 | 10. 為替の予約 |
| 2. 取引関係の創設 | 11. 海上保険契約 |
| 3. 取引条件の取決め | 12. 輸出検査と包装 |
| 4. 売買条件の取決めと契約成立 | 13. 輸出通関 |
| 5. 輸出信用状の照合 | 14. 船積み |
| 6. 約定品の調達 | 15. 船積書類 |
| 7. 輸出保険 | 16. 輸出決済 |
| 8. 輸出承認と認証の取付け | 17. 貿易クレーム |
| 9. 運送契約の締結 | |

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。再試験はしません。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

石田貞夫『貿易取引の実務』（教出版）
 渋谷源蔵『貿易実務』（同文館）
 藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房）

【商 業】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 指 導	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 教 科	4

※経 B ・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.283) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
コンピュータ基礎(教職課程登録者用) (前期)(後期)	すずき けんし 鈴 木 健 司	12以降入学生2選 (禅・仏教・国文・英米文) (地理・歴史・法A・政治)	2

講義のねらい

コンピュータの操作法の習得とコンピュータの基本構造の理解、およびインターネットを利用した情報収集、情報発信法の習得を目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

1. コンピュータの基礎 (ハードウェア、ソフトウェア、ファイルシステム)
2. Windows の基礎知識と操作法
3. インターネットの原理と利用法 (電子メールの利用、ホームページ)

成績評価の方法

出席を重視し、レポートを加味して総合的に評価する。

教 科 書

適宜プリントを配布する。



Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
学校経営と学校図書館 (前期)	やま だ せつ 子 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念、発達過程と課題・教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的な理解をめざす。また司書教諭の任務と担うべき役割を明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にもふれる。さらに、学校図書館のメディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的な理解を図る。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発展と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校図書館の経営
- 5 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修
- 6 学校図書館メディアの選択と管理、提供
- 7 学校図書館活動
- 8 図書館の相互協力とネットワーク

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参考書等

- 全国 SLA 図書館学編集委員会編『学校図書館学 1 学校図書館の原理と運営』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

講義・討論・ビデオ
この科目は、平成10年度までに「図書館学 I」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
読書と豊かな人間性 (後期)	やま だ せつ 子 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会に生きる子どもの発達や、読みの多様化などの進展している実態に即した読書教育の理念を探る。さらに、子どもたちの読書生活の実情と読書資料の現状についての理解に基づき、子どもと本を結びつけ、読書の生活化を図る方法を探る。これらを通じて子どもたちの豊かな人間性の涵養に資するため、司書教諭の役割と自らの責務を中心に、活動の原理と方法、技能についても、具体的に体得してもらおう。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 読書の意義と目的
- 2 子ども読書実態と指導
- 3 読書資料の種類と活用
- 4 発達段階に応じた読書指導
- 5 子どもと本を結ぶための方法
- 6 読書指導推進活動と教員の責務
- 7 地域社会の関連施設等との連携

成績評価の方法

小論文とテストによる

参考書等

- 全国 SLA 編『学校図書館白書 2 学校図書館と子どもの読書の現状と課題』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

この科目の受講は下記の1、2を終了してからが望ましい。
1. 学校経営と学校図書館 (前期)
2. 学習指導と学校図書館 (前期)
この科目は、平成10年度までに「図書館学 I」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	みなもと しょう きゅう 源 昌 久	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク 2) 分類法(表)の解説・演習
3) 目録の解説・演習 4) 資料組織の機械化 5) 多様な学習環と学校図書館メディアの配置

履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

教科書

『日本十進分類法 改訂9版』(日本図書館協会)セット定価 6,000円
『日本目録規則 1987年版 改訂版』(日本図書館協会)3,500円

参考書等

講義中に指示する。

その他

必要に応じて、ビデオを活用する。
この科目は、平成10年度までに「図書館学Ⅱ」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	しの だ よう こ 篠 田 耀 子	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

図書および視聴覚メディア、その他多様なメディアの構成を学校現場に合わせて考え、選択できる実務能力の育成をはかる。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①学校図書館メディアの種類と特性
②学校図書館メディアの選択と構成
③学校図書館メディアの組織化
・分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説
・目録の意義と機能、日本目録規則の解説
・目録の機械化(コンピュータ化)
④多様な学習環境と学校図書館メディアの配置
◆授業スケジュール
上記①② 4～5月 講義
③④ 6～7月 講義および実習

履修上の留意点

実習を伴う授業を行うので、欠席したり、実習レポート等の提出を怠らないこと。

成績評価の方法

レポート等を含む平常点評価の予定。

参考書等

志村尚夫編著『学校図書館実践テキストシリーズ2：学校図書館メディアの構成』(樹村房)1,800円

その他

現役の司書教諭という立場で、学校図書館の現状と将来への展望など実践を生かした授業を心がけたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後 期)	みなもと 源 しょう 昌 きゅう 久	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。
講義の内容・ 授業スケジュール	1) 情報化社会と人間 2) 情報メディアの特性と選択 3) 視聴覚メディアの活用 4) 学校図書館におけるコンピュータの活用 5) 情報検索
履修上の留意点	予習・復習をしっかりと行ってほしい。
成績評価の方法	平常点および試験の成績を併せて評価する。
教科書	情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習』(日外アソシエーツ) 2,200円
参考書等	講義中に指示する。
その他	この科目は、平成10年度までに「図書館学Ⅱ」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後 期)	しの 篠 だ 田 よう 子 耀 子	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解をはかる。
講義の内容・ 授業スケジュール	①高度情報社会と人間 (情報メディアの発達と変化を含む) ②情報メディアの特性と選択 ③視聴覚メディアの活用 ④コンピュータの活用 ・教育用ソフトウェア活用 ・データベースと情報検索 ・インターネットによる情報検索と発信 ⑤学校図書館メディアと著作権 ◆授業スケジュール ①②……10、11月 講義 ③④⑤……11、12月 講義 小、中、高いずれかの学校を選んで、学校現場での視聴覚メディア、コンピュータの活用の状況を調査し、分析報告をする。
履修上の留意点	実習を伴う授業を行うので、欠席をしたり、実習レポート等の提出を怠らないこと。
成績評価の方法	レポート等を含む、平常点評価の予定。
参考書等	大串夏身編著『学校図書館実践テキストシリーズ1：情報メディアの意義と活用』(樹村房) 1,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学習において学校図書館が果たすべき役割は大きい。学習図書館は、児童生徒が、「自分で調べて学ぶ」学習を中心に、教育活動のさまざまな場面で、メディアを積極的に利用するよう指導し、それを活用する能力の育成を図らなければならない。
この科目は、その原理と方法を学ぶと共に教師に対するサービス・支援のあり方に関し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 3 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成
- 4 学習課程における学校図書館メディア活用の実際
- 5 学習指導における学校図書館の利用
- 6 学校図書館における情報サービス
- 7 教師への支援と働きかけ

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参 考 書 等

- 全国 SLA 編『これからの学校図書館と司書教諭の役割：改正学校図書館法マニュアル』
- 井澤純著『図書館学大系 7 読書教育原論』（全国 SLA 刊行）

そ の 他

講義・討論・ビデオ・演習
この科目は、平成10年度までに「図書館学 I」の単位を修得した者は、履修できません。

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育計画	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事2必	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

かつて社会教育職員の専門性として、4P論（プランナー、プログラマー、プロデューサー、プロモーター）がいわれた。いま各自治体では住民の生活課題や地域づくりの課題に対応したきめ細かな生涯学習振興策とその計画化がもとめられている。この講義では、自治体の生涯学習計画の策定を中心に、できるだけ具体例に即して、ひろく生涯学習の方法、事業計画などの理論について理解を深められるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 生涯学習の方法と計画の今日的課題
2. 住民の課題と生涯学習計画
3. 生涯学習の方法と事業の計画・運営
4. 生涯学習と条件整備
5. 地域生涯学習計画の策定
6. 生涯学習計画と社会教育計画
7. 学習権の思想と社会教育計画の課題

履修上の留意点

できるだけ「生涯学習概論」を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

出席、レポート、試験等により総合的に判定する。

教科書

酒匂・村山他編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,800円

参考書等

そのつど紹介する。

その他

夏休み中に、各自、自分のまちの社会教育行政の実情について調査し、レポートにまとめることをもとめる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生涯学習概論 I (前期)	とよ ちよ こ 豊 田 千 代 子	社教主事 2 必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という観点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の観点からの教育の見直しが課題となっている。

授業では、OECD や ILO などの国際機関ならびにわが国における生涯学習政策の動向を概観し、その検討を通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念
- ・生涯教育・生涯学習の国際的動向
- ・わが国における生涯学習政策
 - ・国レベルの政策－「生涯学習振興整備法」の制定とその後の動き
 - ・地方自治体における生涯学習政策の展開
- ・生涯学習と学校計画
- ・生涯学習と社会教育

成績評価の方法

レポート等により成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参 考 書 等

適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生涯学習概論」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生涯学習概論Ⅱ (後 期)	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	社教主事2必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日、わが国では、生涯学習の観点での教育の見直しが、学校教育でも社会教育でも求められている。授業では、とくに社会教育に焦点を当て、改革の方向性を探ることを目的としたい。そのために、社会教育の歴史や社会教育行政の役割等とともに「おとなの学び」に注目しながら、社会教育についての理解をはかりたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・社会教育とは
 - ・社会教育の定義
 - ・社会教育の歴史
 - ・社会教育法
 - ・社会教育施設（公民館など）
 - ・社会教育行財政
- ・成人教育としての社会教育
 - ・「おとなが学ぶ」とは
 - ・「おとなの学び」の事例
 - ・おとなの学びに関わる職員の役割
- ・生涯学習と社会教育

成績評価の方法

レポート等により成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参 考 書 等

適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生涯学習概論」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育実習	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	社教主事3必	4

講義のねらい

公民館、図書館などの社会教育施設や、教育委員会での実習をとおして、社会教育についての理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

事前指導 — 社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、グループで報告する。
 訪問指導 — 実習先訪問指導。
 事後指導 — 実習をとおして学んだこと、疑問に思ったことなどについて報告する。
 実習報告書を作成する。

成績評価の方法

①実習ノート ②授業への参加度（授業での実習報告、報告書作成への取り組みなど）

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

小林文人編『公民館の再発見 — その新しい実践』（国土社）
 社会教育推進全国協議会編『新版 社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

その他

実習報告書の作成に関しては、企画、編集、印刷、製本のすべてを自分たちで行なう。このことをとおして、共同で学ぶ方法を身につけたり、共同で学ぶことの楽しさに気づいてほしい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育実習	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事3必	4

講義のねらい

学生が社会教育実習に主体的にとりくみ、社会教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- ・社会教育実習の意義と心がまえ — これまでの実習の経験に学ぶ事前指導
- ・実習期間 — 個別の訪問指導
- ・実習後 — 個別の体験の整理・検討と共通する課題の追求。
 [例] 社会教育職員の専門性とはなにか。

成績評価の方法

平常の受講態度（出席、口頭発表、レポート、討議の質等）や実習ノート等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

その他

社会教育実習を受講する学生は、前年11月中におこなわれるガイダンスに必ず出席すること。

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育行政	あら い 荒 井 隆	社教主事2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会教育行政現場で永く実践を続けてきた立場で講義をしますので、体験に基づく具体的な話を中心となります。堅い印象の講義題ですが、内容は柔らかいものです。理論だけでなく、実践的な社会教育の見方を身につけたいと考えている人を歓迎します。

講義の内容・授業スケジュール

①私の社会教育行政の体験談、②社会教育から行政を見る、③東京23区の社会教育行政の特徴、④社会教育行政の仕組み、⑤社会教育行政の働き、⑥社会教育主事の具体的仕事
概ね以上の内容を、それぞれ4回を目安(1ヵ月)に講義し、1年を通じ社会教育行政の具体像の把握を目指します。

履修上の留意点

社会教育の基礎知識があればより広く深く理解ができますが、初めて社会教育の講義に参加する場合でも、体験に基づきわかりやすい講義をしますので、安心して参加してください。

成績評価の方法

出席及び試験内容等をもって評価します。

教科書

特に使用しません。

参考書等

講義に関係する参考書を随時紹介しますので、理解を深めるため読んでください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育施設	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会教育の方法や形態を考えるうえで、戦後のわが国では公民館をはじめとする図書館・博物館等社会教育施設の重要性があらためて認識された。本講ではその社会教育施設の歴史と現状について考察を深め、それが抱える諸問題について、望ましい展望を拓きたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・社会教育施設とは何か
- ・社会教育施設にかかわる人々
- ・公民館の歴史と現状
- ・図書館の歴史と現状
- ・博物館の歴史と現状
- ・社会体育施設の歴史と現状
- ・その他の社会教育施設・関連施設
- ・社会教育施設をめぐる最近の動向と課題

それぞれできるだけ具体例・実践例を挙げて理解をはかるようにしたい。

履修上の留意点

できればいくつかの施設見学を実施したいと考えているが、学生自身もすすんで適宜、施設の利用、見学、施設で行われている学級・講座・サークル活動等に参加して施設体験を豊かにしてほしい。

成績評価の方法

出席・受講態度等の平常点、レポート等により総合的に判定する。

教科書

適宜指示または紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
成人学習論	あら <small>い</small> 荒井 <small>たかし</small> 隆	社教主事2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

成人の学習は、生涯学習時代といわれる今日、その具体的な姿が私たちの周辺で見られるようになりました。講義ではその実像の一端にふれて、成人の学習のリアリティに接し、生涯学習の意義を理解するだけでなく、自らの学習の一助にもなることができれば幸いです。

講義の内容・授業スケジュール

①大人も学習するのか、②成人の学習事例～自分史～、③成人の学習事例～人権学習～、④成人の学習事例～文字を獲得する学習～、⑤成人の学習のあり方

履修上の留意点

実践に基づく授業です。本からの理解と異なり、できるだけ多様な方法を用いて学んでいきます。学生の学習と少し趣きの違う成人の学習に興味のある人の参加を期待しています。

成績評価の方法

出席及び試験内容等を参考に、総合的に評価します。

教科書

特に使用しません。

参考書等

授業で随時紹介します。理解を深めるため授業で使用する場合もあります。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ジェンダーと教育Ⅰ (前期)	なか <small>さわ</small> 中澤 <small>ちえ</small> 智恵	社教主事2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の生活経験をふまえて考察し、受講者同士の相互学習の中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は、①ジェンダーとは何か、②ジェンダーの形成、③学校教育とジェンダーなどを予定している。後半は、受講者各自のレポート発表にもとづいた討議を中心とする。

履修上の留意点

履修上、後期「ジェンダーと教育Ⅱ」とあわせて受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席、授業中のディスカッションへの参加状況、およびレポート発表の内容にもとづいて行うので、受講者の授業への積極的な参加を求める。

参考書等

参考書は、石川洋子編『人間発達学』（宣協社、2000年）・木村涼子『学校教育とジェンダー』（勁草書房、1999年）ほか、適宜指示する。

その他

この科目は、平成11年度以前の入学者には、総合演習(13)の単位としては認められません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ジェンダーと教育Ⅱ (後 期)	なか ざわ ち え 中 澤 智 恵	社教主事2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の生活経験をふまえて考察し、受講者同士の相互学習の中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容としては、ジェンダーの観点からマス・メディアの問題について概説し、メディア・リテラシーに関するワークショップを行う。また、セクシュアリティをめぐる問題について取り上げる。後半では、前期の講義をふまえ、各自の問題意識をほりあげたレポート発表にもとづいて討議する。

履修上の留意点

履修上、前期「ジェンダーと教育Ⅰ」とあわせて受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席、授業中のディスカッションへの参加状況、およびレポート発表の内容にもとづいて行うので、受講者の授業への積極的な参加を求める。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前の入学者には、総合演習(4)の単位としては認められません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
職業教育Ⅰ (前 期)	しお かわ まさ と 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本授業のねらいは「就職に役立つ授業」この一点にある。二十一世紀の大学志願者は「就職率の高い大学」を最優先で選ぶ時代となる。本授業はそうした学生達のニーズに真正面から応える授業としたい。

講師の本業は経営コンサルタント。ゆえに日々ビジネスを共にしている企業の人事・採用責任者の立場から、カリキュラムを編成する。

本授業を選ぶ諸君は、先ず学生意識の甘えを捨てなければならない。「社会人」としての意識と行動なくして「就職」への準備は成り立たない。

学生諸君の未来を決める「人生最大の決断」が就職への準備である。しかもその門に入ることは極めて厳しい。君の未来を、この授業の中で見出す覚悟をもって、授業に参画してほしい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①学生と企業人の違い。
- ②企業は学生に何を期待しているか。
- ③就職への準備。
- ④企業選択の基準。
- ⑤面接試験の本質と取組み方。
- ⑥論文試験の本質と取組み方。
- ⑦いかにして自己を鍛えるか。

授業の半分は、学生との質疑応答の時間としたい。質疑応答の中で、企業という「生きもの」の厳しさと素晴らしさを伝えたい。

履修上の留意点

- ①講師が企業で実践している資料の配布が多い。資料を保存するためのバインダーを準備すること。
- ②授業の度に発言や返答、意見発表、討論などがあることを想定していること。
- ③教員や公務員を志望する諸君にとっても「就職」の基本は同じ。役立つことと確信する。

成績評価の方法

平常授業とレポートによって評価

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「企業内教育・職業訓練」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 教 育 Ⅱ (後 期)	しお かわ まさ と 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

前期と全く同じである。授業の目的は「就職試験に勝つ」。そのための自己革命を学生諸君は本授業で実践する。

授業内容は、前期の内容を更に詳しく掘り下げていく。前期以上に、面接や自己アピールのための演習を多くしたい。

成績評価の方法

前期同様に平常授業とレポートによって行う。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「企業内教育・職業訓練」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 体 育 Ⅰ (前 期)	ふる た しゅん こ 古 田 潤 子	社教主事2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現在、社会の複雑なうねりは日々変化の度とスピードを上げて、私たちの日常生活に深刻な影響を及ぼしつつあります。本当が見えにくく現実の諸問題に対応しきれない不安さに様々なストレスも生まれています。しかしこのような不安定な状態に置かれた時こそ今までとは別の新しい安定が生まれる可能性があると思います。この授業では、私たちのからだは自然が生み出した自然の一部であり、自然と調和して生きる生命だという原点に戻って、それぞれの人に本来備わっている能力を回復すること、そこから自然や自分自身、そして他者とのように関わっていくのかなどを模索しながら、社会生活の中で安定し共生していける創造的なからだを育てることに取り組みます。

講義の内容・
授業スケジュール

野口三千三の野口体操理論に基づいています。野口三千三は、従来のからだの価値基準を解剖、分析、計測による数値化可能なものによって作り出された、外側にあるものを体に当てはめるというものではなく、人間のからだを生きている丸ごと全体として捕らえ、自分自身のからだの動きを手がかりにして人間とは何かを探検するいとなみ、というからだの内側に価値基準を置いています。従ってこの授業では、私がこの理論に基づいて長年体験し研究してきたものを、皆さんに体験してもらいます。それを手がかりに各人が自分の本来のからだの自然に気づき、自分の価値観で現実に対処できるからだを育てていきます。

〈基本となる要素〉

自然の原理に沿った動きで、ゆったりと自分のからだ向き合いからだの声を聴く。

その時々をからだを支える必要最小限の緊張を残してリラックス。

その時々姿勢におけるからだの最下部に全体重を任せ切る。

自然な呼吸。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業（レポートも含む）

参 考 書 等

野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）

野口三千三著『野口体操からだに貞く』（柏樹社）

野口三千三著『野口体操重さに貞く』（柏樹社）

池田潤子執筆 雑誌「からだのレッスン」「ひと」（太郎次郎社）

古田潤子「自然なからだのあり方を考える【円筒エリア】の発見と意義」

『駒沢大学教育学研究論集』第13号1997年

そ の 他

授業は実技を主に行います。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会体育Ⅱ (後期)	ふるたじゅんこ 古田潤子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

他者とひびき合う豊かな関係を拓いていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

環境の変化に応じて、的確に落ち着いて対処できる心とからだを、自らの力でとらえて自信を身に付けます。屋内、屋外のいろいろな場所での体験実習も考えています。

また、海外でのワークショップにおける豊富な経験をもとに様々な遊び道具の製作や、それを使った楽しい遊びも加味します。同時に日本人と外国人の考え方、感じ方、環境の変化に対する即応の仕方の違いなどについても一緒に研究をしていきます。

科目名	配当学科	単位
教育の思想	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.199～202) 参照

科目名	配当学科	単位
教育と社会	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.203～205) 参照

科目名	配当学科	単位
発達と学習の心理学	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.205～208) 参照

科目名	配当学科	単位
教育とメディア	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.212～214) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会心理学	つば 坪 井 健	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、個人の社会的行動、対人関係、集団行動と個人、集団心理現象など、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、実験、テスト、観察、調査など社会学と心理学の研究方法が用いられており、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この講義では、境界科学としての特徴を生かし、具体的テーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて授業を展開したいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方 -
2. 社会的自己のはなし - 自己過程の社会心理 -
3. 他者との関わり - 友人関係と対人魅力 -
4. 対人関係の心理 - 援助行動と社会的影響 -
5. 集団の中の個人 - 同調行動と意思決定 -
6. 文化現象と個人 - 異文化と日本人 -
7. 現代社会と個人 - 現代人の社会心理 -
8. その他 (社会的認知、社会的欲求、態度変容、リーダーシップなど)

履修上の留意点

1. 授業中に、小実験や心理テスト、エキサイズなど行うことがあるので積極的に参加すること。
2. 授業内容は、通年テーマの概略である。授業の流れとの関係で内容や順序は変更することもある。
3. 授業中は配布プリントを参考にノートを取り、さらに深く研究する人は、紹介した文献を参考に自主的に学習することが望ましい。

成績評価の方法

1. 出席・毎時間の受講態度、感想、意見、質問など (30%)
2. 課題レポート・期末試験 (70%)

教科書・
参考書等

各テーマの授業時間に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
視聴覚教育	いい 飯 森 彬 彦	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.313) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育社会学	くま 熊 谷 一 乗	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.253) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育史	山本敏子	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.254) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育調査	鈴木規夫	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.255) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
青少年文化	香川良成	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための劇活動）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評を併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない場合以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（発表、レポート）と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）、富田博之著『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学』I総論（大月書店）

その他

現在行われている演劇教育（“劇あそび”その他）の模様や舞台をビデオで観たり、実際観劇するというも行いたい。またテーマを決めて討論することも考えています。
この科目は、平成11年度までに「児童文化」の単位を修得したものは、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代社会の諸問題と教育 I (前 期)	くまがいのり 熊 谷 一 乗	社教主事2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会の諸問題のなかでも、子どもの発達の基盤として重要な意味をもつ家族について、今日の諸問題を取り上げ、教育の観点から、その実態、背景、原因を解明し、有効な問題解決の方策をさぐることをねらいとしている。社会的に憂慮されている社会性の発達の遅れなど子どもの発達をめぐる問題、不登校・いじめ・校内暴力など学校における問題、その他の非行問題の背景には、近年、大きく変容しつつある現代家族の在り方をめぐる問題がある。この点を十分に理解し、どのように対応すればよいかを考えるとところに講義のポイントがある。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次ぎの三つのセクションに分けて行われる。

第1セクション「家族集団と子どもの発達」－ 4月。

教育の場としての家族の意義。人間形成を方向づける家族の集団力学と文化。教育をめぐる定住家族と生殖家族。

第2セクション「産業の発展にともなう家族の変容と教育機能の衰退」－ 5月。

産業構造の変化と家族規模の縮小、核家族の一般化。役割構造の変化と学習－教育プロセスの変化。共同体としての家族の“崩れ”と教育機能の低下。

第3セクション「現代の家族をめぐる問題の諸相と人間形成」－ 6、7月。

出生率の低下－少子化と教育問題。親子関係の変容。メディアの家庭支配と連帯の弛緩。共働きの一般化と保育問題。高齢化における家族の福祉機能と教育機能－その可能性と限界。家族間の格差。

履修上の留意点

家族問題への関心。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

授業の方法

講義に討論場面を加える。

教科書

プリント配布。

参考書等

授業中に紹介。

その他

この科目は、平成11年度までに「現代社会の諸問題と教育」の単位を修得したものは、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代社会の諸問題と教育Ⅱ (後 期)	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	社教主事2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代の社会は、急激な変化にもなつて解決の難しい多くの問題を発生させている。これらの問題は、教育の在り方に直接的、間接的に重大な影響をおよぼしている。わが国の場合、社会的変化は、とりわけ、1960年代の経済成長政策以降、テンポを早め、激しさを増している。講義では、わが国の高度経済成長以降の社会的変化の過程で生じた重要な問題と教育との関係を明らかにして将来を展望し、問題解決の方途を探ることをねらいとしている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次ぎの三つのセクションに分けて行われる。

第1セクション「高度経済成長にもなう社会の諸問題と教育」-9月。

経済成長のための教育と能力主義。都市化-過疎・過密の問題と教育。環境問題と教育。非行、心の問題と教育における能力主義の限界。社教審答申の問題提起。第三の教育改革。ナショナリズムの高揚と教科書裁判。高度成長にもなう“光”と“陰”のなかの教育。

第2セクション「情報化にもなう問題と生涯学習」-10・11月。

コンピューターの普及・メディアの発達にもなう脱工業化-情報の大量流通・第三次産業の発展にもなう学習需要の増大、学習機会の普遍化。生涯教育論から生涯学習論へ。学習権の主張。生涯学習体系をめざす。

第3セクション「自由化をめぐる問題と教育」-11・12・1月。

自由化と個性重視の教育政策。変化の激しさと生きる力。“ゆとり教育”の問題。再びナショナリズムと教育基本法改正問題。

履修上の留意点

現代の社会への問題意識。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

教科書

プリント配布。

参考書等

授業中に紹介。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年問題研究	さゆ き ま さ こ 讚 岐 真 佐 子	社教主事2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.257) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年指導演習	ひらの 平野 まなぶ 学	社教主事2・3・4選	4

※経 B・法 B・二宮の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が「青少年指導」について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況やトピックス等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていきたい。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりでいる。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達の観点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にデモンストレーションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. スクールカウンセラーについて及び講師自身の援助例(不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング)の提示と討議。(3回)
5. HIV・エイズ問題やカルト問題、ストーカーやドメスティックバイオレンスの問題とそのカウンセリング(4回)
6. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験(ボランティア活動他)の報告と討議。同時にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(3回)
7. その他(全体の振り返り他)。(2回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。

出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行うので安易な受講は避けてほしい。)

尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート(年間授業を振り返る形でのもの)、夏休みレポート(体験報告または読書感想)、平常点(出席等)の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る(上・下)』(創元社)各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える(上・下)』(創元社)各1,300円

同 『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)1,240円

同 『ユング心理学と仏教』(岩波書店)1,800円

佐治守夫他『カウンセリングを学ぶ』(東大出版会)2,800円

乾吉佑、平野学編『臨床心理士になるには』(ぺりかん社)1,230円

他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTRも多く使用して、具体的に学べるようにしたい。

授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお たち きみこ 太 田 喜美子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.314) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	きし がみ こういちろう 岸 上 興一郎	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.314) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報メディアの活用 （後期）	みなもと しゅう きゆう 源 昌 久	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.291) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報メディアの活用 （後期）	しの だ ようこ 篠 田 耀 子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.291) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
読書と豊かな人間性 （後期）	やま だ せつこ 山 田 節 子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.289) 参照

IV 博 物 館 学 講 座

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
視聴覚教育	飯森彬彦 <small>い い も り あ き ひ こ</small>	学芸員2・3必	4

講義のねらい

視聴覚教育の背景にある基本的な考えを理解したうえ、個々の視聴覚教材の特性と基礎的な技法（教材の制作の仕方、利用の仕方）を習得する。

併せて、変動する今日の社会におけるメディア事情を把握し、メディアを活用する態度や能力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- ア. 視聴覚教育の歴史とその思想的背景
 - イ. 情報の授受に関する基礎的な理論
 - ウ. 各視聴覚教材の特性と制作法、利用法
 - エ. 教育に関連したメディア状況の展望と諸問題
- 以上のような内容を、実践に関連したウに重点をおいて行う。

履修上の留意点

実践に重点をおくという考えから、夏休み、冬休みなどを中心に2・3度、課題を出し、作品の提出を求める。作品制作のために若干の経費の負担がある。

成績評価の方法

課題で提出された作品の評価で50%、期末のテストで50%。
出席の不足は、作品評価やテストの採点に必ず反映されるので、特に出席状況を評価の基準にはしない。

教科書

使用しない。

参考書等

講義の参考に使用しているのは以下の書物である。
浅野孝夫・堀江固功編著『新視聴覚教育』（日本放送教育協会）
秋山隆志郎・岩崎三郎編著『視聴覚教育』（樹村房）
野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開』（東信堂）
赤堀正宣・佐賀啓・中野照海編著『メディアと教育』（小林書房）

その他

ビデオ、写真などをできるだけ多用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
考古発掘実習	飯島武次・酒井清治 <small>い い じ ま た け つ ぶ く さ か い き よ し じ</small>	学芸員3・4必	2

講義のねらい

発掘技術の習得を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが例年である。従って履修者は、博物館実習との関係等をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後には計画を作ること。

授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席・遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。

成績評価の方法

成績評価は出席点と平常点および発掘実習と発掘日誌。

教科書

『考古学調査ハンドブックス1（野外編）』（雄山閣）1984年 2,800円

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお 太 田 喜 美 子 た み こ	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館学講座（学芸員課程）の必修科目である。博物館法施行規則によると、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（岸上講師）、各2単位」も履修していただかないと次年度へ進めないの注意を要する。

この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ・Ⅲ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、岸上興一郎講師に講義していただいている。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒沢大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に來ても、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意してもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、数回教室に出席してもらおうことにしている。したがって、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に來てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

成績評価の方法

試験による評価（詳細は、第1回目に説明する。）

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	きし がみ こう いち ろう 岸 上 興 一 郎	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館で扱う資料とは何であるのかを問う。

講義の内容・
授業スケジュール

博物館法および関連法でいう博物館資料について述べる。資料は多様な環境の中におかれている。それらの資料がいかなる過程をへて博物館に寄贈・寄託・借用・購入され、研究・収蔵そして展示されていくのかを事例をもとに展開する。

履修上の留意点

資料のもつ基礎情報を学芸員として熟知し、いかに展示空間に動と静の知的世界を構築するかを考えること。

成績評価の方法

レポート提出。

教科書

財団法人日本博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参考書等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
財団法人日本博物館協会編 月刊『博物館研究』

その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館学Ⅲ(経営論・情報論) (後期)	岸上興一郎	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館は学芸職と事務職によって構成されている。その経営にあたっては、各個人の暗黙知、つまり各個人のもっている情報・知識の豊かさが結果を左右する。さらにはそれを言語化・明示化して組織内で共有し、有効活用することを形式知化という。ここを講義のポイントとする。この理論は博物館経営をより発展させる重要な鍵でもある。学芸員の経営関与を問う。

講義の内容・
授業スケジュール

各博物館は、その創設時の状況によって、公立・市立・財団など種々の組織形態をとってはいるが、形式知化は、すべての博物館に共通する経営理論である。ここでは、それによって積算された予算、その執行と展開などの事例にあれる。さらには近年論議されている博物館の公設民営化、独立行政法人化についてあれる。

履修上の留意点

予算の仕組みおよび博物館資料のもつ情報と、そのあつかいを理解すること。

成績評価の方法

レポート提出。

教科書

(財)日本博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参考書等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
(財)日本博物館協会編 月刊『博物館研究』

その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館実習Ⅰ (館務)	太田喜美子・飯島武次 酒井清治	学芸員3・4必	2

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、来年の最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来20数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生といっしょに行うため、他流試合的な趣きももっているの、日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけない。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしゃるの、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行う館が80%を占めるが、別の時期に行う館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締括りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」・「博物館実習Ⅲ(見学)」に先だて、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ(館務)」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「博物館実習Ⅲ(見学)」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

成績評価の方法

授業態度・実習評価・発表能力による評価。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館実習Ⅱ (収集)	太田喜美子・國見徹 久保田昌希・小林和幸 酒井清治・佐々木真 瀧音能之・廣瀬良弘	学芸員3・4必	2

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならぬ面と、個性を殺さなければならぬ面がある。「博物館実習Ⅱ(収集)」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ(収集)」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきついようである。この実習は、必ず合宿して実施しているので、共同生活を知ろうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思いこんでしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなのかもしれない。そうした場合には、どんだん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ(館務)」・「Ⅱ(収集)」・「Ⅲ(見学)」の3つが必修であるが、「Ⅱ(収集)」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ(収集)」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館実習Ⅲ (見学)	太田喜美子・酒井清治 松本信道	学芸員2・3必	2

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3年次で行う、「Ⅰ(館務)」と「Ⅱ(収集)」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんとといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あぶれてしまう人がでないように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA~Dの4組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになることと、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

成績評価の方法

レポート点による評価。

科目名	配当学科	単 位
教育の思想	学芸員2必	2

(P.199～202) 参照

科目名	配当学科	単 位
教育と社会	学芸員2必	2

(P.203～205) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論Ⅰ (前期)	とよ た ちよ こ 豊田千代子	学芸員2・3必	2

(P.296) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論Ⅱ (後期)	とよ た ちよ こ 豊田千代子	学芸員2・3必	2

(P.297) 参照

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。当然、「仏教」という宗教も「文化」の枠組みの中に入る。このように「仏教」をとらえるとき、それが中国の歴史の中で、どのような変化展開をしたか。それが本講義のテーマとなる。

今年度は、インドで生まれた仏教が中国に定着するさまざまな紆余曲折の中で、特に興味を引く「仏・菩薩への信仰」を取りあげて考えてみたい。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要な参考書は授業において指示する。またコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

「成仏と捨身と聖（ひじり）」という課題のもとに講義を行いたい。「捨身」は、飛鳥時代の玉虫厨子に描かれた絵を見ても分かるように、我が国古来よりの重要なテーマである。これに穢れなどの観念も加わって、穢れた身を清める行、およびそれを行う行者としての「聖」の概念も我が国の文化の中には大いに定着した。かかる文化の展開の背景には、大乘仏教と共に展開した「成仏」思想というものが大きく影響している。このような文化史の問題を、上記の課題のもとに、高崎直道博士の下記の著書を教科書として用いながら、講義を進めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を中心に、そのテーマの展開に応じて、下記の参考書などを資料として取り上げながら、課題追求を行っていく。

履修上の留意点

講義において指示する資料や文献を自分できちんと読むことが要求されるであろう。

成績評価の方法

学年末の定期試験による。

教科書

高崎直道『死は成仏か』（佼成出版社）1,400円

参考書等

『大乘本生心地観経』（大正蔵、3巻、291-331頁）
本居宣長『大祓詞後釈』（本居宣長全集、第7巻、筑摩書房、75-183頁）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 美 術	前 期：村 松 哲 文 後 期：海 老 根 聡 郎	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

今年度は前期、後期で別の教官が担当する。
前期（村松）は、宋・元時代の中国禅宗美術について、後期（海老根）は、鎌倉時代以後の日本の禅宗美術、とくに絵画について講義する。講義はほぼ毎回、スライドを影写して進める。

成績評価の方法

成績評価の方法は、各教官担当の前期末、後期末に、それぞれ筆記試験を行ない、両者の総合によって判定する。
禅美術全体については、適当な概説書などの教科書的なものは見当たらないのが現状であるから、試験は講義中に述べたことから出題する。その為、出席を良くすることを要望する。とくに最初の数回は、講義全体の見通しなど基本的なことを述べるから、出席を希望する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 美 術	松 田 誠 一 郎	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

平安時代前期〔784～951〕から平安時代後期〔951～1185〕にいたる仏教彫塑の歴史を詳しく講義する。講義では、関連資料を講読して、作品が造られた歴史的背景をたどる一方、時代ごとの表現や技法の特徴を指摘し、その歴史的変遷や研究上の問題点を説明する。また、中国や朝鮮半島の作品との比較を通して、日本的な美意識の問題にも論及する。

講義の内容・
授業スケジュール

【前期】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～3回 1. 神護寺の薬師如来像
- 第4回 2. 新薬師寺の薬師如来像
- 第5～6回 3. 神護寺・観心寺の密教彫塑
- 第7～8回 4. 広隆寺金堂・講堂の仏像
- 第9～10回 5. 東寺講堂の密教彫塑
- 第11～12回 6. 法華寺の十一面観音像
- 第13～15回 進度調整のための予備日

【後期】

- 第1回 7. 仁和寺の阿弥陀三尊像
- 第2回 8. 清涼寺の阿弥陀三尊像
- 第3～4回 9. 室生寺金堂の仏像
- 第5回 10. 上醍醐寺の薬師三尊像
- 第6回 11. 六波羅蜜寺の十一面観音像
- 第7～8回 12. 同聚院の不動明王像
- 第9～12回 13. 平等院鳳凰堂の仏像
- 第13～15回 進度調整のための予備日

履修上の留意点

仏像の本当のよさは、スライドを見ているだけではわからない。教室で講義を受けるだけでなく、できるだけ履修期間中に東京国立博物館の法隆寺宝物室や奈良・京都の古寺を訪れて、仏像に接する機会を積極的につくるように努力すること。

成績評価の方法

前期末と後期末に筆記試験を実施し、その単純平均によって厳密に評価する。

教 科 書

水野敬三郎著『奈良・京都の古寺めぐり－仏像の見かた－』、1985年（岩波書店）

そ の 他

毎回スライドを使用する。参考文献については、講義ごとに指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 民 俗 学	須 藤 寛 人 す どう ひろ と	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拜、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われる。このような日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を、本講義では考察したいと思います。また仏教的な営みの背景にある民俗の意味と歴史とを考察することによって、仏教と新しい接し方のきっかけになればと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

- a. 先祖崇拜 今日日本仏教における寺院の主たる活動が、葬儀と追善供養からなっている。追善供養は、祖先祭祀という民俗的背景のもとに成り立っていることから、先祖崇拜の考察は重要なテーマであると考えられる。
 - b. 葬送儀礼 葬式は、多くの日本人にとって最も「仏教的」なことを感じさせる出来事である。しかし、そこで何が行われているかは、多くの場合は、一般の人に知らされていないし、また意味も解らないで葬儀を行っている僧侶も多いと思われる。本講義では、民俗的事例をあげながら、葬式の歴史と構成とを明らかにし、そこにどのような意味があるのかを考える。
 - c. 日本の民俗 日本でみられる多くの民俗的事例を紹介・解説する。日本のシャーマニズムや、各地の祭、都市伝説・噂・怪談などにも触れる予定である。また授業内容に応じてタイムリーな話題もとりあげたい。
- 以上の三点を本講義の基軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思っています。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないでください。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中には着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートと学期末の定期試験を中心に、出欠状況とあわせて総合的に評価します。

教 科 書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を用する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）
新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』（日本実業出版社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
美 術 史 概 説	矢 野 陽 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

フランス絵画史。西欧の中心に位置するフランスは、交通の要衝であり、商業活動の経由地であり、巡礼の道も通っていた。国際的に開かれているという状況から、フランスは周囲の国々からさまざまな要素を受け入れながら固有の文化を生み出していった。この授業では、17世紀から19世紀にいたるフランス絵画の歴史をたどり、その特色を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

絶対王政が確立する17世紀から始め、18世紀末フランス革命を経て、新しい芸術運動が次々に起こった19世紀まで、時代を追って主要な流れを見ていく。前期は17・18世紀を、後期はフランス革命以後を扱う予定である。

成績評価の方法

前期のレポート提出と後期の筆記試験、出席等を合わせて評価する予定。

参 考 書 等

高階秀爾著『フランス絵画史』（講談社学術文庫）

そ の 他

授業ではスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現 代 美 術	矢 野 陽 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

現代美術、すなわち20世紀の美術においてはかつてないほど大胆で革新的な活動が展開されてきた。この授業では、現代美術の多様な動向について、主要な芸術家と作品を紹介しながら、それらのもつ意味や周囲に与えた影響などを考察していく。美術は同時代の社会と共に存在するものであり、したがって美術は戦争、機械文明の著しい発展、マスメディアの発達、大量消費型の生活といった現代社会と深く関わっている。現代美術を知ることは、今日の社会を考えるのに大きな示唆を考えてくれるのである。

講義の内容・授業スケジュール

授業は、20世紀美術のバックグラウンドである19世紀後半の美術から始めていく。前期は20世紀初頭の二大運動であるフォーヴィスムとキュビズムを中心に、後期はシュルレアリスムやポップアートなどを取り上げる。

履修上の留意点

美術館や展覧会に行ったり、画集、テレビなどを通して、現代美術に積極的に触れてほしい。

成績評価の方法

前期のレポートと後期の定期試験、出席等を総合して評価する予定。

参考書等

美術出版社編『現代美術入門』（美術出版社）2,000円

そ の 他

授業ではスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 形 学	小 池 一 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く排出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事象（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。
 地形学の成り立ち、地表を変化させる種々の営力と地形の分類、
 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）
 海水の働きと地形、地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）
 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教科書

小池一之・坂上寛一ほか著 新版地学教育講座⑨『地表環境の地学－地形と土壤』（東海大学出版会）2,575円

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円
 小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

そ の 他

授業は講義形式で最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともにスライド、ビデオなどを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
第 四 紀 学	すずき たけひこ 鈴 木 毅 彦	学芸員3・4選	4

講義のねらい

第四紀は最近200万年間のことをさす。この地質時代は人類、動植物、気候、地形など多くの事象が現在みられる姿を成立させた時代でもある。このような最近の地質時代を理解することは人類の動向も含めた地球の将来を予測することにもつながる。

本講義のねらいはこのような問題意識のもとに、第四紀の概要を理解することである。とくに全地球的な規模での歴史と日本列島特有な第四紀の諸現象についての理解を深めることに目的をおく。

講義の内容・授業スケジュール

講義前半では第四紀の基礎的概念を全般的に解説してゆく。主なテーマは第四紀の定義、氷河作用、地形・地質層序、火山灰編年、人類、動植物、年代測定などである。後半では日本列島の第四紀の主要な課題である、火山灰編年と第四紀地殻変動に焦点をあて、火山の地形と噴火、人類、海成段丘、活断層、山地形成史などのテーマをとりあげる。

履修上の留意点

受講の際に高校の社会科で使用される地図帳を持参されたい。

成績評価の方法

おもには前期末と後期末の筆記試験

教科書

特に指定しないが、参考書として、日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）2,233円をあげる。それ以外の参考書は講義中に紹介する。

そ の 他

講義では、ビデオ、OHP、スライドを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
考古学概説 I (日 本)	さか い きよ し 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本考古学の現状は、細分化された研究が増加している。しかし、細分化された研究を理解する上にも、自ら卒論テーマとして研究する上にも、考古学の基礎なくしては成り立たない。

講義の内容・授業スケジュール

考古学の研究史、方法論、最新の発掘調査事例を紹介しながら、日本考古学の概説をしたい。

履修上の留意点

遅刻をしないこと。

成績評価の方法

定期試験で採点。

参考書等

鈴木公雄『考古学入門』（東大出版会）
安蒜政雄『考古学キーワード』（有斐閣）
江上波夫『考古学ゼミナール』（山川出版社）

そ の 他

OHP 等を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 概 説 Ⅱ (外 国)	飯 島 武 次 <small>い い じ ま た け つ ぐ</small>	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらおう。

講義の内容・
授業スケジュール

時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。

履修上の留意点

欠席・遅刻をしないこと。

成績評価の方法

成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。

参 考 書 等

飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年
飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年
飯島武次『中国周文化考古学研究』（同成社）1998年

そ の 他

スライドやビデオを多用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 文 化 史 Ⅰ	廣 瀬 良 弘 <small>ひろ せ りょう こう</small>	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを明らかにする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていく。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 文 化 史 Ⅱ	佐々木 真 <small>まこと</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

ヴェルサイユ宮殿についての歴史的解説を中心に、権力と宮廷の関係について検討を加える。ヴェルサイユについて語る場合、その大きさと豪華さが強調される傾向が強い。しかし、ヴェルサイユは、室内装飾や庭園の構成、宮廷での儀礼を通じて、非常に計算された形で国王イメージのプロパガンダを行ったという点で、従来の宮廷とは質的にも大きく変化していた。この講義では、王権の表象物としてヴェルサイユがどのように機能していたのかを、建造物とそこで繰り広げられた儀式を通じて検討し、絶対王政期の権力のあり方について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. ヴェルサイユ前史
2. ルイ14世と宮殿の建設
3. 室内装飾
4. 庭園
5. 宮廷儀礼
6. 国王権力と宮殿

履修上の留意点

授業中に紹介する参考文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加えて判定する。

教 科 書

教科書は特に指定しない。

参 考 書 等

参考文献は必要に応じて講義中に紹介する。

そ の 他

授業は講義形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 Ⅱ	田村 晃 <small>こういち</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

朝鮮半島はその地理的位置のゆえに日本と深い関係をもっている。それにもかかわらず朝鮮半島の文化について、多くの日本人は無関心ないし無知であるように思われる。それは明治時代以来、日本政府のとってきた政策のせいでもあるが、同時にまたわれわれの取り組み方の問題でもあるようである。

ここでは、日本と朝鮮の関係を視野にいれつつ、主として先史時代から三国時代ころまでを対象に、朝鮮半島での考古学的事象について講義し、朝鮮半島の文化の実態を究明することとした。ただし、通史的ではなく、トピック的になるであろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 Ⅲ	酒 井 清 治 <small>さか い きよ じ</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

考古学における古墳時代は、古墳の築造に特色をもつように古墳の変遷はその時代を知る重要な要素である。また、古墳からの出土遺物も古墳時代を知るためにも重要である。このような古墳の変遷、地域色、あるいは出土遺物から、列島における中央・地方の関係、あるいは各地の首長層の動静を知ることが可能である。

この講義では、古墳時代を知るために、古墳あるいは出土遺物から古墳時代史を探ってみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

古墳時代の論文を受講者とともに読み解く。

履修上の留意点

遅刻はしないように。

成績評価の方法

平常点とレポートによる。

教 科 書

白石太郎編『古代を考える 古墳』（吉川弘文館）

参 考 書 等

授業の中で紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 IV	矢 野 和 之 <small>や の かず ゆき</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学・歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。
このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
 - ・日本建築史（古代）概要
 - ・遺構とその上部構造隊の復元
 - ・保存計画概論
 - ・保存科学、保存工学概論
 - ・まちづくりと文化財
 - ・計画策定の実務
 - ・国内の事例
 - ・海外の事例・文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

適宜指示。

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西域美術史	まつ だいら みわ こ 松 平 美 和 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

西域、いわゆるシルクロードは装飾文様の宝庫である。欧米の美術の中では概して二次的な位置が与えられてきた装飾文様は、西域では美術の中心的な位置を占めてきた。本講義ではバミール高原東側の東トルキスタンからイランまでを広義の西域と考え、この地域の古代美術品、特にその装飾文様の中に東西文化交流の様を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ①シルクロードの主要な遺跡とその美術。
イラン周辺の遺跡、クシャーン朝の遺跡、タクラマカン砂漠周辺のアアシス都市近郊の遺跡、さらに最近注目を集める旧ソ連領の各遺跡などを概説する。
- ②シルクロードの装飾文様とその東西交流。
各遺跡の出土品にみられる装飾文様をとり上げ、その様式を分析し、地域や時代によりどのように変化しながら伝播していったかを考察する。装飾文様としては「パルメット文」、「聖樹文」、「葡萄唐草文」などの植物文、「花喰鳥文」、「動物闘争文」などの動物文、さらに「飛天文」、「グリロス」、「アラバスク」などをとり上げていく。

成績評価の方法

夏季休暇後と学年末の二回のレポートで評価する。

教科書

講義時にプリントを配布する。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

その他

具体的な作品を対象とするので、毎時間スライドを使用し、必要に応じてビデオも用いる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗教人類学	さ とう けん しょう 佐 藤 憲 昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

文化人類学の視点と方法から諸民族の宗教文化を比較研究する学問が宗教人類学である。そしてその営為を通して「人間とは何か」という問題にひとつの解答を与えようとするものである。本年度は、人類に根元的・普遍的な宗教文化のひとつに数えられている憑霊文化を取り上げる。

日常語で「私はツイテイル」という場合のツキとは神霊・精霊が憑いていることを本来は意味しているが、日常の会話ではツキの正体を不問にしている。神霊・精霊が憑いている現象は憑霊現象と呼ばれるが、その内容はすこぶる多岐にわたっている。本講では宗教人類学の学問的特色について概観した後に、日本及びアジアの諸地域で見られる憑霊文化を取り上げて、社会組織との関係を含むさまざまな角度から考察する。そして憑霊文化を通して人間理解の可能性を探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 文化人類学・宗教人類学・宗教民族学、2. 宗教人類学と宗教民俗学、3. フィールドワーク、4. 民俗宗教の特質、5. アニマ(霊)とマナ(力)、6. 憑きもの研究・憑霊研究・シャーマニズム研究、7. 憑霊現象と社会組織、8. 民俗仏教に見られる憑霊現象、9. 憑霊文化と王権、10. 憑霊文化から見た人間理解の可能性。

履修上の留意点

欠席をする場合(または欠席をした場合)には、欠席届(形式は任意)を提出することが望ましい。

成績評価の方法

講義内容を踏まえたレポート試験の予定。

教科書

佐々木宏幹『聖と呪力の人類学』(講談社学術文庫)

参考書等

授業中に適宜紹介する。

V 社会福祉主事 講座
社会福祉士基礎

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉原論	伊藤 秀一	社福主事2必	4

講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、感化救済事業などと呼ばれていたものが、時代とともに拡大し、組織的に発展して、今日では、社会を組み立てていくための不可欠の仕組み、すなわち「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日の時代なりの貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉がこのように変化してきた跡をたどり、なぜ、今日の社会福祉が現代社会の生活環境基盤として確立されねばならないのかについてのあらましを述べることに重点をおく。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、他の1年次配当の科目との関連を考慮しつつ、社会福祉についての基礎知識を整理するとともに、社会福祉の今日的な動向と課題についての理解を深めることを主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の意義
 - 1) 社会福祉の意味
 - 2) 社会福祉と関連する諸概念
 - 3) 社会福祉の対象と主体
 - 4) 社会福祉の補充性
- 2 社会福祉の歴史的発展
 - 1) 欧米における社会福祉の発展
 - 2) わが国における社会福祉の発展
- 3 社会福祉の組織と運営
 - 1) 社会福祉法制
 - 2) 社会福祉法制の体系
 - 3) 社会福祉事業の経営主体
 - 4) 福祉の措置
 - 5) 社会福祉の経費
- 4 社会福祉の分野
 - 1) 公的扶助（生活保護）
 - 2) 児童福祉
 - 3) 老人福祉
 - 4) 障害者福祉
- 5 社会福祉の方法
 - 1) ケースワーク
 - 2) グループワーク
 - 3) コミュニティワーク
- 6 社会福祉における人の問題
 - 1) 人の問題の重要性
 - 2) 社会福祉従事者の動向
 - 3) 職種の問題
 - 4) 社会福祉職員の専門職論
 - 5) ボランティアの問題
- 7 社会保障と社会福祉
 - 1) 社会政策と社会事業
 - 2) 社会保障と社会福祉

成績評価の方法

評価は、前期末と年度末の2回の試験の総合評価とする。

教科書

仲村俊一著『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

講義の内容を上記のテキストのみでは十分にカバーすることができないので、講義の進行にあわせて必要な参考文献を紹介する。なお、本講の内容は極めて広い範囲にわたるので、この参考文献にもとづいて各自学習を深めることを求めたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉原論	ふな 船 みず 水 ひろ 浩 ゆき 行	社福主事2必	4

講義のねらい

「社会福祉」という言葉は、現代社会ではとてもポピュラーな言葉となっている。新聞、テレビ等においても、しばしば目にし、また耳にする。選挙があれば、国政・地方、首長・議員いずれのレベルでも多くの候補者がその充実を公約に掲げる。

しかしながら、そのイメージだけが先行し、改めて「社会福祉とは何なのであろうか」とか、「社会福祉の援助や活動とはどのようなものなのであろうか」とか、「社会福祉の基盤となっている考え方はどのようなものなのであろうか」とか、「現代社会において何が求められているのであろうか」といったことを問われた時、多くの人々はなかなか上手く答えることができないのが現実と思われる。

一方、わが国の社会福祉は、現在、「社会保障構造改革」「社会福祉基礎構造改革」「介護保険の創設」等のキーワードに代表されるように、大きな転換期を迎えている。

本講の主題は、上記にあげたような社会福祉を学んでいくにあたってのベースとなる諸点を学習し、わが国における社会福祉のあり方を考察していくことにある。

講義の内容・授業スケジュール

以下の諸点を柱として授業を展開する。

- 現代社会における私たちの生活と社会福祉
 - ・社会福祉をどうとらえるか、私たちの生活と社会福祉の課題など
- 社会福祉のしくみ
 - ・社会福祉の制度体系、財政など
- 社会福祉とその理論の史的展開過程
 - ・欧米における社会福祉の展開、わが国における社会福祉の展開など
- 社会福祉の分野
 - ・生活保護、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉など
- 社会福祉の実践方法
 - ・社会福祉実践の専門性、基本原則など

成績評価の方法

各学期末の試験、課題レポート、出席状況、等の総合評価により実施します。詳細は、授業時に提示します。

教科書

浅井春夫、佐野英司編著『現代の社会福祉入門』（保育出版社）
※テキストを中心に授業を展開しますので、必ず購入してください。

参考書等

随時、紹介します。

(2) 選択科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
法 学 (福 祉)	こ ばやし ひろ ひと 小 林 弘 人	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉法制として理解されている各種の法令の意義・内容を理解することを目標とする。具体的には、社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明をする。

講義の内容・ 授業スケジュール

[目標]

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法および行政法の基礎を理解させる。

[内容]

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 物権
 - 3) 契約
 - 4) 不法行為
 - 5) 親族
 - 6) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 行政手続き
 - 5) 地方行政組織

成績評価の方法

出席状況と年三回位のレポートの提出および定期試験を勘案し、総合評価する。

教科書

小林弘人『高齢化社会における社会福祉の法』（創成社）

参考書等

授業時間中に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会福祉発達史	ほやし 林 千代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

成績評価の方法

後期にレポートを提出してもらい、それによって行なう。

教科書・参考書等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
リハビリテーション論	なる 生 川 善 雄	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

リハビリテーションとは、障害のある人が人間らしく生きる権利の回復、すなわち『全人的回復』である、といえよう。

本講義においては、リハビリテーションの理念について学び、医学・教育・職業・社会の4領域のリハビリテーションについての概略を知る。そして、社会リハビリテーションの基本問題を学習する。これらの学習を進める中で、障害のある人が人間らしく生きる権利をどのように回復してゆくべきかについて考えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず、リハビリテーションの理念に触れる。次いで、障害の意味、障害の受容について取り上げる。さらに、医学、教育、職業、社会の4領域のリハビリテーションについての概説を行ない、それら4領域の関連性についても言及する。これら4領域のリハビリテーションのうちでも、社会リハビリテーションは、障害者福祉との関連も深いといえるので、本講義においても主としてこれに多くの時間をあてる予定である。

社会リハビリテーションは、医学リハビリテーションや職業リハビリテーションに比べて、その考え方や技術の枠組みはいまひとつ確立されていないといえよう。そこで、社会リハビリテーションについては、諸々の社会リハビリテーションに関する研究を取り上げながら、検討していきたい。すなわち、障害者の社会活動への参加、障害者のQOLとADL、障害者をめぐる環境、障害者と家族、障害者の自立ならびに自立援助、地域に根ざしたりリハビリテーション、施設リハビリテーション、社会リハビリテーションの種々の方法などをとりあげながら、社会リハビリテーションの基本問題を論じていきたい。

履修上の留意点

履修者は、リハビリテーションの意味、すなわち「人間らしく生きる権利の回復」という語句の意味を考えながら、学習を深めてほしい。

成績評価の方法

授業中の小課題に対する回答と、レポートにより評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

- ・小島蓉子・奥野英子編著『新・社会リハビリテーション』（誠信書房）1994
- ・上田 敏『リハビリテーションを考える』（青木書店）1983
- ・新社会福祉学習双書編集委員会編『リハビリテーション論』（全国社会福祉協議会）2000

その他

講義形式で進める。何回かビデオを使用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 保 障 論	ふな 船 みず 水 ひろ 浩 ゆき 行	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。

社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保障を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障がどのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、①現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、②「社会保障構造改革」という言葉に代表されるように、転換期を迎えているわが国の社会保障制度の課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・ 授業スケジュール

※ 以下の諸点を主要な内容とする。

- 1 現代社会と社会保障
- 2 社会保障制度の体系
- 3 年金保険
- 4 医療保険
- 5 介護保険
- 6 労働保険（労災保険、雇用保険）
- 7 民間保険
- 8 社会保障の運営管理
- 9 「社会保障構造改革」と今後の社会保障制度

成績評価の方法

学年末毎の試験、レポート課題、出席状況等を勘案し、総合評価します。

教 科 書

福祉士養成講座編集委員会編集『改訂社会福祉士養成講座 5 社会保障論』（中央法規）

参 考 書 等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』（法研）
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』（中央法規）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会福祉計画論	かわ 川 廷 宗 之 <small>か たい もと ゆき</small>	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

- ① この科目では『社会福祉』と『社会計画』の二つの問題を扱う。
- ② 社会福祉計画論は、本来は社会福祉援助技術の内容の一つを構成する専門的領域であるが、この授業では、専門に直接ふれるのではなく、その前提としての社会福祉の基本的な問題を含めて解説する。
- ③ 社会福祉計画を必要とする現代日本の社会福祉問題について、その内容の理解を図る。
- ④ 問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面が強調され、その結果、計画化が促進される現代の状況について理解を図る。
- ⑤ 『社会福祉計画』は、市民個々人の『福祉 (Well Being)』の保障を目指すのであるから、個々人の『福祉計画』を前提にした統合としての『社会福祉計画』として、総合的な理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 前期は、『社会福祉計画』の前提となる『日本の社会福祉』が扱おうとしている様々な福祉課題について学ぶ。
- ② 後期は、福祉問題の解決を目指す『社会福祉計画』の詳細について学ぶ。

履修上の留意点

- ① この講義では、開講第1回日に全体のスケジュール等を説明するので、第1回には必ず出席していただきたい。
- ② 講義を中心として進めるが、時に授業中に討論を行うこともあるので、積極的主体的な参加を期待します。
- ③ 学習者である皆さんの主体的な学習態度を尊重すべく、質問重視の授業を進めるので、関連事項について積極的な質問を期待します。

成績評価の方法

- ① 前期末、後期末のレポートの成績を中心に、主体的な出席への評価を含めて成績評価を行う
- ② 前期末のレポート課題は、前期の講義に含まれる社会福祉計画が対応することになる「日本の福祉問題」を自分自身の生活課題に引きつけて論じる課題が出題される。
- ③ 後期のレポート課題は、社会福祉計画論の理論的課題について、テキストの課題の中から各自自由を選択して、まとめる課題が出題される。
- ④ 前期レポートと後期レポートは、それぞれ40%と50%の比率で成績評価に反映される。残り10%は、出席状況等を勘案する。

教科書

- ① 定藤丈弘・坂田周一・小林良二 編集『社会福祉計画』（有斐閣）定価2200円

参考書等

- ① 高田真治『社会福祉計画論』（誠信書房）1979年
- ② R. パールマン A. グリン 著 岡村重夫 監訳 『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』（全国社会福祉協議会）1980年
- ③ 全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』（全国社会福祉協議会）1984年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 社 会 福 祉 論	やまもと ままみ 山 本 真 実	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

国際社会における福祉、社会福祉における国際化、「国際社会福祉」を捉える視点に定義はない。日本以外の国の生活を通して、社会福祉とは何かを考えること、また国際社会において発生する軋轢や衝突、問題等に対応し解決していくものとして社会福祉をどのように考えるかを考察していくことを目的とする。また、社会福祉を実践サービスとして捉えるよりも、それを支える理念や目的などの概念・考え方を中心にしながら学習していく。「福祉」の意味を諸外国の実態や関係を通して学習する。

講義の内容・
授業スケジュール

国際社会において発生する貧困、戦争、児童労働、異文化への理解等テーマごとにどのような取り組みがあるか、国際機関の役割機能の理解、またそれら問題に対する国ごとの扱いの違いを学習し、生活を支える社会福祉制度の在り方について考察する。また、その具体的な事例として、福祉先進国と言われる北欧の社会福祉制度・サービス、ベトナムやフィリピン等の途上国の社会福祉制度、生活等各国の実情を学習し、それらとの比較を通して日本の社会福祉制度を振り返り、見直す。

成績評価の方法

出席状況、レポート、試験の総合評価により評価する。
適宜意見・感想を記入するカードを配布。積極的な討議、意見発表を高く評価する

教 科 書

特になし

参 考 書 等

適宜授業中に紹介

そ の 他

ビデオ使用

科目名	担当者名	配当学科	単 位
保健福祉論	なが お じょう じ 長 尾 譲 治	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健福祉学とは、保健学・福祉学、及び関連諸科学を統合し、これまでのように為政者の都合によるサービス提供に代わって、利用者の立場に立ったサービスのあり方を考える新しい社会福祉の分野である。本講義では、保健福祉学の視座に基づいて、従来の社会福祉諸サービスを再構成し、これからの生活関連諸サービスの動向と課題について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 保健福祉とは
保健福祉の歴史／保健福祉学の視座
- 2 日本のヘルスケア制度の体系
健康保険／国民健康保険／老人保健／福祉医療／クライアントの人権とこれからのヘルスケア
- 3 ライフサイクルと保健福祉
児童／成人／老人／ターミナル・ケア／女性と保健福祉
- 4 傷病別に見た保健福祉
身体障害／知的障害／精神障害／難病・結核／ハンセン病／AIDS
- 5 リハビリテーションと保健福祉
リハビリテーションの理念と実際／福祉機器・用具サービス
- 6 保健福祉の国際的動向
先進諸国／開発途上国／日本
- 7 保健福祉の課題
保健福祉計画／規制と情報公開／バイオエシックスとインフォームド・コンセント

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

参 考 書 等

追って紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
公 的 扶 助 論	い どう しゅう いち 伊 藤 秀 一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。
講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。
併せてイギリスの福祉権運動（Welfare rights work）の動向等にも触れる。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

成績評価の方法

出席状況、小テスト、学年末定期試験を総合して評価する。

教 科 書

なお、テキスト等については開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
障 害 者 福 祉 論	きり桐 原 宏 行	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

障害者福祉は、障害者が一人の人間として生活していく過程のなかで、その固有の問題をとらえ、それを権利の視点にたって把握していくことが必要になる。

本講では、障害者援助を担うための専門職に必要な基礎的事項の学習が中心となる。具体的には、現代社会における障害の概念、障害者福祉の理念などの基礎となる考え方についての理解の促進、現行の障害者施策や障害者の相談援助活動の原則等についての知識の獲得などを旨とする。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 障害者福祉の理念
2. 障害の概念と実態
3. 障害者福祉の施策
4. 障害者福祉と社会資源
5. 障害者に対する援助活動

前期に1.～3.、後期に4.～5.について扱う。

成績評価の方法

筆記試験及びレポート、授業への出席などの総合評価による。

教 科 書

福祉士養成講座編集委員会編『障害者福祉論』（中央法規）

参 考 書 等

講義中随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
老 人 福 祉 論	とう じょう みつ まさ 東 條 光 雅	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

老人虐待の多発、家族介護の深刻化、社会保険料の負担増、老齢年金の減額、介護保険の導入決定等、老年期や高齢者に関する事柄が、近年富にマスメディアを賑わしている。こうした事柄が騒がれる背景は、世界一の「人生80年」という長寿化の進行と急激な少子化による日本社会の高齢化である。

わが国の高齢化の度合いはいよいよ欧米社会のそれに匹敵するまでとなり、近未来の21世紀には人類未曾有の高齢社会を迎えようとしている。その21世紀に高齢者となるのは、現在“青・壮年期”にある人々である。これから一層高度化してゆく高齢社会、深刻化してゆく高齢者問題にどのように準備し対応してゆくかは、日本社会にとって大変重要な問題である。

本講義では、社会的対応策としての老人福祉の制度・政策についてのみでなく、対象者理解の観点から高齢者や老年期の特性をも含み、幅広く講じてゆきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期 ⇒ ・人口高齢化の意味
・高齢者問題の背景
社会変動、家族変動
・高齢者の生活問題
・老化と老年期の身体疾患、身体障害、精神障害
・高齢者の保健福祉ニーズ
ニーズ把握の方法、保健福祉ニーズの種類
- 後期 ⇒ ・老人保健福祉法制と関連施策
近年の制度及び政策の動向、老人保健法、老人福祉法、
介護保険法、関連施策
・老人保健福祉の供給システムと財源
供給システムとは、供給システムの仕組み（含む、シルバーサービス）、
財源、マンパワー
・在宅サービスの制度と処遇
在宅サービスの制度的枠組み、在宅サービスの歴史・理念・目標、
在宅サービスの種類、在宅サービスにおける援助事例
・施設サービスの制度と処遇
入所（入院）施設の種類と概要、社会福祉分野の入所施設、
保健・医療分野の入所（入院）施設、施設における処遇、
施設サービスにおける援助事例
・地域及び住環境の整備と福祉機器

履修上の留意点

この授業は講義形式で進めてゆくが、毎回受講生を指名して質問に回答してもらったり、意見発表をしてもらう。内職や居眠りは出来ないで、そのつもりで履修すること。

成績評価の方法

出席点、夏季休暇中のレポート、年度末の定期試験の3つを総合して評価する。しかし、評価は原則的には年度末試験の得点によって行う。出席率が70%を切る（諸実習による公欠は出席扱いとする）場合は、試験そのものの受験を認めない。また、夏季休暇中のレポート点は、定期試験での得点がボーダーラインに位置する学生においてのみ考慮するものである。

教 科 書

東條光雅・冷水豊編『老人福祉論』（第2版）（メダカルフレンド社）2,000円

参 考 書 等

適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
児 童 福 祉 論	やまもとまみ実 山 本 真 実	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

子ども・子育てをめぐる社会環境をふまえ、児童福祉の理念、制度（基本枠組み）について基礎的な学習を行う。ビデオ教材等視聴覚教材も使用し、具体性をもたせつつ児童福祉サービスの現状を理解することをねらいとする。

はじめに子ども・子育てをめぐる社会環境について整理する。また、子どもや子育て、家庭をめぐる社会的な位置づけについて学習する。児童福祉が対象としてきた範囲、理念について整理する。そして、基本的な児童福祉政策・制度の枠組みについて理解し、その枠組みの中で、どのような問題があるのか、児童福祉制度改革等、今後の展望について考察を深める。

後半では、保育、養護、健全育成、相談体制など各論についての講義を行い、児童福祉の全体系を学習する。

講義の内容・ 授業スケジュール

以下の内容についてテキストに従い講義を行う。

- I. 児童と社会
 1. 児童と家庭・社会
 2. 児童福祉ニーズ
- II. 児童福祉の理念
 3. 児童福祉の理念と児童の権利
- III. 児童福祉の制度
 4. 児童福祉の法体系
 5. 児童福祉実施体制
 6. 児童福祉施策体系
 7. 子育て環境
 8. 児童福祉改革の動向
- IV. 各論
 1. 保育
 2. 社会的養護
 3. 権利擁護
 4. 健全育成
 5. 相談

履修上の留意点

社会福祉士資格の取得希望者だけでなく、履修者全員に対して児童福祉についての理解を深める意識を持つことを期待している。

成績評価の方法

学年末の試験のみによる評価。出席状況を加味することもある。

教 科 書

柏女霊峰『現代児童福祉論（第4版）』（誠信書房）2000

参 考 書 等

柏女霊峰・山縣文治編著『新しい子ども家庭福祉』（ミネルヴァ書房）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
女性福祉論	はやし 林 千代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

歴史を省みるに、女性は社会構造の所産である性差別を根底に、社会的・経済的・精神的なしわよせを受けてきた。女性問題としての発生がそれである。女性が直面する生活の困難や矛盾に対して、社会福祉がかかわる部分はきわめて大きい。

女性を社会福祉の対象者（利用者）としてとり組んできたのは、婦人保護事業（売春防止法）である。それを基底に据えて、社会福祉の分野における女性問題の把握、その発生と解決について考え、女性のそして当然男性の人権の確立をめざす内容としたい。

成績評価の方法

成績評価は、後期にレポートを提出してもらいそれによって行なう。

教科書

教科書は特に無いが、資料等は必要に応じて配布する。ビデオなども使用する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
医療福祉論	はるみ 春見 静子	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健・医療の領域における医療福祉職の実践について理解する。
医療ソーシャルワークがどのような学問を基礎とし、どこで、いかなる援助技術を用いてなされるかを学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

前期は理論を中心とした講義、後期は実践現場での事例を通して援助技術を学ぶ

前期
社会福祉とソーシャルワーク
医療ソーシャルワークの歴史 英国、アメリカ、日本
専門職としての医療ソーシャルワーカー 倫理綱領と業務基準
医療について：健康と病気概念 キュアとケア
医療機関について
疾病分類と医学知識 リエゾン精神医学 心身症
援助手段としての社会資源
援助関係 面接の技術 援助過程

後期
外来段階のソーシャルワーク
入院段階のソーシャルワーク
精神保健の領域
医療ソーシャルワークの実際 機関別と対象別の実践

履修上の留意点

医療福祉に興味ある人とくに将来、その領域で働きたいと考えている人を歓迎します。

成績評価の方法

出席点と期末試験で評価します。

教科書

山川哲也著『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）2,500円

その他

医療機関の見学と、現場の医療ソーシャルワーカーの特別講義を行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地域福祉論	とよ だ むね ひろ 豊 田 宗 裕	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

地域福祉論で学習すべきポイントは、大きく分けて以下の3点である。
本講義ではこれらについて、われわれがすすんでいる地域そのもの持つ特色を明らかにし、そこに生活する人々の福祉問題を把握し、解決の方法を探る手段や考え方について学ぶ。

- (1) 総論としての地域福祉の枠組みの理解(地域福祉とはどのようなものか。何故必要なのか)
 - ①地域福祉論の概念
 - ②地域福祉の歴史的展開
 - ③コミュニティの捉え方・考え方
 - ④現在の地域福祉施策の特徴
- (2) 各論としての地域福祉の各種制度や援助方法の理解(地域福祉施策の内容と提供方法)
 - ①地域福祉サービスの種類とその提供方法
 - ②サービス提供組織やその仕組み
 - ③福祉ニーズの把握や組織化活動の展開方法
- (3) 現在および将来的な地域福祉に関連した施策の動向と展望
 - ①地域福祉に関連した、経済的・社会的な動向と展望
 - ②計画づくりと福祉制度
 - ③これからの方向性

講義の内容・ 授業スケジュール

回数	授 業 の テ ー マ	授 業 の 内 容
1	地域福祉と生活問題	地域福祉の考え方と現代の生活問題
2	地域福祉とコミュニティ / 1	地域社会の変遷とコミュニティの変化
3	地域福祉とコミュニティ / 2	コミュニティの形成とその考え方
4	地域福祉とコミュニティ / 3	住民の社会参加の状況とコミュニティ
5	地域福祉理念の変遷	地域福祉理念の歴史的変遷
6	地域福祉の概念とその範囲	地域福祉の代表的な考え方とその類型
7	地域福祉のサービス体系 / 1	地域福祉サービス体系の考え方とその基本理念
8	地域福祉のサービス体系 / 2	在宅福祉サービスの体系とその内容
9	地域福祉のサービス体系 / 3	組織化活動の考え方とその内容
10	地域福祉のサービス体系 / 4	環境改善と社会資本整備
11	地域福祉の推進方法 / 1	地域援助技術(コミュニティワーク)の必要性
12	地域福祉の推進方法 / 2	ニーズの把握とコミュニティワーク
13	地域福祉の推進方法 / 3	海外のコミュニティワークについて
14	地域福祉の推進方法 / 4	社会福祉計画の策定と地域福祉計画
15	地域福祉の推進方法 / 5	地域福祉計画の内容とその種類
16	地域福祉の推進方法 / 6	福祉教育の考え方とその推進
17	地域福祉の財源 / 1	公的財源と共同募金の概略
18	地域福祉の財源 / 2	社会福祉基金等の概要
19	地域福祉の財源 / 3	民間財源の内容とその活用
20	地域福祉の財源 / 4	海外における地域福祉財源
21	地域福祉の推進組織 / 1	社会福祉協議会について
22	地域福祉の推進組織 / 2	行政、施設等の諸機関の動き
23	地域福祉の推進組織 / 3	非営利団体の活動とNPO法
24	地域福祉のマンパワー / 1	現代のコミュニティワーカー(社会福祉協議会職員中心に)
25	地域福祉のマンパワー / 2	ボランティア活動とその動き
26	地域福祉のマンパワー / 3	地域における地域福祉のマンパワー(民生委員を中心に)
27	地域福祉の現状 / 1	コミュニティワークの現状
28	地域福祉の現状 / 2	介護保険と地域福祉(相談援助活動を中心に)
29	これからの地域福祉	現代の地域福祉を取り巻く状況と今後への課題
30	まとめ	これまでのまとめと国家試験に向けて

成績評価の方法

試験期間内の定期試験および授業時間中に課すレポートの提出(随時)の双方の状況により、判定する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉論』（中央法規出版）

その他

講義形式で行う

教職課程・資格講座

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会学（福祉）	はし づめ さとし 橋 爪 敏	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、社会福祉士ならびに精神保健福祉士・社会福祉主事を目指す学生に「社会学」についての基本的な知識の提供を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

[目標]

- 1 現代社会の特質について理解させる。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解させる。
- 3 現代社会における社会問題について理解させる。

[内容]

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

科目名	担当者名	配当学科	単位
心理学(福祉)	たか 高 橋 良 博	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

- 1 心理学の基本概念をふまえ、人間理解のための基本的知識の理解と習得。
- 2 乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・高齢期など人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴についての理解。
- 3 援助を要する人々とかかわって行くための心理的援助技術の概要の理解と習得をはかり、援助者としての資質を高めるための自己理解をもとめる。

講義の内容・
授業スケジュール

- 講義の予定としては、以下の項目についてふれて行く予定である。
- 1 人間の心理学的理解 ①心理学の定義と、領域および研究法 ②欲求・動機づけ ③感情・情動 ④感覚・知覚・認知 ⑤学習・記憶・思考 ⑥知能・創造性 ⑦人格 ⑧適応と不適応
 - 2 人間の成長・発達の心理 ①発達段階と生涯発達 ②発達課題と高齢期 ③発達の障害と発達援助
 - 3 人間理解のための心理学理論と技法 ①基礎理論；心理学的援助技術の基本的人間観 ②心理測定と診断
 - 4 心理的援助技法の概要 ①心理療法（総論）心理療法の歴史と種類 ②心理療法（各論）精神分析・カウンセリング・家族療法・行動療法・認知療法・森田療法・自律訓練法など

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）などを総合して評価を行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『三訂 社会福祉士養成講座 11 心理学』（中央法規）2,500円（税別）

法律学科フレックスB
第 2 部 法 律 学 科

1. 専門教育科目

法律学科フレックスB・第2部法律学科

授業時間表の区分「A」の科目を履修する場合は、
フレックスAの頁を参照してください。(→P.9)

1. 専門教育科目

法律学科フレックスB・第2部法律学科

※印の科目については、法律学科フレックスA・第1部法律学科の頁を参照してください。

法	学	概	論	〈高橋洋城〉	353					
憲			法	〈西修〉	354					
民	法	総	則	〈林幸司〉	355					
刑	法	総	論	〈松村格〉	356					
会		社	法	〈荒木正孝〉	357					
行	政	法	総	論	〈金子昇平〉	358				
国		際	法	〈王志安〉	359					
裁		判	法	〈雨宮眞也〉	360					
※比	較	憲	法	〈斉藤寿〉	(33)					
親		族	法	〈竹中智香〉	361					
※法	社	会	学	〈岡寄修〉	(35)					
日	本	法	制	史〈休講〉						
西	洋	法	制	史〈北野かほる〉	362					
刑	事	政	策	〈斎藤静敬〉	363					
法	思	想	史	〈高橋洋城〉	364					
政	治	学	原	論	〈大塚桂〉	365				
※マス・コミュニケーション			論	〈相田敏彦〉	(41)					
※政	治		史	〈楠精一郎〉	(42)					
経	済	原	論	〈藤原碩宣〉	366					
行	政	学		〈岡田彰〉	366					
※法	律	時	事	英語	〈牧野和夫〉	(44)				
現	代	法	の	ト	レ	ン	ド	〈高橋洋城・青野博之・荒木正孝 竹中智香・林幸司・藤本茂〉	367	
基	礎	憲	法	演	習	〈中野辰久〉	368			
基	礎	民	法	演	習	〈早坂亨〉	369			
基	礎	刑	法	演	習	〈木村美隆〉	370			
物		権	法		〈鶴井俊吉〉	371				
債		権	総	論	〈河野弘矩〉	372				
債		権	各	論	〈青野博之〉	373				
刑		法	各	論	〈山口邦夫〉	374				
有	価	証	券	法	〈島原宏明〉	375				
登		記	法	〈田沼浩〉	375					
※英		米	法	〈北野かほる〉	(50)					
※独			法	〈山口邦夫〉	(52)					
※仏			法	〈上井長久〉	(51)					
行	政	法	各	論	〈塩入みほも〉	376				
税			法	〈岸田貞夫〉	377					
地	方	自	治	法	〈富井幸雄〉	377				
国	際	紛	争	解	決	法	〈王志安〉	378		
担	保	物	権	法	〈鶴井俊吉〉	379				
相		統	法	〈竹中智香〉	380					
商	法	総	則	・	商	行	為	法	〈関口雅夫〉	380
保	險	・	海	商	法	〈山田泰彦〉	381			

民 事 訴 訟 法	〈間 渕 清 史〉	382
民 事 執 行 保 全 法	〈榎 善 夫〉	382
倒 産 処 理 法	〈奥 野 善 彦〉	383
刑 事 訴 訟 法	〈前期：橋本裕蔵〉 〈後期：小木曾綾〉	384
劳 働 法	〈藤 本 茂〉	385
社 会 保 障 法	〈 休 講 〉	
金 融 法	〈川 田 悦 男〉	386
経 済 法	〈岡 田 外 司 博〉	386
国 際 私 法	〈笠 原 俊 宏〉	387
環 境 法	〈松 村 弓 彦〉	388
知 的 財 産 権 法	〈盛 岡 一 夫〉	388
財 政 学	〈速 水 昇〉	389
国 際 関 係 論	〈首 藤 素 子〉	389
経 済 政 策	〈西 山 司〉	390
※証 券 取 引 法	〈春 田 博〉	(59)
※国 際 取 引 法	〈横 山 真 規 雄〉	(63)
※航 空 宇 宙 法	〈関 口 雅 夫〉	(57)
※消 費 者 法	〈河 野 弘 矩〉	(58)
※法 哲 学	〈高 橋 洋 城〉	(55)
※社 会 政 策	〈浜 村 彰〉	(65)
※外 交 史	〈首 藤 素 子〉	(67)
※政 治 思 想 史	〈小 林 正 敏〉	(67)
※外 書 講 読 (英 書)	〈青 野 博 之〉	(68)
※外 書 講 読 (英 書)	〈前期：金子昇平〉 〈後期：小木曾綾〉	(69)
※外 書 講 読 (独 書)	〈松 村 格〉	(69)
※外 書 講 読 (仏 書)	〈中 野 裕 二〉	(70)
※外 書 講 読 (中 国 書)	〈江 林 英 基〉	(70)
※外 書 講 読 (ス ペ イ ン 書)	〈佐 藤 玖 美 子〉	(71)
応 用 憲 法 演 習	〈 休 講 〉	
応 用 民 法 演 習	〈 休 講 〉	
応 用 刑 法 演 習	〈 休 講 〉	
演 習 I · II	〈青 野 博 之〉	390
演 習 I · II	〈大 宫 隆〉	391
演 習 I · II	〈金 子 昇 平〉	391
演 習 I · II	〈佐 藤 多 美 夫〉	392
演 習 I · II	〈西 修〉	392
演 習 I · II	〈林 幸 司〉	393
演 習 I · II	〈間 渕 清 史〉	394
演 習 I · II	〈山 田 泰 彦〉	394

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 学 概 論	たかほしひろき 高橋洋城	法 B 1 必	4

講義のねらい

- 本講義は、法学部の専門科目を学ぶための準備段階として、
- ・高校まで諸君がやってきた各科目の学習法とは違う、法学の学び方にふれてもらう。
 - ・法学や、法に関する思考の基本的な特質を理解してもらう。
 - ・そのために必要な最低限の基礎知識、基本概念を身につけてもらう。
 - ・主要法領域それぞれの役割、特質を概観し、自分自身の今後の学問的関心を形成してもらう。
 - ・我々と法の関わり方を問う、様々な現代的問題についての認識、関心を形成してもらう。
- といったところを講義の目的として考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

高度に専門的な議論、各法領域に特有の細かな問題については、それぞれの専門科目に委ねなくてはならないが、できるだけ具体的な問題・事例にもふれながら、これから法を学びはじめる諸君の水先案内をつとめたいと思う。

- 講義スケジュールについては、さしあたり次のようなものを予定している（順不同）。
- ・法と法律・権利に対する基本的視座：法的思考を形成する基本的な諸概念の考察
 - ・現代日本法にまでいたる法発展史（西欧近代法の形成をふくむ）の概観
 - ・近現代法の基礎的原理の概観。とりわけ現行憲法の諸原理と諸規定の概括的把握
 - ・公法と私法、民事法と刑事法、実体法と手続法等々、各法分野の特質と差異の概観
 - ・現代社会固有の問題に対する法的視角からの検討 etc.

ただしこれはあくまで現時点での予定であり、詳細は講義開始時にあらためて伝えることとするが、さらに聴講者の反応に応じて、臨機応変に変更していくことも想定されるのであらかじめ了承されたい。また講義時間内に小レポート等を課することがあるかもしれない。

成績評価の方法

成績評価は記述式試験によって行なう（前後期2回実施予定）。上記の小レポート等を実施した場合には当然これも評価対象とする。

教 科 書

西村健一郎他『判例法学』（有斐閣）。教科書の内容を順次説明するという形式をとるわけではない。ただし、講義で言及できない部分を教科書の記述に委ねることがあり、そうした場合は口頭、板書で触れなかったことがらでも試験の範囲となりうると考えて欲しい。

参 考 書 等

別冊法学セミナー『法学入門2000』（日本評論社）
その他の参考文献、資料は講義の中でそのつと指示する。

そ の 他

毎回使用するわけではないが、六法を持参のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
憲 法	にし 西 おきむ 修	12以降入学生/法B1必	4
		11以前入学生/法B1選	

講義のねらい

何年か前に発表された日米教育比較に関する米側専門家の報告書によると、日本の大学教育は完全に失敗していると診断しています。「授業は貧弱で、大学生はいたって不勉強」というのがその結論です。日本の大学改革が叫ばれているいま、このような診断が誤りであることを証明する必要があります。

私は、次のような授業方針でのぞみますので、了解されたい。

- ① 私の教師になってからのモットーは「授業は休まず、遅く始めず、早く終わらず」というものです。したがって、受講生諸君は講義には必ず出席し、かつ授業時間に遅れないように。なお今年度は短期国外留学が予定されていますので、その埋め合わせ方法は授業中に伝えます。
- ② あらかじめ講義計画（シラバス）を立て、その計画にそって授業を進めます。この講義計画は別に配布しますが、キーポイントと参考文献が示してあるので、理想的には予習・復習するのが望ましい。
- ③ 授業中の私語・遅刻は、他人の迷惑になるので、絶対に慎んでほしい。
- ④ 成績は平常点を重視。私が独自に作成した出席カードを利用し（質問欄あり）、双方向性を大切に授業内容にします。
- ⑤ 授業内容は、コピーの配布、ビデオ、スライド、OHPなどの活用をはかり、できるかぎり理解を容易にするよう工夫をこらします。
- ⑥ 成績評価の目安は、おおむね以下のとおり。
前期試験30%、後期試験40%、出席・レポート30%。
要するに、講義内容を活き活きしたものにし、受講者から知的関心を引き出し、知的満足感をもって終了するというのが、最大のねらいです。

講義の内容・ 授業スケジュール

取り扱う主な項目は、以下のとおり。

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 日本国憲法の制定過程 | ⑨ 憲法の改正と限界 |
| ② 国民主権と象徴天皇制 | ⑩ 基本的人権の歴史と意義 |
| ③ 日本国憲法と平和主義 | ⑪ 法の下での平等 |
| ④ 政治改革と憲法問題 | ⑫ 精神的自由権 |
| ⑤ 国会の組織と機能 | ⑬ 経済的自由権 |
| ⑥ 内閣の機能、議院内閣制 | ⑭ 社会権 |
| ⑦ 司法の構造と権限 | ⑮ 身体の自由 |
| ⑧ 憲法の保障 | ⑯ 財政・地方自治 |

教 科 書

- (1) 西 修編著『日本憲法25講』（八千代出版）1996年版 2,700円
- (2) 西 修著『日本国憲法を考える』（文春新書）1999年

参 考 書 等

別に配布するシラバスを参照のこと。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
民法総則	はやし 林 幸 司	12以降入学生/法B1・2・3・4選必 11以前入学生/法B1選	4

講義のねらい

- 1：民法総則の分野について、受講生に「基本的な理解」が身につくよう目指すこと
- 2：「具体的な事例を通して理解を深める方法」を習得することによって、受講生の民法に対する興味を触発すること

講義の内容・
授業スケジュール

民法とは「私たち個人間の生活関係、特に財産（契約や所有物など）と家族（親子・夫婦など）に関する権利・義務関係を規律する法律」のことで、ここで扱われる問題は、諸君が日常生活で無意識のうちに触れているものばかりである。

民法典は大きく分けると、①総則、②物権（担保物権も含む）、③債権（債権総論と債権各論）、④親族、⑤相続の五つの部分に分けられるが、本講義では、①総則の分野を扱う。この①総則は「民法全体（特に②③）に共通する原則や事項を扱う分野」であり、その内容は、次のように権利を中心に構成されている。

- 一、基本原則（信義誠実、権利濫用の禁止）
- 二、権利の主体（権利を取得できるのは誰か）
 - 1：自然人（生きて生まれた者）
 - (1)権利能力（権利主体になれる地位）出生による権利能力の発生と胎児の例外など
 - (2)制限能力者（未成年者・成年被後見人・被保佐人・被補助人）
 - 2：法人（法によって認められた権利の帰属点）公益法人の設立・管理・解散など
 - 3：住所・失踪・同時死亡の推定
- 三、権利の客体（どのようなものが権利の対象となるか）
物とは何か、動産と不動産の区別、主物と従物の関係など
- 四、権利の変動（どのような場合に権利は発生し、移転し、消滅するか）
 - 1：法律行為（契約など意思表示を構成要素とする行為）
 - (1)総則 法律行為一般に共通する事項（公序良俗違反や法律行為の解釈など）
 - (2)意思表示（権利義務の変動を望む意思を相手に表示する行為）
 - ・意思の欠缺（表示に対応する意思の欠陥）①心裡留保、②虚偽表示、③錯誤
 - ・瑕疵ある意思表示（不法に動機づけられた欠陥のある意思表示）①詐欺、②強迫
 - (3)代理（他人〔代理人〕が行った法律行為で本人が権利を取得する制度）
 - ・本人、代理人、相手方の三面関係
 - ・無権代理（代理人と称する者が行った行為につき代理権がなかった場合）
 - ①表見代理、②本人による無権代理行為の追認、③無権代理人の責任、など
 - (4)法律行為の無効・取消
 - (5)法律行為の条件・期限
 - 2：期間
 - 3：時効（時間の経過によって権利の変動を認める制度）
 - (1)総則 時効一般に共通する時効（援用の必要性、中断、停止など）
 - (2)取得時効（時間の経過によって権利の取得（発生）を認める制度）
 - (3)消滅時効（時間の経過によって権利の消滅を認める制度）

本講義もほぼこの順序で解説して行くが、一の基本原則（信義誠実・権利濫用）と二の法人については、時効の後にまわすことにする（その理由は開講時に説明する）。そのかわりに、最初の数回は、民法入門をかねて、i)民法とはどのような法律か、ii)民法の全体像の把握、iii)近代市民法の三原則（私的自治の原則、所有権絶対の原則、過失責任の原則）をとりあげて解説する。

履修上の留意点

私語の厳禁 ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっと静かになるというのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色が見られなかったり、何か悪いことをしたのか（または「なぜ私だけが!」）と言わんばかりににらみ返してくるという者もいる。このテの者にはその場で退場を通告するという強い態度で望むので覚悟してもらいたい。

成績評価の方法

期末試験の評価が中心となるが、講義前に配布した用紙に質問や意見などを書いてもらい、講義後に回収する。これらにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多いので、若干のプラス評価を行うつもりである。

教科書

永田・松本・松岡著『民法入門・総則 [第2版] エッセンシャル民法1』(有斐閣) 2,000円
※気にいった教科書がほかにある場合はそれでもよいが、講義で読み上げたり引用する場合はこの教科書を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 法 総 論	まつ 松 村 格	12以降入学生/法B1・2・3・4履必	4
		11以前入学生/法B1選	

講義のねらい

刑法(刑罰法規)は、歴史的には支配者が市民を抑圧する最強の手段として長い間悪用されてきたし、近年に入ってからファシストたちから悪用された。今日、刑法は、市民の自由と権利を保障する機能をもつものとして把握されなければならない。そのためにも、刑罰権の発動と処罰の範囲をできる限り制限する理論操作が必要である。市民と行為者と被害者のそれぞれの人権保障を考えながら刑法理論を構築しなければならない。刑法総論はそのための基本的な視座にかかわる理論である。そういう視点から、学説、判例の動向を検討していくが、もちろん、刑法各論とのかかわりの中でできる限り具体的な事例を参考にしながら刑法総論を学び、刑法学の全体像を理解していきたい。さらに、刑法教義学とその隣接科目との相互作用、刑法システムと他の法システムとの相互関係、法システムと経済・政治・文化のシステムとの交互作用も概観する。

講義の内容・授業スケジュール

前期

- 第1回 (刑法システムとその余のシステムとの関係) (刑法システムと隣接領域システムとの関係)
- 第2回 (刑法および刑法学システムとその部分システムとの関係) (刑法総論とその部分システム)
- 第3回 (刑法の意義と機能および犯罪の意義)
- 第4回 (刑罰論と罪数論=刑罰の本質と機能および目的/罪数論の意義)
- 第5回～6回 (刑法の原理・原則論=罪刑法定主義/責任主義/謙抑主義)
- 第7回～9回 (行為と構成要件の理論=行為論/犯罪の主体と客体/故意と錯誤の理論/不作為犯論/因果関係論)
- 第10回～最終回 (違法性の理論=違法性の本質と実質/正当防衛と緊急避難/自救行為/正当業務行為とくに治療行為/臓器移植/安楽死・尊厳死)

後期

- 第1回～3回 (責任論=責任の本質/責任能力/故意と違法性の意識/期待可能性)
- 第4回～5回 (未遂論=未遂の意義と処罰根拠/中止未遂/実行の着手/不能未遂)
- 第6回～9回 (共犯論=共犯の意義と形態/処罰根拠/正犯と共犯の区別と関係/共同正犯/共犯と身分/共犯の諸問題)
- 第10回～最終回 (補足)

履修上の留意点

刑法総論は、きわめて体系的な学問なので、継続的に出席して講義を受けないと理解できなくなる。できる限り具体的な事例を利用して説明するが、それでも観念的思考が入りこむので、考える力を必要とする。教科書以外のことを沢山話すので講義をよく聴き、必ずノートをとることが大切である。ただし、黒板に書くことは最小限度必要な事項だけであるから、それを筆記するだけでは意味がない。六法全書・教科書・ノートを毎回持参することが必要条件である。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の定期試験とその他の小テストの成績を総合して判断する。

教科書

松村格『刑法学への誘い』(八千代出版)
松村・都築・神田・野崎『刑法総論』(ミネルヴァ書房)

参考書等

別冊ジュリスト『刑法判例百選I総論(第4版)』(有斐閣)
斉藤誠二編『演習ノート刑法総論』(法学書院)
『刑法基本講座(全6巻)』のうち1～4巻(法学書院)

その他

授業の方法は、すべて講義方式で行なう。必要に応じてプリントを配布することがある。その場合には、そのプリントに沿って講義をする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 社 法	あら き まさ たか 荒 木 正 孝	12以降入学生/法B2・3・4選必 11以前入学生/法B2選	4

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、商品やサービス、そして労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を探り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原理を理解してもらおうつもりである。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。ところで、商法は、民法を一般法とする特別法であるから、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層分かりやすい。もっともここでは、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末のペーパーテストの点数で評価します。

教 科 書

荒木正孝著『現代企業法（第3版）』（成文堂）

参 考 書 等

鴻・竹内・江頭編『会社判例百選』第5版（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第3版』（成文堂）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
行政法総論	かね 金子 しょう 昇 平	12以降入学生/法B2・3・4選必	4
		11以前入学生/法B2選	

講義のねらい

現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、情報公開法、介護保険法、環境アセスメント法等を挙げることが出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

そこで講義においては、行政法総論での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に提示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 行政と法の関係
 - ①法律による行政の原理 ②行政法の意義と範囲 ③行政法の法形式 ④行政上の法律関係
- 2) 行政主体と私人
 - ①行政主体と行政客体 ②国の行政組織 ③地方公共団体の行政組織 ④行政機関・公務員
 - ⑤行政情報と法
- 3) 行政手段法
 - ①行政立法 ②自治法 ③行政計画 ④行政行為 ⑤行政契約 ⑥行政指導 ⑦行政調査
 - ⑧行政強制 ⑨行政罰
- 4) 行政手続の法
- 5) 行政救済法
 - ①国家賠償法 ②行政上の苦情処理 ③オンブズマン ④行政上の不服申立 ⑤行政訴訟

履修上の留意点

行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

成田頼明他『現代行政法』（有斐閣）

その他

塩野宏他編『行政判例百選』（第三版 有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 法	おう し あん 王 志 安	12以降入学生/法B2・3・4選必 11以前入学生/法B2選	4

講義のねらい

国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家及び国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論及び外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論及び実行、国際地域、国際海域及び宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式及び効力に関する法規制、外交関係及び領事関係における特権及び免除などを取り上げる。

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意思をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）1997年 2,700円

参 考 書 等

市販されている国際条約集

そ の 他

授業はすべて power point を使って講義方式で行い、適宜に参考資料を配付する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
裁 判 法	あめ みや まさ や 雨 宮 眞 也	12以降入学生/法B2・3・4選必	4
		11以前入学生/法B2・3・4選	

講義のねらい

主として、わが国の裁判制度について、その組織と運用の実情を理解させることをもって、この講義の目的とします。

裁判とは、社会関係における利害の衝突、紛争を解決し調整する規律を定めるための、法的な権威を有する第三者の判定です。

社会関係の複雑化と国民の権利意識の高まりとに従がい、現代社会において裁判の果たすべき役割は、年々その比重を増してきています。

裁判制度の現にある姿を明らかにするとともに、そのあるべき姿を求めるため、特に、裁判の本質、裁判の構造、裁判の論理、裁判と法律の解釈、裁判と事実認定、裁判の機能、判例の成立と意義等の諸論点について、重点を置いて講義します。

裁判における裁判官の思考プロセスにも触れ、法的思考の何たるかをも明らかにしたいと考えています。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義は、後掲の教科書に従って次のように進めて行きます。

第1章 法と裁判の役割

- 1 民事法の実現と民事手続
 - ① 紛争
 - ② 法規範
 - ③ 訴訟
- 2 刑事法の実現と刑事手続
 - ① 刑事手続の目的
 - ② 適切な手続の保証
 - ③ 刑事裁判
- 3 司法権と違憲審査権
 - ① 司法権と裁判所
 - ② 違憲審査権と司法権の独立

第2章 裁判所制度

- 1 最高裁判所
- 2 高等裁判所
- 3 地方裁判所
- 4 家庭裁判所
- 5 簡易裁判所

第3章 法律家の役割

- 1 裁判官
- 2 検察官
- 3 弁護士
- 4 準法律家
- 5 法曹養成

第4章 裁判の仕組み

- 1 民事裁判
 - ① 民事訴訟の基本構造
 - ② 訴えの提起
 - ③ 審理の展開
 - ④ 証拠調べ
 - ⑤ 判決
 - ⑥ 上訴（不服申立て）
- 2 家事裁判
- 3 行政裁判
 - ① 行政訴訟の類型
 - ② 行政訴訟の特色
- 4 刑事裁判
 - ① 刑事手続きの流れ
 - ② 捜査手続

- ③ 公訴の提起と検察官の役割
- ④ 公判手続の基本原則とその運用
- ⑤ 刑事裁判の課題
- 5 憲法裁判
 - ① 違憲審査制と憲法裁判
 - ② 違憲審査権の運用状況

第5章 裁判をめぐる現代的課題

- 1 市民の裁判を受ける権利
- 2 市民の司法参加
- 3 国際化と裁判

履修上の留意点

教科書を予め読んで、疑問点を把握しておいて下さい。

成績評価の方法

期末試験における論文式テストにより評価します。

教科書

市川正人外著『現代の裁判』（有斐閣アルマ）

参考書等

兼子一・竹下守夫『裁判法』（有斐閣法律学全集）

科目名	担当者名	配当学科	単位
親 族 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	法B1・2選 12以降入学生/法A1・2選	4

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も重視する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4増補版〕』（有斐閣双書）1,600円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円
六法

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	きた の 北 野 かほる	法 B 1・2 選 12以降入学生/法 A1・2選	4

講義のねらい

イギリスと法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 事 政 策	さいとう よしゆき 斎藤 静 敬	法B1・2選	4
		12以降入学生/法A1・2選	

講義のねらい

人間は、なぜ罪を犯すのであろうか。どうすれば、この社会の中から犯罪を防止することができるのであろうか？たしかに、犯罪のない社会を実現させることは非常に困難なことである。しかしながら、実現不可能であるとして、何の努力もせずには、何の解決策にもならない。少しでも犯罪のない社会の実現にむけて努力すべきである。刑事政策を学ぶということは、まさにこの犯罪のない社会の実現にむけて貢献することにある。

講義の内容・授業スケジュール

刑事政策は犯罪を防遏するための合理的、合目的な手段、方法を探求するものである。そこで、1. 犯罪現象の類型的考察(例えば、少年犯罪、女性犯罪、性犯罪、暴力団犯罪、公務員犯罪、公害犯罪、精神障害者の犯罪、薬物乱用犯罪、交通犯罪、外国人犯罪。) 2. 犯罪者の処遇(例えば、受刑者の法的地位、刑務作業、拘禁の形態、仮釈放。) 3. 犯罪者に対する制裁(例えば、死刑、自由刑、財産刑、保安処分) 4. 犯罪の司法的処理(例えば、起訴猶予、執行猶予。)……などについて概説する。

履修上の留意点

1. 講義には、毎回かかさず出席して欲しい。
2. 毎日、新聞の犯罪記事に目を通しておく。

成績評価の方法

筆記試験

教科書

斎藤静敬『刑事政策の諸問題』(創成社) 2,800円+税

その他

講義方式

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 思 想 史	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	法 B 1・2 選	4
		12以降入学生/法 A1・2選	

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは大まかなアウトラインしか述べることができないが、重点をおくトピックおよび思想家として、以下を予定している。

(前期) ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想（プラトン、アリストテレス）、キリスト教思想（アウグスティヌス）、中世自然法論（トマス・アクィナス）

(後期) 前近代から近代への世界像の転換、近代法の基礎理論とも言える自然権論や社会契約思想（ホブズ、ロック、ルソー）、これを批判的に受け継ぐドイツ啓蒙期の法思想（カント）、ドイツ観念論の法思想（ヘーゲル）

基本的には、時代を順に迫り、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、断片的な紹介ではなく、影響関係や重要な概念枠組の変遷などを重視し、明らかにできればと思う。また狭い意味での法学理論史の枠にとらわれず、各々の法思想を、その時代の人間観やコスモロジーの中に法理解を位置づけて検討し、そうした作業を通じて最終的には、近代という時代が獲得したものと忘却してしまったものについて考えてみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19、20世紀以降の法思想ないし法学理論の諸潮流については、法哲学講義の一環として取り扱うつもりである。

成績評価の方法

定期の記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とする。その他に任意提出課題として、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらえば、一定範囲内で評価に加える。

教科書

ここでは、三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院）4,854円を挙げておくが、講義の補完、通常の学習には自分にあった概説書を選んでもらってかまわない。詳細については講義のはじめに紹介する。

その他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
政治学原論	おお つか かつら 大 塚 桂	法B1・2選	4
		12以降入学生/法A1・2選	

講義のねらい

○自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

○講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を習得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門科目の研究上必要な基本的な知識を提供することです。

講義の内容・ 授業スケジュール

○講義のすすめかた

現代政治学のおおよそのアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

○講義内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法

B 政治の原理的究明

① 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

② 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

③ イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（レティズンシップ）

C 国家の実体論的究明

① 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

② 機能論的究明

～政党、圧力団体

成績評価の方法

本年度もまた、受講者との相談のうえA・B両方式のうちのいずれかに決定します。

A方式（レポートによる単位認定）

複数回（前期・後期）のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告（レポート）の作成をとおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。

B方式（試験による単位認定）

中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。

※A方式の場合には、追・再試験は実施しません。B方式は、実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参考書等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経済原論	藤原 碩宣	法B1・2選 12以降入学生/法A1・2選	4

講義のねらい

経済学の基本的要件の理解
日本経済の直面する課題
理論と現実の乖離とその説明
といった点を主眼として行います。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、経済学 성격、他分野との関係、成立要件といった基礎と、マクロ経済学国民経済循環、産業連関分析、国民所得概念および国民所得決定論など。
後期では、ミクロ経済学および応用経済学——個別経済主体の行動分析、寡占経済理論、バブルの発生とその崩壊、財政・金融問題など。

履修上の留意点

授業に出席し、ノートをよくとる事が大切です。

成績評価の方法

ペーパーテスト。但し、自発的なレポートやテーマを決めたスクラップ作りなどを試験前に提出すれば、評価に加えます。

教科書

藤原碩宣編著『経済と経済学』（実教出版）
その他は適宜授業中に紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
行政学	岡田 彰	法B1・2選 12以降入学生/法A1・2選	4

講義のねらい

行政学は政治学の中でも新しい分野である。わが国では明治時代にドイツの官房学の紹介として始まった。そして戦後はさらにアメリカ行政学の影響も受けることになる。

行政学と関連する学問は①行政法学（公法）②経営学（組織論）③財政学④政治学が主なものであるが、国によって関連領域への関心も異なる。日本では行政法学の影響が強いが、アメリカではむしろ経営学との関連などに関心が置かれており、それぞれの歴史を反映したものとなっている。行政学は地味なもので、それだけ学生諸君には取りつきにくいように思われるかもしれないが、いずれ社会で活躍すれば、必ず出会う問題でもある。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 行政学の対象と方法
- 2 行政学説史
- 3 アメリカ行政学
- 4 官僚制
- 5 官僚制の逆機能
- 6 政策の形成、評価
- 7 行政統制と行政責任
- 8 内閣制度
- 9 公務員制度
- 10 行政改革

履修上の留意点

遅刻や私語は遠慮して下さい。

教科書

森田朗『現代の行政』（放送大学）

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代法のトレンド	高橋洋城・青野博之 荒木正孝・竹中智香	法B1・2選	4
	林幸司・藤本茂	法A1・2選	

講義のねらい

現代社会は大きな変貌を遂げつつあると言われますが、法の領域においてもそれは例外ではありません。本講義では、専門科目の講義では十分に触れることのできない現代的問題について、担当者がそれぞれの専門領域から取り上げ、様々な角度から検討していこうとするものです。なお本年度は、主として私法領域における問題を扱います。

通常形態の講義と異なる点も多々あると思われるので、第1回目の講義で履修上の一般的な注意事項の説明と、各講義担当者による講義内容の概要説明を行ないますので、必ず出席し、聞きのがさないようにしてください。

講義の内容・授業スケジュール

以下の順序に従って講義を進めます。各講義は、それぞれ3～4回を予定しています。

1 現代法の展望 高橋洋城

現代法というとき、そこには近代市民法の原理との対比が含意されているが、本講義でもまず近代法原理について概観した上で、現代的法領域に現われている新しい原理や従来の原理の修正などについて俯瞰的に、また歴史的に位置づけ、以降の講義への導入の役割を努めたい。特に近代法がイメージしている人間像への批判、問いなおしについて焦点をあててみたい。

2 現代社会と企業法 荒木正孝

大企業はすべて株式会社の形態をとり、生産、消費、雇用の各方面において国民経済に大きな影響を与えており、誰ひとりとして企業の経済活動と無関係に生活することはできない。この講義では、社会的に大きな影響力を持つ株式会社に関する法律問題のうち、総会屋に対する利益供与事件、取締役と執行役員、取締役の報酬とストック・オプションおよび社会法改正の動向など最近話題になっている重要な問題の中からいくつかを選んで解説する予定である。

3 現代社会と契約法 林幸司

「個人は契約を締結するかしないかの自由を有し、締結する際にはその契約内容を自由に形成することができる」というのが、「契約自由の原則」の中身であり、これが民法の基本原則と一般に理解されている。しかし本当にそうであろうか。日常生活において、我々は、実質上否応なく契約を締結せざるをえない場面、相手方の提示した契約内容をそのまま受け入れざるをえない場面に出くわすことがあまりに多い。さらに、知らない間に契約を締結してしまっているというようなことすらある。本講では現代社会において「契約の自由」が実質上機能しなくなってきたことによって生じるトラブルが、どのように処理されており、今後どう解決していくべきか、という問題を扱う。

4 現代社会と家族法 竹中智香

現代の家族や婚姻などをめぐる問題の中から、法学の初心者でも興味を持つような今日の話題を取り上げて解説・検討しようと考えている。具体的な内容としては、以下を予定している。

- (1)有責配偶者の離婚請求について。
- (2)不貞行為の相手方への慰謝料請求について。
- (3)成年後見について。

5 現代社会と消費者法 青野博之

消費者法のトレンドについて講義を行なう。具体的なテーマとしては、2001年から施行される消費者契約法、1999年になって初めてその法律に基づき責任を肯定した判決が登場した製造物責任法を予定している。ようやく消費者にとって役に立つ(立ちそうな)法律がそろってきた。現代において、これらの法律がどのような意味を持つか、学生とともに考えてみたい。

6 日本の産業社会と労働法 藤本茂

労働関係をめぐる分野は今、大きな変貌を遂げようとしている。たとえば、「日本型雇用慣行」といわれる長期安定雇用、年功制賃金体系は、派遣労働、高度専門職の短期契約者や成果主義賃金(年俸制)の導入によって変容しつつある。わが国産業社会は、さまざまな労働形態や新たな雇用制度を模索しているところである。こうしたトレンドに対応する労働法制の改正に焦点をあてて講義を行なう。具体的な内容は以下のとおり。

- (1)労基法改正。ここでは短期労働契約に関する法規制の過去と現在について。
- (2)労働者派遣法改正。労働力市場に流動性を持たせる労働形態に関して。
- (3)男女雇用平等法改正。職場における男女平等の問題を考える。

成績評価の方法

各担当教員（6名）が、それぞれの講義時間の中で、小テストやレポートなどによって評価を行ない、それらの総合点で全体的な評価・単位認定を行ないます。詳細については、担当者ごとに異なりますので注意してください。

教科書・参考書等

講義全体を通じた教科書は特に指定しませんが、参考図書等については、各回の担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
基礎憲法演習	中野辰久	法B1・2選 法A1・2選	4

講義のねらい

本演習の特徴は、弁護士が担当すること、司法試験等の国家試験を念頭にしていることの二点にあります。その特徴を踏まえ、本演習は以下の諸点を目的に行いたいと思います。

- ① 受講生に身近と思われる具体的事例を素材として取り上げ、憲法等の法律が実社会でどのような役割を担っているかを明らかにするとともに、憲法の基本原理を重点的に検討する。
- ② ①を通して、司法試験等の国家試験に必要と考えられる憲法の基本原理・基礎的知識の習得を目指し、リーガルマインドの養成をはかる。

講義の内容・授業スケジュール

主に基本的人権に関する事例を取り上げ、それに関連する形で統治機構論・憲法訴訟論を加味していく予定です。検討テーマの一例をあげると下記のとおりです。

- ① 死刑の合憲性
- ② 氏名権
- ③ 外国人の人権－選挙権、指紋押捺の問題
- ④ 平和主義・戦争の放棄－自衛隊の合憲性
- ⑤ プライバシー権－タレントの権利
- ⑥ 法の下での平等－尊属殺重罰規定違憲判決、議員定数不均衡問題
- ⑦ 表現の自由－報道の自由
- ⑧ 職業選択の自由－プロ野球のドラフト制度
- ⑨ 生存権
- ⑩ 教育を受ける権利－校則の問題
- ⑪ 信仰の自由－政教分離－靖国神社の問題

履修上の留意点

演習（ゼミ）形式ですから、できるかぎり出席することが望ましいと考えます。また、司法試験等の国家試験を念頭に置くと、復習は必ずしてほしいと思います。

成績評価の方法

演習（ゼミ）形式ですから、出席とレポートで評価する予定です。しかし、登録人数が多い場合には試験に変更します。

教科書

芦部信喜著『憲法新版補正版』（岩波書店）
芦部信喜・高橋和之・長谷部恭男編『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第四版）』（有斐閣）

参考書等

演習の都度、レジュメを配付する予定です。

その他

司法試験等の国家試験への対処、弁護士の仕事等についても適宜お話していきたいと思います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
基 礎 民 法 演 習	はやさか 早 坂 亨	法 B 1・2 選	4
		法 A 1・2 選	

講義のねらい

本講義は、受講生が初学者であることを前提に、事例をもとに、実務的観点から民法の基礎、考え方を学ぶ。また、実務法曹になる前提として司法試験等を意識し、これらが何を要求しているかについて考える。

講義の内容・
授業スケジュール

民法では、現実に起こりうる私人間の紛争を規律するという側面を有するため、法的安定性ととも、具体的事案について結論の具体的妥当性が要求される。従って、事例は、実際の判例を取り上げるが、その他、実務法曹になる前提としての司法試験の問題等も取り上げ、実務法曹としてどの様な基本的知識が必要とされるかについても講義、検討する。

履修上の留意点

本講義では、判例、司法試験の過去の問題を素材とするが、本科目の受講生は、民法の初学者を前提としていることから、これらの検討にあたっては、その点を充分配慮し、基本的事項から検討するので、予習よりも復習に重点をおいて受講して欲しい。

また、講義にあたっては、積極的に発言して欲しい。

成績評価の方法

知識の習得度には重点を置かない。むしろ民法の考え方をどれだけ理解したかという点から評価する。

教 科 書

特段指定はしない。

参 考 書 等

講義において適宜指示する。

そ の 他

本講義はゼミ形式とする。
実務法曹として必要な知識の取得を目的とすることから、司法試験についても当然念頭においた講義となる。司法試験合格の為には、相当程度の勉強が必要だが、ただがむしゃらに勉強さえすれば良いというものではない。司法試験はあくまで法律実務家になる為の試験であるから、実務法曹として何が望まれているのかを理解し、その方向性に向かって勉強することが必要とされる。従って、判例、司法試験の問題の検討を通じて、実務法曹として、どの様な能力が求められるのか、また司法試験では何が要求されているのか、そのためにはどの様な勉強をしていけば良いのか、論文の考え方、特に勉強の方向性についての講義・討論を行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
基 礎 刑 法 演 習	木 村 美 隆	法 B 1・2 選	4
		法 A 1・2 選	

講義のねらい

刑法の基礎知識、思考方法の習得を目的とすることは当然であるが、司法試験をはじめとする各種国家試験の合格を旨とする学生諸君の存在を意識して、その対策への導入路となることをも心がけたい。

講義の内容・授業スケジュール

刑法は、犯罪の一般的成立要件を中心に分析、検討する刑法総論と、殺人罪、窃盗罪など個別の犯罪の成立要件を分析、検討する刑法各論に分けて講ぜられるのが一般である。この演習では、前期から後期途中までをかけ、刑法総論のテーマを取り上げ、その余の時間で刑法各論の重要論点にふれる予定としている。

刑法は、古くから学説上の争いが顕著で、ときに学界を二分するような議論もなされてきたが、この演習では特定の学説上の立場に把われることなく、常に多様な考え方、視点のあることに基づいていきたい。

また、司法試験等各種国家試験の対策も念頭に置き、そのために必要な学習方法にも言及する予定である。

さらに、弁護士としての実務経験も適宜織り込み、法律が現実に応用される世界への興味を引き出せたら幸いと考えている。

履修上の留意点

テレビ、新聞等で多くの犯罪が取り上げられることもあって、刑法は親しみやすい科目であるかもしれない。しかし、ひとたび教科書を開いてみれば、極めて論理性の高い体系のあることに気づかされ、学習の容易でないことを知るはずである。中途半端な学習態度で臨んでもらいたくない。

成績評価の方法

出席と、試験の結果により評価する。

教科書・参考書等

特定の教科書は使用しないが、学習上何らかの体系書に拠ることが望ましい。参考となる文献は開講時に指示する。

そ の 他

講義形式が中心となるが、学生の発表能力を養うため、試験とは別に答案を書き添削を加える、いわゆる答案練習の機会を持つてみたいと考えている。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
物 権 法	つる 鶴 い しゅん まち 井 俊 吉	法 B 2 選	4

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうち総則、占有権、所有権、地上権、永小作権、地役権を対象とする。所有権を中核とする物権法は、今日の社会構造の法的土台をなしており、憲法上の私有財産制度の骨組を定めたものである。その意味で、物権法は民法の中で最も基礎的な重要な部分であるといえる。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の主な内容は、不動産売買をめぐるトラブルがどのように解決されているのかなど、物権変動を中心に、不動産利用権、物権的支配の秩序維持についての制度を解説する。

講義では、物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例を入れ、図式してわかりやすいように心掛ける予定である。

履修上の留意点

物権法は、解釈学上においても体系的理解が困難な分野であるといわれている。それは立法の沿革に基づいている。現行民法がドイツ民法を継受してできあがっているにもかかわらず、物権法の主要な部分については、フランス民法の影響を強く受けているからである。それゆえに講義に出席しないとなかなか興味を持ってないし、理解しづらい分野であるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

遠藤・川井他編『民法(2) 物権』（有斐閣双書）を予定している。

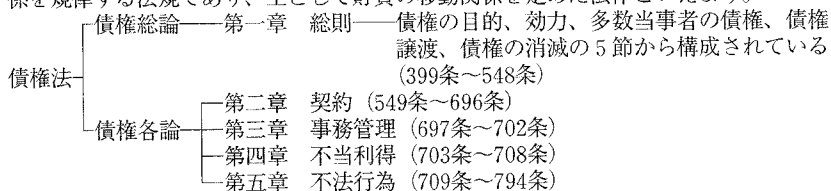
参 考 書 等

講義の最初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
債 権 総 論	河 野 弘 矩	法 B 2 選	4

講義のねらい

債権法とは、形式的には民法第三編債権の規定の総体（399条～724条）をいい、実質的には債権関係を規律する法規の全体を意味している。債権法は、物権法と共に市民生活のうち財産関係を規律する法規であり、主として財貨の移動関係を定めた法律といえよう。



講義上、債権法第一章総則を債権総論といい、第二章以降を債権各論と呼んでいる。本講義は、上記の第一章の債権総則を対象とする。債権総則は、実質上契約から生ずる債権を念頭においた規定と解される場合が多いことから、講義のなかでは契約の例示を多く登場させ、極力具体的事例を以て抽象的理論を説明するようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行は、債権法の規定の順序に従い、以下の通り行う。

- 1 債権の意義及びその性質
- 2 債権の目的
- 3 債権の種類（特定債権、種類債権、金銭債権、利息債権、選択債権、任意債権）
- 4 債権の効力（自然債務、強制履行、債務不履行、第三者による債権侵害、責任財産の保全、他）
- 5 多数当事者の債権関係（連帯債務、保証債務）
- 6 債権関係の移転（債権譲渡、債務の引受、契約上の地位の譲渡）
- 7 債権の消滅（弁済、代物弁済、供託、相殺、更改、免除、混同）

履修上の留意点

必ず続けて受講すること。
講義には、六法全書を必ず持参すること。
講義についての質問は、毎回講義終了後質問を受けることは当然であるが、その他前期と後期の授業最終日に質問を受ける時間を設ける予定です。

成績評価の方法

期末試験により評価する。出席点を加味するか否かは今後検討したい。

教科書・参考書等

教科書は、河野弘矩『債権法講義』八千代出版（価格未定）を使用予定。
参考書については、授業のなかで紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
債権各論	あおのひろゆきの 青野博之	法B2選	4
		12以降入学生/法A2選	

講義のねらい

債権各論とは、民法典のうち、第3編「債権」の第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」及び第5章「不法行為」をいう。

たとえば、Aが自己所有の土地をBに売却する契約をBとの間で締結した場合には、Aは、Bに対して代金を払うように請求することができる。つまり、代金債権が発生する。また、Cの家にDの運転する車がぶつかって、家が壊れた場合には、Cは、Dに対して賠償金を払うように請求することができる。つまり、損害賠償債権が発生する。このように、債権は、契約、不法行為など、さまざまな理由によって発生する。このような債権発生原因について考察するのが、債権各論である。具体的には、たとえば不法行為では、どんな場合に損害の賠償を求めることができるか、どのような損害の賠償を求めることができるかが問題となる。

なお、債権の発生原因のうち、債権各論で学ぶのは、契約、事務管理、不当利得及び不法行為だけであるが、これらが債権発生原因の主要なものである。

講義の内容・授業スケジュール

契約の成立（申込、承諾）
 契約の効力（同時履行の抗弁権、危険負担）
 契約の解除
 所有権移転型の契約（贈与、売買、交換）
 貸借型の契約（消費貸借、使用貸借、質貸借）
 労務提供型の契約（雇傭、請負、委任、寄託）
 その他の契約
 事務管理
 不当利得
 不法行為の要件
 不法行為の効果
 特殊な不法行為

履修上の留意点

できるだけ債権総論も受講してほしい。債権各論を理解するために重要な科目だからである。質問は大歓迎である。講義の中では、私からも質問するので、答えてほしい。双方向性型の講義を目指している。

成績評価の方法

質問した回数及び私からの質問に対する解答の回数を重視する。解答が正しいかどうかではなく、考えて解答することに意味がある。安心して答えてほしい。

受講者がそれほど多くなければ、質問と応答による平常点だけで成績を評価する。しかし、平常点で成績を評価することができないほど受講生が多ければ、年度末の試験を行う。試験を行う際には、いっさいの持ち込みを不可とする。

教科書

大島俊之ほか著『プリメール民法4・債権各論』（法律文化社）2000年 2700円。
教科書は上記のものを使うが、自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 法 各 論	やまぐちくに お 夫 山 口 邦 夫	法 B 2 選	4

講義のねらい

刑法総論の単位を取得済みの者を前提に授業を進める。

講義の内容・
授業スケジュール

1年間を次の4期に分けて講義をする。
 I期（4・5月）、II期（6・7月）、III期（9・10月）、IV期（11・12月）、1月の1回は、質問日とする。
 I期 犯罪の分類について。犯罪の分類は何のためにするのか、何を基準にして分類するのか、などいろいろな犯罪についての一般論を検討する。犯罪の分類は、犯罪学や刑事政策にとっては有用であっても、解釈学にとってはそれほど有用とも思われない。分類することよりも、各犯罪類型を厳格に解釈することの方が重要であることを指摘する。
 II期 通説ともいえる3分類の意義についてふれたあと、いわゆる個人法益に対する罪について検討する。
 III期 いわゆる社会法益に対する罪について。
 IV期 いわゆる国家法益に対する罪について。
 II期、III期、IV期と順次検討する予定であるが、場合によっては、II期の対象を中心に一年間を終り、II・III期の対象は、そのつど関連する個所で、加味してやることになるかもしれない。

履修上の留意点

履修者が50名以内であれば、年間を通じて出席をとりたい。出席カードをもとに、毎回数名の人の質疑や問答を中心とした、コロキウム方式で授業を進める。

成績評価の方法

各期ごとに小テストを行う予定である。そして4回のテストと期末試験の結果を総合して単位を認定する。少人数の時は、平常の履修態度と平常点を中心に、期末試験を省略して単位を認定する。

教 科 書

林幹人『刑法各論』（東京大学出版会）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
有 価 証 券 法	しま はら ひろ あき 島 原 宏 明	法 B 2 選	4

講義のねらい

現代の経済社会における企業間の取引では、手形や小切手等の有価証券が数多く使用されている。中でも手形と小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制の多くは商法上の他の有価証券にも及んでいる。したがってその体系の理解は有価証券全般を理解する上で不可欠なものである。また、手形や小切手は金銭債権と結び付いた証券であるため、これに関する法体系は債権法の一部として把握され、民法の債権総論と密接な関係にある。

講義の内容・
授業スケジュール

手形法は第一編為替手形と第二編約束手形の二編から成り立っており、為替手形についての規定の多くを約束手形に準用するという構成になっている。ただし、わが国においては為替手形がほとんど用いられていないという現実があり、また為替手形に比べて約束手形の方が仕組みが単純であるため、条文の順序とは一致しないが講義では約束手形を中心に説明を行い、適宜為替手形、及び為替手形と基本的な仕組みを同じくする小切手についての説明を付け加えていくという形をとる。

なお、企業活動に関わったことのない学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいため、なるべく具体的な判例を示して解説をしていくつもりである。

成績評価の方法

成績評価は期末試験による。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
登 記 法	た ぬま ひろし 田 沼 浩	法 B 2 選 法 A 2 選	4

講義のねらい

「不動産登記法」及び「商業登記法」の講義を行う。初めて不動産登記法・商業登記法を学ぶ者にも、以前勉強したことのある者にも、民法・商法の手続法としての不動産登記法・商業登記法が現在の取引社会においてどのような役割を担っているのか、不動産登記・商業登記制度の意義を通じて、両法のより深い理解を図ることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

不動産登記においては、不動産に関する取引全体の流れにおける不動産登記の役割を理解することを目指したい。商業登記法においては、会社法と相関させることによって会社の起業に役立つ程度の知識を最低限習得できるように努めたい。

履修上の留意点

民法典第二編物権（物権法）、商法典第二編会社（会社法）の受講者が履修することが望ましい。この講義を受講することが望ましい者は、将来、不動産・金融関係の会社に就職を希望する者、起業して自営業を目指す者、そして司法書士試験を受験したいと考えている者である。そこを留意して受講していただきたい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

法務省 民事局第四課編『商業登記法入門』（きんざい）3,619円
遠藤浩・青山正明編『別冊法学セミナー 基本法コンメンタール [第四版補訂版] 不動産登記法』（日本評論社）3,500円（初学者は『基本法コンメンタール』を直ちに購入しなくても良い。）
『六法全書』は、毎回持参すること。

参 考 書 等

法務省 民事局編『不動産登記実務 [五訂版]』（法曹会）4,000円（初学者は購入しなくても良い。）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	しお 塩 入 み ほ も	法B3・4選	4

講義のねらい

日本の統治機構は、政治と行政の連携の上に成り立っているもので、とくに行政の組織構造、中央行政と地方行政の関係などは、政治を学ぶ上では欠かせない知識でしょう。それを法的側面から考察していくのが、行政組織法や地方自治法の学問です。当講義では、この行政組織法及び地方自治法をはじめとした、行政法の各分野ごとの構造及び理論を学んでいきます。とりわけ、抜本的行政改革により、本年一月から行政組織の新体制が発足されました。また、地方分権化も進められています。そこで、特に行政組織法及び地方自治法に関しては、従来の行政組織の改編、新制度（独立行政法人など）、地方分権といった、まさに現下の問題を中心として講義を行ないます。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては、国家行政組織法、地方自治法、公務員法、公物法、警察法の各分野を順に講義していきます。これらは、特に公務員試験の出題範囲を意識したものです。

履修上の留意点

原則的には、行政法総論を前年度において履修し、行政法の基礎知識を既に習得していること、或いは本年度総論を同時に履修することが望まれます。但し、各論を学ぶ上で最低限必要とされる総論事項（行政法の基本原則など）については、最初の講義において、復習程度の簡単な一般的説明を行なうので、努力次第では総論の知識がなくとも習得可能です。

成績評価の方法

試験は学年末試験のみ。成績評価は、試験結果と平常点（不定期の確認する出欠）の総合判断によって行ないます。

教 科 書

特定の教科書は使用しません。但し、オリジナルノートを作れるように毎回丁寧に板書します。

参 考 書 等

最初の講義の際に紹介します。

そ の 他

授業は通常の講義形式で行ないます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
税 法	岸 田 貞 夫 <small>ましだ お</small>	法B3・4選 12以降入学生/法A3・4選	4

講義のねらい

税法の体系を法的な見地から検討し、所得税法等の規定の解釈を中心として、税法の意義、役割、問題点等を研究する。

講義の内容・
授業スケジュール

税法の意義、機能、体系、租税法律関係の特色、租税の確定手続き、所得税法における納税義務者、課税所得の意義、所得の種類、収入及び必要経費の範囲等について、順次講義する。

履修上の留意点

予習の上、問題意識をもって授業に参加されたい。

成績評価の方法

前期及び後期の試験の結果により評価する。

教科書

岸田貞夫著『税法としての所得課税』（税務経理協会）2,900円

参考書等

金子宏著『租税法』（弘文堂）

その他

授業は講義方式で行う。なお、レジュメを配付する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地方自治法	富 井 幸 雄 <small>とみ い ゆき お</small>	法B3・4選 12以降入学生/法A3・4選	4

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをきみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎週レジュメを配布し、それに添って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教科書

南博方他『行政法(3)（第3版）』（有斐閣双書）1,800円

参考書等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』（学陽書房）、『地方自治判例百選（第2版）』（別冊ジュリスト）。なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』（良書普及会）は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』（岩波書店）、同他『概説日本の地方自治』（東京大学出版会）は必読。

その他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法（『地方自治小六法』（学陽書房）があるがポケット六法でよい。）は必携。その都度チェックすること。平成12年度には地方自治法の大幅な改正があるので、必ず平成12年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両方分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 紛 争 解 決 法	おう し あん 王 志 安	法 B 3・4 選	4

講義のねらい

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界及び適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能及び事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決及び世界貿易機構（WTO）の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査及び調停といった制度の展開及び適用、国連における紛争処理の制度的展開及び現状、そして WTO の紛争処理制度の発展、手続き及び制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判及び国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立及びその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。聴講ノートをしっかり取り取ってもらいたい。

成績評価の方法

年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストと出席状況も成績を評価する際に考慮される。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版）1997年 2,700円

参 考 書 等

市販されている国際条約集及び国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

そ の 他

授業は主として講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることもある。板書のかわりに、powerpoint を利用した講義を行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
担 保 物 権 法	つる い しゅん きち 鶴 井 俊 吉	法B3・4選	4

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等が対象となる。担保物権制度は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法領域で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、著しく変動している。

講義の内容・授業スケジュール

私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定する。このように小は個人の資金調達のため、あるいは大は、企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権法のもつ経済的意義は極めて重要である。

しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較的なじめない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。

そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

学期の初めには、担保物権法の主要な部分についての概略の説明を予定している。それによって担保制度の全体像がおおよそ把握できるであろう。それゆえ、最初から講義に出席しないと理解できなく、なかなか興味が持てなくなるので、毎時限の出席と予習を強く希望する

成績評価の方法

出席と試験の結果によって判定する。

教科書

遠藤・川井他編『民法(3) 担保物権』（有斐閣双書）を予定している。

参考書等

講義の最初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
相続法	たけなかちか香 竹中智香	法B3・4選	4

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も重視する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続(第4増補版)』(有斐閣双書) 1,600円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選(第5版)』(有斐閣) 2,200円
六法

科目名	担当者名	配当学科	単位
商法総則・商行為法	せきぐちまさお夫 関口雅夫	法B3・4選	4

講義のねらい

専門科目としての商法学は、商法全体についての概念的な知識、商法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、商法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする学問である。この講義は、商法学の内、商法総論、商法総則および商行為法を中心に行う。

講義の内容・授業スケジュール

商法総論においては、商法の意義、商法の特徴、商法の体系、商法の適用の四つのテーマを論考する。次に、商法総則においては、営業の主体、営業行為、営業の人的組織、営業の物的組織、営業の譲渡、商業登記の六つのテーマを論ずる。そして商行為法においては、商行為の概念、商行為法の総則、商事売買、交互計算、匿名組合、仲立営業、運送取扱営業、運送営業、寄託の十の主要な問題を考察する。一年間で25回の講義を予定する。

履修上の留意点

ここに選ばれた20のテーマは、商法の特定分野に関するものではあるけれども、これから商法を体系的に学んで行こうとする諸君にとって、欠かすことの出来ないと思われる問題を取りあつかっている。もっとも、この講義は、全ての学生のニーズを満すものではない。この講義が特に必要であると考えられる学生は、将来自営業を志したいと考えている学生、会社員になりたいと考えている学生、および司法試験を受験したいと考えている学生である。この意味で、学生諸君は、自分で自分の将来計画を明確にし、受講すべきか否かを決定することが肝要である。

成績評価の方法

平常点と期末試験を重視する。

教科書

関口雅夫編著『現代商法I(総則・商行為)』(八千代出版) 2,800円を使用する。六法全書は、毎回持参すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
保険・海商法	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	法B3・4選	4

講義のねらい

私たちの生活は、いろいろな危険に満ちている。私たちは、それにあまり気が付かず生活していたりするが、時には、不幸な事故に巻き込まれたり、あるいは逆に事故を引き起こしたりもする。こうした不幸への危険性は、この社会に生き、活動しているすべての人々（すなわち法主体、当然、会社も人である）に程度の差こそあれ、無縁ではない。危険が現実のものとなったとき、そこに通常、損害が発生する。この損害は、どのように処理すれば良いのだろうか。事故を引き起こした者がいるのであれば、この者が損害を負担すべきである。しかし、この者に資力がなかったならば、被害者の受けた損害は回復されずに酷いことになる。さらに、加害者も存在していないような場合には、どうすれば良いのだろうか。こうしたことへの不安は、人が生き活動して行く上での不安であり、今に始まったことではない。人類は、古くから、このための種々の方策を考えてきたが、複雑・高度化した現代社会は、かつてないほどの、不安と危険のジャングルとなっているのである。保険は、そのための方策の中で、最も高度に洗練された仕組みである。私の講義では保険という仕組みが法的にどのように制度化されているかを見る。

ところで、保険は、他面において賭博に似ている（どちらも偶然の出来事により、多額の金銭を取得できるではないか）。そして、海の危険に満ち満ちた海上企業活動は、かつては、冒険企業の典型であった。保険が考案され発展したのは、中世地中海世界が育んだ海上企業活動においてであったということは、保険と海商との賭博的な共通の色彩の賜といえるのかもしれない（やがて保険制度は、海から陸にも上がり、今日見られるような隆盛を迎える）。当時の海上企業は、現在の海上企業とはかなり異なっていたし（法的制度としての株式会社に先駆していたのであるが、株式会社の登場は後年のことである）、その企業活動も海賊が立派な企業活動として認知されていたことから明らかなように、現在と大部隔っている面があった。しかし、近代的国家が形成される前から活発に行なわれていたイタリアの海港都市等に端を発する海事慣習は、その後一定の地域的広がりを得ながら、ヨーロッパのその他の港にもそれぞれの海事慣習の形成を促がし、それらがようやく確立する国家の法典に、取捨選択されつつ、結実し、その過程において、民商事法の源流の一つを形成したのである。

さて、そこで海商法である。海商法は、船舶を手段とする海上企業活動に関する法である。当然のことながら、船舶の活動する舞台ともいべき海は、世界へとつながっている。経済活動が、狭い一国の地域的空間にのみ終止するのであれば格別、現在のように、世界的規模での市場が形成され、経済活動も世界的拡がりを持つにいたると、原料やその加工品である商品の流通は、血管を流れる血液のように確保されなければならない。船舶による海上運送は、いわば、血液の中の血晶板のようなもの――または、血液そのものである。船舶を利用して遂行される海上運送は、その国々の経済体制を支えるものであり、世界経済に重要な貢献を果すものである。私の講義では、この海上企業活動を、商法の視点から捉え、そこに働く基本的な法原則を見ることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、保険法を中心にする。①保険制度と保険法、②保険契約の当事者・関係者、③保険契約の成立と終了、④保険契約の内容と効果、⑤損害保険契約の意義・内容、⑥損害保険に特有の効果、⑦保険担保、⑧火災保険と地震保険、⑨責任保険と自動車保険、を中心項目とする。

後期は、海商法を取り上げる。①海商法の意義と発展、②海上企業の物的組織、③海上企業の主体、④海上企業の責任と制限、⑤海上物品運送契約の意義と種類、⑥海上物品運送契約の履行（海上物品運送人の義務と権利）、⑦海上物品運送人の責任、⑧船荷証券の意義および種類、⑨船荷証券の効力、⑩海上売買、を中心とする。

保険法および海商法も1項目につき1時間ないし2時間を予定する。

履修上の留意点

講義には六法を持参して下さい。

成績評価の方法

出席は、毎時限、取ります。これは期末試験での成績評価の際に考慮します。

教科書

山野嘉郎・山田泰彦編著『現代保険・海商法30講』（中央経済社）3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単位
民事訴訟法	間 渕 清 史	法B3・4選	4

講義のねらい

この講義では、民法など民事実体法についての一応の学習を終えた人を対象として、民事訴訟手続の概説を行います。ここに民事訴訟手続とは、私人間の権利義務ないし法律関係の存否を巡って生じた紛争の解決を目指し、そのための基準を提示する手続のことをいいます。「民訴」転じて「眠素」ないし「眠訴」とならないように、基本的な概念及び手続の仕組みについて、できるだけ具体的且つ平易に解説したいと考えています。時間的余裕があれば、和解、調停及び仲裁などの訴訟以外の民事紛争解決手続についてもある程度詳しく講ずる予定です。受講者に民事訴訟手続の全体像を何となくわかったという気分になってもらうのがこの講義の目標です。

講義の内容・授業スケジュール

①民事紛争の解決制度、②民事訴訟制度の現代的課題、③訴え、④裁判所、⑤当事者、⑥第三者による訴訟追行、⑦本案と訴訟要件、⑧当事者と裁判所の役割、⑨口頭弁論の諸原則、⑩口頭弁論の準備、⑪証明と証拠、⑫証明責任、⑬当事者の行為による訴訟の終了、⑭終局判決とその効力、⑮複数請求、⑯共同訴訟、⑰訴訟参加、⑱当事者の変動、⑲上訴・再審、⑳簡略な手続

履修上の留意点

予習復習をするのが最も望ましいことであるのは言うまでもありませんが、予習又は復習のいづれかだけでもすることをお奨めします。

成績評価の方法

主として学年末試験の結果に依拠して行います。問題作成にあたっては、講義に積極的に参加した人が有利になるよう配慮したいと考えています。

教科書

上原敏夫・池田辰夫・山本和彦 著『民事訴訟法（第2版補訂）』（有斐閣Sシリーズ）2000年

科目名	担当者名	配当学科	単位
民事執行・保全法	梅 善 夫	法B3・4選 12以降入学生/法A3・4選	4

講義のねらい

社会において重要な役割を果たしている民事執行法と民事保全法について講義します。民事執行法は、権利の事実上の実現手続きです。民事保全法は、将来の権利実現を保全する手続きです。民事執行法、民事保全法の解釈と両法律の基本原則、重要判例についての理解を目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、以下のような順序と内容で行います。なお、より詳しい年間の予定表は第1回目の講義のときに配布します。

- ① 私法上の権利の実現方法
- ② 強制執行法の改正と民事執行法の成立
- ③ 仮差押え・仮処分法の改正と民事保全法の成立
- ④ 民事保全法
- ⑤ 民事執行法総則
- ⑥ 強制執行法総論
- ⑦ 強制執行法各論
- ⑧ 担保権の実行としての競売

履修上の留意点

民事訴訟法を履修しているか、併行して履修する人の履修を希望しています。

成績評価の方法

成績の評価は、学年末の筆記試験のみによって評価します。

教科書

内田武吉編著『民事執行・保全法要説（第2版）』（成文堂）1999年

参考書等

竹下守夫・伊藤眞編『民事執行法判例百選』（有斐閣）1994年
中野貞一郎『民事執行法（新訂四版）』（青林書院）2000年
なお、参考書については、授業の際に必要なに応じてその都度紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
倒 産 処 理 法	おくの野よしひこ彦	法B3・4選 12以降入学生/法A3・4選	4

講義のねらい

私が管財人として任務を遂行した更正会社日本リースの事件処理などを通じ、可能な限り実践的な視点から倒産処理法を学ぶこととする。

倒産処理手続は、通常、任意整理と法的整理に区分され、さらにその目的に従い、再建型と清算型に分けられる。

任意整理は、裁判所外で債務者と債権者間で私的に進められる整理手続で、再建型にも清算型にも利用され、法的整理手続の原型となっている。これに対し、法的整理手続は、再建型の類型に入るものとしては、会社更正、会社整理、並びに民事再生手続があり、清算型の類型に入るものとしては特別清算と破産がある。

この講義では、「倒産」に直面している人又は企業に対し、如何なる手続を選択することが債権者及び債務者にとって最も好ましいか、というようなことから始め、最高学府で倒産処理法を学んだ者として、当然身につけなければならない法的知識並びに法的技法を習得することにした。

履修上の留意点

真面目で誠実で、且つガッツのある学生に履修してもらいたい。

成績評価の方法

履修態度、レポート並びに試験（論文式）

教科書

追って指定

参考書等

奥野善彦著『会社再建』（小学館）定価1,600円

その他

前期－講義 後期－ゼミ

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
刑 事 訴 訟 法	前期：橋 本 裕 蔵 後期：小 木 曾 綾	法B 3・4 選	4

講義のねらい

刑事手続の基本について理解することが目的である。
 犯罪の予防、摘発と、国家機関の権限の適正な行使によって個人の自由や市民社会の安全は維持されている。外国法にも目を向けながら、前期は捜査について、個人の自由を保障しつつかに効果的な法執行を実現するかを考え、後期は公判の諸原則を学びながら、最も厳しい制裁である刑罰を科すための手続的な公正さ・手続的正義について考える。

講義の内容・授業スケジュール

1. 任意捜査と強制捜査
2. 逮捕
3. 捜索・押収
4. 検証・鑑定
5. 明文の定めのない捜査方法とその規律
6. 身柄拘束下の取調べ
7. 被疑者の弁護権
8. 職務質問、所持品検査
9. 訴追裁量
10. 公判構造
11. 起訴の方式と訴因
12. 証拠開示
13. 排除法則
14. 自白の証拠能力
15. 伝聞法則
16. 無罪推定
17. 裁判とその効果
18. 上訴

履修上の留意点

社会に生起する事件や法律問題に常に関心をもってほしい。六法は必携である。(但し、判例付きのものは不可。)

成績評価の方法

出席率（毎時限出席確認をする）、及び授業報告レポート（ノートの要約）の提出率並びに年度末の筆記試験の結果を総合評価する。

教 科 書

渥美東洋著『刑事訴訟法』（新版）（有斐閣）

参 考 書 等

- 渥美東洋著『刑事訴訟法基本判例解説』第3版（三嶺書房）
 渥美東洋著『レッスン刑事訴訟法』上・中・下（中央大学出版部）
 渥美東洋著『複雑社会で法をどう活かすか』（立花書房）
 渥美東洋著『罪と罰を考える』（有斐閣）
 渥美東洋著『刑事訴訟法における自由と正義』（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 働 法	ふじもと しげる 藤 本 茂	法 B 3・4 選	4

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではありません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正（裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大）、解雇制限などの分野がありました。男女雇用機会均等法、労働者派遣法、職業安定法などの改正もなされました。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に果たす組合の役割について、法的にどう位置づけられているかを概観します。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中であっても変わらざるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。
- (2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。
 - ① 労働法の基礎的考え方
 - ② 労働関係の主人公——労働者、使用者、労働組合
 - ③ 労働条件の最低基準の法定——労働基準法の特徴
 - ④ 雇用における平等——同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
 - ⑤ 労働条件の決定——労働契約、就業規則、労働協約
 - ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備——不当労働行為
 - ⑦ 雇用の入り口——採用、採用内定、試用期間
 - ⑧ 人事異動——配転、出向、転籍
 - ⑨ 雇用の出口——解雇、定年、退職
 - ⑩ 賃金、諸手当、退職金
 - ⑪ 労働時間、時間外労働
 - ⑫ 休憩、休日、休暇
 - ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、平常点を加味することはありませんが、学年末試験がメインです。追・再試験は実施します。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
金 融 法	かわ た えつ お 川 田 悦 男	法 B 3・4 選	4
		12以降入学生/法 A3・4選	

講義のねらい

わが国の金融界は、金融のグローバル化、自由化という大きな流れのなかで、不良債権問題などバブル後遺症からの早期脱却と、金融ビッグバンのもと21世紀への生き残りをかけた業務戦略の再構築を図るといふ、相反する重要な経営課題に直面している。

これを利用者の側からみると、現代社会は企業も個人も金融機関と極めて密接な関わりあいをもっており、経済社会はもちろん個人の生活に至るまで銀行取引なしには成り立たないといっても過言ではない。

本講義は、このような認識のもとで、われわれ一般市民として、また将来の企業人・金融人として必要な銀行取引に関する法律知識と諸問題について、できるだけ実社会の生きものとして学ぶことを狙いとしており、実学の楽しさも学びとっていただきたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

金融法はまだ新しい科目分野であるが、その対象領域はかなり広く関係する法律も多い。本講義では、これらを主に具体的な取引法の観点から学ぶこととし、制定法の規定が現実にはどのように修正されて実際取引に適用されているのか、また、金融環境の変化がどのような新しい法律問題を生じさせているのかなど生きた学問として学習する。

講義内容は次を予定している。詳しくは初回講義の際に資料配布する。

- I 金融法の特質、わが国の金融制度、金融機関の業務内容
- II 預金取引、為替取引、電子マネー・e取引
- III 手形取引、手形交換と取引停止処分制度
- IV 貸出取引、消費者取引、担保、倒産、相続、差押

成績評価の方法

学年末試験を基本に評価する。

教 科 書

最初の講義のときに話します。

そ の 他

講義形式による。毎回のプリントとサブテキスト配布、一部ビデオ利用。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	法 B 3・4 選	4
		12以降入学生/法 A3・4選	

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 私 法	かき ばら とし ひろ 笠 原 俊 宏	法B3・4選	4

講義のねらい

渉外的要素を有する私法問題の解決を目的とするのが国際私法である。それは、狭義において、準拠法の選定を主たる役割とする。その意味において、国際私法は、民法や商法のように私法問題の判断基準となる法律とは、規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範などと呼ばれることがある。講義においては、国際私法のこのような特質を明らかにしつつ、実質法における理念の変化が国際私法にとっても無縁でないことを実証的に論じたいと考えている。時として難解な科目であるといわれることがあるが、最近の身近な問題を具体例として取り上げるなどして、できる限りわかりやすいものとなるよう工夫したい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の内容およびスケジュールについては、ほぼ次のように予定している。

1. 国際私法総論（4月、5月）
2. 国際家族法（6月、7月、9月、10月）
3. 国際財産法（11月、12月）
4. 国際民事訴訟法（1月）

履修上の留意点

基礎となる他の科目、就中、家族法について、基礎知識を有することが好ましく、民法についても併せて学修することを期待する。

成績評価の方法

学年末の筆記試験によって行なう予定である。

教 科 書

笠原俊宏著『国際家族法（補訂版）』（高文堂出版社）を使用する。

参 考 書 等

いずれかの六法を常に携帯することを望む。

そ の 他

授業は普段講義によって進行するが、時折、事例を設定して、皆で一緒に考えることも予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
環 境 法	まつ 村 弓 彦 まつ むら ゆみ ひこ	法B3・4選	4
		12以降入学生/法A3・4選	

講義のねらい

環境問題を事実と法律論の両面から理解する。私法からのアプローチを中心とするが、現在我が国が当面している環境法上の重要課題については、公法・国際法の分野の問題を含めて勉強する。

講義の内容・授業スケジュール

教科書と判例（必要に応じて配布する）を中心とし、概ね以下の項目にわたる。

- (1) 環境法の背景・歴史・理念等
- (2) 環境保全法制
- (3) 環境責任
- (4) 費用負担
- (5) 特殊問題——我が国が当面する諸問題

履修上の留意点

事実を踏まえた法理論の理解を深めること。

成績評価の方法

論文式試験（年1回）および授業中の報告の評価による。

教科書

拙著『環境法』（成文堂）

参考書等

森島昭夫ほか編『公害・環境判例百選（別冊ジュリスト126号）』（有斐閣）2,300円

その他

授業の方法：テーマに応じて講義形式とゼミ形式を併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
知 的 財 産 権 法	もり おか がず お 盛 岡 一 夫	法B3・4選	4
		12以降入学生/法A3・4選	

講義のねらい

知的財産権法には、狭義の工業所有権法（特許法・実用新案法・意匠法・商標法）および著作権法等が含まれる。知的財産権法は、知的所有権法または無体財産権法といわれることもある。知的財産権法全般についての基礎理論を理解できるように、わかりやすく講義したいと考えている。学説・判例の対立している点については、これに関する学説・判例を紹介し、問題点の所在をあきらかにしたい。

特許法においては、発明の定義、特許を受けるための要件、従業者が発明をした場合の法律関係、特許権の侵害に対する救済方法、実施契約等について、実用新案法においては、特許法との相違について、商標法については、商標登録要件および類似商標について詳しく解説する。著作権法および不正競争防止法についても講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前期：特許法・実用新案法
後期：意匠法・商標法・著作権法・不正競争防止法

成績評価の方法

前期・後期に行なう平常試験および学年末試験によって評価する。

教科書

盛岡一夫『工業所有権法概説—知的財産権法の基礎知識— [第3版]』（法学書院）

参考書等

特許庁編『工業所有権法逐条解説』（発明協会）、中山信弘『工業所有権法上』（弘文堂）
鴻・紋谷・中山編『特許判例百選』（有斐閣）、斉藤・半田『著作権判例百選』（有斐閣）

科目名	担当者名	配当学科	単位
財政学	速水昇	法B3・4選	4
		12以降入学生/法A3・4選	

講義のねらい

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。たとえば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。さらに金融不安、国債の累積残高、高齢化・少子化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多くある。

その反面、わが国の財政は、平成12年度末で国債の発行残高が約364兆円、地方公共団体の赤字が約187兆円、これに約28兆円の旧国鉄の債務や「隠れ借金」といわれる林野事業等の特別会計の借金などを加えると、財政赤字は実に約647兆円になる。この数字は12年度わが国のGDP見込みの129.6%に相当する。EU（ヨーロッパ連合）の基準だと健全な国家の財政赤字はGDPの60%とされているから、わが国の財政はいかに不健全な状態であるかが理解できる。最近の景気低迷、これから高齢化・少子化社会に向けて、納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から財政の問題を考えていくことが大切であるという認識に立って授業を行う。

成績評価の方法

試験 授業中の小テスト

教科書

速水 昇著 要説『財政学』（学文社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際関係論	首藤素子	法B3・4選	4
		12以降入学生/法A3・4選	

講義のねらい

現代の国際関係の理論と現状の課題について、知識と理解を深めることを目的とする。とくにアジア太平洋地域の開発と民主化、安全保障の問題について具体的な知識を深めつつ、国際関係研究の理論について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

次の各項目をほぼ2週の割合で進める予定。

1. 国際政治理論の展開（現実主義）
2. 国際政治理論の展開（現実主義批判の多様なアプローチ）
3. 冷戦後の国際政治理論
4. 冷戦後の安全保障研究
5. 冷戦後の紛争と国際システム
6. 経済のグローバル化と国際機関の機能
7. 開発理論の変遷
8. 開発金融の国際化、民営化と開発体制の形成
9. 人権保障の国際的制度化と人権 NGO の役割
10. 地球環境問題と環境外交の進展
11. グローバル化、国家、市民社会の関係と課題

成績評価の方法

出席と定期試験により評価する。

教科書

毎週使用するという意味の教科書は指定しない。授業ではテーマ毎に資料を配付し、参考文献を紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 政 策	にし やま つかさ 西 山 司	法 B 3・4 選	4
		12以降入学生/法 A3・4選	

講義のねらい

従来、経済学の学問体系は、理論、政策、歴史、財政・金融、経営・会計の諸分野から構成されており、特に第二次世界大戦後の現代資本主義経済においては、経済政策を応用経済学の一環として重視する傾向が深まってきているといわれています。

このような動向に対応して、本年度の経済政策の講義は、経済政策の方法論や政策理論の究明および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定です。

特に経済政策の実践性と関連した「価値判断」論争をめぐる諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果たすべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努めます。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールとしては、大きく前期と後期とに大別して、前期には主として、経済政策の方法論や政策理論について論究し、後期には、資本主義発展と関連した経済政策の史的展開過程と、その特質について論述する予定です。

履修上の留意点

講義の重要箇所や問題点など主要な内容については、出来るかぎり板書して詳説する予定です。受講される諸君は出席してノートされるように希望します。

成績評価の方法

学年末試験が中心になるのは当然ですが、出席も重視します。

教科書

開講時に指示します。

参考書等

清水・松原編『経済政策論を学ぶ』[新版] (有斐閣)
なお講義に関連する文献は、その都度紹介するようにします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 習 I	あお の ひろ ゆき 青 野 博 之	法 B 3 選	4
演 習 II		法 B 4 選	

講義のねらい

民法上の問題を自分で見つけ出し、相手も納得できるような解決を考える。

講義の内容・授業スケジュール

民法上のさまざまな問題の中から、ゼミ生が報告したいテーマを自分で探し出してくる。このテーマがゼミの内容になる。たとえば、授業を聞いていたときに疑問に思ったこと、新聞を読んで他の人がどのように思うか聞いてみたくなったことなどであるが、民法上の問題であれば、なんでもよい。

履修上の留意点

ゼミ生が報告したいテーマを自分で探し出し、報告し、全員で質疑応答してほしい。ゼミ生が主役である。主役たちの活発な討論を期待する。ゼミ生の意欲と関心でゼミが進んでいく。そんなゼミになることを希望する。出席して、しっかり発言する、これが大切である。

毎回、担当者が作成し、少なくとも1週間前に配布されたレジュメ(要旨)にそって討論する。1回でテーマが終わってもよいし、2回以上続いてもよい。

成績評価の方法

出席して、しっかり発言をしたか、担当者として十分な準備をしたかなど総合して判断する。ゼミは、発言することがポイントである。そのことを基準として、成績を評価する。

その他

発言しているうちに、聞く方も発言したくなるような、そんな発言をする学生に参加してほしい。そうすると、ゼミ生全員の民法理解も進むであろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 習 I	おお <small>お</small> みや <small>み</small> たかし <small>た</small> 大 宮 隆	法 B 3 選	4
演 習 II		法 B 4 選	

講義のねらい

〔家族法演習〕

家族法の分野から各人が関心のあるテーマを選択し、順次研究成果を報告してもらい、それを基にして、質問と討論をおこなうものである。学問研究の水準を高めるとともに、親密な人間的交流が生まれることを希望します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 習 I	かね <small>か</small> こ <small>こ</small> しょう <small>し</small> へい <small>へ</small> 金 子 昇 平	法 B 3 選	4
演 習 II		法 B 4 選	

講義のねらい

本演習においては、行政法上の諸制度、行政法規の仕組及び複雑多様な法現象を広範囲にとりあげ、現代の行政法理論について理解を深めていきたい。

とりあえず、諸君の関心のあるテーマについての判例研究および学術論文の書評を行い、参加者全員とともに議論をつくしたいと思っている。例えば、環境の問題、教育の問題、公務員の問題、地方自治の問題、租税の問題、医療の問題などを挙げておく。

科目名			担当者名	配当学科	単 位
演 習	I		さとう たみお 佐藤 多美夫	法 B 3 選	4
演 習	II			法 B 4 選	

講義のねらい

〔刑法演習〕

- *このゼミでは、刑法上の重要問題を検討し、刑法理論を各自が体系的に理解し、法的な思考を身につけることをねらいとする。具体的には、刑法総論・各論における基本的かつ重要なテーマにつき、判例を素材とした事例研究を通して、それぞれの意義と問題点を学説上の争点を交えつつ考察していく。
- *授業は、個別での、受講者による研究発表をもとに、ゼミ員の自由な質疑・討論を行う形で展開する。具体的には、報告者は報告の一週間前までに、あらかじめ用意された事例に対してレポートを作成し、他のゼミ員はこれを批判的に検討する。
- *受講生は周到な準備が要求されるので、主体的・意欲的な受講者の参加を望みたい。

科目名			担当者名	配当学科	単 位
演 習	I		にし おさむ 西 修	法 B 3 選	4
演 習	II			法 B 4 選	

講義のねらい

私は、演習をつぎのように位置づけたいと考えます。すなわち、マスプロ教育に陥りがちな一方通行を補うべく、双方向性を大切にし、履修生と教師、履修生同士のディスカッションを多用して、みずからを磨きあげる場であると。そしてそれは、たんに勉強ばかりでなく、合宿などを通じて、心のふれあいのなかから、あらたな自分を見つけだす場でもあると。こんな場にするために、私はつぎのような方針でのぞみたいと思っています。

- (1) ゼミのモットーは「出会い、学び合い、そして人間愛」です。
- (2) とくに小人数の場合、日々のふれあいが大切なので、毎回、出席すること。
- (3) ディスカッションには、積極的に参加し、かならず発言すること。

講義の内容・授業スケジュール

前期と後期に分け、前期は1、2冊の本を精読し、それについてディスカッションをします。共通に読む本として、拙著『日本国憲法を考える』（文春新書）1999年、『日本国憲法はこうして作られた』（中公文庫）2000年などを予定しています。またディスカッションの内容としては、①日本国憲法の成立過程とその法的問題点、②憲法第9条をめぐる諸問題、③世界の憲法トレンド、④人権の現代的意味などを考えています。その他、年2回の合宿を行ないますが、従来の例では、レジャーとしてテニス、スキーをとりいれています。本演習のキャッチ・フレーズは「出会い、学び合い、そして人間愛」。明るく、アット・ホームな感じが特色のゼミであるといわれています。

科目名	担当者名	配当学科	単位
演習Ⅰ	はやし 林 こう 幸 じ 司	法 B 3 選	4
演習Ⅱ		法 B 4 選	

講義のねらい

- 1：民法の中でも、特にゼミ生が興味をもてるテーマを選択し、じっくり時間をかけて理解を深めてもらうこと
- 2：「具体的な事例問題や判例を素材に『討論』すること」の重要性を修得してもらうこと
- 3：討論において、ゼミ生自身納得のいく結論（見解）が出せるよう努力してもらうとともに、それを根拠づける「法的理論構成」の重要性を理解してもらうこと

講義の内容・授業スケジュール

民法全領域（家族法も含む）の中から、ゼミ生の希望により、いわゆる「争点」となっているテーマを選択するが、できるだけ体系的な視点から「つながり」のあるテーマ設定を行っていきたいと考えている。

〈方法〉

- 1：具体的な「事例問題」及び「判例」を素材とすること
私が個人的に作成した事例問題、及び適当と思われる具体的な判決例を提示し、それを素材として討論を行う。
- 2：様々な討論の方式を試みること
討論といっても、その方式・方法は様々である。①各分担につき報告者を決め、レジュメを作成してもらって、その進行の過程で討論を進めるという通常の方法もあれば、②模擬裁判の方式を取り、裁判官・原告・被告の立場に分かれて弁論をシミュレートしてもらい、その後、それぞれの立場を越えて討論を戦わせるという方法もある。本演習では、受講生諸君が興味を掻き立てられる討論の方式を試みて行きたいと考えている。
- 3：各テーマにつき全員が担当者となること
どのような討論方式を採ったとしても、あるテーマでは報告者だが、別のテーマでは「お客さん」という者が出てくると、どうしても「活気ある討論」の実現は難しくなる。全員が同じ資格で討論に参加できるようにするという意味で、各テーマでゼミ生全員が担当者となってもらおうよう配慮するつもりである。
- 4：常にゼミ生全員の発言が義務づけられること
当然のことであるが、毎回、ゼミ生全員からの発言が望まれる。「沈黙は『禁』」である。

履修上の留意点

思いつき討論できる人間関係をつくるということは、実は大変に難しいことである。ゼミ生の関係がギスギスしていて皆バラバラというのでは、討論はケンカの種になるか、又はそれを恐れるあまりに沈黙が永続する、ということになりかねない。それぞれ異なる意見・対立する見解かもしれないが、互いに協力して討論を成功させるという姿勢で臨んでほしいし、そのための親睦交流も配慮するつもりである。

成績評価の方法

①いつも積極的に討論に参加しているか、②自分自身の見解を提示できたか、③その際、法的な理論構成はなされているか、などが評価対象となる。結論や理論構成が私と違っているかどうかなどは全く問題とならない。評価の対象外である。自分自身で納得できる見解を発見してほしいし、それによって、自分に『自信』をもってもらいたいからである。

科目名			担当者名	配当学科	単 位
演 習	I	ま 間 が ち き よ し 史	法 B 3 選	4	
演 習	II				法 B 4 選

講義のねらい

この演習は、参加者が民事訴訟法の講義で習得した基礎的知識の幅を広げ且つその理解度をより一層深めることを目的とします。民事訴訟理論の緻密さとダイナミックさを体得してもらいたいと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

民事訴訟法の重要テーマの中から毎回1～2を選んで、報告者による報告と参加者全員での討論を行うことを予定しています。

履修上の留意点

演習参加者には、毎回予習のうえ出席すること、及び主体的に演習に参加し、且つ積極的に発言することを希望します。

成績評価の方法

演習参加度（出席態度、報告内容、発言の有無・内容等）に依拠して行います。

教科書

鈴木重勝・上田徹一郎／編『基本問題セミナー 民事訴訟法』（一粒社）1998年

参考書等

『民事訴訟法の争点』（有斐閣）1998年

科目名			担当者名	配当学科	単 位
演 習	I	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	法 B 3 選	4	
演 習	II				法 B 4 選

講義のねらい

株式会社法の基本的な内容理解を中心に、現代の経済社会において必要不可欠の組織となっている株式会社を法的側面から、研究する。前期に会社法総論を見て、株式会社の特徴を確実に理解した後、株式会社の運営をめぐる問題を検討する。後期は、これに、さらに株式をめぐる問題を加える。

講義の内容・授業スケジュール

ゼミであるから、上述の基本的な予定に沿って、小テーマを選び、これを各ゼミ生に順次レポーターになってもらい、その報告をたたき台として、全員で討論する。小テーマは、株式会社法の各種制度・原則から、これらに関連する判例研究を取りまぜつつ、私の方で予め提示し、ゼミ生に割り振ることにする。

成績評価の方法

成績評価は、レポーターとしてのレジュメ作成内容、報告内容、発言等を総合して行なう。出席は、必ずとる。理由のない欠席、遅刻に対しては、厳しく対応する。

教科書

教材として、『会社法判例百選（第6版）』（有斐閣）1,800円を指定する。この他、必ず、会社法についての概説書は購入しておくこと。

その他

ゼミは、ゼミ生自身が主体的に参加してつくり上げるものである。白から、積極的に発言する、明るい学生を希望する。

2. 他学部履修科目

2. 他学部履修科目

商学	総論	〈大吹勝男〉	399
社会思想	史	〈阿部弘〉	400
国際経済	論	〈徳永俊明〉	401
社会政策	策	〈休講〉	
価値理論	論	〈荒木勝啓〉	402
国民所得	論	〈吉野紀〉	403
銀行論	論	〈齊藤正〉	404
中小企業論	論	〈和田耕治〉	405
中国経済論	論	〈小杉修二〉	406
人口論	論	〈森岡仁〉	407
アメリカ経済論	論	〈休講〉	
ヨーロッパ経済論	論	〈休講〉	
貿易論	論	〈古沢紘造〉	408
会計監査論	論	〈休講〉	
管理会計論	論	〈休講〉	
法思想史	史	〈高橋洋城〉	409
倒産処理法	法	〈奥野善彦〉	410
アメリカ経営学	学	〈宮城徹〉	411
経営財務論	論	〈休講〉	
経営組織論	論	〈長瀬勝彦〉	412
経営技術論	論	〈休講〉	
公益企業論	論	〈園田哲男〉	413
管理会計論	論	〈猿山義広〉	414
会計監査論	論	〈休講〉	
日本経済論	論	〈羽鳥茂〉	415

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 学 総 論	おお ぶき かつ おお 大 吹 勝 男	法A・政治・法B	4

講義のねらい

近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります、そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もあります。また、大学は社会的要請に答えねばならないという主張のもとに、その実、社会ではなく、会社・企業のために大学が存在することを主張し、かつ君たちに会社人間になることを勧めるマスコミや評論家等がいます。そして一方で、学問に背をむけ、それらに迎合する大学人がいます。しかし、大学は入学した君たちのためにあり企業のためにあるものではありません。そして、大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いいかえれば、大学でしか学べないこと、物事の見方、考え方を学ぶことです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり。また入社してから容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に学問をしておくべきであったということです。諸君も、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に思考する能力を身につけて下さい。そして、社会に出て現実に困難な問題に出会った時に、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講義するものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいとおもいます。したがって、授業では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。そのためには一年間を通して授業に出席することが必要です。また本講義は、君たちが履修するであろうマーケティングや商業政策・流通政策のための基礎理論を提供するとおもいます。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は下記の項目の通りですが、本年度は、これらの項目について講義しながら、現代企業の経営戦略において重要性を増している物流問題を考えるうえで、その基礎となる理論について特に入力したいと思います。

- (1) 商品論（価値論）・電子マネー
- (2) 生産過程論（労働過程論）
- (3) 流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）
- (4) 資本の回転と流通資本
- (5) 商業資本の本質論
- (6) 商業資本の自立化論・電子商取引（eコマース）
- (7) 商業利潤論
- (8) 純粹流通費用論
- (9) 商業労働論
- (10) ホワイトカラー労働論（サラリーマン論）
- (11) 商業資本の回転と価格
- (12) 大規模商業資本論
- (13) 独占的商業資本論
- (14) 卸売排除論
- (15) 流通系列化論

成績評価の方法

評価は期末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともありうる。また各授業項目が終る毎に、小テストを実施し、君たちの理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とします。期末試験は論述形式でおこなう。再試験は実施する。

教科書

- | | |
|------------------------------|------------------|
| 1 大吹勝男著『新版流通費用とサービス理論』（梓出版社） | 5 『経済学論集』第22巻第4号 |
| 2 『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻第2号 | 6 『経済学論集』第26巻第1号 |
| 3 『経済学論集』第20巻第4号 | 7 『経済学論集』第27巻第1号 |
| 4 『経済学論集』第22巻第1号 | |

以上、2から7までの『経済学論集』には、大吹勝男の執筆する商業資本、商業利潤および商業労働に関する論文が掲載されていますから、図書館にてコピーして利用して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 思 想 史	あ べ ひろし 阿 部 弘	法 A・政治・法 B	4

講義のねらい

「経済学」という科学は、人間社会の歴史とともに歩んできた内容を持ちます。しかし、その学問としての成立過程は、19世紀に入って、ヨーロッパ社会で「近代市民社会」が成立してくる時期と軌道を一つにしています。

この講義では「経済学」の成立と「市民社会」との関係を明らかにすることを目標にしていますが、「経済学」の原型は、古代の社会で形成されてきた、「帝王学」的な政治・経済政策論に求められるから、最初にその実態を、東洋社会の「経世済民論」とインド・ヨーロッパの農業政策術や重商主義的な政策論の展開に観ていくことにします。第2部として近代ヨーロッパ社会での、フランス革命に象徴される「ブルジョアジー」、およびその後登場してくる「プロレタリアート」が「経済学」の成立過程にどのような影響を及ぼしたのかを考察します。そのうえで、現代社会にあって、「経済学」は何を問題提起しているのかを受講生諸君と共に考えていきたいと考えています。

講義の内容・ 授業スケジュール

年間の講義は次の構成となります。

第1部：「経世済民」という考え方

第1章：古代中国での「経世済民」思想

第2章：インド・ヨーロッパの帝王学

第3章：日本における輸入学問としての「経世済民論」

第2部：ヨーロッパ社会での「経済学」の形成過程

第1章：「個人主義」思想の形成と「道徳哲学」の新たな展開－マンデヴィル思想から「道徳感情論」へ

第2章：フランス革命と「経済学」の形成過程

第3章：マルクスの経済学体系

成績評価の方法

1 「成績評価」は年間4回のレポートの作成で行います。

レポートは7月・10月・12月・1月におこないます。したがって「定期テスト」は行いません。

年4回のレポートを行うのは、講義形成のばあいには評価を年1回のテストで行いますと、とかく受験生の皆さんと講師との交通がみられなくなるからです。

レポートの形式は、7月の第1回目は講師が受講生全体に共通なテーマを設定し、第2回以後は作成されたそれぞれのレポートからテーマを設定します。

2 上記のように年間4回のレポートを皆さんとともに実施していくのですから、回数が少なくてもよいとか、1回だけレポートを密かに作成して「送りつけ」てきたり、私のポストに投げ入れたりしても、評価が悪くなるだけですから注意してください。

3 「評価」はレポートで行いますので、「定期試験」を実施しない関係で、それに付随した、「追試験」とか「再試験」は行いません。

そ の 他

受講生と講師が「レポート」外で連絡し得るようにするために、講師の住所を下に記しておきます。

阿部弘：☎179-0072 練馬区光が丘6-1-4-204/☎03-3976-7984

研究室：第2研究棟5F No.2538/TEL03-3418-9360

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際経済論	徳永俊明	法 A ・ 法 B	4

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾン
の密林で生活しているわけではありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。
では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えにはなりません。
どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問
いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければ
なりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経
済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギ
は世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本
構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして“社会主義”経済に十分言及することは
できません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈国民的支配関係〉です。世界経済は、資本主
義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉と
して推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としてい
ますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう一本の命綱としていることが重
要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。
そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、
この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、
現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・ 授業スケジュール

〈講義のテーマ (予定)〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日 = 第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形
づくっている主な柱を一つずつ検討します。

前期 — 世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期 — 今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
貿易・国際通貨制度・資本輸出——(「援助」と多国籍企業)・〈南北問題〉と新国際経
済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート
(3回予定) および学年末レポートで評価します。(追・再試験は行いません。)

参考書等

講義の中で適宜紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
価 格 理 論	あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓	法A・政治・法B	4

講義のねらい

価格理論の目的は、経済の中でマイクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することである。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノー・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のありようによっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやマイクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導出される as if パフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところに経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。「村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる経済現象は生じないであろう。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなったときから泉の水に経済現象が生じ始める。」

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといてもよい。従って講義のかなりの部分がそのための準備と練習に当てられると思っていただきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、変微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR 曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 費用曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノー・ナッシュ均衡
- (21) クールノー・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) ゼロサムゲームの解法

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可。再試験あり。

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミクス』（成蹊堂）

科目名	担当者名	配当学科	単位
国民所得論	吉野 ^{よしの} 紀 ^{おさむ}	法A・政治・法B	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとすれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」……………5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」……………4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」……………8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」……………4回
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内および国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」……………5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。再試験は原則として実施しない。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』第6版(多賀出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
銀 行 論	さいとう 藤 正 齋 藤 正	法A・政治・法B	4

講義のねらい

「フリー、フェア、グローバル」な金融市場の実現を掲げ、98年4月にスタートした「日本版金融ビッグバン」の展開のなかで日本の金融制度が大きく変わろうとしている。大手銀行の統合や合併、外資系金融機関の対日参入攻勢、異業種によるネットバンキングや決済専門銀行への参入、など、グローバル化とIT革命を背景とした激しい競争が「華々しく」繰り広げられている一方、バブル崩壊後の不況が長引き、不良債権処理が遅れるなかで、「銀行不倒神話」が崩壊し、金融システム不安が高まってきた。それは、特に地域金融機関において厳しく表れ、地域経済に深刻な影響を及ぼしている。

銀行を取り巻く状況はきわめて厳しいが、銀行は依然として「貨幣の供給および決済システム」を同時に担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の存在であることには変わりはない。それゆえ、いまこそ21世紀における「持続的成長」を保証する金融システム、銀行の健全なあり方が強く求められている。

本講義では、銀行の基礎理論に関連づけながら戦後の日本経済に果たしてきた銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき銀行の姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は戦後の日本経済に果たした銀行の役割を時期ごとに検証する。
 - ①まず、講義へのガイダンスとして、1990年代以降、銀行が直面して諸問題を概観し、新聞紙上等でよく見聞きする基本的用語と「銀行論」との関連づけを行なう。
 - ②「専門的金融機関制度」といわれる戦後日本の金融制度の特徴とそれぞれの専門機関（普通銀行、長期金融機関、中小企業専門金融機関、証券会社、保険会社など）の役割を理解する。
 - ③時期区分は、おおまかに高度成長期（1974年まで）、低成長・自由化期（1990年まで）、バブル崩壊以降（1990年代以降）とし、欧米の動向も参考にしながらそれぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されていたのかを紹介する。
- 2) 後期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ①銀行経営の不振とは対照的に消費者金融会社（貸金業）は史上最高の収益を達成している。銀行制度の成立以前からすでに存在していた「金貸し業者」や「高利貸し」と「銀行」の違いはどこにあるのかを考えながら、「銀行」の基本的機能および経済社会（メーカー、流通業、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - ②銀行が一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。しかし、銀行は受け入れた預金をそのまま貸し出すのではなく、「信用創造」という銀行のみに認められた方法で行い、その際「預金通貨」という「マネー」を供給する。このメカニズムを明らかにするとともに、インターネットバンキングや電子マネーなど、エレクトロニクス技術の発展にもとづいた「キャッシュレス社会」の意味について考える。
- 3) 現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが80年代後半以降の「バブル経済」と90年代以降の「バブル崩壊」、「グローバル化」である。戦後銀行制度の抜本的改革目指すビッグバンを様々な角度から検討しながら望ましい銀行システムのあり方を考える。

成績評価の方法

成績は、前期試験（またはレポート）と後期試験による評価を基本とするが、出席状況、授業態度における積極性も十分に加味するので、講義に対する質問、疑問を大いに歓迎する。再試験を実施する。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。授業はレジメに沿って進める。

参考書等

大橋・小西・齋藤・田村・平沢著『日本のビッグインダストリー 金融業』（大月書店）2001年
山田・野田編『現代日本の金融』（新日本出版社）1997年
日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こ う し 和 田 耕 治	法 A ・ 政 治 ・ 法 B	4

講義のねらい

平成8年度版「事業所統計」によると、わが国の第1次産業を除く約650万の事業所の内、中小企業所は98.9%を占めており、大企業所は0.7%に過ぎない。また、雇用者数についても、総雇用者、約5,435万人の内、中小企業所で雇用されているものは、80.4%、大企業所では19.6%となっている。このようにみえていくと、中小企業はわが国経済において、大きな位置にあるといえる。本講義は、わが国経済で大きな地位を占めている中小企業の実態を踏まえつつ、今日までの中小企業研究の蓄積に基づいて、理論的水準を落とすことなく進めることとする。

講義の内容・
授業スケジュール

中小企業に関する実態や問題を理論的、歴史的に把握した上で、中小企業を構造的視点により考察する。また、近年、中小企業研究は非常に多面的な展開を示している現状を鑑み、最新の研究動向について、触れることとする。さらに、必要に応じて、視聴覚教材を用いることにより、受講者の問題意識を鮮明化させる。

成績評価の方法

期末試験とレポートによる評価とする。片方だけの提出は合格点にはならない。

教 科 書

三井逸友編著『現代中小企業の創業と革新（仮題）』（同友館） 近刊

参 考 書 等

中小企業庁編『平成13年度版中小企業白書』（大蔵省印刷局）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 国 経 済 論	こ 小 杉 修 二 こ すぎ しゅう じ	法 B	4

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的解明をはかる。
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

これにつづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル(1949～57年)、(2)毛沢東モデル(1958～78年)、(3)鄧小平モデル(1978～)として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えられるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれまいであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中での、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。
(再試験あり)

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設——超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎) 4,000円

その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係っている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
人 口 論	もり 森 おか 岡 じん 仁	法A・政治・法B	4

講義のねらい

人口に関わる学問分野は数多く存在するが、とくに経済学との関係から接近しようとするところにこの授業の特徴がある。経済と人口との関係はどちらかが一方的に他に働きかけるというのではなく、互いに作用しあう相互依存の関係にある。1970年代に成立しその後大きな発展を遂げた経済人口学は、この点に注目する人口学の一分野であるが、本講義も経済人口学の立場に立って、経済と人口の相互依存の関係を理論的、実証的に追求するものである。そこにおいては、日本を含む世界全体の人口について、過去から現在、そして可能なかぎり将来に及ぶ人口現象にまで論及してみたい。ことに、先進工業諸国に現在共通してみられる少子化と年齢構造の高齢化の問題は、わが国においても経済との関係から早急に解決を迫られている関心事であり、将来益々その重要度を高めていく。

一方発展途上諸国に生じている人口増加の問題は、貧困からの脱却のためには緊急に解決しなければならぬ困難な課題を提起している。このようにみえてくると、今や人口問題は地球規模で考え、そして解決していかねばならないことが理解されよう。しかしながら、人口を取り巻く関連分野が広範囲に及ぶことから、はたしてどこまでが人口の問題であり、どこまでが他の分野の問題であるのかを的確に見極めることが重要になってくる。真の人口問題が不明確だとすれば、それに対応する政策も不適切なものにならざるをえない。的確な事実判断の下に適切な政策を施すには、しっかりとした理論的知識を備えていなければならない。ここでは、経済人口学の成立と発展の過程を辿ることによって、人口理論の基礎的知識を養い、政策論にも言及してみたい。

何はともあれ、この授業では人口という眼鏡を通じて経済をじっくりと眺めることによって、一人でも多くの学生諸君が人口に関心を抱くようになってほしいと考えている。なぜなら近年の先進諸国においては子供を公共財的に扱う傾向があり、人口問題が国民一人一人の問題になっているからである。

講義の内容・ 授業スケジュール

- I. 経済人口学の生成と発展
- II. 日本の人口と経済発展
- III. 人口高齢化の経済的諸問題
- IV. 人口政策

履修上の留意点

履修に当たっての条件というものとはとくに無いが、近年大きな関心事になっている人口の“高齢化”や“少子化”に関する知識を、どのような手段をつうじてでも良いから得ておくことが望ましい。

成績評価の方法

学年末の定期試験、出席状況
再試験を実施する。

教 科 書

大淵 寛・森岡 仁『経済人口学』（新評論）1981年

参 考 書 等

大淵・水野・森岡・吉田訳『マルサス人口の原理』（中央大学出版部）1985年
大淵寛・黒田俊夫編『現代人口問題』（大明堂）1990年

そ の 他

授業の方法：講義

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
貿 易 論	ふる さわ こう ぞう 古 沢 紘 造	法A・政治・法B	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生態との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・ 授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーションと貿易
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは評価の対象とはならないでしょう。

教 科 書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、その都度説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参 考 書 等

講義の中で特に興味をもち、もし少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談に来て下さい。参考になる本など教えます（研究室第2研究館4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 思 想 史	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	政 治	4

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・
授業スケジュール

ここでは大まかなアウトラインしか述べることができないが、重点をおくトピックおよび思想家として、以下を予定している。

- (前期) ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想（プラトン、アリストテレス）、キリスト教思想（アウグスティヌス）、中世自然法論（トマス・アクィナス）
- (後期) 前近代から近代への世界像の転換、近代法の基礎理論とも言える自然権論や社会契約思想（ホブズ、ロック、ルソー）、これを批判的に受け継ぐドイツ啓蒙期の法思想（カント）、ドイツ観念論の法思想（ヘーゲル）

基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、断片的な紹介ではなく、影響関係や重要な概念枠組の変遷などを重視し、明らかにできればと思う。また狭い意味での法学理論史の枠にとらわれず、各々の法思想を、その時代の人間観やコスモロジーの中に法理解を位置づけて検討し、そうした作業を通じて最終的には、近代という時代が獲得したものと忘却してしまったものについて考えてみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19、20世紀以降の法思想ないし法学理論の諸潮流については、法哲学講義の一環として取り扱うつもりである。

成績評価の方法

定期の記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とする。その他に任意提出課題として、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらえば、一定範囲内で評価に加える。

教 科 書

ここでは、三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院）4,854円を挙げておくが、講義の補完、通常の学習には自分にあった概説書を選んでもらってかまわない。詳細については講義のはじめに紹介する。

そ の 他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
倒 産 処 理 法	おくのよしひこ 奥野善彦	政 治	4

講義のねらい

私が管財人として任務を遂行した更正会社日本リースの事件処理などを通じ、可能な限り実践的な視点から倒産処理法を学ぶこととする。

倒産処理手続は、通常、任意整理と法的整理に区分され、さらにその目的に従い、再建型と清算型に分けられる。

任意整理は、裁判所外で債務者と債権者間で私的に進められる整理手続で、再建型にも清算型にも利用され、法的整理手続の原型となっている。これに対し、法的整理手続は、再建型の類型に入るものとしては、会社更正、会社整理、並びに民事再生手続があり、清算型の類型に入るものとしては特別清算と破産がある。

この講義では、「倒産」に直面している人又は企業に対し、如何なる手続を選択することが債権者及び債務者にとって最も好ましいか、というようなことから始め、最高学府で倒産処理法を学んだ者として、当然身につけなければならない法的知識並びに法的技法を習得することにした。

履修上の留意点

真面目で誠実で、且つガッツのある学生に履修してもらいたい。

成績評価の方法

履修態度、レポート並びに試験（論文式）

教 科 書

追って指定

参 考 書 等

奥野善彦著『会社再建』（小学館）定価1,600円

そ の 他

前期－講義 後期－ゼミ

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア メ リ カ 経 営 学	宮 城 徹	法 B	4

講義のねらい

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必須科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の8つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。

講義の内容・授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数（ただし、期末試験日を入れて）から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数（合計29回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の日安であり、授業時間が祝祭日に当たる場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

〈2001年度『アメリカ経営学』授業計画〉

- I 1年間の授業の概要 (1)
- II 経営学の対象と方法 (2)
- III 意思決定と権力（パワー）(8)
- IV 戦略（特に提携、グループ、ファミリー）(4)
- V コンティンジェンシー理論 (4)
- VI 取引コスト理論 (6)
- VII プロパティ・ライツ理論 (2)
- VIII プリンシパル－エージェント理論 (2)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参 考 書 等

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）1997
- 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』（早大、第20号）1985
- 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房）1987
- 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』（第2版）（成文堂）1998
- 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993
- 6 宮城徹「組織の経済理論の基礎構造」日本経営学会編『現代経営学の課題』（千倉書房）1997
- 7 宮城徹（単独訳書）『情報時代の企業管理の教科書——組織の経済理論の応用——』（税務経理協会）2000（A. Picot u. a., *Die grenzenlose Unternehmung*, Gabler, 1998）
- 8 宮城徹（共訳書）『新制度派経済学による組織入門』（白桃書房）1999（A. Picot u. a., *Organisation. Eine ökonomische Perspektive*, Schäffer-Poeschel, 1997）

ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介してゆく。

そ の 他

この科目は、再試験を実施しません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 組 織 論	^{なが} 長 ^せ 瀬 ^{かつ} 勝 ^{ひこ} 彦	法 B	4

講義のねらい

この講義で論じるのは、第1に企業組織がどのように構成されているのか、第2にそれが環境の中でどのように運動しているのか、第3に個人や小集団が組織とどのように関わっているのかである。

組織というものには形があるわけでもなければ色が付いているわけでもない、目に見えない存在である。それなのに私たちは、会社がどうだとか学校がどうしたとか当然のように会話を交わしているし、法律上も「法人」として人間並みの位置づけがされている部分もある。天然資源から自動車やコンピュータをつくったり、巨大ビルや橋を建築したりすることは個人では何百年かかってもできないが、組織はやってのける。企業組織の活動によって生活が豊かで便利になることは否定しようがない。しかし一方で企業組織は、自然環境を破壊して私たちの生活を脅かすという側面も併せ持っている。

また、人間は組織の中で高く評価されると嬉しく思うし、「会社人間」といわれるように組織と一体化する人もいる。一方で組織の側も構成員に対していろいろ便益を与えてくれるが、景気が悪くなると手のひらを返したようにみんな嫌がらせをすることもある。ショックで病気になったり自殺したりする人もいるほどである。こんなにも社会にも個人の心にも大きなプレッシャーを示す経営組織について、じっくり考えてみようではないか。

授業の展開としては、抽象的な理論や学説の紹介は程々に留め、現代の組織が直面している問題をなるべく多く取り上げて議論していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

取り上げる予定の主な項目は以下の通りである。ただし授業の回数と項目番号は一致しない。

1. コーポレート・ガバナンス（企業は誰のものか）
2. 企業組織の階層（企業組織を横に切ってみる）
3. 企業組織の部門化（企業組織を縦に切ってみる）
4. 新規事業開発と組織内組織（企業組織の卵）
5. ラインとスタッフ（組織の中の2種類の仕事）
6. 国際化と組織（多国籍企業の組織はどんなものか）
7. 企業と外部環境（コンティンジェンシー理論の貢献と限界）
8. 組織文化と組織開発（企業によって社員のものの考え方が違う）
9. 組織と戦略（組織は戦略に従う？）
10. 企業の寿命と組織エコロジー（会社の寿命は30年？）
11. 組織のリストラクチャリング（企業の建て直し）
12. 新しい人事・処遇制度（出世と給料）
13. 情報化と組織（コンピュータが入って組織はどう変わったか）
14. 企業間関係（ネットワーク論）
15. 個人と組織（人はなぜ組織のために働くのか）
16. 組織的意思決定（経営学とは意思決定の学問である）
17. イノベーション（企業とはイノベーションをする存在である）
18. 組織均衡論と新しい組織論（サイモンはどこまで正しいか？）
19. 意思決定演習（ゲームで組織的意思決定の疑似体験）

通常の講義のほかに、適宜ビデオ教材を使ったりゲーム形式でおこなったりする（臨時の教場変更にご注意）。講義時間内にレポートの作成と提出を求めることもある。また講義中に受講生の発言を求めることがあるが、高いレベルは求めていないので、素朴な意見を積極的に開陳して欲しい。

履修上の留意点

私は受講者のために「楽しく、分かりやすく、ためになる」講義をするように、いろいろと工夫をしているつもりである（それが100%成功しているとは言わないが）。それだけに、講義の妨げになる行為（私語や携帯電話など）に対しては厳罰をもって臨む。それが一度であっても成績が「不可」になることもあるので覚悟しておくこと。私語をするくらいなら講義に出席しない方が、単位取得に関してははるかに安全である（もちろん毎回まじめに参加することが最も好ましい）。また講義時間内にレポート作成を課するときは、理由の如何を問わず遅刻者の入室は認めないので注意すること。

成績評価の方法

定期試験の点数が主体となる。それにレポート点が加算される。

教科書

なし。

参考書等

長瀬勝彦著『意思決定のストラテジー』（中央経済社）

その他

この科目は、再試験を実施しません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
公益企業論	その 園 だ 田 てつ お 男	法 B	4

講義のねらい

公益企業論の主要内容は、企業規則に関連する諸問題であり、とくに一般的企業規則と区別される意味における公益企業規則である。つまり、公益企業は、料金およびサービスに関し、規制をうけている問題であり、また、公益企業概念が本来、制度的色彩の濃いものである。本講では、今日、企業の社会的責任の問題が論じられ、国民福祉という観点から、企業のあり方が問われ、政策事項として企業規則が問題とされている中で、公益企業の規制とは何か、また、公益企業の特質とは一体どのようなものかについて理解を深めることにある。

講義の内容・授業スケジュール

講義のすすめ方としては、前期は、公益企業概念の発達と、その問題点および公益企業概念の再検討（規制と競争）を行う。後期は、公益企業における持株会社の形成および評価について考察し、その上で公益企業の特質について理解させる。

履修上の留意点

学問は、単に知識だけを増殖するのではなく、適切な判断と意志決定を行なうための基礎となるものと考えている。本当に学ぶ意志のある学生だけが履修してくれることを望む。

成績評価の方法

成績評価においては、単元ごとに小テストやレポートを課し、総合評価とするが、大学卒業レベルの知識と問題解決能力を養う努力をしない者は厳しく評価を行うつもりである。

教科書・参考書等

授業中に指示する。また参考文献などを挙げ、できるだけ広範な考察を行うつもりである。

その他

この科目は、再試験を実施しません。

他学部履修科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
管 理 会 計 論	さる 猿 やま よし ひろ 義 山 義 広	法 B	4

講義のねらい

この講義では、すでに「簿記学」の単位を修得していることを前提として、企業における管理会計の基本思考を学びます。

講義の内容・授業スケジュール

- I 管理会計の体系
- II 管理会計における原価概念と利益概念
 1. 原価態様
 2. 全部原価計算と直接原価計算
 3. 分権管理のための原価概念と利益概念
- III 利益計画
 1. 利益計画の手続
 2. 損益分岐点分析と CVP 分析
 3. 短期利益計画のための価格分析
 4. 短期利益計画のための営業費分析
- IV 生産現場における原価管理活動の取組み
 1. 原価企画・原価改善・原価維持の概念
 2. TDK樹のケース
- V 組織構造の変革と管理会計
 1. マネジメントコントロール・システムとは何か
 2. 組織形態と責任会計の関係
 3. 事業部制会計について
 4. マイクロ・プロフィットセンター制
 5. 京セラのアメーバ経営、NEC 埼玉のラインカンパニー制のケース
 6. オムロン綾部工場、KOA樹の WSM のケース
- VI まとめ

履修上の留意点

「管理会計論」は計算科目なので電卓を持参すること。

成績評価の方法

レポートを重視します。

教科書

適宜プリントを配布します。

参考書等

より体系的に勉強したいという人のためには、櫻井通晴著『管理会計』（同文館）。計算問題については、日商簿記検定の「工業簿記」「原価計算」のテキスト。

その他

この科目は、再試験を実施しません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済論	は どり 羽 鳥 茂	法 B	4

講義のねらい	多様な経済システム（日本の経済システムもその1つ）がどのようにして生まれ、また、それらはどのように進化していくのでしょうか。このことを考えてみたいと思います。
講義の内容・ 授業スケジュール	情報・組織・契約のミクロ経済学と、それらの理論的基礎を提供するゲーム理論、およびゲーム理論のフロンティアの1つである進化ゲーム理論の新しい展開をふまえて、「講義のねらい」にチャレンジします。
履修上の留意点	受講生としての一般常識を持っていることはいうまでもないですが、下記の参考文献を必要に応じて参照し、授業内容の理解を確かなものにするよう努力してください。
成績評価の方法	後期授業終了後、筆記試験で評価します。
教科書	青木昌彦、奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』（東京大学出版会、1996年）3,200円
参考書等	読みやすいと思われる順になっています。 [A] 鶴光太郎『日本の市場経済システム』（講談社現代新書、1994年） [B] ジョン・マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤、林田訳、有斐閣、1995年） [C] 中山幹夫『はじめてのゲーム理論』（有斐閣、1997年） 数学はつぎの2冊が適当だと思います。 [D] 高橋渉『現代解析学入門』（近代科学社、1990年） [E] 永谷裕昭『経済数学』（有斐閣、1998年）
その他	数学が必要なときにはできるだけ解説しますが、諸君達の努力は不可欠です。意欲ある皆さんの出席を期待しています。 この科目は、再試験を実施しません。

3. 教職課程・資格講座科目

- I 教 職 課 程
- II 学校図書館司書教諭講座
- III 社会教育主事講座

※上記の教職課程および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全学部(平成12年度以降入学生)
社会教育主事講座	全学部(平成12年度以降入学生)

3. 教職課程・資格講座科目

I 教職課程科目

〈教職に関する科目〉(必修)

教 職 入 門	〈大浜幾久子・伊藤 茂樹・遠藤 司・北村 三子 坂本 信昭・豊田千代子・村山 輝吉〉	421
教 育 の 思 想	〈伊 藤 茂 樹〉	421
教 育 と 社 会	〈伊 藤 茂 樹〉	422
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈川 田 三 夫〉	422
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈川 田 三 夫〉	423
教 育 と メ デ ィ ア	〈石 橋 達 也〉	423
道 徳 教 育 の 研 究	〈山 田 忠 行〉	424
特 別 活 動	〈山 田 忠 行〉	425
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈遠 藤 藤 司〉	426
教 育 臨 床	〈遠 藤 藤 司〉	426
総 合 演 習 (1) [障 害 児 と 教 育]	〈遠 藤 藤 司〉	427
総 合 演 習 (2) [子 ども ・ 自 然 ・ 家 庭]	〈山 本 敏 子〉	427
教 育 実 習 I ・ II	〈伊 藤 茂 樹〉	428
社 会 科 教 育 法 II	〈谷 敷 正 光〉	429
公 民 科 教 育 法 I	〈谷 敷 正 光〉	430
商 業 科 教 育 法	〈谷 敷 正 光〉	431
職 業 科 教 育 法	〈前 田 幸 一〉	432

〈教科に関する科目〉

— 社 会 —

日 本 史 概 説	〈北 條 文 彦〉	432
世 界 史 概 説	〈松 本 弘〉	433
地 誌 学 概 説	〈川 元 豊 和〉	434
地 誌 学 概 説	〈渡 邊 盾 夫〉	435
人 文 地 理 学 概 説	〈渡 邊 盾 夫〉	435
宗 教 学 概 説	〈田 中 かの子〉	436
宗 教 学 概 説	〈須 藤 寛 人〉	437
哲 学 概 説	〈河 谷 淳〉	438
政 治 学 原 論	〈大 塚 桂〉	439

— 職 業 —

産 業 概 説	〈前 田 幸 一〉	440
商 業 実 習	〈前 田 幸 一〉	441

— 商 業 —

職 業 指 導	〈前 田 幸 一〉	441
---------	-----------	-----

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

学校経営と学校図書館	〈山田節子〉	(289)
読書と豊かな人間性	〈山田節子〉	(289)
学校図書館メディアの構成	〈源昌久〉	(290)
学校図書館メディアの構成	〈篠田耀子〉	(290)
情報メディアの活用	〈源昌久〉	(291)
情報メディアの活用	〈篠田耀子〉	(291)
学習指導と学校図書館	〈山田節子〉	(292)

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育計画	〈村山輝吉〉	(295)
生涯学習概論 I	〈豊田千代子〉	(296)
生涯学習概論 II	〈豊田千代子〉	(297)
社会教育実習	〈豊田千代子〉	(298)
社会教育実習	〈村山輝吉〉	(298)

(2) 選択必修科目

社会教育行政	〈荒井隆〉	(299)
社会教育施設	〈村山輝吉〉	(299)
成人学習論	〈荒井隆〉	(300)
ジェンダーと教育 I	〈中澤智恵〉	(300)
ジェンダーと教育 II	〈中澤智恵〉	(301)
職業教育 I	〈塩川正人〉	(301)
職業教育 II	〈塩川正人〉	(302)
社会体育 I	〈吉田潤子〉	(302)
社会体育 II	〈吉田潤子〉	(303)
教育の思想		(303)
教育と社会		(303)
発達と学習の心理学		(303)
教育とメディア		(303)
社会心理学	〈坪井健〉	(304)
視聴覚教育	〈飯森彬彦〉	(304)
教育社会学	〈熊谷一乗〉	(304)
教育史	〈山本敏子〉	(305)
教育調査	〈鈴木規夫〉	(305)
青少年文化	〈香川良成〉	(305)
現代社会の諸問題と教育 I	〈熊谷一乗〉	(306)
現代社会の諸問題と教育 II	〈熊谷一乗〉	(307)
青少年問題研究	〈讚岐真佐子〉	(307)
青少年指導演習	〈平野学〉	(308)
博物館学 I (概論)	〈太田喜美子〉	(309)
博物館学 II (資料論)	〈岸上興一郎〉	(309)
情報メディアの活用	〈源昌久〉	(309)
情報メディアの活用	〈篠田耀子〉	(309)
読書と豊かな人間性	〈山田節子〉	(309)

《教職に関する科目（必修）》

科目名	担当者名	配当学科	単位
教職入門 (後期)	大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉	12以降入学生/教職1必 (経B・法B・二営)	2

講義のねらい

高度消費社会の出現や、情報化社会の進展の中で、今日の日本の教育界は多くの困難な問題を抱えています。将来教師になろうとする人には、そうした問題に自ら取り組んでいく覚悟とそれを越えてゆける力量が必要となるでしょう。その力量の中には、知識ばかりでなく、関心の広さ、感受性、想像力、柔軟な発想、そして体力など、きわめて多様なものが含まれます。この講義では、教職課程の専任教員7名に加え、外部からも講師をお迎えして、さまざまな角度から教育を語っていきますが、教師になるための勉強の第一歩として、教師という職業には関心を持つべき多くのことがあるということを、まずは実感してください。

講義の内容・授業スケジュール

今日の教育に関する諸問題をオムニバス形式で講じていきます（毎回テーマと講師が代わっていきます）。また11月12日(月)および11月15日(木)は、普通の講義ではなく、教職課程の履修に関するガイダンスが予定されています。詳しいスケジュールは、初回の講義で配布される予定です。

成績評価の方法

レポートによる評価。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	伊藤茂樹	教職2必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的帰納について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・近代社会と教育
- ・学校という場

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育と社会 (後期)	伊藤 茂樹	教職 2 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
 ・現代の教育問題
 ・教育改革の現在

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がける。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	川田 三夫	教職 2 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1) 子供の成長・発達の概要を理解する。
- (2) 教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・授業スケジュール

①発達について、乳児期、②幼児期前期、③幼児期後期、④児童期前期、⑤児童期後期、⑥青年期前期、⑦青年期中期、⑧青年期後期、⑨人格の発達、⑩社会性の発達、⑪問題行動、⑫学習・教育心理学、⑬教育学・教育原理、⑭学校・教員をめぐる問題点、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点(100点満点)で所定の基準に従い評価される。

教科書

教科書は特に指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

その他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。
 この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	川 田 三 夫	12以降入学生/教職2必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1) 教育課程を中心に学校の全般的な運営について理解する。
- (2) 教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・
授業スケジュール

①教育について、②学習・教育心理学、③教育学・教育原理、④発達心理学、⑤教育課程、⑥学習指導要領、⑦普通教育・職業教育、⑧障害児教育、⑨教育方法、⑩教育評価、⑪新しい動向(1)、⑫新しい動向(2)、⑬生徒・教師の諸問題、⑭教育・学校の諸問題、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点(100点満点)で所定の基準に従い評価される。

教科書・
参考書等

教科書は特に指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。
前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育とメディア (後 期)	石 橋 達 也	教 職 2 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本授業では、情報化社会が著しく進展していく今日の状況での教育の在り方について学んでいきます。はじめに、教育/学習あるいは授業の捉え方や教育におけるメディアの利用の仕方について、教育心理学や教育方法学の観点から眺めます。それに続いて、インターネットなどを含めたコンピュータ活用教育について焦点を当て、その実践のために必要な操作や教師としての姿勢などについて学ぶとともに、コンピュータ利用上の注意点や問題点についても検討していきます。

講義の内容・
授業スケジュール

授業のスケジュールとしては、およそ以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。
1. 教育の情報化と教育方法、2. 授業と学習過程の理解、3. 学習者特性の理解、4. 授業モデルと授業設計、5. 教育メディアとメディアリテラシー、6. 教育へのコンピュータの導入、7. コンピュータと情報活用能力、8. インターネットの活用と協同学習、9. インターネット社会への参加態度など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚して、毎回まじめに出席することと授業に積極的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は、期末試験の得点を中心にして、授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教科書

教科書は、次のものを使用する予定です。今栄国晴編著『新版 教育の情報化と認知科学——教育の方法と技術の革新——』(福村出版)1988 本体2,400円+税

参考書等

授業の中で必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していく予定です。

そ の 他

授業の中で、毎回コンピュータを使用する実習時間があります。初歩的なレベルから始めていきますので、初心者でも学ぶ意欲があれば、安心して学習していけるはずですが。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	やま だ た だ ゆき 山 田 忠 行	教 職 2 ・ 3 必 (経 B ・ 法 B ・ 二 営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「道徳教育」の充実が、我が国の大きな課題であり、学校教育全体において充実した取り組みを行わなければならない。そのために、小・中学校においては教育課程に「道徳」が位置付けられ、高校においては、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行わなければならない。この「道徳教育」の教育的意義や目標及び内容、方法等について理論と実践の両面から研究を行う。道徳教育を進めるに当たっては、豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が求められる。教師としての実践的な指導力を身につけるために、道徳教育の内容や活動内容の取り扱い方及び指導計画の作成、指導方法などについての具体的な研究を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

①道徳教育の戦前・戦後の経緯 ②今求められる心の教育 ③道徳教育の基本的な在り方 ④道徳教育の目標と道徳の時間の役割 ⑤道徳の時間の指導内容 ⑥道徳の時間の指導の在り方 ⑦道徳の時間の学習指導案の書き方 ⑧道徳の時間の資料の開発と活用 ⑨全教育活動における道徳教育 ⑩豊かな体験と道徳性の育成 ⑪家庭や地域社会が道徳教育に果たす役割 ⑫生徒理解に基づく道徳教育の評価

履修上の留意点

文献に基づく道徳や道徳教育に関する理論的な研究とともに、道徳教育の具体的な指導計画の作成や指導内容、指導方法等について理解を深め、指導力を身につけてほしい。

成績評価の方法

試験、出席状況、学習指導案の作成やレポート等を総合的に判断し、評価する。

教 科 書

文部省『中学校学習指導要領解説－道徳編－』（大蔵省印刷局）260円

参 考 書 等

七條正典・押谷慶昭編著『中学校新教育課程の解説－道徳－』（第一法規）1,300円

そ の 他

講義、指導案の立案、毎時間講義内容に則した小レポートを提出する等

科目名	担当者名	配当学科	単位
特別活動 (後期)	やま だ ただ ゆき 山 田 忠 行	教職 2・3 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「特別活動」は、望ましい集団活動を通して、好ましい人間関係を形成し、社会の一員としての自覚と責任ある態度を身につけるとともに、人間としての生き方を探求し自己を生かす能力などを養うものである。この「特別活動」の教育的意義や目標及び内容、方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、実践的な面では、特別活動の活動内容の取り扱い方及び指導計画の作成、指導方法などについての具体的な研究を行い、実践的な指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

①特別活動の基本的な性格 ②特別活動の目標とコンセプト ③特別活動の歴史の変遷 ④学級活動の特質と活動内容 ⑤生徒会活動の特質と活動内容 ⑥学校行事の特質と活動内容 ⑦特別活動の指導計画の作成 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨ガイダンスの機能の充実 ⑩特別活動とボランティア活動 ⑪特別活動の指導を担当する教師 ⑫特別活動における評価

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、指導方法等についての研究を深め、実践的な指導力を身につけてほしい。

成績評価の方法

試験、出席状況、学習指導案の作成やレポート等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部省著作『中学校学習指導要領解説－特別活動編－』（ぎょうせい）70円

参考書等

森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著『中学校新教育課程の解説－特別活動－』（第一法規）1,300円

その他

講義及び年間指導計画、指導案の立案等

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	教職2・3必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは、現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとしている人間として、生徒(他者)の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生徒指導観、あるいは進路指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

1. 生徒指導、進路指導の理論、歴史とその目的の変遷
2. 「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題
3. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察
4. 教師-生徒関係の中での生徒指導、進路指導
5. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導、進路指導

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験、またはレポートを予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

その他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 臨 床 (後 期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	12以降入学生/教職2・3必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

心の教育が重視されている現在の教育現場において、生徒が自らの生き方を考え、自己を確立するために、一方的な指導ではなく、相互の対話を基に生徒との関係を作ろうとする教師の姿勢が求められている。特に、カウンセリングに代表されるような、臨床心理学的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業においては、臨床心理学的視点に学びながら、生徒が陥りやすい心の危機に対する対処法や援助法について、実践的に学ぶことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

1. 人が人と関係をもつことの意味
2. カウンセリングマインドとは
3. 教師としてカウンセリングマインドをもつことの意味
4. 教師-生徒関係の見直しと再生の過程
5. 人間の生涯における思春期・青年期の諸問題

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験、またはレポートを予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習①〔障害児と教育〕 (前期)	えん とう 遠 藤	つかさ 司	12以降入学生/教職2・3必 (経B・法B・二営)
			2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解するという目的の上に、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力や態度を養う。この授業においては、あらゆる教育の根本に位置するという意味で、教育問題を考える上で非常に重要な問題であるところの障害児教育問題について、障害児教育の在り方について、実践を含めて現在の在り方まで総合的に学んでいく。最終的には、このテーマに即した授業プランを作成できるように学びを深めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定した案を参加者に作成してもらい発表してもらうことをもとに授業を進めていくことを考えている。具体的には、参加者の数や問題意識等を把握した上で決定する。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

授業への参加の仕方を総合的に判断して評価を行う。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習②〔子ども・自然・家庭〕 (後期)	やま もと とし こ 山 本 敏 子		12以降入学生/教職2・3必 (経B・法B・二営)
			2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

家族を中心とする人間の暮らしは、人間が生命過程を維持していく上で最も大切な生存の基盤ともいえるべきものですが、自然と人間との関係が近代になって大きく変容したことにより、今日では、様々な局面で危機的状況のもとに置かれるに至っています。私たち人類はどんな難問を抱えており、それを乗り越えていくにはどうしたらよいのか。人間の生命過程に直接関わってくる「食」の問題を切り口に、子どもと自然と家庭という3つの視点を入れて具体的に考えていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

この授業そのものが総合的な学習の時間の実践となるよう、授業の内容、進め方については受講者の皆さんと共に考え、工夫していきたいと思っています。導入として、鶴見良行の『アジアの歩き方』(ちくま文庫)および『バナナと日本人』(岩波新書)を読みながら、取り上げる具体的なテーマや方法などを検討し、その後、実際に調べていきます。

授業全体を通して、フィールドにおける知のあり方や、「食」をめぐる自然-人間関係、人間-人間関係の変化の問題、子どもにとって家庭の食卓のもつ意味などについて考察していく予定です。

履修上の留意点

受講される皆さんの主体的な参加を期待いたします。

成績評価の方法

授業時間内の発表および期末レポート。

その他

ゼミ形式で進めます。時間的余裕があれば、フィールドワークや図書館での調査の時間も取り入れたいと思っています。

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 実 習 I	いとう しげき 伊 藤 茂 樹	教職 4 必(経B・法B・二管)	3
教 育 実 習 II		12以降入学生/教職 4 必(経B・法B・二管)	5

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それを取りまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・
授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献購読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教 科 書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

そ の 他

「教育実習Ⅱ」の履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅱ (後期)	やしま 谷 敷 ただ 正 みつ 光	教職3必 (経B・法B・二営)	4

講義のねらい

本講は中学校社会科で教育実習を行う学生や社会科教師を目指す学生に、「教育とは」「社会科教育とは何か」といった社会科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで社会科教師としての資質・力量形成を目標に行います。

講義の内容・授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立と意義
3. 中学校社会科学習指導要領の変遷
4. 中学校の教育課程と社会科
5. 中学校社会科の授業設計
6. 中学校社会科の指導法
7. 中学校社会科と思考力を育てる授業
8. 中学校社会科の教材開発と資料の活用
9. 中学校社会科学習指導案の意義と作成
10. ビデオによる社会科教師の授業研究
11. 中学校社会科の目標（平成元年度版・平成10年度版）
12. 中学校社会科の内容・取り扱い（平成元年度版・平成10年度版）
13. 社会科の評価
14. 社会科教育実習における「教師教育」
15. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導します。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなど総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施。

教科書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しない。

参考書等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ①大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ②無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)
- ③灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
- ④大森・谷敷『社会科教育研究』(梓出版)
- ⑤槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
- ⑥谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
- ⑦谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
- ⑧浜上薫『発問づくりの技術』(明治図書)
- ⑨鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』(明治図書)
- ⑩中学校社会科(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)の教科書
- ⑪文部省『中学校学習指導要領』、文部省『中学校指導書』(大阪書籍)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
公 民 科 教 育 法 I	や し ま ただ みつ 谷 敷 正 光	教 職 3 必 (経B・法B・二営)	2

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで公民科教師としての資質・力量形成を行います。

講義の内容・授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立と意義
3. 高等学校社会科（公民科）学習指導要領の変遷
4. 高等学校の教育課程と公民科
5. 高等学校公民科の授業設計
6. 高等学校公民科の指導法
7. 高等学校公民科と思考力育成の学習過程
8. 高等学校公民科の教材開発と資料の活用
9. 高等学校公民科学習指導案の意義と作成
10. 4年生による模範授業（授業研究）
11. 模範授業を通じての高等学校公民科の授業実践研究
12. 高等学校公民科の目標（平成元年度版・平成11年度版）
13. 高等学校公民科の内容・取り扱い（平成元年度版・平成11年度版）
14. 教育評価
15. 公民科教師論
16. 公民科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなど総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施します。

教科書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しません。

参考書等

- 講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。
- ①大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
 - ②槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
 - ③谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』（黎明書房）
 - ④谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）
 - ⑤福山憲市『資料提示の技術』（明治図書）
 - ⑥大森・谷敷『社会科教育研究』（梓出版）
 - ⑦高等学校社会科（現代社会、政治経済、倫理）の教科書
 - ⑧文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（実教出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 科 教 育 法	や 谷 敷 正 光 <small>しき ただ みつ</small>	教 職 3 必 (経B・二営)	4

講義のねらい

「専門教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「専門学科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従つて、この講義のねらいは、「専門教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 専門教育・商業教育の現状
2. 専門教育・商業教育の改革動向
3. 専門教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の授業設計
8. 商業科の指導法
9. 商業科の教材開発と資料の活用
10. 商業科学習指導案の作成(実践)
11. ビデオによる商業科教師の授業研究
12. 4年生による模範授業(授業研究)
13. 模擬授業を通じての商業科の授業実践研究
14. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い(平成元年度版・平成11年度版)
15. 商業科における評価
16. 商業科教育実習における「教師教育」
17. 商業科教師論
18. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践、出席、小テストなど総合的に評価する。小テストは授業中に実施。
- ② 定期試験、追再試は実施は行いません。

教科書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参考書等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ① 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ② 産経新聞社『学校ってなんだろう』(新潮社)
- ③ 灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
- ④ 斎藤喜博『授業入門』(国土社)
- ⑤ 毎日新聞社『教育改革 現場の試み』(毎日新聞社)
- ⑥ 岩下 修『指導案づくりの技術』(明治図書)
- ⑦ 新牧賢三郎『やる気を引き出す技術』(明治図書)
- ⑧ 高等学校商業科の教科書(「流通経済」「商業経済」など)
- ⑨ 文部省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(大日本図書)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 科 教 育 法	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 3 必 (経 B)	4

講義のねらい

以下の項目で授業を進めていきます。

- ①『中学校学習指導要領』の「技術・家庭」について、昭和52年版、平成元年版、平成10年版の授業内容を比較検討していく。
- ②「技術・家庭」科の授業のあり方を、新聞の切り抜きを通して考えていく。
- ③職業教育について考えていく。

履修上の留意点

自分や周りの家庭や職業について改めて考えてきてほしい。また新聞の家庭欄や経済面にも目を通しておいて下さい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。再試験はしません。

教 科 書

『中学校学習指導要領』（文部省、平成10年12月）、他については授業において指示します。

参 考 書 等

中学校の「技術・家庭」の教科書など

そ の 他

授業を受ける人は少数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

《教科に関する科目》

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 史 概 説	ほう じょう ふみ ひこ 北 條 文 彦	教 職 2 ・ 3 教 科 (経 B ・ 法 B ・ 二 営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

将来、中等・高等学校教員を志す者にとって必要な基礎的教養ともいべき日本史の、上古より現代に至る各時代の政治・経済・宗教・文化等について概説する。

成績評価の方法

筆記試験を前期と後期、夫々1回あて、授業時間内に実施し、評価する。

教 科 書

宝月圭吾・児玉幸多編『新稿日本史概論』（吉川弘文館）1,597円

参 考 書 等

児玉幸多編『標準日本史年表』〔B5判〕（吉川弘文館）600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
世 界 史 概 説	まつもと ひろし 松 本 弘	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、中東及びイスラームの歴史である。それは、中学・高校の世界史の授業において最低限必要と思われる中東・イスラームについての知識を提供し、かつその知識に対する正確な理解を求めるものである。1973年石油ショック以降、日本における中東研究は飛躍的に拡大し、誤解や偏見は減少しつつあるとは言え、未だ中東やイスラームは我々にとって最も遠い存在のひとつであろう。世界史の教科書に占める中東・イスラームの記述は、この20年間で量的には数倍に増加したが、一般に教員の理解がこの傾向に追随しているとは言い難い。それゆえ本講義は学生諸氏に、おそらく世界史の教員が最も不得手としている中東やイスラームに関わる基礎的・一般的な知識と理解を提供することを目的とする。中東に関わる一般的な関心は、マスコミによる様々な事件の報道にあると判断されるので、本講義は報道の対象となる事件・事象の解説に始まり、その理解としての歴史的背景から、中東やイスラームの歴史を講義する方式をとる。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、まず現代中東における国家・宗教・民族の分布から、アイデンティティ複合や中東一神教世界（ユダヤ教・キリスト教・イスラーム）と呼ばれるその社会状況の特質を解説する。次いで、現在最も高い関心を集める中東和平及びイスラーム復興主義（いわゆるイスラム原理主義）を歴史的に考察し、その背景としてイスラームの成立や中世・近代における政治史（預言者ムハンマド、正統カリフ、ウマイヤ朝、アッバース朝、オスマン帝国、アラブ民族主義等）や思想史（イスラーム神学・法学、イスラーム神秘主義）、「中東の近代」に関わる内容と特質などをとりあげ、その各々について思想と社会・時代状況との関連に注目して講義を行う。

成績評価の方法

評価は、前期末及び年度末の2回の試験により行う。

教科書

教科書・参考書は特に指定せず、適宜参考文献目録及びプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	かわ 川 元 豊 和	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

主にアジアを対象として、「地域の変貌」について講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

前半では、まず、地誌学の基本的な考え方について説明し、次に、さまざまな人文地理的事象から世界のなかにおけるアジアの特殊性や他地域とアジアの共通性などについて考えてゆきたい。後半では、南アジアのインド及びバングラデシュ、東南アジアのマレーシアを事例として、社会経済構造の変化や村落と都市の変貌などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

矢野暢編『講座現代の地域研究 1 地域研究の手法』(弘文堂) 1993 4,800円
 藤岡謙二郎ほか『世界地誌第二改定増補版』(大明堂) 1989 2,060円
 B. L. C. ジョンソン著、山中一郎ほか訳『南アジアの国土と経済第2巻バングラデシュ』(二宮書店) 1986 3,605円
 白田雅之ほか編『もっと知りたいバングラデシュ』(弘文堂) 1993 2,800円
 水島司編『アジア読本マレーシア』(河出書房新社) 1993 2,000円

そ の 他

講義中心の授業であるが、年に2～3回はスライドの使用を予定している。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この講義では、学生諸君が教職につく時の基本事項、または就職試験の時の一般教養（人文科学系）問題が解けることを目標として、進めます。

次に地理学の一つの見方である地誌を、「ある場所」を具体的にとり上げ、その場所にはさまざまな自然環境（気候、地形など）や社会環境（サービス業、農業など）があり、この中にさまざまな人間活動が営まれている。これらを総合的に分析をし、その現象を明らかにしていく方法を考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは、前期にある場所の自然環境を理解するために気候、地形そして地形図の基礎的なことを学習する。後期には、各国を地誌的な見方で説明する。

履修上の留意点

基本的には、学生諸君が日本や世界各国の様子を「何んでそこにその様な現象があるのか」という疑問で接してほしい。地誌学または地理は暗記の科目ではない。

また講義を聞く時には、高校時代に使った地図帳を必ず持参して下さい。その方が理解が早くなります。

成績評価の方法

年度末に定期試験があり、これに出席の様子を加えています。答えは自分が他の人に説明をし、理解してもらえる様に書いて下さい。その方が勉強になります。

教科書

教科書等については、特に指定しません。講義の進行に合わせて、プリントを配布します。このプリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
人文地理学概説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

ある場所の自然環境の上には、さまざまな人間活動が行われています。この人間活動を産業の点から講義を進めます。

講義の内容・授業スケジュール

前期に人文地理学の研究方法を説明し、後期には、具体的な人間活動（産業）についてプリントを配布しながら説明します。

履修上の留意点

高校時代に使用した地図帳を持参して下さい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験と出席とを総合して評価します。

教科書

教科書については、特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。プリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗 教 学 概 説	田 中 かのこ	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

人は、それぞれの生活環境や文化的背景に根ざしたものの見方・考え方をします。教育 (education) とは、その人にそなわる個性と才能を「引き出す」(educate) ことであり、教育者 (educator) は、その「引き出されたもの」(the educated) から多くを教えられる。

以上の教育的効果から連想すれば、宗教学もまた、諸宗教から多様な人の生き方・文化形態・理想の世界像などを引き出して見せ、人間共有の知的財産とするためのいとなみであるといえよう。「自己」の宗教について学ぶ「他者」と出会ったり、「他者」の宗教を知ろうとする「自己」に気づくことは、「人間」探究の第一歩ともなるからである。

本講では、個々の宗教から引き出された (abstracted) 「宗教」現象 (religious phenomena) の分類と分析をテーマにしながら、聖典・宗教文学・哲学書等を出典とする具体的な話題へと「学ぶ視点」を移行させてゆく。それによって、教職を志す受講生の一人一人がみずからの関心をもって「宗教学」にたずさわる機会をつくることをねらいとする。

講義の内容・ 授業スケジュール

教科書の章区分にほぼ沿いながら、本講のねらいに適ったプログラムを展開する。

I. 宗教学とは何か

- 1) 「宗教」(religion) という用語の起源と作業仮説としての「～教」。
- 2) 「宗教学」成立のいきさつ。
- 3) 「宗教学」の領域と基本的立場。

II. 「宗教」の起源

- 1) 「いのち」に気づき、ヒトは人間になった (生命尊重のめばえ・洞窟壁画の思想)。
- 2) 生死観四態。死を見つめる心。
- 3) アニミズム説。プレアニミズム説、原始一神教説、「起因者」説の提起と問題点。

III. 科学・呪術・宗教・哲学

- 1) 呪術の原理と諸類型。
- 2) 科学・呪術・宗教の相関。
- 3) 宗教・哲学と社会科学・自然科学。
- 4) 「祭司」「王」「シャーマン」の関係。

IV. 宗教の類型論

- 1) ひとつの宗教の諸相・さまざまな宗教の比較。宗教学における「比較」とは何か。
- 2) 人格的「神」の非人格の本質、非人格的「法」の人格的はたらき。
- 3) 宗教の権威主義的側面と人間主義的側面。
- 4) 神秘主義的宗教と預言者的宗教。
- 5) 諸宗教における汎神的側面。
- 6) 「救い型」「悟り型」「つながり型」。
- 7) 民族宗教と世界宗教の歴史的連関。
- 8) 多神教から一神教への転換は本当に成されたのか(民間伝承; folklore から学ぶこと)。

V. 聖と俗

- 1) 社会生活とタブー。
- 2) 職人の手仕事と「聖なるもの」。

VI. 宗教の構成要素

- 1) 人の肉身に宿る言葉 (聖典の起源)。
- 2) 「聖なるもの」の諸相。
- 3) 人類の起源・二元的構造、靈魂としての自己。
- 4) 権威と模範 (菩薩の四弘誓願・福音の「愛」)。
- 5) 仏教とキリスト教における回心論。
- 6) 宇宙論 (創造型・進化型、他界・来世・時空)。
- 7) 原始仏典にみられる修行の効能。
- 8) 弓道と禅
- 9) 「おまつり」とは何か。
- 10) 人生の「歩み」から生まれる「救い」。

履修上の留意点

毎回、1) 板書を写す、2) 教科書や配布資料を参照する、3) 講義内容を書き取りながらキーワードを探すなどの作業をとおして、自分自身の見方・考え方をしっかりと持てるように心がけていこう。

成績評価の方法

- 1) 学年末試験。各自の創意工夫と知識の応用力を問う論述式の問題を用意する。いわゆる「暗

記もの」ではない反面、設問の意図を読み取るための集中力を要する。後期の最終講義において試験問題を予告し、ガイダンスをおこなう。

- 2) 夏休み前にレポートの課題（自由選択式）を出す予定。
- 3) 出席状況。

教科書

脇本平也著『宗教学入門』（講談社学術文庫）。教科書とは別の観点から作成した資料（プリント）も配布するので、併せて活用すること。

参考書等

水野弘元・柴田道賢（監修）『宗教学ハンドブック』（世界書院）、佐々木宏幹著『宗教人類学』（講談社学術文庫）。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 学 概 説	須 藤 寛 人	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

宗教学的視座を養うことが本講義の目的です。多くの日本人にとって、宗教は、必ずしも明確な形を持ったものではありません。しかし、人間や文化を理解することの、すべてではないにしても、その一部は宗教を理解することによって可能となるものであると考えられます。日本人の宗教とは何かを理解することは、日本人とは何かという問題に深く関わっていますし、ひいては自分とは何かを考えるための足がかりになると思われます。また、日頃、目にする出来事でも、そこに何かしらの宗教的意味が見いだされることがあります。視座を少し変えるだけで、それが可能になる場合もあります。本講義がそのための助けになればと思っています。

講義の内容・授業スケジュール

- a. 宗教とは何か？ 宗教学とは何か？ 宗教と呪術。聖と俗。
 - b. 儀礼。呪術。シャーマニズム。噂・怪談・都市伝説。
 - c. 日本人の他界観。諸宗教の歴史。日本の宗教。現代の宗教状況。
- 以上の三点を本講義の基軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思っています。また具体的な事例やタイムリーな話題を交えて講義をおこなっていききたいと思っています。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないで下さい。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中は着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートと学期末の定期試験を中心に、出欠状況と合わせて総合的に評価します。

教科書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
哲 学 概 説	かわ 谷 淳 <small>かわ たに あつし</small>	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義では哲学史上のいくつかのパラドックス（逆説・逆理）を題材として取り上げながら、哲学の諸問題（認識論・存在論・行為論）について考えてみることにしたい。「パラドックス (paradox)」とは日常的な思いなし（ドクサ）から逸脱した（パラ）主張のことであって、「哲学する」ことがいわば「世界についての見方を学び直す」営みであるとするならば、パラドックスを導きの糸として思考をめぐらすことは哲学することそのものだとも言えよう。

講義の内容・
授業スケジュール

具体的には次のようなパラドックスを題材にしたい。
ゼノンのパラドックス、ソクラテスのパラドックス、探求のパラドックス、囚人のジレンマ、嘘つきのパラドックス etc。

成績評価の方法

中間・期末試験、夏休みレポート、出欠による総合評価。

参 考 書 等

中村秀吉『パラドックス』（中公新書）
R.M.セインズブリー『パラドックスの哲学』（勁草書房）

科目名	担当者名	配当学科	単位
政治学原論	おお つか かつら 大 塚 桂	教職2・3教科 (経B・二営)	4

※経A・商・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- 自己紹介
私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。
私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

講義の内容・
授業スケジュール

- 講義の目的
政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と解明ができるように基礎的的原理的知識を習得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目の研究上必要な基本的な知識を提供することです。
- 講義のすすめかた
現代政治学のおおよそのアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。
- 講義内容
おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。
A 政治学の課題と対象、および方法
B 政治の原理的究明
 - ① 政治的なるもの
～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従
 - ② 共同体的なるもの
～国家、社会、主権、法
 - ③ イデオロギー的なるもの
～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(レティズンシップ)
 C 国家の実体論的究明
 - ① 制度論的究明
～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制
 - ② 機能論的究明
～政党、圧力団体

成績評価の方法

- 本年度もまた、受講者との相談のうえA・B両方式のうちのいずれかに決定します。
- A方式(レポートによる単位認定)
複数回(前期・後期)のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告(レポート)の作成をとおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。
- B方式(試験による単位認定)
中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。
- ※A方式の場合には、追・再試験は実施しません。B方式は、実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂) 3,000円
大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社) 2,900円

参考書等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
産 業 概 説	まえ だ 地 き かず 前 田 幸 一	教職2・3教科 (経 B)	4

※経A・商の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

授業は'85（昭和60）年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・
授業スケジュール

(総論) バブル経済と平成不況
(各論) 非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。
(その他) 企業見学などを実施（昨年は三菱自動車工業の工場見学を実施）

履修上の留意点

日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。再試験はしません。

教 科 書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』（日本経済新聞社）1,500円

参 考 書 等

授業の際に提示します。

そ の 他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 実 習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職2・3教科 (経 B)	4

※経A・商の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

貿易における商品取引の基礎的な実務を習得することを目標に授業を進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の項目で授業を進めます。
 1. 輸出実務の概要
 2. 取引関係の創設
 3. 取引条件の取決め
 4. 売買条件の取決めと契約成立
 5. 輸出信用状の照合
 6. 約定品の調達
 7. 輸出保険
 8. 輸出承認と認証の取付け
 9. 運送契約の締結
 10. 為替の予約
 11. 海上保険契約
 12. 輸出検査と包装
 13. 輸出通関
 14. 船積み
 15. 船積書類
 16. 輸出決済
 17. 貿易クレーム

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。再試験はしません。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

開講時に指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 指 導	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職2・3教科 (経 B ・ 二 営)	4

※経A・商・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本及び諸外国の職業教育の特徴を把握しながら、今後の職業指導を考えていく。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では日本の職業教育制度の歴史を、また、後期ではアメリカ、ドイツ、イギリス、フランスなどの職業教育について授業をしていく予定。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点及びレポート提出等で評価をしていく。

教 科 書

開講時に指示

参 考 書 等

宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』（開隆堂）
 有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福本出版）
 寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』（中央法規出版）
 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編『進路指導論』（福村出版）

(メ 毛)

[メ 毛]

発行者：駒澤大学